

障害児福祉計画策定実態・意向調査結果報告について

児童福祉法に基づく品川区障害児福祉計画策定にあたって、障害児の子ども・子育て支援等のニーズの把握のため、アンケート調査等の実態・意向調査を実施した。

1. 調査の概要

(1) 調査対象

18歳以下の障害児のいる世帯の保護者全員（平成29年6月末日現在）

- ① 未就学児：308人
- ② 就学児以上18歳以下の方：533人

(2) 調査期間

平成29年8月10日～28日

(3) 調査方法

郵送による配布・回収

(4) 配布・回収状況

配布・回収状況	配布数	回収数	有効回収率
①未就学児	308	176	57.1%
②就学児以上18歳以下の方	533	259	48.6%
全体	841	435	51.7%

(5) 調査結果

資料「品川区障害児福祉計画策定実態・意向調査報告書（案）」

2. 障害児福祉計画への反映

障害児の障害福祉サービス等の利用状況および実態・意向を把握し、計画策定の基礎資料とする。

品川区
障害児福祉計画策定実態・意向調査
報告書（案）

平成 29 年 10 月

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的と方法	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査の種類	1
(3) 調査の概要	1
(4) アンケート調査報告のみかた	2
2 調査結果概要	3
(1) アンケート調査	3
II アンケート調査集計報告	22
1 未就学児への調査	22
お子さん・世帯の状況について	22
お子さんの障害・疾病の状況について	29
困りごとの相談、介助者への支援について	35
医療的ケアの必要なお子さんについて	49
お子さんの生活について	57
児童福祉法による障害児通所支援について	63
障害福祉サービスの利用状況・利用希望について	80
障害に対する理解について	95
生活の状況・区の施策について	100
2 就学児以上 18 歳以下の方への調査	103
お子さん・世帯の状況について	103
お子さんの障害・疾病の状況について	110
困りごとの相談、介助者への支援について	117
医療的ケアの必要なお子さんについて	131
お子さんの進路・将来について	135
児童福祉法による障害児通所支援について	144

障害福祉サービスの利用状況・利用希望について.....	158
障害に対する理解について	207
生活の状況・区の施策について	212
IV アンケート調査票.....	217
1 未就学児への調査	217
2 就学児以上 18 歳以下の方への調査.....	233

I 調査の概要

1 調査の目的と方法

(1) 調査の目的

この調査は、『品川区障害児福祉計画』の策定に向けて、障害児を取り巻く状況把握のために実施したものです。

(2) 調査の種類

この調査では、以下の調査を行いました。

- ・18歳以下の障害児及びその家族を対象としたアンケート調査（以下「アンケート調査」）

(3) 調査の概要

・アンケート調査

- 調査対象：18歳以下の障害児のいる世帯の保護者全員。（平成29年6月末日現在。）

未就学児：308人

就学児以上18歳以下の方：533人

- 調査期間：平成29年8月10日～平成29年8月28日

- 調査方法：郵送による配付・回収

- 配付・回収状況：373人

対象	配付数	回収数（有効回答）	回収率
未就学児	308票	176票	57.1%
就学児以上18歳以下の方	533票	259票	48.6%

(4) アンケート調査報告のみかた

この調査の分析結果を読む際の留意点は以下のとおりです。

- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現しています。
- 百分比による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を 100%として算出し、本文及び図表の数字に関しては、すべて小数点第 2 位以下を四捨五入し、小数点第 1 位までを表記しています。したがって、回答比の合計が 100%にならない場合もあります。
また、複数回答の設問では、すべての比率の合計が 100%を超えることがあります。
- 各設問に、属性別のクロス集計表を掲載しています。各属性において最も割合が高い項目は着色しています。なお、属性別のクロス集計のコメントは、特徴的な項目のみ記述しています。
- 「1 つに○」の設問について、回答がみられなかった選択肢は数字の表示を削除しています。

2 調査結果概要

(1) アンケート調査

① お子さん・世帯の状況について（未就学児、就学児以上 18 歳以下の方）

◎障害の種類は未就学児では「いずれも持っていない」が過半数、就学児以上 18 歳以下の方では「愛の手帳」だが、2 種類の所持者が一定数みられる。

（未就学児：問3（1）、就学児以上 18 歳以下の方：問3（1））

調査対象者が所持している障害者手帳の種類は、未就学児では「いずれも持っていない」が 51.7%、「愛の手帳」が 25.6%、就学児以上 18 歳以下の方では「愛の手帳」が 56.4%、「身体障害者手帳」が 25.5%となっています。

手帳の重複状況（下表）をみると、1 種類のみのもので所持者は未就学児では 44.3%、就学児以上 18 歳以下の方では 68.4%となっています。

2 種類の所持では「身体障害者手帳」と「愛の手帳」の所持者は未就学児で 3.4%、就学児以上 18 歳以下の方で 7.7%みられます。

したがって、身体障害のある児童では、知的障害または指定難病等を併せ持つケースが比較的多いとみられます。

手帳の種類		未就学児（176 人）			就学児以上 18 歳以下の方（259 人）			
		回答者数		割合	回答者数		割合	
1 種 類	身体障害者手帳	25	78	14.2%	46	177	17.8%	68.4%
	愛の手帳	38		21.6%	125		48.3%	
	精神障害者保健福祉手帳	0		0.0%	1		0.4%	
	特定医療費（指定難病）受給者証、小児慢性特定疾病医療受給者証	15		8.5%	5		1.9%	
2 種 類	身体障害者手帳	7	7	3.4%	20	21	7.7%	8.1%
	愛の手帳			4.0%				
	愛の手帳							
	精神障害者保健福祉手帳	0		0.0%	1		0.4%	
いずれも持っていない		91		51.7%	57		22.0%	
無回答		0		0.0%	4		1.5%	

I - 2 調査結果概要

② お子さんの障害・疾病の状況について（未就学児、就学児以上 18 歳以下の方）

◎障害に最初に気付いた時期について、身体障害や知的障害、重症心身障害では「出生児」、発達障害では「1 歳」の割合が高い。

（未就学児：問 7 と問 9、就学児以上 18 歳以下の方：問 6 と問 8）

障害の種類別に障害に最初に気付いた時期について、未就学児、就学児以上 18 歳以下の方を合算すると、下表のとおりです。

このうち、「身体障害」の 5 種類と「重症心身障害」では「出生児」の割合が高く、3 歳までに気付くケースが多数となっています。なお、身体障害でも「聴覚障害・平衡機能障害」と「音声・言語・そしゃく障害」では「9～11 歳」の回答があり、就学してから障害に気付いたケースもみられます。

知的障害では、「出生時」が 28.0%と高い割合となっていますが、2 歳以下の各区分で 10～20% 台みられるほか、「4 歳」を除く各年齢層で回答がみられ、成長してから障害に気付くケースがみられます。

発達障害では、「1 歳」が 27.7%、「2 歳」が 26.9%、「3 歳」で 19.2%となっており、1～3 歳で 7 割以上となっています。なお「12 歳以上」までの各年齢階層で回答がみられ、成長してから障害に気付くケースがみられます。

上段：回答者数、下段：割合

		障害に最初に気付いたのはいつ頃か（就学児以上 18 歳以下の方、未就学児の回答を合算）											
		出生時	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6～8 歳	9～11 歳	12 歳以上	無回答	
全体		435	108 24.8	55 12.6	95 21.8	81 18.6	59 13.6	7 1.6	9 2.1	10 2.3	7 1.6	2 0.5	2 0.5
障害の種類 (複数回答)	身体障害 (視覚障害)	14	7 50.0	3 21.4	3 21.4	0 0.0	1 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	身体障害 (聴覚障害・平衡機能障害)	35	21 60.0	5 14.3	5 14.3	2 5.7	1 2.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.9	0 0.0	0 0.0
	身体障害 (音声・言語・そしゃく障害)	37	18 48.6	7 18.9	5 13.5	4 10.8	2 5.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.7	0 0.0	0 0.0
	身体障害 (肢体不自由)	55	28 50.9	18 32.7	7 12.7	0 0.0	2 3.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	身体障害 (内部障害)	30	26 86.7	3 10.0	1 3.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	知的障害	175	49 28.0	25 14.3	43 24.6	32 18.3	14 8.0	0 0.0	2 1.1	5 2.9	4 2.3	1 0.6	0 0.0
	重症心身障害	13	7 53.8	3 23.1	1 7.7	0 0.0	2 15.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	高次脳機能障害	5	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0
	発達障害	260	20 7.7	22 8.5	72 27.7	70 26.9	50 19.2	7 2.7	8 3.1	6 2.3	4 1.5	1 0.4	0 0.0
	その他	27	6 22.2	2 7.4	8 29.6	2 7.4	5 18.5	0 0.0	1 3.7	3 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0

※ 各区分において、最も回答が多かった項目を着色。

③ 困りごとの相談、介助者への支援について（未就学児、就学児以上 18 歳以下の方）

◎主な介助者は「母親」が 78.4%。夫婦で介助している世帯が多いが、「サポートしてくれる人はいない」も 1 割以上みられる。

（未就学児：問 11 と問 12、就学児以上 18 歳以下の方：問 10 と問 11）

主な介助者と主な介助者をサポートしてくれる親族・知人について、未就学児、就学児以上 18 歳以下の方を合算すると、下表のとおりです。

主な介助者は、「母親」が 78.4%（435 人中 341 人）、「父親」が 6.0%（435 人中 26 人）、「同居している祖父母」が 0.2%（435 人中 1 人）となっています。

主な介助者別に主な介助者をサポートしてくれる親族・知人をみると、主な介助者が「母親」の世帯では、「父親」が 73.0%、「その他親族」が 17.6%となっているほか、「兄弟姉妹」も 15.8%となっています。

主な介助者が「父親」の世帯では、「母親」が 42.3%（26 人中 11 人）、「その他親族」が 26.9%（26 人中 7 人）となっており、主な介助者が「母親」の世帯と比べて「その他親族」の支援を受けている世帯が多くなっています。

なお、「サポートしてくれる人はいない」は、主な介助者が「父親」の世帯で 15.4%（26 人中 4 人）、「母親」の世帯で 12.0%となっており、父親のみまたは母親のみで介助している世帯が 1 割以上みられます。

上段：回答者数、下段：割合

		主な介助者をサポートしてくれる親族・知人（複数回答）									
		父親	母親	兄弟姉妹	同居している祖父母	その他親族	近所の人	その他	サポートしてくれる人はいない	無回答	非該当
全体		368 258 70.1	30 8.2	55 14.9	19 5.2	67 18.2	12 3.3	28 7.6	45 12.2	12 3.3	67
主な介助者	父親	26 26 100.0	11 42.3	1 3.8	1 3.8	7 26.9	2 7.7	2 7.7	4 15.4	0 0.0	0
	母親	341 249 73.0	1 0.3	54 15.8	18 5.3	60 17.6	10 2.9	26 7.6	41 12.0	12 3.5	0
	同居している祖父母	1 1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0

※ 各区分において、最も回答が多かった項目を着色。また、主な介助者は回答のあった項目のみ表示。

※ 主な介助者と主な介助者をサポートしてくれる親族・知人が同一の回答（父親—父親 8 人、母親—母親 18 人）は集計表から削除。

父親のみ、または、母親のみで介助している世帯の世帯構成（下表）をみると、両親がいても一方のみが子どもを介助している世帯が全体の 66%になります。

介助者	世帯構成別該当者数	
	両親がいる世帯	ひとり親世帯
父親：4 人	3 人	1 人
母親：41 人	27 人	14 人

◎子育てについて困っていることは、未就学児では「お子さんから目が離せない」、就学児以上18歳以下の方では「気持ちが休まらない」の割合が最も高い。

(未就学児：問13、就学児以上18歳以下の方：問12)

子育てについて困っていることは、未就学児では「お子さんから目が離せない」が33.0%と最も割合が高く、次いで「気持ちが休まらない」が30.7%となっています。また、就学児以上18歳以下の方では「気持ちが休まらない」が34.4%と最も割合が高く、次いで「お子さんから目が離せない」が22.8%となっており、未就学児の回答と1位、2位が入れ替わっているものの、ほぼ同じ傾向といえます。

◎相談窓口の相談しやすさについて、概ね「気軽に相談できる」という評価だが、一部窓口では「時間や手間がかかる」「相談しにくい」の感想もみられる。

(未就学児：問14と問15[◎]、就学児以上18歳以下の方：問13と問14[◎])

家族や知人以外の相談先の相談しやすさについて、未就学児、就学児以上18歳以下の方を合算すると、下表のとおりです。

全体では60.0%が「気軽に相談できる」が60.0%と半数以上となっています。また、機関・窓口別でも「気軽に相談できる」の回答が多くみられます。

その一方で、「障害者福祉課以外の区の窓口」では該当者4人中2人が「相談しにくい」と回答しています。また、「区の障害者福祉課」も14.0%が「相談しにくい」と回答しています。

上段：回答者数、下段：割合

		その相談先は、相談しやすいか			
		気軽に相談できる	時間や手間はかかるが、相談に応じてもらえる	相談しにくい	無回答
全体		435 261 60.0	95 21.8	15 3.4	64 14.7
家族や知人以外の相談先 (複数回答)	医療機関	139 78 56.1	51 36.7	4 2.9	6 4.3
	区の障害者福祉課	43 20 46.5	13 30.2	6 14.0	4 9.3
	保健センター	4 2 50.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0
	障害者福祉課以外の区の窓口	4 1 25.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0
	品川児童学園「子ども発達相談室」	53 36 67.9	14 26.4	1 1.9	2 3.8
	幼稚園・保育園	49 41 83.7	3 6.1	3 6.1	2 4.1
	利用している療育施設	155 118 76.1	33 21.3	3 1.9	1 0.6
	相談支援事業所	7 3 42.9	4 57.1	0 0.0	0 0.0
	利用しているサービス	65 49 75.4	14 21.5	2 3.1	0 0.0
	障害者の会や家族の会	25 20 80.0	4 16.0	1 4.0	0 0.0
	その他	82 62 75.6	13 15.9	2 2.4	5 6.1

※ 各区分において、最も回答が多かった項目を着色。また、相談先は回答のあった項目のみ表示。

◎区や事業者などの相談窓口に期待することについて、未就学児、就学児以上 18 歳以下の方ともに「お子さんに適したサービス情報の提供」の割合が最も高い。

(未就学児：問 16、就学児以上 18 歳以下の方：問 15)

区や事業者などの相談窓口に期待することについて、「お子さんに適したサービス情報の提供」が未就学児で 73.3%、就学児以上 18 歳以下の方で 66.8%と最も高い割合となっています。

なお、未就学児では「障害・病気に適した専門的なアドバイス」、就学児以上 18 歳以下の方では「新しい施策やサービスなどの情報提供」の割合が比較的高く、年齢層によって、期待する内容に違いがみられます。

◎主な介助者・子育てに必要な支援について、未就学児では「早期の療育」、就学児以上 18 歳以下の方は「専門的な相談支援体制」の割合が最も高い。

(未就学児：問 17、就学児以上 18 歳以下の方：問 16)

主な介助者・子育てへの支援について、未就学児では「早期の療育」が 52.8%、「専門的な相談支援体制」が 46.0%となっています。また、就学児以上 18 歳以下の方は「専門的な相談支援体制」が 43.2%と最も割合が高く、次いで「経済的な支援」が 30.9%となっており、障害児の年齢層に応じて異なる支援が期待されています。

その一方で「専門的な相談支援体制」は未就学児、就学児以上 18 歳以下の方ともに 4 割以上となっており、相談体制の充実が期待されているとみられます。

④ 医療的ケアの必要なお子さんについて（未就学児、就学児以上 18 歳以下の方）

◎医療的ケアの必要な障害児は、未就学児で 11.4%、就学児以上 18 歳以下の方で 6.2%が該当している。医療的ケアは「母親」が担っている世帯が多い。

(未就学児：問 18 と問 19^①、就学児以上 18 歳以下の方：問 17 と問 18^②)

医療的ケアの必要な障害児は、未就学児で 11.4%（176 人中 20 人）、就学児以上 18 歳以下の方で 6.2%（259 人中 16 人）となっており、未就学児で比較的高く、回答者の 1 割以上となっています。

その内訳は、未就学児では「たん吸引」と「酸素吸入」がともに 4.5%、「その他」が 4.0%となっています。また、就学児以上 18 歳以下の方で「その他」が 3.1%、「胃瘻・腸瘻」が 1.9%となっており、その他の医療的ケアは 1%以下となっています。

医療的ケアを行っている人は、「母親」が未就学児で 85.0%（20 人中 17 人）、就学児以上 18 歳以下の方で 81.3%（16 人中 13 人）となっており、いずれも 8 割以上となっています。なお、「母親」以外の回答は、未就学児では 3 人のうち 2 人が「父親」、1 人は無回答、就学児以上 18 歳以下の方では「父親」「医師・看護師」「その他」が各 1 人となっています。

⑤ お子さんの生活について（未就学児）

◎幼稚園・保育園・療育施設等の生活での困りごと・心配ごとについて、「通わせる施設の選択肢が少ない」「周囲の子どもとの関係」の割合が高い。また、幼稚園・保育園・療育施設等以外の過ごし方の希望について、「習い事・スポーツ」「同世代の子どもとの遊び」の回答が多くみられる。

（未就学児：問20①②）

幼稚園・保育園・療育施設等の生活での困りごと・心配ごとについて、「周囲の子どもとの関係」が36.2%と最も割合が高く、次いで「通わせる施設の選択肢が少ない」が28.8%となっています。

また、幼稚園・保育園・療育施設等以外の過ごし方の希望について、「習い事・スポーツ」「同世代の子どもとの遊び・交流」の回答が多くみられます。これは、自宅で家族と過ごす障害児が多いことから、同世代の子どもとのコミュニケーションの経験を積むこと、体を動かす活動の希望が多いものとみられます。

◎障害児の小学校入学時の進路について、「小学校の通常学級」が31.3%と多いものの、「わからない」も25.8%みられる。また、進学先の判断や進学後の学校生活を心配する保護者は多い。

（未就学児：問21と問22）

小学校入学時の進路希望について、「小学校の通常学級」が31.3%、「小学校の通常学級（特別支援教室・通級指導学級）」が17.2%となっていますが、「わからない」が25.8%となっています。

なお、「わからない」の回答者（163人中42人）の年齢別の内訳は以下のとおりです。

3歳、4歳、5歳の各年齢において、10人以上が「わからない」と回答しています。

「わからない」の回答者（42人）の年齢別人数	
1歳	1人
2歳	7人
3歳	11人
4歳	12人
5歳	11人

また、今後の生活や進学等についての心配ごとにおいても、「進学先の選択について」「学業・学校生活について」の回答が多くみられたことから、入学直前まで、判断に悩む保護者が多いとみられます。

⑥ お子さんの進路・将来について（就学児以上 18 歳以下の方）

◎障害児の進路・将来について、中学校（中等部）卒業後は「高等学校」または「特別支援学校の高等部」、高等学校（高等部）卒業後は「企業等へ就職する（一般就労）」の希望が多い。

（就学児以上 18 歳以下の方：問 20 と問 21）

小学校（小学部）、中学校（中等部）に通学している児童・生徒の中学校（中等部）卒業後の進路希望は「特別支援学校の高等部」が 38.7%、「高等学校（夜間を含む）」が 37.6%となっており、合わせて 76.3%が進学を希望しています。

なお、「わからない」が 19.6%（194 人中 38 人）みられます。その内訳は下表のとおりです。

38 人のうち、35 人が小学校（小学部）、3 人が中学校（中等部）となっており、小学校（小学部）の段階では、進路を決めかねている状況があります。

「わからない」の回答者（38 人）の通学状況別人数		
小学校の通常学級	4 人	35 人
小学校の通常学級（特別支援教室・通級指導学級）	10 人	
小学校の特別支援学級	13 人	
特別支援学校の小学部	8 人	
中学校の通常級（通級指導学級）	1 人	3 人
中学校の特別支援学級	2 人	

高等学校（高等部）に通学している生徒の卒業後の進路希望は、「企業等へ就職する（一般就労）」が 39.7%最も割合が高く、次いで「生活介護の施設へ通う」が 17.2%、「就労継続支援事業所や就労移行支援事業所へ通う」が 15.5%となっています。なお、「大学や短期大学へ通う」は 6.9%、「専門学校や専修学校へ通う」は 0.0%となっています。

なお、「大学や短期大学へ通う」の回答者（4 人）は、いずれも身体障害者手帳所持者となっています。障害の種類は「内部障害」が 2 人、「聴覚障害・平衡機能障害」が 1 人、「聴覚障害・平衡機能障害」と「発達障害」が 1 人となっています。

◎現在の生活での困りごと・心配ごとについて、「通わせる施設の選択肢が少ない」「周囲の子どもとの関係」の割合が高い。また、放課後や長期休暇中などの過ごし方の希望では「療育・福祉サービス」「塾・習い事」「同世代の子どもとの遊び・交流」の回答が多くみられる。

（就学児以上 18 歳以下の方：問 22^① ②）

現在の生活での困りごと・心配ごとについて、「通わせる施設の選択肢が少ない」が 30.2%と最も割合が高く、次いで「周囲の子どもとの関係」が 27.8%となっています。

また、放課後や長期休暇中などの過ごし方の希望では「療育・福祉サービス」「塾・習い事」「同世代の子どもとの遊び・交流」の回答が多くなっています。

I - 2 調査結果概要

⑦ 児童福祉法による障害児通所支援について（未就学児、就学児以上 18 歳以下の方）

◎児童発達支援は回答者の 80.1%が利用している。そのうち、80.9%が今後も利用を希望している。

（未就学児：問 23）

児童発達支援は、回答者の 80.1%（176 人中 141 人）が「利用している」と回答しています。このうち、「(今後も) 利用したい」が 80.9%（141 人中 114 人）、「利用希望はない」が 0.0%、「わからない」が 2.1%となっており、現在の利用者の多くが継続的な利用を希望しています。

上段：回答者数、下段：割合

			児童発達支援				
			(今後も)利 用したい	利用したい が、できない	利用希望は ない	わからない	無回答
全体		176	117 66.5	10 5.7	10 5.7	11 6.3	28 15.9
児童発達支援	利用している	141	114 80.9	6 4.3	0 0.0	3 2.1	18 12.8
	利用していない	31	3 9.7	4 12.9	10 32.3	8 25.8	6 19.4

※ 各区分において、最も回答が多かった項目を着色。

また、現在「利用していない」と回答した 31 人のうち、「(今後も) 利用したい」は 3 人（9.7%）となっています。その年齢は 0 歳、4 歳、5 歳が各 1 人となっています。

◎医療型児童発達支援は回答者の 11.9%が利用している。そのうち、76.2%が今後も利用を希望している。

（未就学児：問 23）

医療型児童発達支援は、回答者の 11.9%（176 人中 21 人）が「利用している」と回答しています。このうち、「(今後も) 利用したい」が 76.2%（21 人中 16 人）、「利用希望はない」が 0.0%、「わからない」が 4.8%（21 人中 1 人）となっており、現在の利用者の多くが継続的な利用を希望しています。

上段：回答者数、下段：割合

			医療型児童発達支援の利用希望				
			(今後も)利 用したい	利用したい が、できない	利用希望は ない	わからない	無回答
全体		176	26 14.8	14 8.0	25 14.2	25 14.2	86 48.9
医療型児童発達支 援の利用状況	利用している	21	16 76.2	2 9.5	0 0.0	1 4.8	2 9.5
	利用していない	82	10 12.2	9 11.0	23 28.0	20 24.4	20 24.4

※ 各区分において、最も回答が多かった項目を着色。

また、現在「利用していない」と回答した 82 人のうち、「(今後も) 利用したい」は 10 人（12.2%）となっています。その年齢は 0 歳が 2 人、3 歳が 3 人、4 歳が 2 人、5 歳が 3 人となっています。

◎放課後等デイサービスは回答者の 53.7%が利用している。そのうち、82.0%が今後も利用を希望している。(就学児以上 18 歳以下の方：問 23)

放課後等デイサービスは、回答者の 53.7%（259 人中 139 人）が「利用している」と回答しています。このうち、「(今後も) 利用したい」が 82.0%（139 人中 114 人）となっており、現在の利用者の多くが継続的な利用を希望しています。なお、現在の利用者のうち「利用したいが、できない」と回答した 6 人の通学状況は、「小学校の通常学級」が 3 人、「中学校の特別支援学級」が 1 人、「特別支援学校の高等部」が 2 人となっています。

上段：回答者数、下段：割合

			放課後等デイサービスの利用希望				
			(今後も) 利用したい	利用したいが、できない	利用希望はない	わからない	無回答
全体		259	128 49.4	23 8.9	30 11.6	41 15.8	37 14.3
放課後等デイサービスの利用状況	利用している	139	114 82.0	6 4.3	0 0.0	4 2.9	15 10.8
	利用していない	110	13 11.8	16 14.5	26 23.6	37 33.6	18 16.4

※ 各区分において、最も回答が多かった項目を着色。

また、現在「利用していない」と回答した 110 人のうち、「(今後も) 利用したい」は 13 人 (11.8%) となっています。その通学状況は、下表のとおり小学生が 6 人となっていますが各年齢層に分散しています。

新規の利用希望者（13 人）の通学状況別人数		
小学校の通常学級	2 人	6 人
小学校の通常学級（特別支援教室・通級指導学級）	1 人	
小学校の特別支援学級	1 人	
特別支援学校の小学部	2 人	
中学校の特別支援学級	1 人	3 人
特別支援学校の中学部	2 人	
特別支援学校の高等部	4 人	4 人

I - 2 調査結果概要

㊟**保育所等訪問支援は、未就学児では3.4%（6人）が利用しており、その半数が今後も利用を希望している。また、就学児以上18歳未満では回答者の0.4%（1人）が利用しており、今後も利用を希望している。**（未就学児：問23、就学児以上18歳以下の方：問23）

未就学児の保育所等訪問支援は、回答者の3.4%（176人中6人）が「利用している」と回答しており、そのうち半数の3人が今後も利用を希望しています。

上段：回答者数、下段：割合

			保育所等訪問支援				
			(今後も) 利用したい	利用したい が、できない	利用希望は ない	わからない	無回答
全体		176	17 9.7	11 6.3	22 12.5	35 19.9	91 51.7
保育所等訪問支援 の利用状況	利用している	6	3 50.0	0 0.0	0 0.0	2 33.3	1 16.7
	利用していない	96	14 14.6	9 9.4	19 19.8	30 31.3	24 25.0

※ 各区分において、最も回答が多かった項目を着色。

また、現在「利用していない」と回答した96人のうち、「(今後も) 利用したい」は14人(14.6%)となっています。その年齢は0歳と2歳が各1人、3歳が6人、4歳と5歳が各3人となっており、3歳から5歳で新規のニーズが想定できます。

就学児以上18歳未満の保育所等訪問支援は、回答者の0.4%（259人中1人）が「利用している」と回答しており、今後も利用を希望しています。

上段：回答者数、下段：割合

			保育所等訪問支援				
			(今後も) 利用したい	利用したい が、できない	利用希望は ない	わからない	無回答
全体		259	8 3.1	7 2.7	58 22.4	42 16.2	144 55.6
保育所等訪問支援 の利用状況	利用している	1	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	利用していない	149	7 4.7	7 4.7	54 36.2	41 27.5	40 26.8

※ 各区分において、最も回答が多かった項目を着色。

また、現在「利用していない」と回答した149人のうち、「(今後も) 利用したい」は7人(4.7%)となっています。その通学状況は、下表のとおりです。

新規の利用希望者（13人）の通学状況別人数		
小学校の通常学級(特別支援教室・通級指導学級)	2人	4人
特別支援学校の小学部	2人	
特別支援学校の中学部		2人
特別支援学校の高等部		1人

◎利用している障害児福祉サービスの満足度について、各サービスとも「満足」「やや満足」の回答が多い。
(未就学児：問 24^①、就学児以上 18 歳以下の方：問 24^②)

利用している障害児福祉サービスの満足度について、「児童発達支援」（未就学児のみ 141 人）では、「満足」が 44.0%、「やや満足」が 39.0%となっており、合わせて 83.0%が満足しているとみられます。その一方で、「やや不満」が 12.8%、「不満」が 2.1%となっています。「やや不満」「不満」の理由として、「職員の専門性が低い」が 61.9%と半数以上となっています。

「医療型児童発達支援」（未就学児のみ 21 人）では、「満足」が 23.8%、「やや満足」が 47.6%となっており、合わせて 71.4%が満足しているとみられます。その一方で、「やや不満」が 23.8%となっています。「やや不満」（5 人）の理由として、「要望・苦情への対応が遅い」と「その他」（事業者や土日の利用の選択肢が少ない、アクセスが悪く予約がとりづらい）が各 2 人となっています。

「放課後デイサービス」（就学児以上 18 歳以下の方のみ 139 人）では、「満足」が 33.8%、「やや満足」が 43.2%となっており、合わせて 77.0%が満足しているとみられます。その一方で、「やや不満」が 18.7%、「不満」が 2.9%となっており、合わせて 21.6%が不満を感じているとみられます。また、不満を感じている回答者（30 人）の理由については「職員の専門性が低い」が 43.3%と「個々の状況に合わせた柔軟な対応ができない」が 30%となっています。「その他」が 50.0%となっています。「支給日数が少ない」「費用が高い」「療育より学習塾に思える」「意識が低い」など、不満が多くみられます。

保育所等訪問支援（未就学児 6 人、就学児以上 18 歳以下の方 1 人）について、未就学児では「満足」が 66.7%、「やや満足」が 16.7%となっており、「やや不満」「不満」の回答は 0.0%となっています。また、就学児以上 18 歳以下の方から「やや不満」の回答を得ています。その理由については「利用したくても品川区の支給決定が出ないと利用できず、なかなか支給決定が出ない」という区の手続きに対する不満となっています。

◎障害児福祉サービスを「利用したいが、利用できない」理由について、未就学児では「利用方法がわからない」、就学児以上 18 歳以下の方では「その他」（年齢的な理由、時間が合わない、本人が利用したがるらない など）の回答が多い。

(未就学児：問 25、就学児以上 18 歳以下の方：問 25)

障害児福祉サービスを「利用したいが、利用できない」理由について、未就学児（30 人）では「利用方法がわからない」が 46.7%と最も割合が高く、次いで「近くに施設がない」と「定員に空きがない」が 33.3%となっています。

また、就学児以上 18 歳以下の方（25 人）では「利用方法がわからない」が 28.0%、「近くに施設がない」が 20.0%となっています。また、その他 52.0%の声として、「本人が利用したがるらない」「時間が合わない」などがあります。

未就学児、就学児以上 18 歳以下の方ともに、利用方法についての情報提供の工夫が必要です。

⑧ 障害福祉サービスの利用状況・利用希望について（未就学児、就学児以上18歳以下の方）

◎障害福祉サービスの利用状況と利用希望を比較すると、5種類のサービスで利用希望者が多くみられる。

(未就学児：問26、就学児以上18歳以下の方：問26)

障害福祉サービスの利用状況と利用希望を比較すると、下表のとおりとなります。

未就学児では、「(今後も) 利用したい」から「利用している」への割合の上昇が「居宅介護（ホームヘルプ）」では5.2ポイント（1.1%→6.3%）、「短期入所（ショートステイ）」では6.3ポイント（1.7%→8.0%）となっています。

就学児以上18歳以下の方では、「居宅介護（ホームヘルプ）」「行動援護」「短期入所（ショートステイ）」「移動支援事業」「日中一時支援事業」の5サービスで、「(今後も) 利用したい」が「利用している」を5ポイント以上上回っています。この中で特に「短期入所（ショートステイ）」では13.9ポイント（4.6%→18.5%）、「移動支援事業」では17.3ポイント（6.6%→23.9%）上回っており、この2サービスの利用希望は大きいものとみられます。また、現在「利用している」が0.0%の「同行援護」「要約筆記者派遣事業」2サービスでは、「(今後も) 利用したい」がそれぞれ2.3%、3.9%と利用希望がみられます。

各サービスのうち、「居宅介護（ホームヘルプ）」「短期入所（ショートステイ）」の2サービスは、未就学児、就学児以上18歳以下の方ともに利用希望が比較的大きいサービスといえます。

	未就学児（176人）				就学児以上18歳以下の方（259人）			
	利用している		(今後も) 利用したい		利用している		(今後も) 利用したい	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
居宅介護（ホームヘルプ）	2	1.1%	11	6.3%	5	1.9%	20	7.7%
同行援護					0	0.0%	6	2.3%
行動援護	1	0.6%	9	5.1%	1	0.4%	15	5.8%
短期入所（ショートステイ）	3	1.7%	14	8.0%	12	4.6%	48	18.5%
移動支援事業					17	6.6%	62	23.9%
日中一時支援事業					30	11.6%	52	20.1%
手話通訳者派遣事業					2	0.8%	13	5.0%
要約筆記者派遣事業					0	0.0%	10	3.9%
日常生活用具給付等事業					18	6.9%	26	10.0%

※ 「利用している」から「(今後も) 利用したい」の割合が5ポイント以上上昇したサービスを着色。

◎現在利用している障害福祉サービスの満足度について、概ね「満足」「やや満足」の割合が高いが、「短期入所」「日中一時支援事業」では「やや不満」の割合が比較的高い。

(未就学児：問27①、就学児以上18歳以下の方：問27②)

現在利用している障害福祉サービスの満足度について、未就学児では「居宅介護（ホームヘルプ）」（2人）で「やや満足」、「行動援護」（1人）で「満足」と回答し、「やや不満」「不満」の回答はみられません。なお、「短期入所（ショートステイ）」では、3人中2人が「やや満足」と回答していますが、1人が「やや不満」と回答しています。

就学児以上18歳以下の方では、「居宅介護（ホームヘルプ）」と「行動援護」では「満足」と「やや満足」のみの回答となっており、その他のサービスでも「満足」と「やや満足」の比率が高くなっています。その中で比較的「やや不満」「不満」の高いものは、「短期入所（ショートステイ）」（12人）では「やや不満」が33.3%（4人）、「不満」が8.3%（1人）となっています。また、「日中

一時支援事業」(30人)では「やや不満」が26.7%(8人)、「不満」が3.3%(1人)となっています。

◎現在利用しているサービスについての困りごとについて、「利用できる時間や日数、回数が少ない」の回答が多い。
(未就学児：問27◎、就学児以上18歳以下の方：問27◎)

現在利用しているサービスについての困りごとについて、未就学児では「居宅介護（ホームヘルプ）」(2人)で「利用できる時間や日数、回数が少ない」と「利用者負担が大きい」が各1人、「短期入所（ショートステイ）」(3人)では、4項目に各1人（複数回答あり）が回答しています。

就学児以上18歳以下の方では、「居宅介護（ホームヘルプ）」「短期入所（ショートステイ）」「移動支援事業」「日中一時支援事業」の4サービスで「利用できる時間や日数、回数が少ない」が最も高い割合となっています。

なお、「利用者負担が大きい」の回答について、「居宅介護」で40.0%、「日常生活用具給付等事業」や「日中一時支援」で16.7%となっています。

◎障害福祉サービスを利用しない理由について、各サービスとも「必要がない」の割合が最も高い。

(未就学児：問28、就学児以上18歳以下の方：問28)

障害福祉サービスを利用しない理由について、各サービスとも「必要がない」の割合が最も高くなっています。

その他の回答をみると、各サービスとも「サービスを知らなかった」「利用方法がわからない」の割合が比較的高く、未就学児が利用できる3サービスでは16.1%～21.0%の範囲内で回答がみられます。また、就学児以上18歳以下の方では「短期入所（ショートステイ）」「移動支援事業」において「利用方法がわからない」がそれぞれ16.1%、18.2%となっており、相談支援のなかで対象者にサービスの内容・利用方法についての情報提供の工夫が必要です。

I - 2 調査結果概要

⑨ 障害に対する理解について（未就学児、就学児以上 18 歳以下の方）

◎障害や病気への差別・偏見について、障害の種類に係わらず、「ときどき感じる」の割合が高い。

（未就学児：問 29、就学児以上 18 歳以下の方：問 29）

障害や病気への差別・偏見の感じ方について、未就学児、就学児以上 18 歳以下の方を合算すると、下表のとおりです。

障害児全体では「ときどき感じる」が 55.2%と半数以上となり、「あまり感じない」が 16.6%、「常に感じる」が 16.1%となっています。

これを障害の種類別でみると、障害の種類に係わらず「ときどき感じる」の割合が高く、特に「身体障害(肢体不自由)」では 61.8%となり、「常に感じる」(21.8%) と合わせると 83.6%（55 人中 46 人）が差別や偏見を感じているとみられます。

また、「常に感じる」と「ときどき感じる」を合わせて「差別・偏見を感じる」とすると、ほとんどの障害が 7 割を超えています。中でも「身体障害(視覚障害)」で 92.9%、「身体障害(肢体不自由)」で 83.6%、「高次脳機能障害」で 80.0%（5 人中 4 人）が 8 割以上となっています。「発達障害」では 69.6%、「その他」では 48.1%となっており、身体障害や知的障害などと比べて、低い割合となっています。

上段：回答者数、下段：割合

		普段の暮らしの中で、障害や病気への差別・偏見を感じる時						差別・偏見を感じる
		常に感じる	ときどき感じる	あまり感じない	まったく感じない	わからない	無回答	
全体		435	70 16.1	240 55.2	72 16.6	18 4.1	23 5.3	12 2.8
障害の種類 (複数回答)	身体障害(視覚障害)	14	5 35.7	8 57.1	1 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	身体障害(聴覚障害・平衡機能障害)	35	9 25.7	18 51.4	1 2.9	2 5.7	2 5.7	3 8.6
	身体障害(音声・言語・そしゃく障害)	37	9 24.3	20 54.1	3 8.1	1 2.7	2 5.4	2 5.4
	身体障害(肢体不自由)	55	12 21.8	34 61.8	8 14.5	0 0.0	0 0.0	1 1.8
	身体障害(内部障害)	30	6 20.0	17 56.7	2 6.7	3 10.0	2 6.7	0 0.0
	知的障害	175	38 21.7	100 57.1	26 14.9	3 1.7	4 2.3	4 2.3
	重症心身障害	13	3 23.1	7 53.8	2 15.4	0 0.0	0 0.0	1 7.7
	高次脳機能障害	5	2 40.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	発達障害	260	40 15.4	141 54.2	47 18.1	7 2.7	17 6.5	8 3.1
	その他	27	1 3.7	12 44.4	9 33.3	3 11.1	2 7.4	0 0.0

※ 各区分において、最も回答が多かった項目を着色。

◎品川区の暮らしやすさについて、視覚障害、重症心身障害を除く各障害で「どちらかという暮らしやすい」の割合が高い。また、差別・偏見を感じるほど暮らしにくさを感じる傾向が強い。

(未就学児：問 31、就学児以上 18 歳以下の方：問 31)

品川区の暮らしやすさについて、未就学児、就学児以上 18 歳以下の方を合算すると、下表（2 種）のとおりです。

障害児全体では、「どちらかという暮らしやすい」が 48.7%と最も割合が高く、次いで「わからない」が 14.9%、「どちらかという暮らしにくい」が 13.6%となっています。なお、「とても暮らしやすい」と「どちらかという暮らしやすい」を合わせて「暮らしやすさを感じる」とすると、61.6%が「暮らしやすさを感じる」に該当します。

これを障害の種類別でみると、視覚障害、重症心身障害を除く各障害で「どちらかという暮らしやすい」の割合が最も高く、「暮らしやすさを感じる」でみても、比較的高い割合となっています。また、視覚障害、重症心身障害では暮らしにくさを感じる傾向が強いとみられます。

上段：回答者数、下段：割合

		品川区は、お子さんやご家族の方にとって暮らしやすいまちか								
		とても暮らしやすい	どちらかという暮らしやすい	どちらかという暮らしにくい	暮らしにくい	わからない	無回答	暮らしやすさを感じる	暮らしにくさを感じる	
全体		435	56 12.9	212 48.7	59 13.6	34 7.8	65 14.9	9 2.1	268 61.6	93 21.4
障害の種類 (複数回答)	身体障害(視覚障害)	14	1 7.1	2 14.3	4 28.6	3 21.4	4 28.6	0 0.0	3 21.4	7 50.0
	身体障害(聴覚障害・平衡機能障害)	35	3 8.6	17 48.6	3 8.6	5 14.3	7 20.0	0 0.0	20 57.1	8 22.9
	身体障害(音声・言語・そしゃく障害)	37	2 5.4	12 32.4	4 10.8	6 16.2	10 27.0	3 8.1	14 37.8	10 27.0
	身体障害(肢体不自由)	55	6 10.9	18 32.7	9 16.4	9 16.4	12 21.8	1 1.8	24 43.6	18 32.7
	身体障害(内部障害)	30	5 16.7	13 43.3	0 0.0	2 6.7	10 33.3	0 0.0	18 60.0	2 6.7
	知的障害	175	15 8.6	77 44.0	30 17.1	23 13.1	27 15.4	3 1.7	92 52.6	53 30.3
	重症心身障害	13	1 7.7	3 23.1	2 15.4	2 15.4	4 30.8	1 7.7	4 30.8	4 30.8
	高次脳機能障害	5	0 0.0	3 60.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	3 60.0	1 20.0
	発達障害	260	35 13.5	132 50.8	37 14.2	17 6.5	32 12.3	7 2.7	167 64.2	54 20.8
	その他	27	1 3.7	17 63.0	5 18.5	1 3.7	3 11.1	0 0.0	18 66.7	6 22.2

※ 各区分において、最も回答が多かった項目を着色。

I - 2 調査結果概要

品川区の暮らしやすさを差別・偏見の感じ方別でみると、各分類とも「どちらかという暮らしやすい」の割合が最も高くなっています。

このうち、差別・偏見を「常を感じる」では「とても暮らしやすい」の7.1%に対して、「暮らしにくい」は21.4%と3倍の割合となっています。また、「暮らしにくさを感じる」でも、「常を感じる」回答者では40.0%が該当しますが、差別・偏見の感じ方が弱くなるほど、「暮らしにくさを感じる」の割合も低くなっています。

上段：回答者数、下段：割合

		品川区は、お子さんやご家族の方にとって暮らしやすいまちか							
			とても暮らしやすい	どちらかという暮らしやすい	どちらかという暮らしにくい	暮らしにくい	わからない	無回答	
全体		435	56 12.9	212 48.7	59 13.6	34 7.8	65 14.9	9 2.1	暮らしやすさを感じる 268 61.6
差別・偏見の感じ方	常を感じる	70	5 7.1	26 37.1	13 18.6	15 21.4	11 15.7	0 0.0	暮らしにくさを感じる 31 44.3
	ときどき感じる	240	23 9.6	126 52.5	34 14.2	15 6.3	40 16.7	2 0.8	149 62.1
	あまり感じない	72	17 23.6	39 54.2	9 12.5	2 2.8	5 6.9	0 0.0	56 77.8
	まったく感じない	18	5 27.8	8 44.4	0 0.0	1 5.6	4 22.2	0 0.0	13 72.2
	わからない	23	6 26.1	10 43.5	1 4.3	1 4.3	5 21.7	0 0.0	16 69.6

※ 各区分において、最も回答が多かった項目を着色。

⑩ 生活の状況・区の施策について（未就学児、就学児以上18歳以下の方）

⑪ 障害児支援の重要施策について、「子どもの成長を支える療育・家族支援体制の充実」が45.7%。

暮らしにくさを感じる回答者では、回答が分散する傾向がみられる。

（未就学児：問32、就学児以上18歳以下の方：問32）

障害児支援の重要施策について、未就学児、就学児以上18歳以下の方を合算すると、下表のとおりです。

障害児全体では、「子どもの成長を支える療育・家族支援体制の充実」が45.7%と最も割合が高く、次いで「一人ひとりの状況に合わせた支援を行える、サービス提供体制の充実」が31.3%、「障害の有無に係わらずともに生活できる、理解と共感が深まる意識啓発」が25.7%となっています。

これを品川区の暮らしやすさ別でみると、「とても暮らしやすい」「どちらかというとも暮らしやすい」「どちらかというとも暮らしにくい」の3区分では「子どもの成長を支える療育・家族支援体制の充実」の割合が最も高くなっています。また、「暮らしにくい」回答者では「障害の有無に係わらずともに生活できる、理解と共感が深まる意識啓発」が32.4%（34人中11人）と最も高い割合となっていますが、「子どもの成長を支える療育・家族支援体制の充実」と「一人ひとりの状況に合わせた支援を行える、サービス提供体制の充実」がともに29.4%（34人中10人）となっており、回答が分散しています。

上段：回答者数、下段：割合

		障害のある方が地域で安心して暮らしていくための重要な施策（複数回答）											
		気軽に相談できる、相談支援体制の充実	地域で自立した生活をおくるための、地域生活支援体制の充実	子どもの成長を支える療育・家族支援体制の充実	緊急時や災害時の安全を確保するための、安心・安全な生活基盤の確保	障害のある方の生活をサポートする、人材育成	一人ひとりの状況に合わせた支援を行える、サービス提供体制の充実	一人ひとりの状況に応じて働ける、就労支援体制の充実	一人ひとりの権利や尊厳を守る、権利擁護体制の構築	障害の有無に係わらずともに生活できる、理解と共感が深まる意識啓発	その他	特になし	無回答
全体		435	84 19.3	102 23.4	199 45.7	35 8.0	49 11.3	136 31.3	100 23.0	112 25.7	17 3.9	1 0.2	13 3.0
品川区の暮らしやすさ	とても暮らしやすい	56	14 25.0	17 30.4	31 55.4	6 10.7	2 3.6	8 14.3	10 17.9	17 30.4	1 1.8	0 0.0	2 3.6
	どちらかというとも暮らしやすい	212	45 21.2	48 22.6	97 45.8	11 5.2	28 13.2	60 28.3	62 29.2	62 29.2	9 4.2	1 0.5	3 1.4
	どちらかというとも暮らしにくい	59	11 18.6	14 23.7	31 52.5	6 10.2	8 13.6	22 37.3	8 13.6	10 16.9	4 6.8	0 0.0	1 1.7
	暮らしにくい	34	4 11.8	8 23.5	10 29.4	3 8.8	4 11.8	10 29.4	9 26.5	11 32.4	1 2.9	0 0.0	4 11.8
	わからない	65	8 12.3	14 21.5	27 41.5	7 10.8	7 10.8	32 49.2	10 15.4	12 18.5	2 3.1	0 0.0	1 1.5

※ 各区分において、最も回答が多かった項目を着色。

◎障害児の支援施策（自由意見）について、就学児以上18歳未満の方では「サービス・質の向上について」、未就学児では「行政施策・体制について」の回答が多くみられる。

（未就学児：問33、就学児以上18歳以下の方：問33）

障害児の支援施策（自由記述）について記述内容を分類すると、未就学児では「行政施策・体制について」の内容が最も多く、次いで「サービス・質の向上について」の内容が多くみられます。また、就学児以上18歳未満では「サービス・質の向上について」の内容が最も多く、次いで「行政施策・体制について」の内容が多くみられます。

このうち、「サービス・質の向上について」では、福祉事業所や支援学級の不足、サービスの支給時間・日数に関する意見が多くみられます。また、「スタッフの専門性の向上」や「親切的な対応」など、事業所の取り組みに対する意見もみられます。

「行政施策・体制について」では、区の職員の対応や、国・都を含めた障害者施策への不満・要望がみられます。また、「担当職員が少ない」「身近な特別支援学校から遠方（東京テレポート駅の方）区域が変更されるらしい」といった意見もみられます。

このほか、サービスと行政施策の両方にまたがる意見も多く、「放課後等デイサービスの支給量「基本10日」の方針を廃止してください。ガイドライン違反です。」（就学児以上18歳以下の方、愛の手帳所持者）など、区の施策に対しての具体的な意見もみられます。

さらに、少数ですが、他自治体と比較して、サービス支給量の少なさを訴える意見や、保護者が働き続けられる環境整備に関する意見もみられます。

Ⅱ アンケート調査集計報告

１ 未就学児への調査

お子さん・世帯の状況について

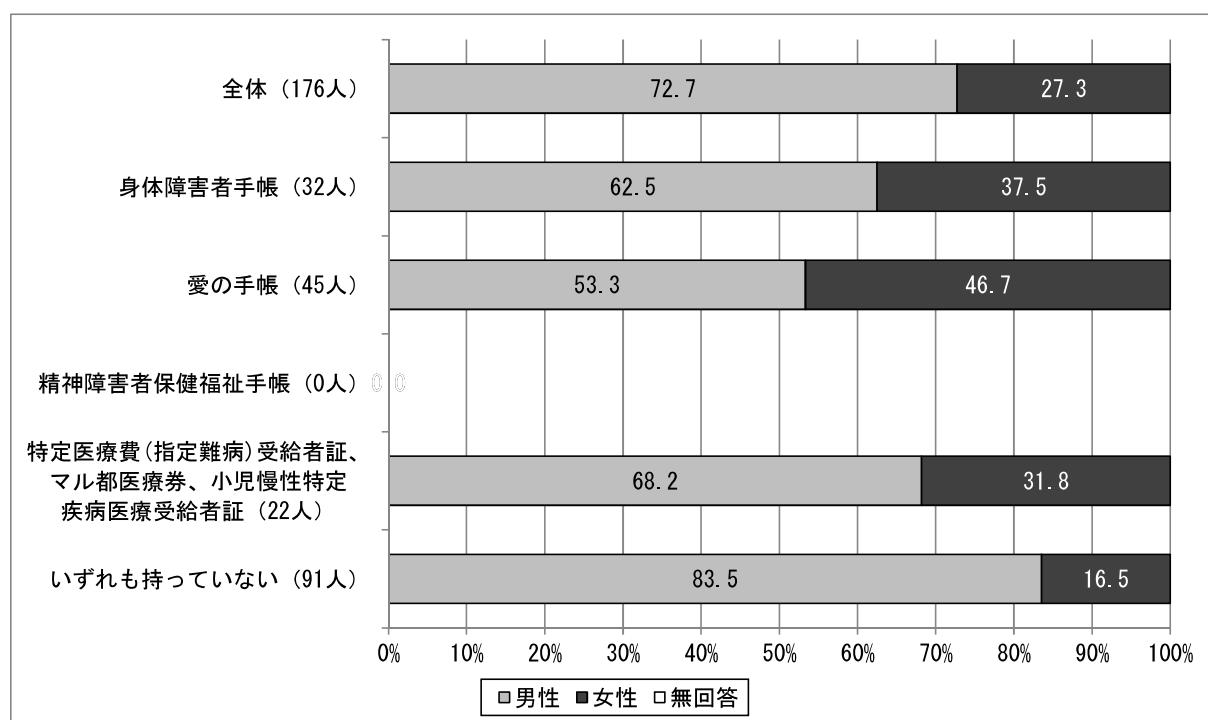
問１ お子さんの性別をお答えください。（１つに○）

<全体の傾向>

子どもの性別について、「男性」が72.7%、「女性」が27.3%となっています。

<手帳種別の傾向>

手帳種別の特徴はみられません。



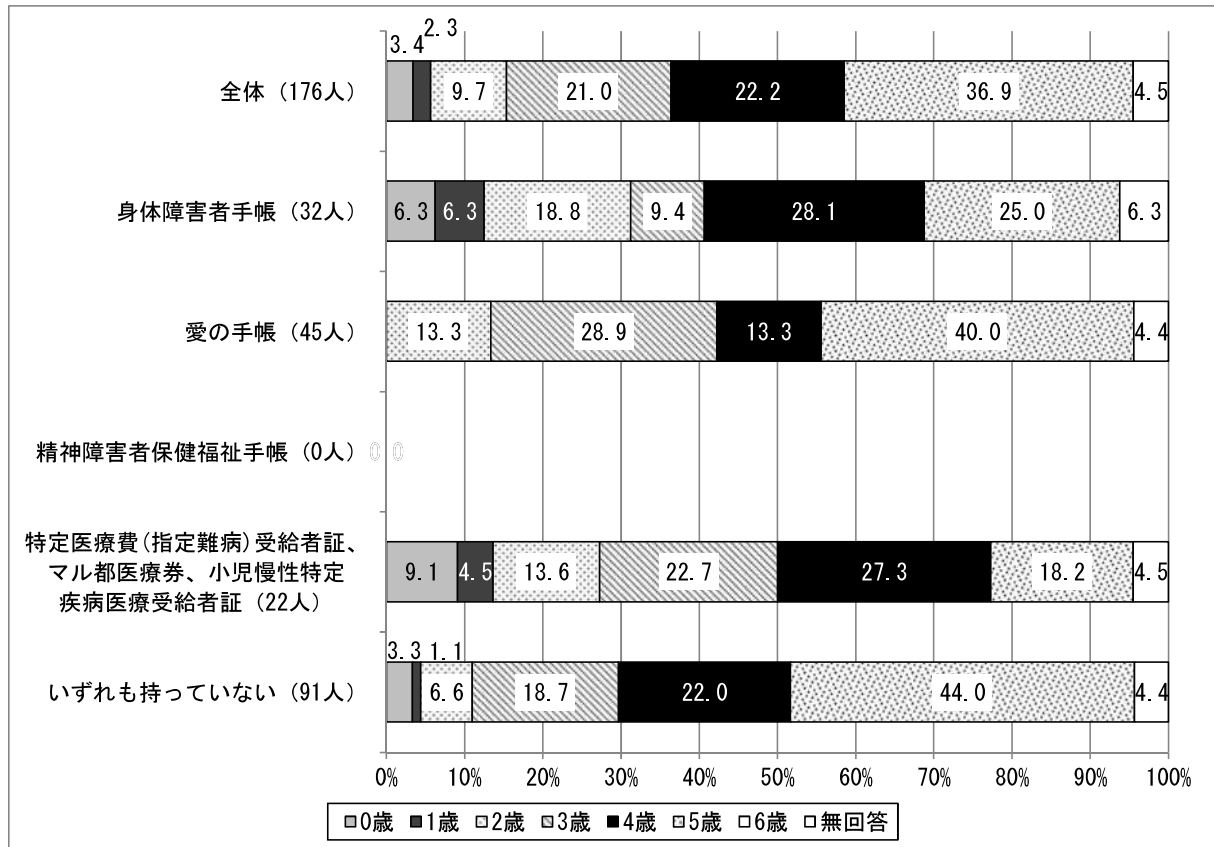
問２ 平成 29 年 4 月 2 日現在のお子さんの年齢をお答えください。（数字を記入）

＜全体の傾向＞

子どもの年齢について、「5歳」が 36.9%と最も割合が高く、次いで「4歳」が 22.2%、「3歳」が 21.0%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

「身体障害者」と「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では「4歳」が最も高い割合になっています。



Ⅱ－１ 未就学児への調査

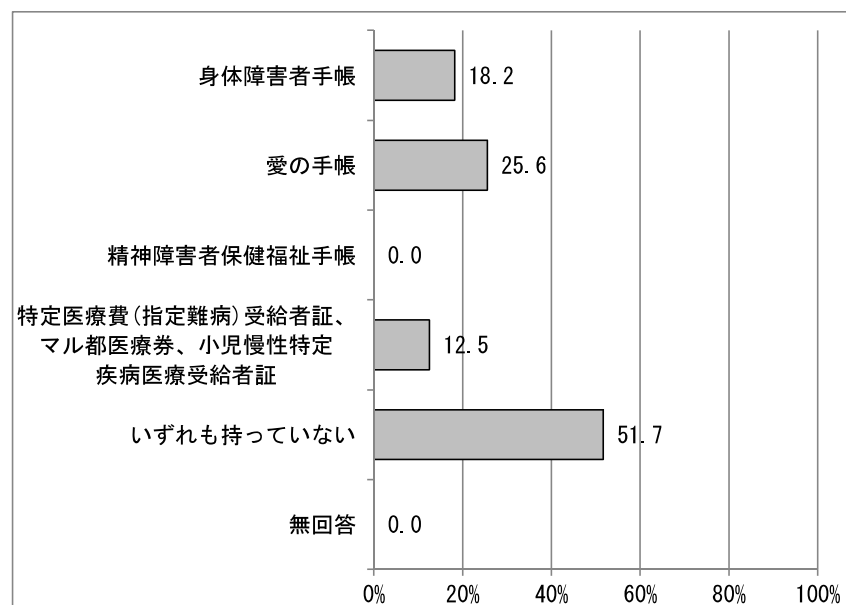
問３ お子さんがお持ちの障害者手帳の種類と等級をお答えください。

(あてはまるものすべてに○)

(１) 手帳の種類

障害者手帳の種類について、「いずれも持っていない」が 51.7%と最も割合が高く、次いで「愛の手帳」が 25.6%、「身体障害者手帳」が 18.2%となっています。

<全体 (176 人) >

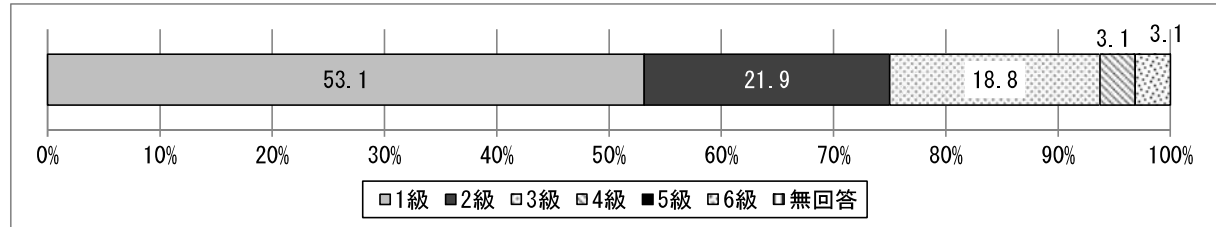


(2) 手帳の等級

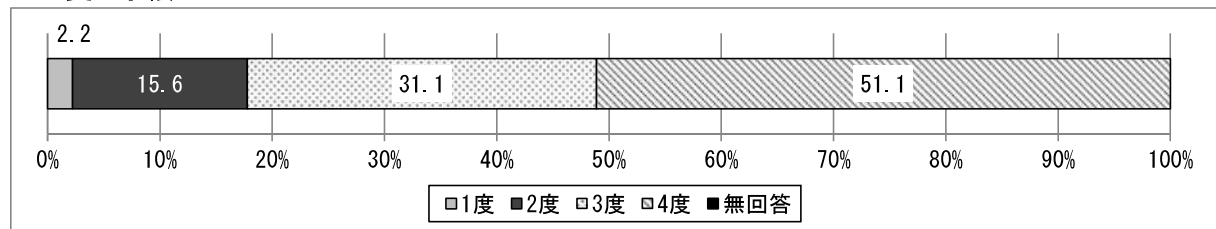
手帳の障害について、「身体障害者手帳」は「１級」が 53.1%と最も割合が高く、次いで「２級」が 21.9%、「３級」が 18.8%となっています。

また、「愛の手帳」は「４度」が 51.1%と最も割合が高く、次いで「３度」が 31.1%、「２度」が 15.6%となっています。

○ 身体障害者手帳



○ 愛の手帳



○ 精神障害者保健福祉手帳

※ 回答者なし

Ⅱ－１ 未就学児への調査

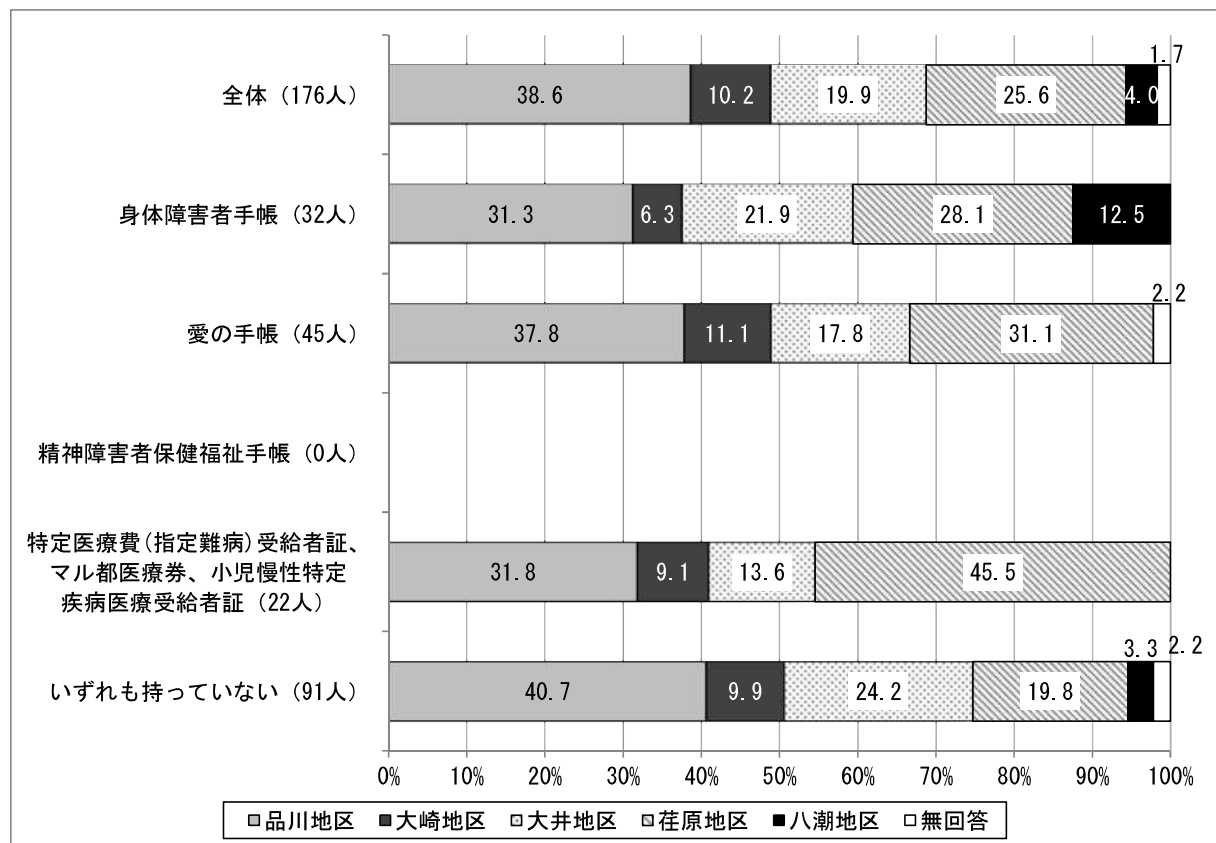
問４ 現在お住まいの地区をお答えください。（１つに○）

<全体の傾向>

現在の居住地区について、「品川地区」が38.6%と最も割合が高く、次いで「荏原地区」が25.6%、「大井地区」が19.9%となっています。

<手帳種別の傾向>

「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「荏原地区」が45.5%と最も割合が高く、「いずれも持っていない」では、「大井地区」が24.2%と比較的割合が高くなっています。



問５ 現在同居している家族をすべてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

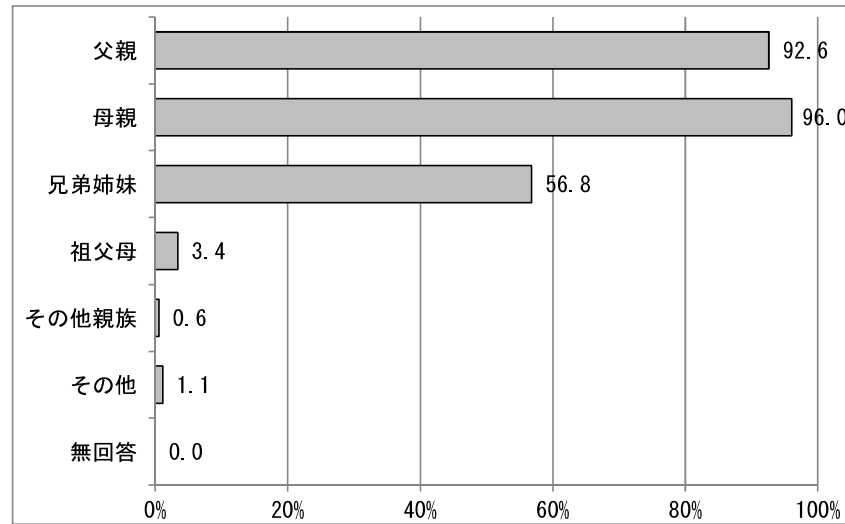
＜全体の傾向＞

同居している家族について、「母親」が 96.0%と最も割合が高く、次いで「父親」が 92.6%、「兄弟姉妹」が 56.8%となっています。

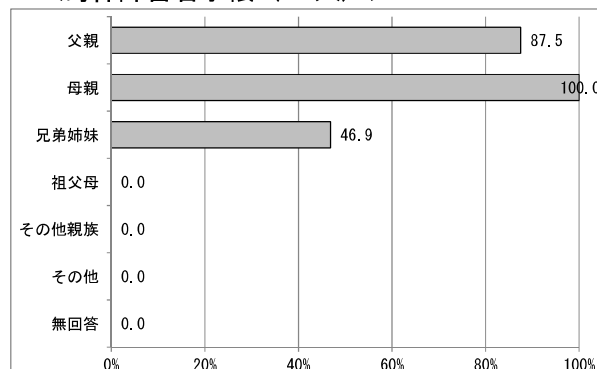
＜手帳種別の傾向＞

「身体障害者手帳」「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「父親」「母親」「兄弟姉妹」の３種類のみとなっています。

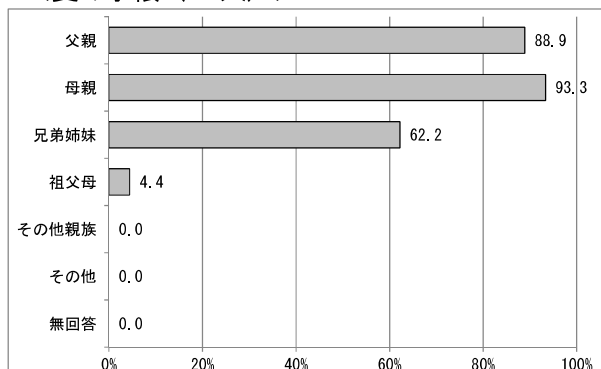
＜全体（176人）＞



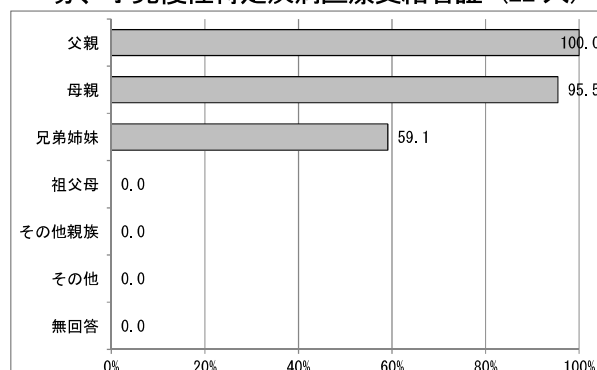
＜身体障害者手帳（32人）＞



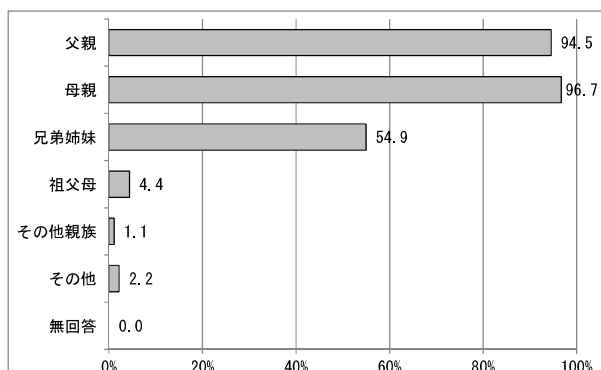
＜愛の手帳（45人）＞



＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（22人）＞



＜いずれも持っていない（91人）＞



Ⅱ－１ 未就学児への調査

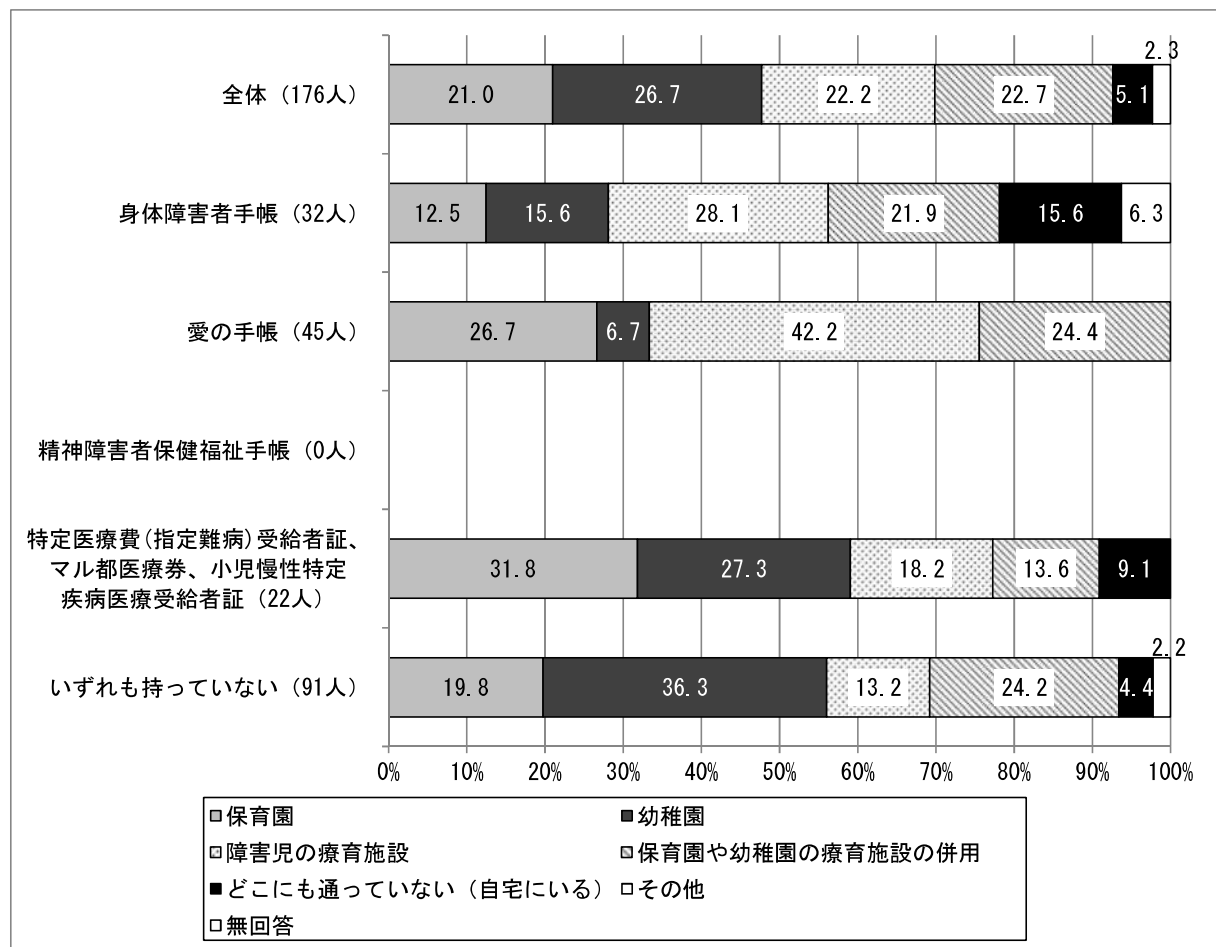
問６ お子さんは、日頃どこに通っていますか。（１つに○）

<全体の傾向>

子どもが通っているところについて、「幼稚園」が26.7%と最も割合が高く、次いで「保育園や幼稚園の療育施設の併用」が22.7%、「障害児の療育施設」が22.2%となっています。

<手帳種別の傾向>

「身体障害者手帳」と「愛の手帳」では、「障害児の療育施設」が最も割合が高く、「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「保育園」が最も割合が高くなっています。



お子さんの障害・疾病の状況について

問７ お子さんの障害（もしくは、発達・発育で気になる点）に最初に気付いたのはいつ頃ですか。

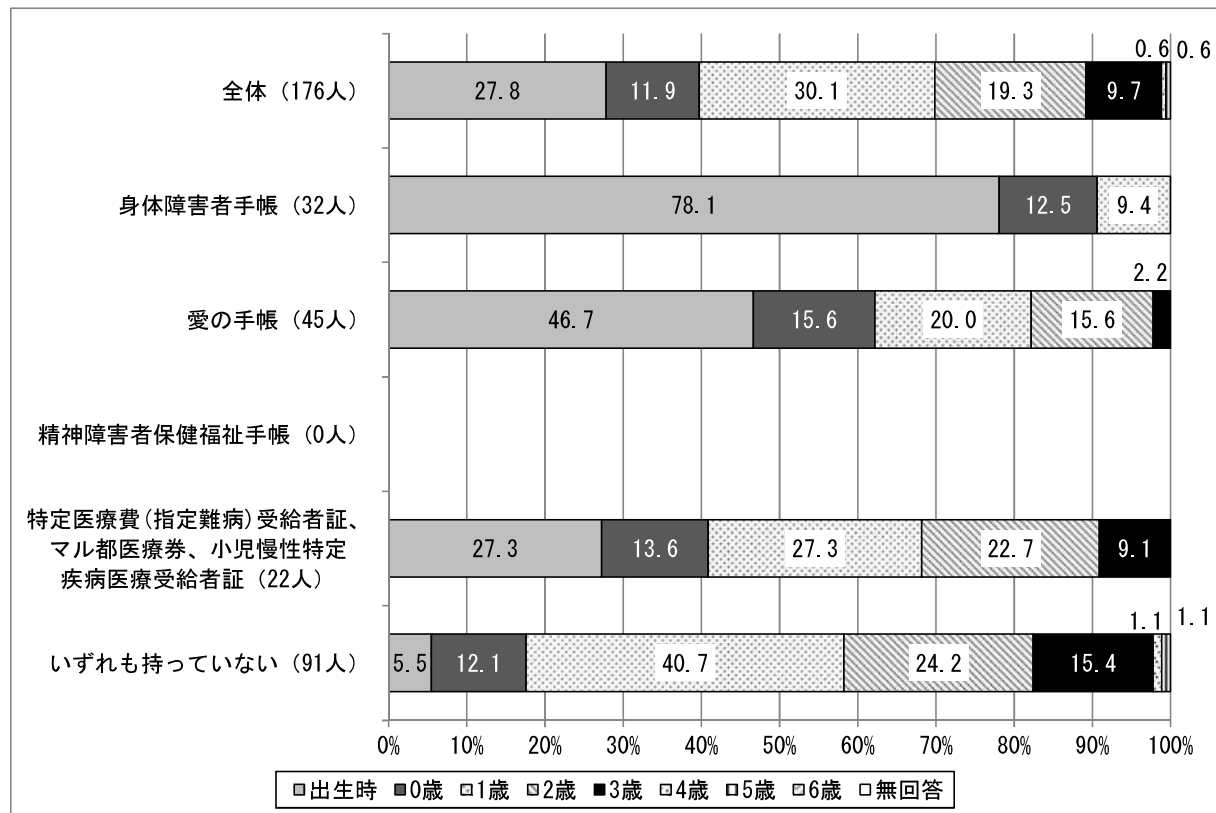
（１つに○）

＜全体の傾向＞

子どもの障害に最初に気が付いた時期について、「１歳」が 30.1%と最も割合が高く、次いで「出生時」が 27.8%、「２歳」が 19.3%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

「出生時」が「身体障害者手帳」では 78.1%、「愛の手帳」では 46.7%と最も割合が高くなっています。



Ⅱ－１ 未就学児への調査

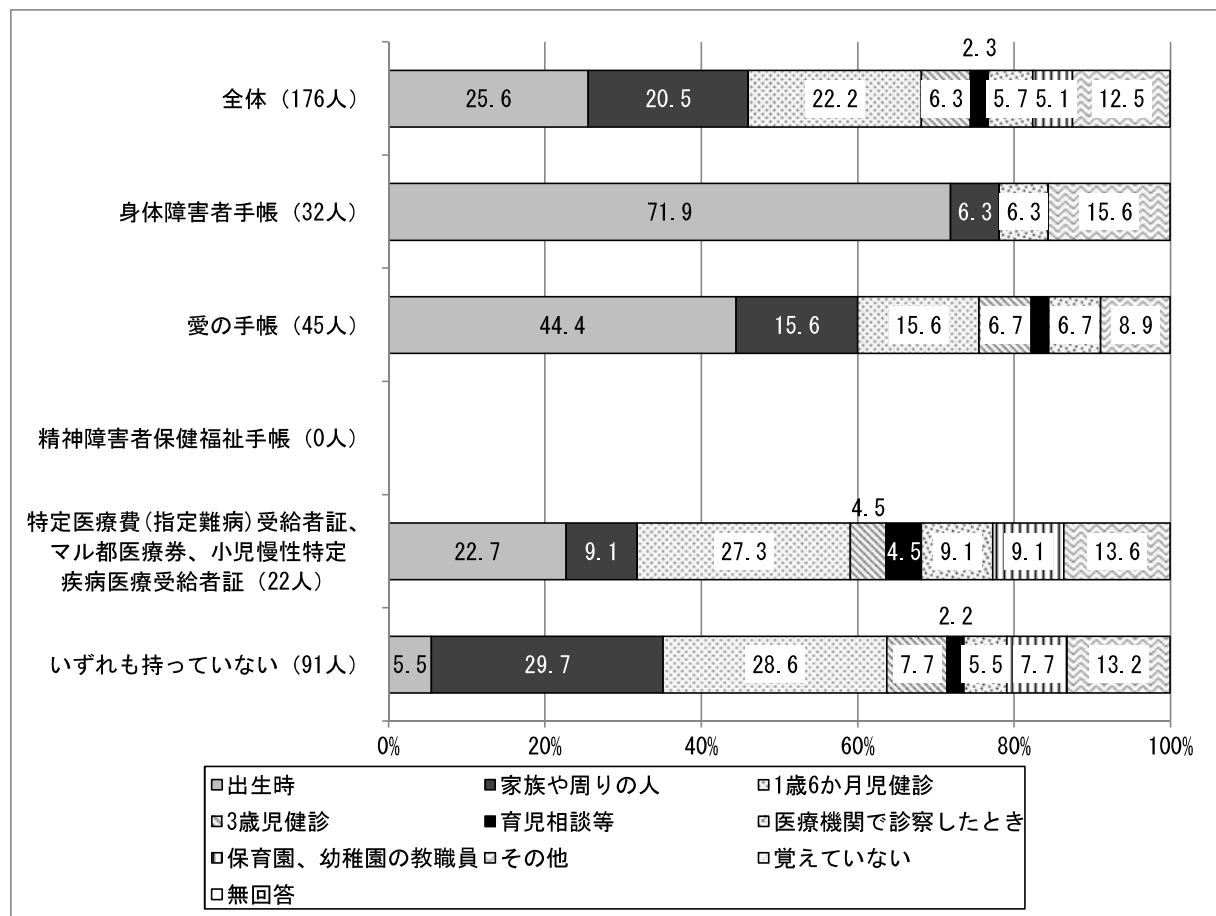
問8 お子さんの障害（もしくは、発達・発育で気になる点）について、最初に気付いたのはどのようなときでしたか。（1つに○）

＜全体の傾向＞

子どもの障害に最初に気付いたときについて、「出生時」が25.6%と最も割合が高く、次いで、「1歳6か月児健診」が22.2%、「家族や周りの人」が20.5%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

「出生時」が「身体障害者手帳」では71.9%、「愛の手帳」では44.4%と最も割合が高くなっています。



問９ お子さんには、どのような障害がありますか。（あてはまるものすべてに○）

＜全体の傾向＞

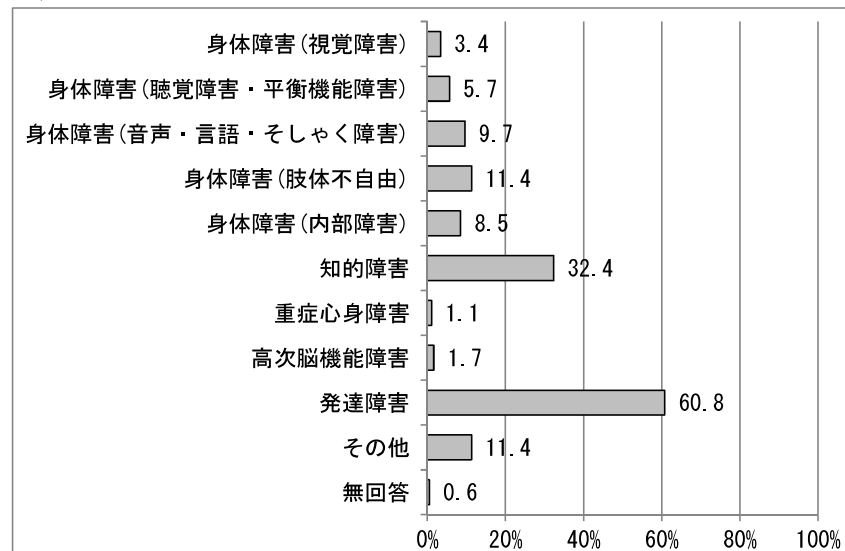
子どもの障害について、「発達障害」が 60.8%と最も割合が高く、次いで「知的障害」が 32.4%、「身体障害（肢体不自由）」が 11.4%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

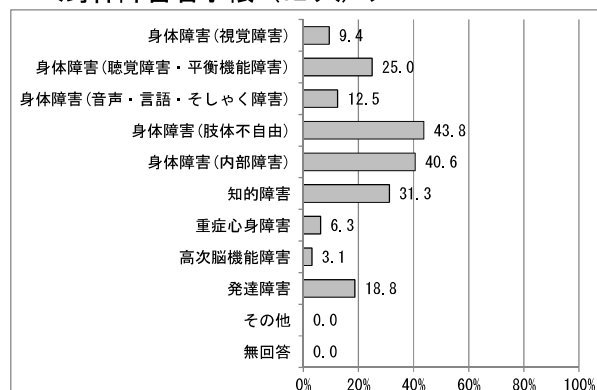
「身体障害者手帳」では「身体障害（肢体不自由）」が 43.8%、「愛の手帳」では「知的障害」が 88.9%と最も割合が高くなっています。

また「発達障害」が「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では 54.5%、「いずれも持っていない」では 79.1%と最も割合が高くなっています。

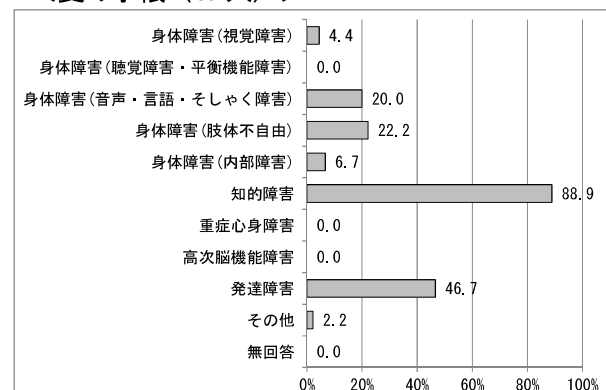
＜全体（176 人）＞



＜身体障害者手帳（32 人）＞

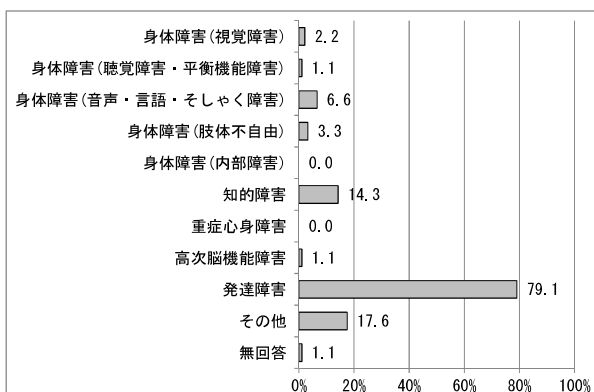
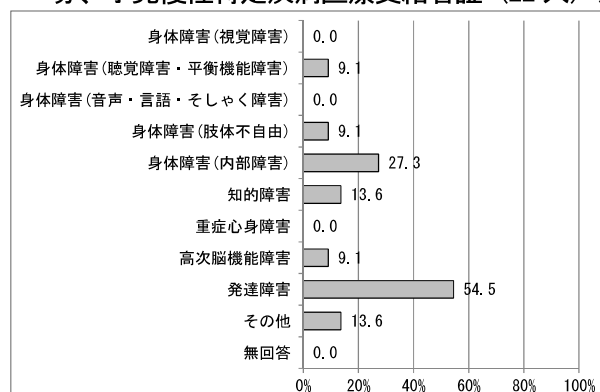


＜愛の手帳（45 人）＞



Ⅱ－１ 未就学児への調査

＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証(22人)＞



問10 問9で「9」と回答した方におたずねします。お子さんは次のような診断を受けていますか。
(あてはまるものすべてに○)

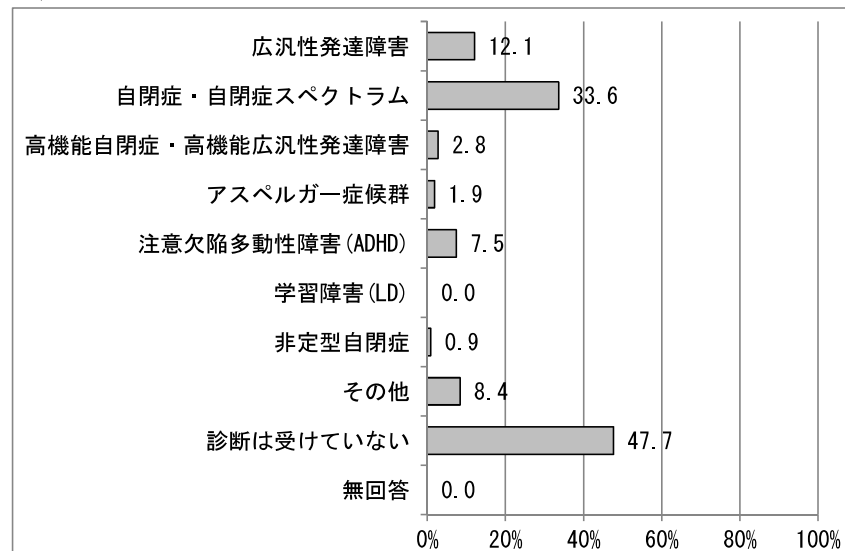
＜全体の傾向＞

発達障害の診断について、「診断は受けていない」が47.7%と最も割合が高く、次いで「自閉症・自閉症スペクトラム」が33.6%、「広汎性発達障害」が12.1%となっています。

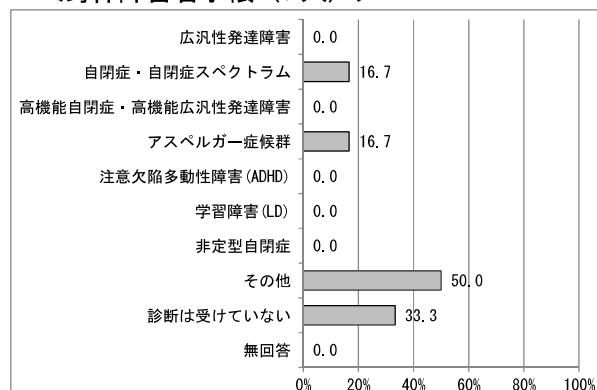
＜手帳種別の傾向＞

「愛の手帳」では「自閉症・自閉症スペクトラム」が42.9%と最も割合が高く、「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」と「いずれも持っていない」では「診断は受けていない」が最も割合が高くなっています。

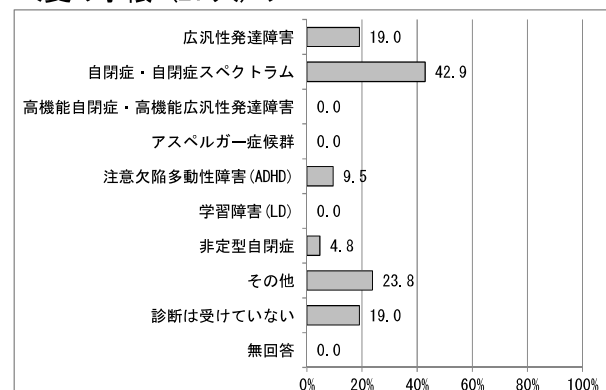
＜全体（107人）＞



＜身体障害者手帳（6人）＞

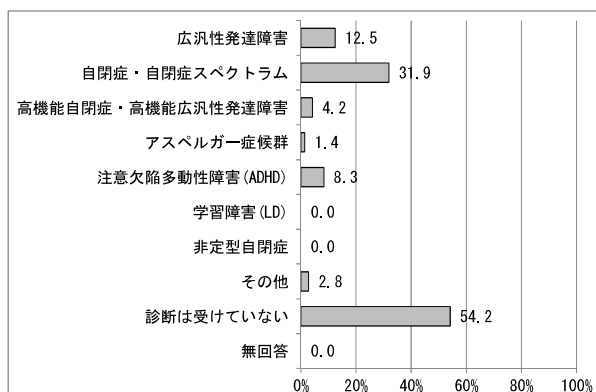
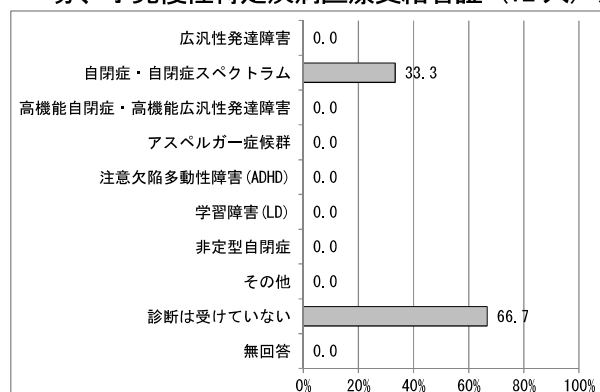


＜愛の手帳（21人）＞



Ⅱ－１ 未就学児への調査

＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（12人）＞



困りごとの相談、介助者への支援について

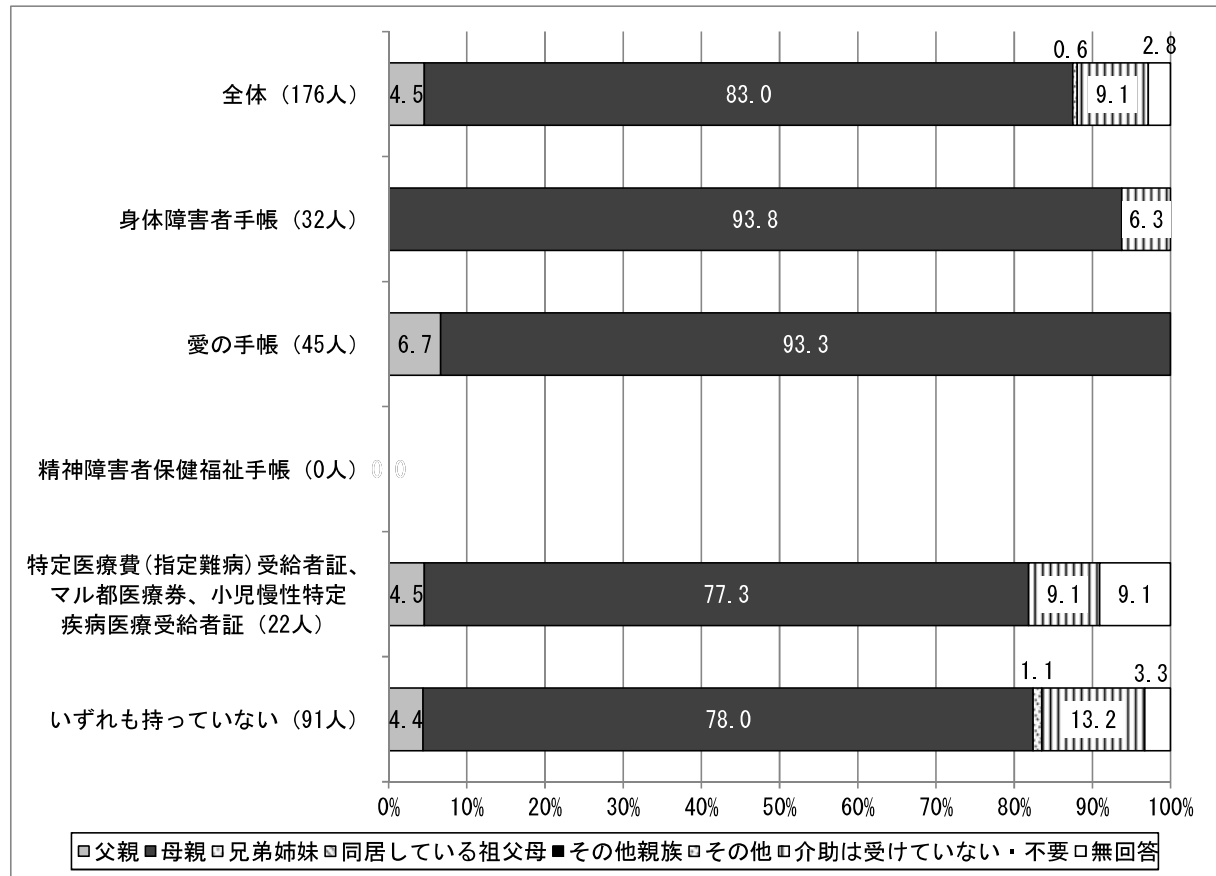
問 11 お子さんを主に介助している方（主な介助者）はどなたですか。（１つに○）

＜全体の傾向＞

主な介助者について、「母親」が83.0%と最も割合が高く、次いで「介助は受けていない」が9.1%、「父親」が4.5%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。



Ⅱ－１ 未就学児への調査

問12 問11で「1」から「5」のいずれかに回答した方におたずねします。主な介助者をサポートしてくれる親族・知人の方はいますか。（主なもの2つまでに○）

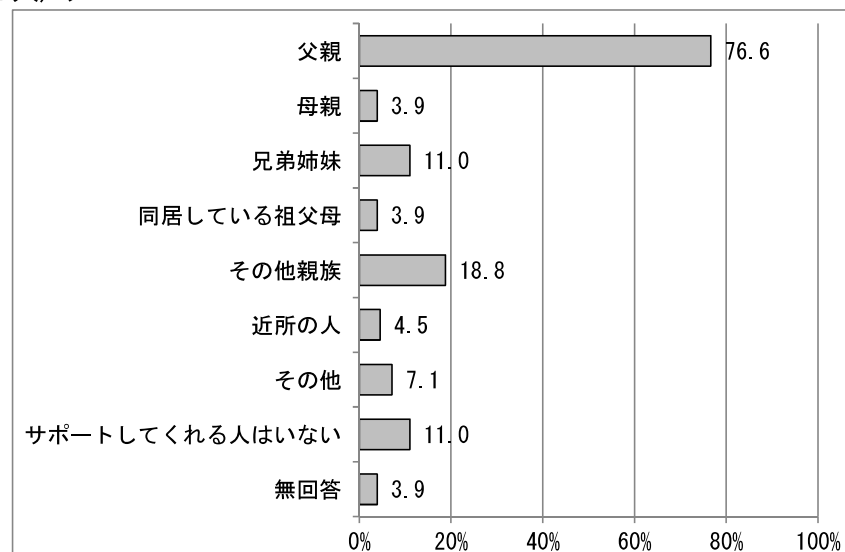
<全体の傾向>

主な介助者をサポートしてくれる親族・知人について、「父親」が76.6%と最も割合が高く、次いで「その他親族」が18.8%、「兄弟姉妹」と「サポートしてくれる人はいない」が11.0%となっています。

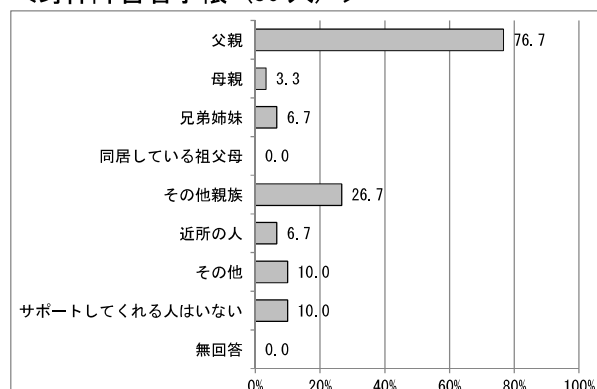
<手帳種別の傾向>

手帳種別の特徴はみられません。

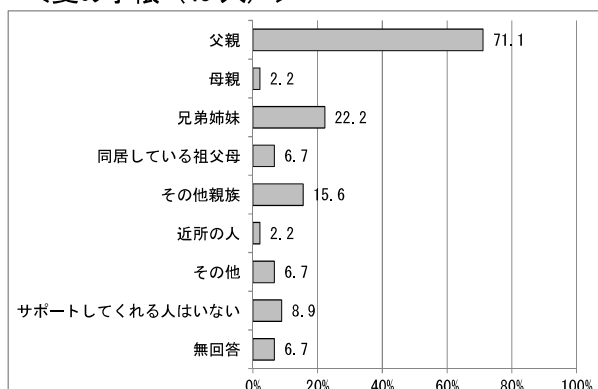
<全体（154人）>



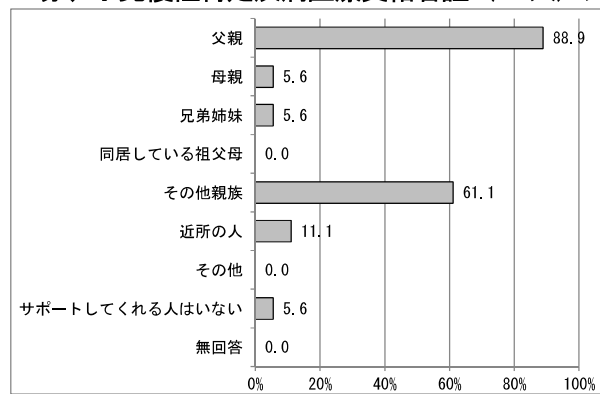
<身体障害者手帳（30人）>



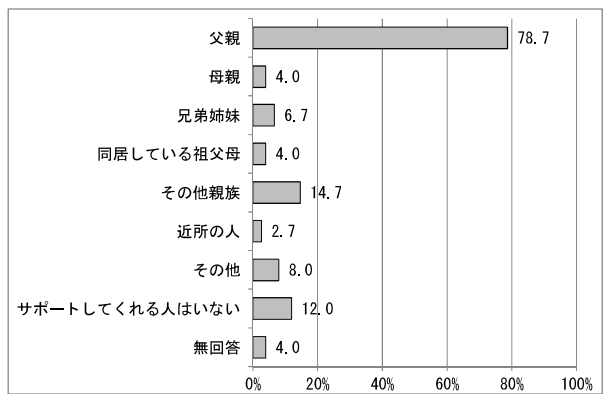
<愛の手帳（45人）>



＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証(18人)＞



＜いずれも持っていない(75人)＞



Ⅱ－１ 未就学児への調査

問13 子育てについて、困っていることはありますか。（主なもの2つまでに○）

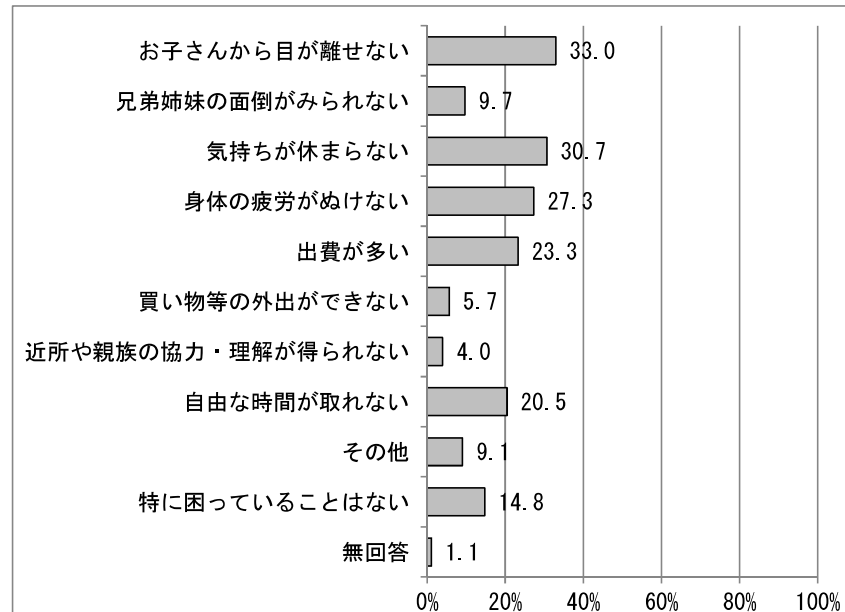
<全体の傾向>

子育てで困っていることについて、「お子さんから目が離せない」が33.0%と最も割合が高く、次いで「気持ちが休まらない」が30.7%、「身体の疲労がぬけない」が27.3%となっています。

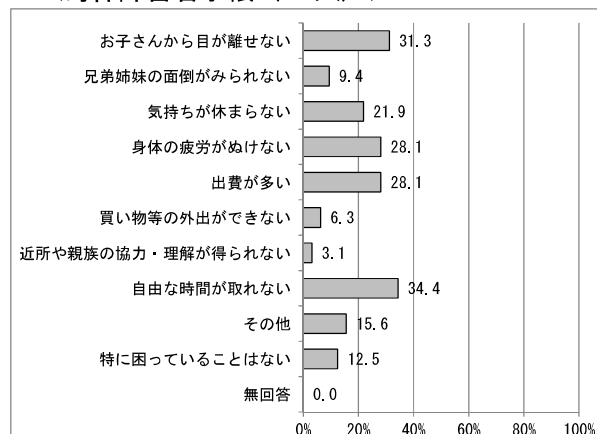
<手帳種別の傾向>

「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では「身体の疲労がぬけない」が40.9%と最も割合が高くなっています。

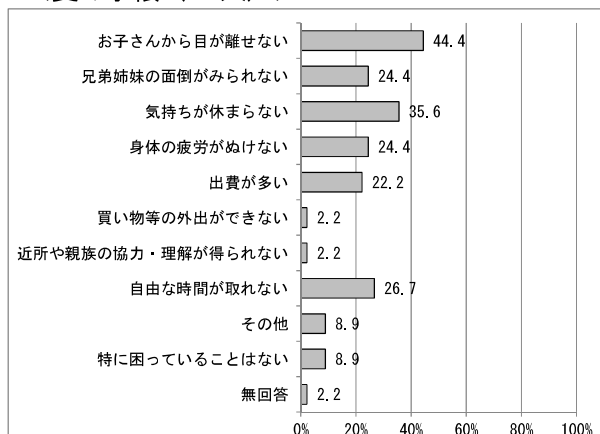
<全体（176人）>



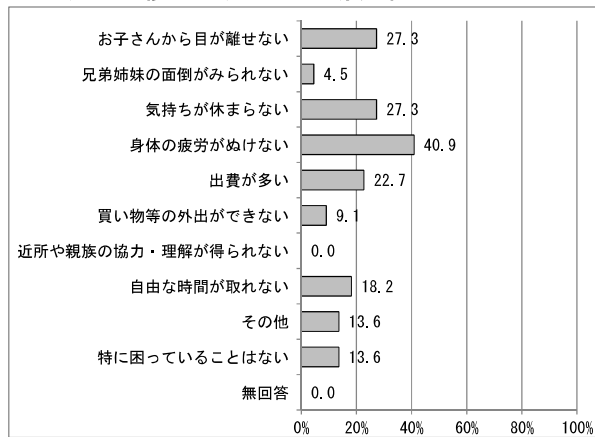
<身体障害者手帳（32人）>



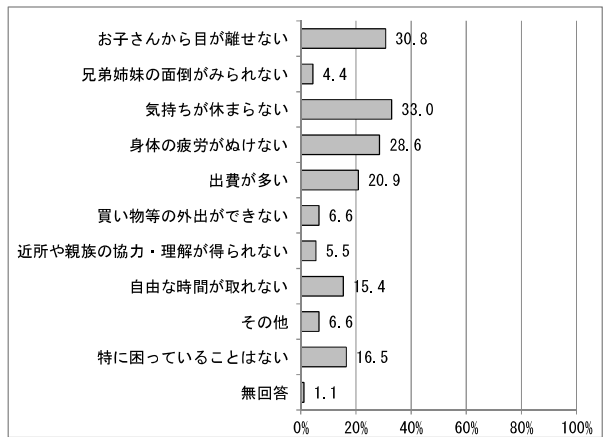
<愛の手帳（45人）>



＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証(22人)＞



＜いずれも持っていない(91人)＞



Ⅱ－１ 未就学児への調査

問 14 家族や知人以外で、日常生活の中で困ったときの相談先はどこですか。

(主なものを2つまでに○)

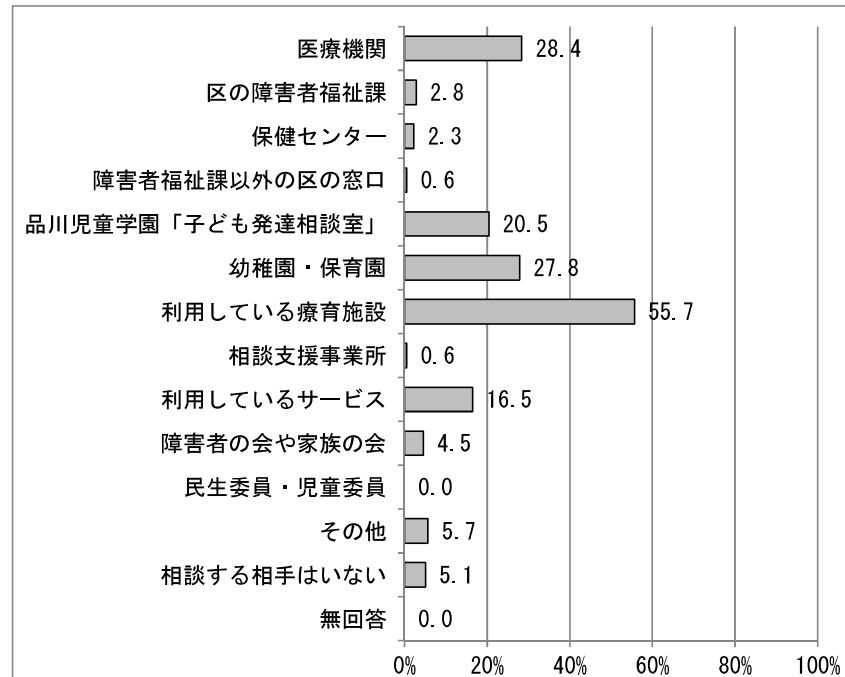
＜全体の傾向＞

困ったときの相談先について、「利用している療育施設」が 55.7%と最も割合が高く、次いで「医療機関」が 28.4%、「幼稚園・保育園」が 27.8%となっています。

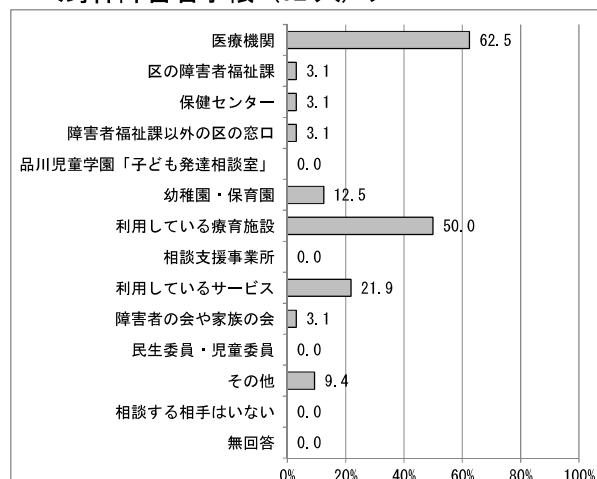
＜手帳種別の傾向＞

「身体障害者手帳」では「医療機関」が 62.5%と最も割合が高くなっています。

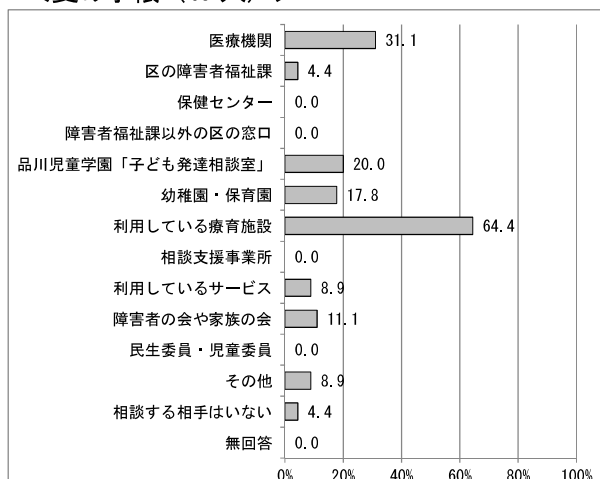
＜全体（176 人）＞



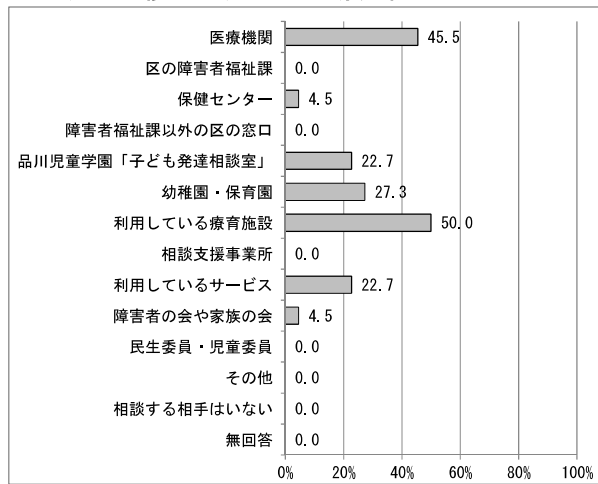
＜身体障害者手帳（32 人）＞



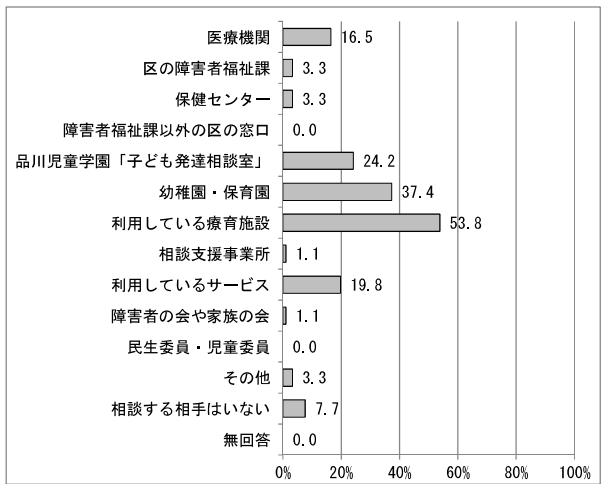
＜愛の手帳（45 人）＞



＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（22人）＞



＜いずれも持っていない（91人）＞



Ⅱ－１ 未就学児への調査

問15 問14で「1」から「12」と回答した方におたずねします。

① 主な相談内容は何ですか。具体的にお書きください。（自由記述）

主な相談内容について、「日常の子育てについて」、「発達や障害のことについて」の回答が多くみられます。

分 類	回答数
日常の子育てについて	78
発達や障害のことについて	68
他児とのコミュニケーションについて	26
行政支援・情報について	20
教育・療育について	15
病気時の対応について	3
保護者の支援について	2
兄弟姉妹の世話について	1
その他	9

※ 自由記述の内容を分類。複数回答あり。

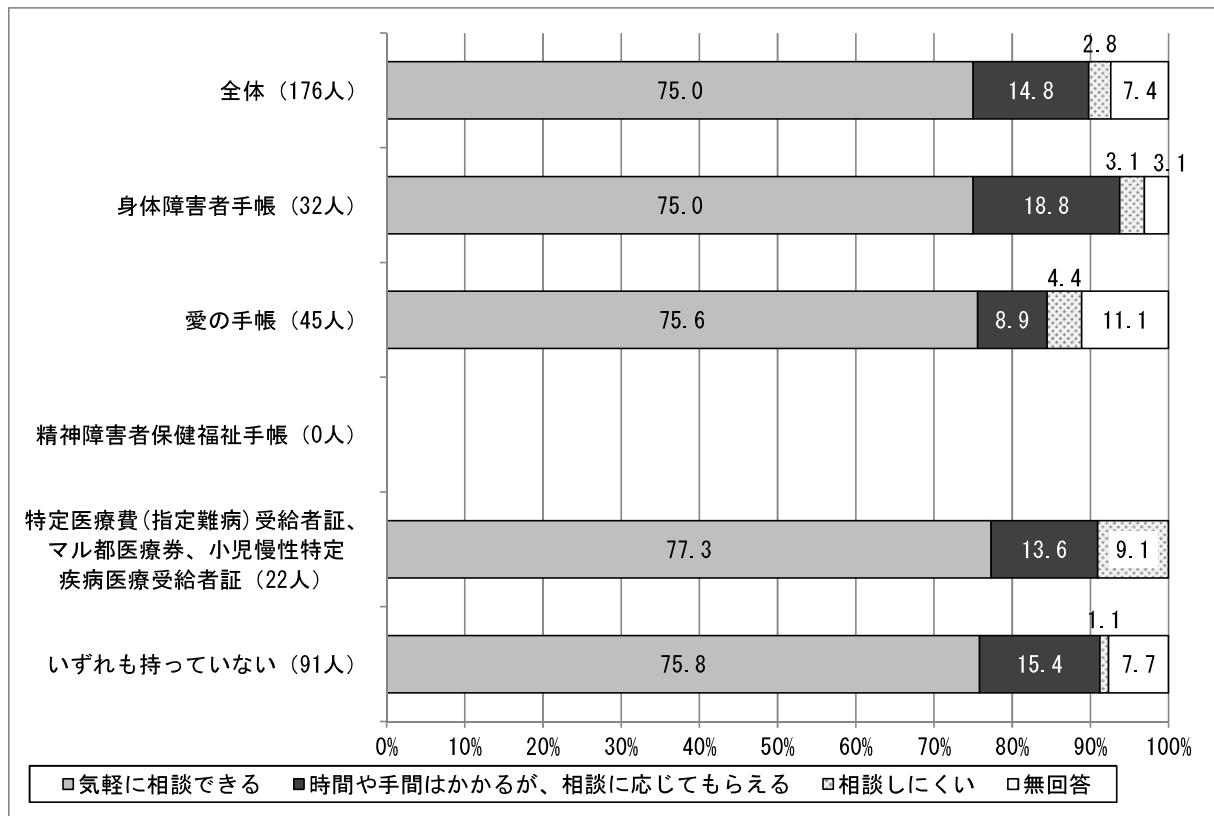
② その相談先は、相談しやすいですか。（１つに○）

＜全体の傾向＞

相談先の相談しやすさについて、「気軽に相談できる」が 75.0%と最も割合が高く、次いで「時間や手間はかかるが、相談に応じてもらえる」が 14.8%、「相談しにくい」が 2.8%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。



Ⅱ－１ 未就学児への調査

- ③ ②で「３」と回答した方におたずねします。「相談しにくい」と感じる理由は何ですか。具体的にお書きください。

相談しにくい理由について、「具体案などが出てきにくい」が３件、「相談する時間がない」と「相談しても意味がない」が各１件みられます。

分 類	回答数
具体案などが出てきにくい	3
相談する時間がない	1
相談しても意味がない	1

※ 自由記述の内容を分類。複数回答あり。

問 16 区や事業者などの相談窓口に期待することはありますか。（主なもの2つまでに○）

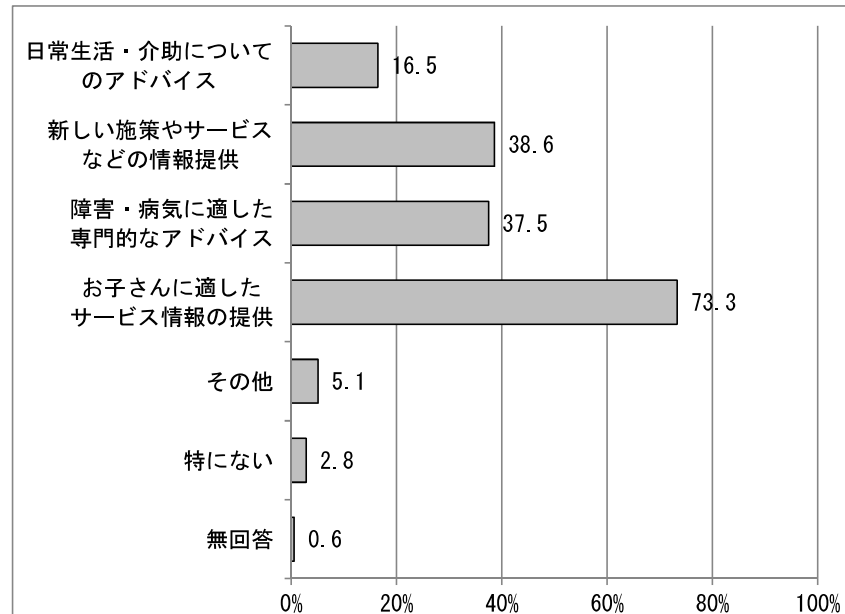
＜全体の傾向＞

区や事業所などの相談窓口に期待することについて、「お子さんに適したサービス情報の提供」が73.3%と最も割合が高く、次いで「新しい施策やサービスの情報提供」が38.6%、「障害・病気に適した専門的なアドバイス」が37.5%となっています。

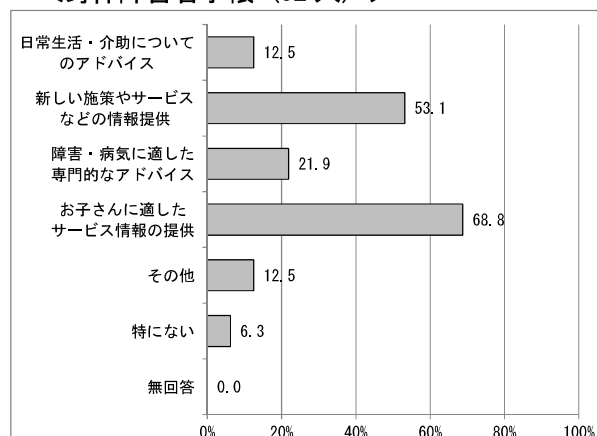
＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。

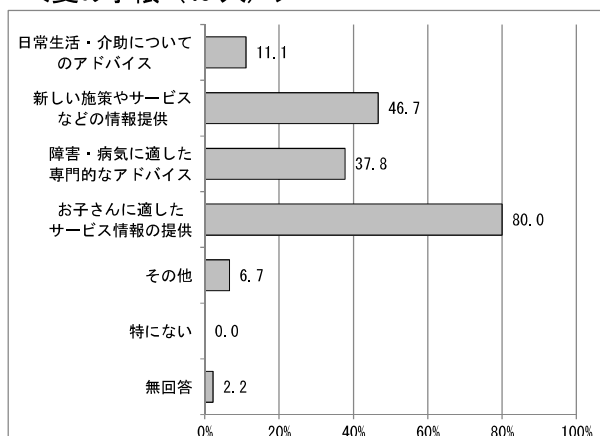
＜全体（176人）＞



＜身体障害者手帳（32人）＞

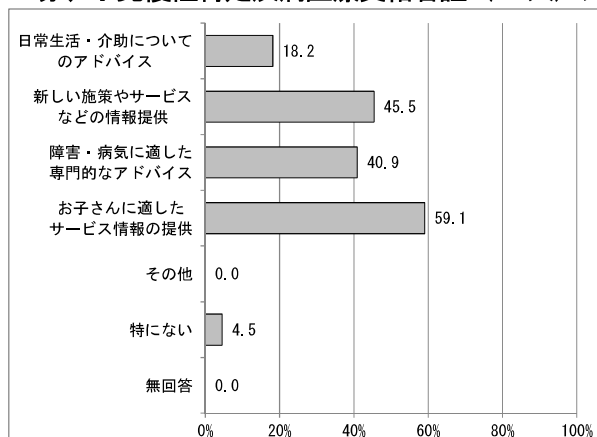


＜愛の手帳（45人）＞

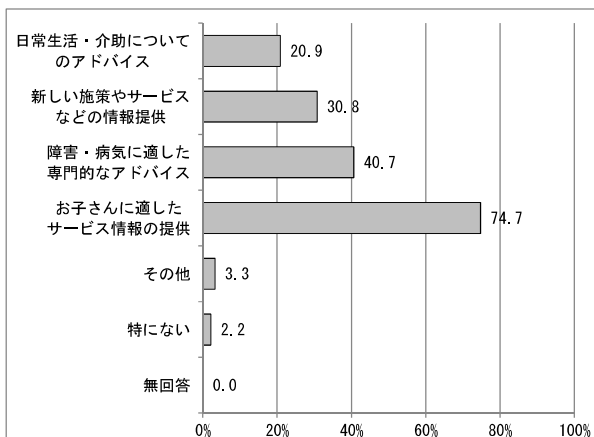


Ⅱ－１ 未就学児への調査

＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証(22人)＞



＜いずれも持っていない(91人)＞



問 17 子育てのために、必要な支援は何ですか。（主なもの2つまでに○）

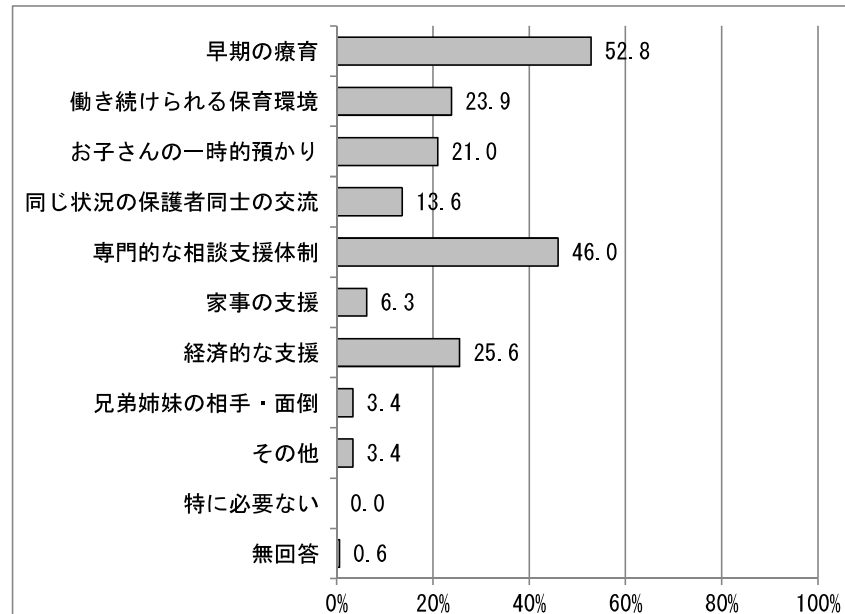
＜全体の傾向＞

子育てのために必要な支援について、「早期の療育」が 52.8%と最も割合が高く、次いで「専門的な相談支援体制」が 46.0%、「経済的な支援」が 25.6%となっています。

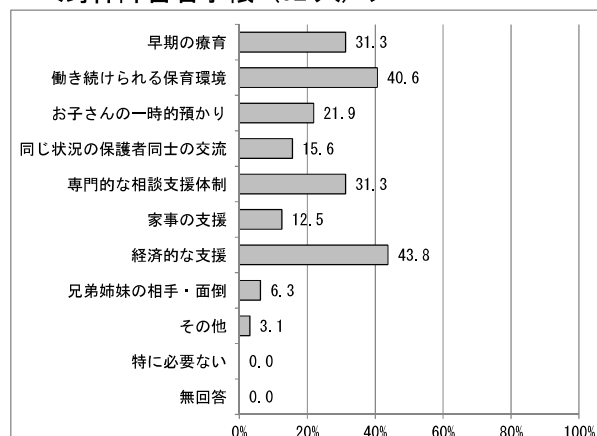
＜手帳種別の傾向＞

「身体障害者手帳」では「経済的な支援」が 43.8%と最も割合が高く、次いで「働き続けられる保育環境」が 40.6%となっています。

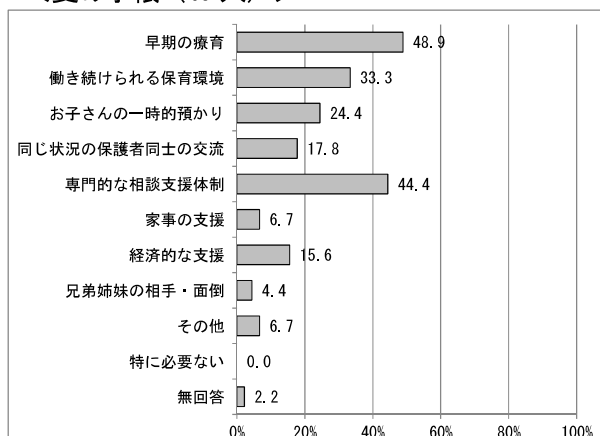
＜全体（176 人）＞



＜身体障害者手帳（32 人）＞

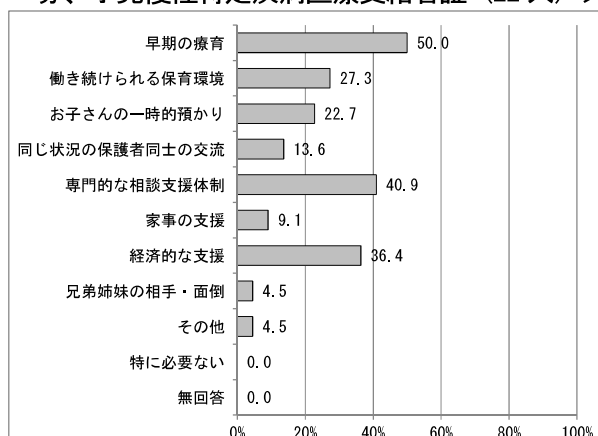


＜愛の手帳（45 人）＞

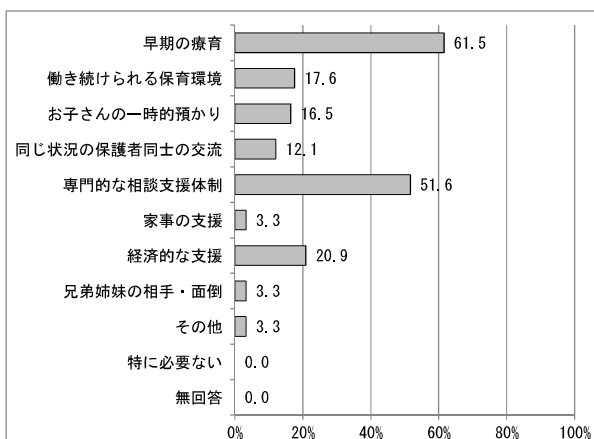


Ⅱ－１ 未就学児への調査

＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証(22人)＞



＜いずれも持っていない(91人)＞



医療的ケアの必要なお子さんについて

問 18 お子さんは日常生活において、以下の医療的ケアを必要としていますか。

(あてはまるものすべてに○)

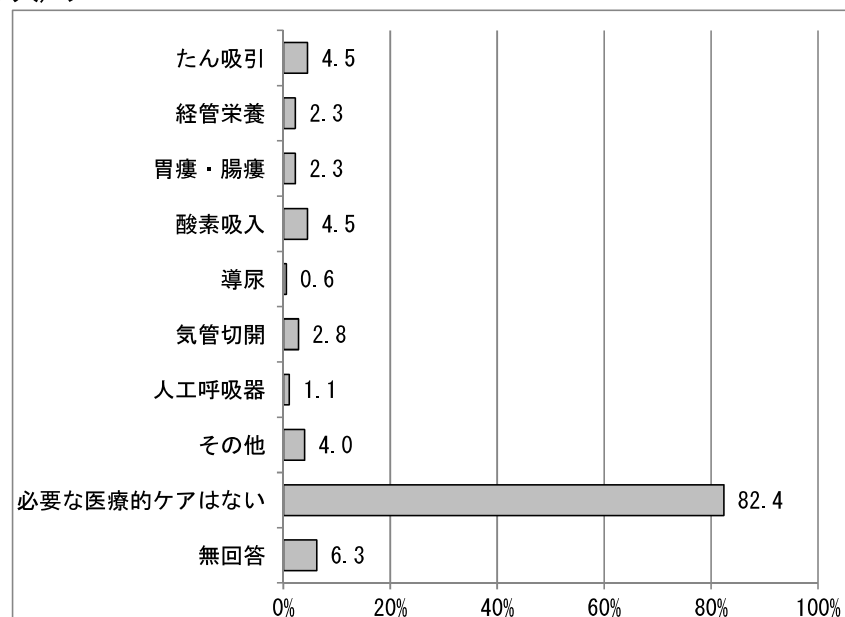
＜全体の傾向＞

日常生活に必要なケアについて、「必要なケアはない」が 82.4%と最も割合が高く、次いで「たん吸引」と「酸素吸入」が 4.5%、「その他」が 4.0%となっています。

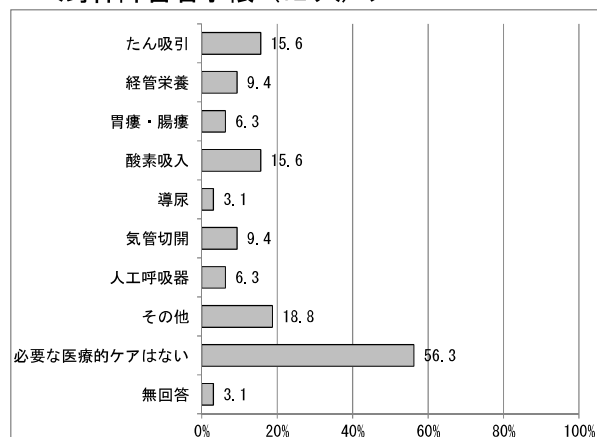
＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。

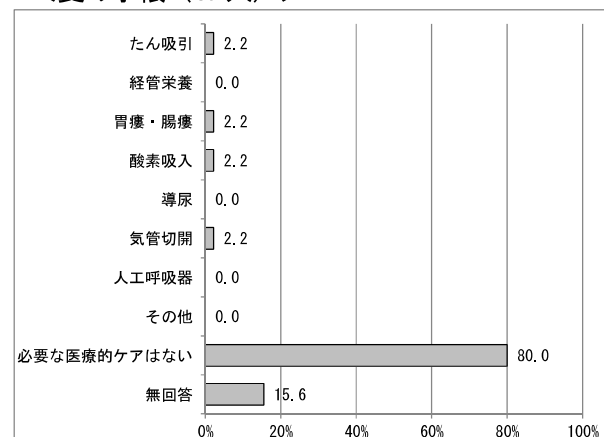
＜全体（176 人）＞



＜身体障害者手帳（32 人）＞

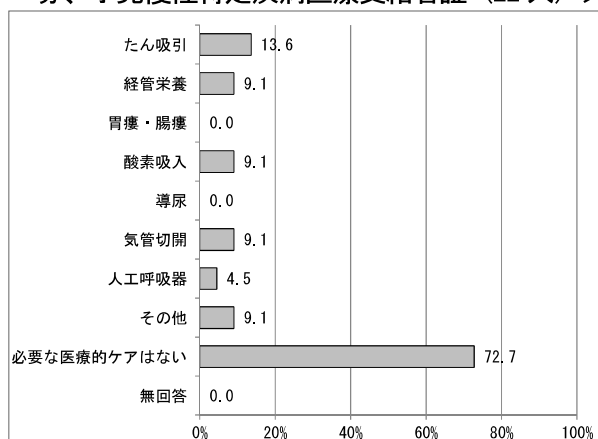


＜愛の手帳（45 人）＞

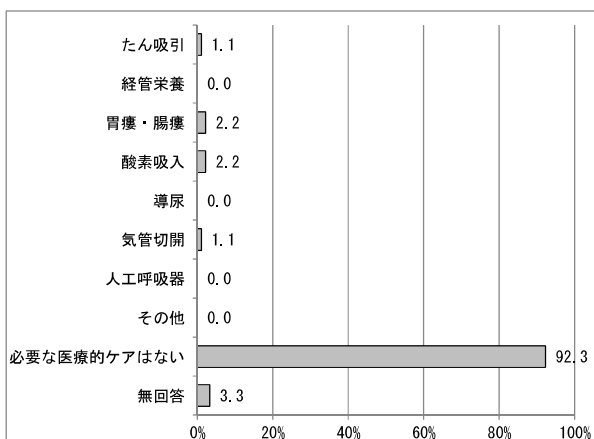


Ⅱ－１ 未就学児への調査

<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証(22人)>



<いずれも持っていない(91人)>



問19 問18で「1」から「8」のいずれかに回答した方におたずねします。

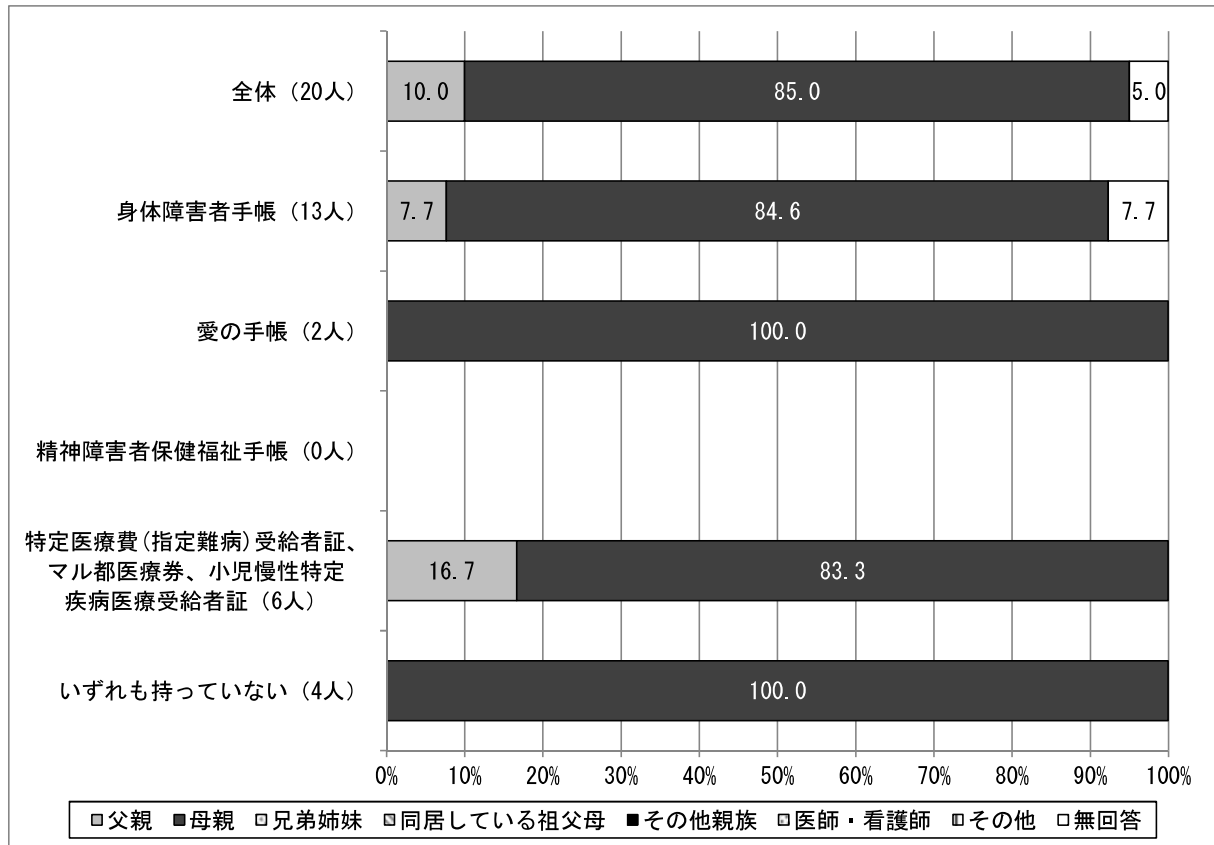
① 主に医療的ケアを行っているのはどなたですか。（1つに○）

＜全体の傾向＞

主に医療的ケアを行っている人について、「母親」が85.0%と最も割合が高く、次いで「父親」が10.0%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。



Ⅱ－１ 未就学児への調査

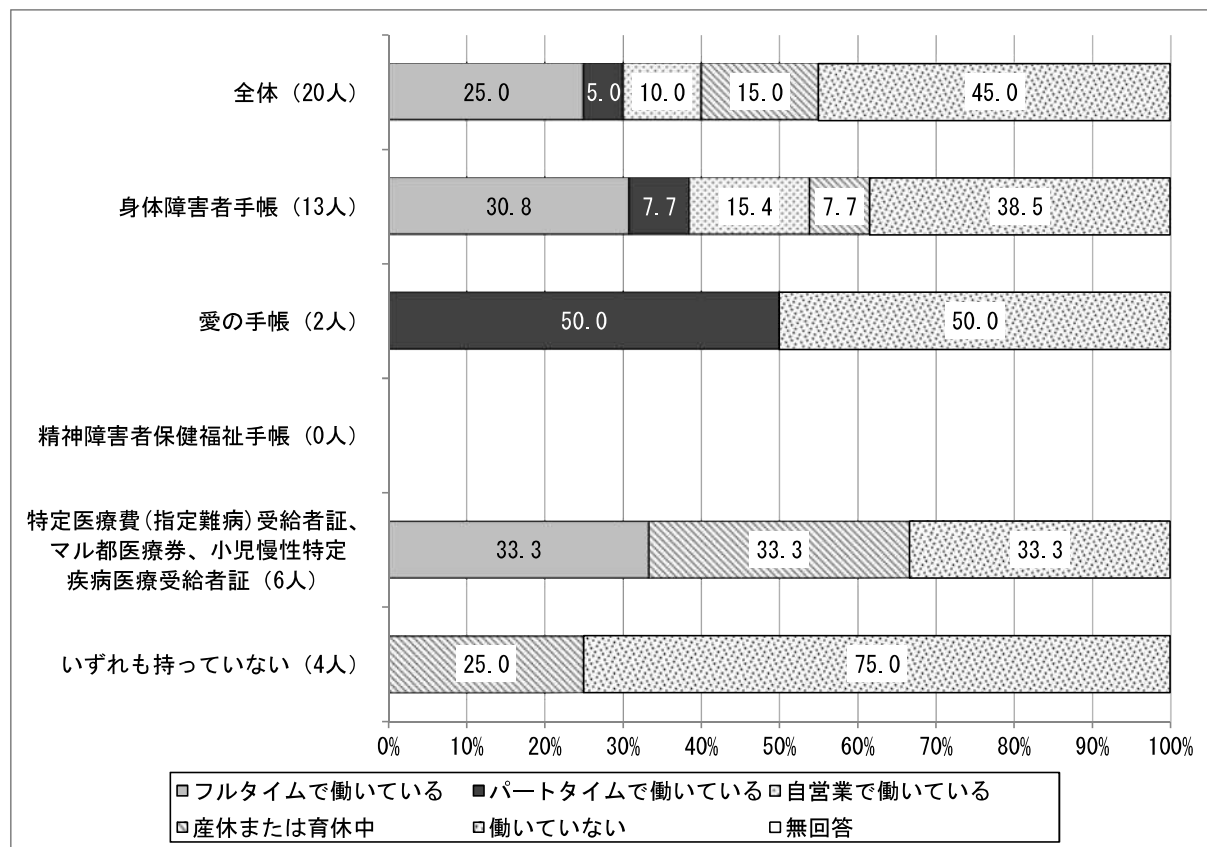
② 主な介助者の方は、現在働いていますか。（１つに○）

<全体の傾向>

主な介助者の勤労状況について、「働いていない」が45.0%、次いで「フルタイムで働いている」が25.0%、「産休または育休中」が15.0%となっています。

<手帳種別の傾向>

手帳種別の特徴はみられません。



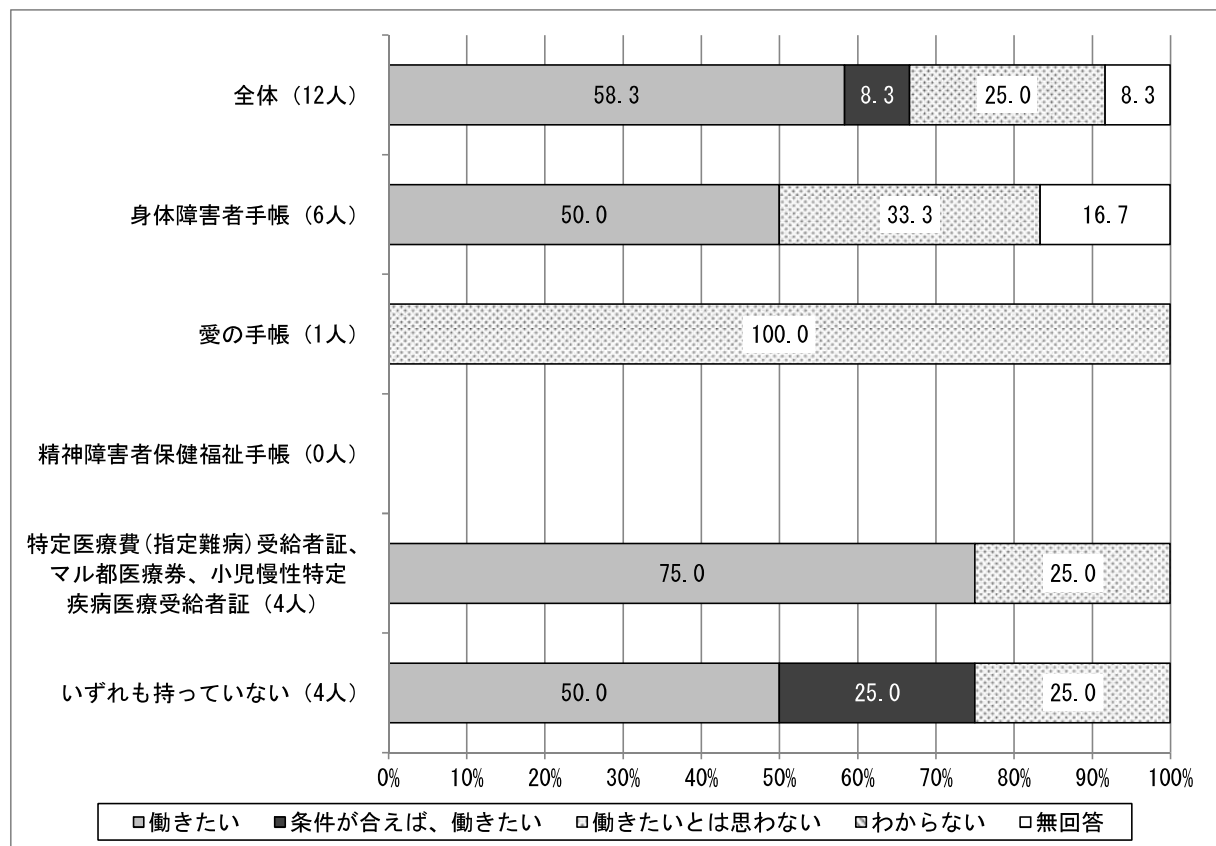
- ③ ②で「4」または「5」と回答した方におたずねします。主な介助者の方は、今後、働きたいと思いますか。（1つに○）

<全体の傾向>

現在「産休または育休中」もしくは「働いていない」介助者の今後の勤労希望について、「働きたい」が58.3%と最も割合が高く、次いで「働きたいとは思わない」が25.0%、「条件が合えば、働きたい」が8.3%となっています。

<手帳種別の傾向>

手帳種別の特徴はみられません。



Ⅱ－１ 未就学児への調査

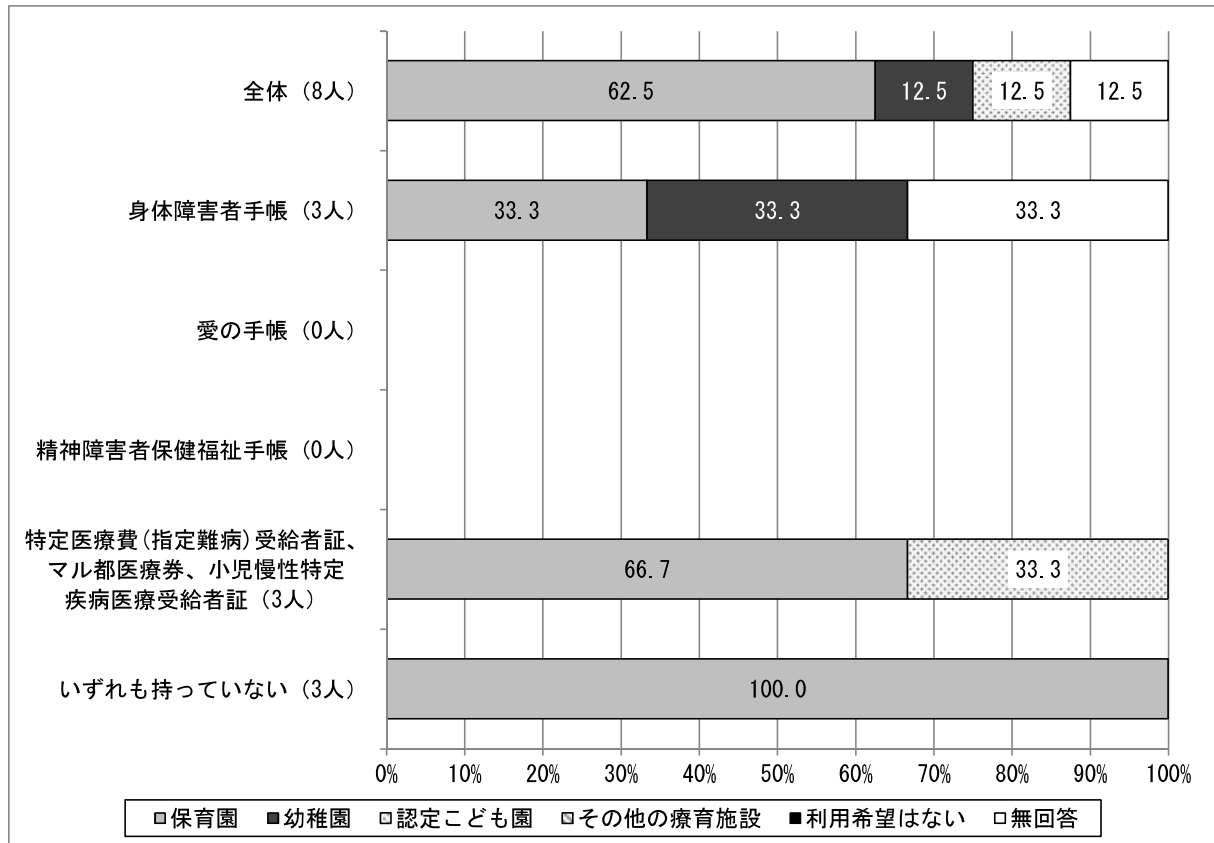
- ④ ③で「１」または「２」と回答した方におたずねします。働くにあたり、どのようなサービスを利用したいと思いますか。（１つに○）

＜全体の傾向＞

就労時に利用したいサービスについて、保育園が62.5%（８人中５人）と最も割合が高く、次いで「幼稚園」「認定こども園」がともに12.5%（８人中１人）となっています。

＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。



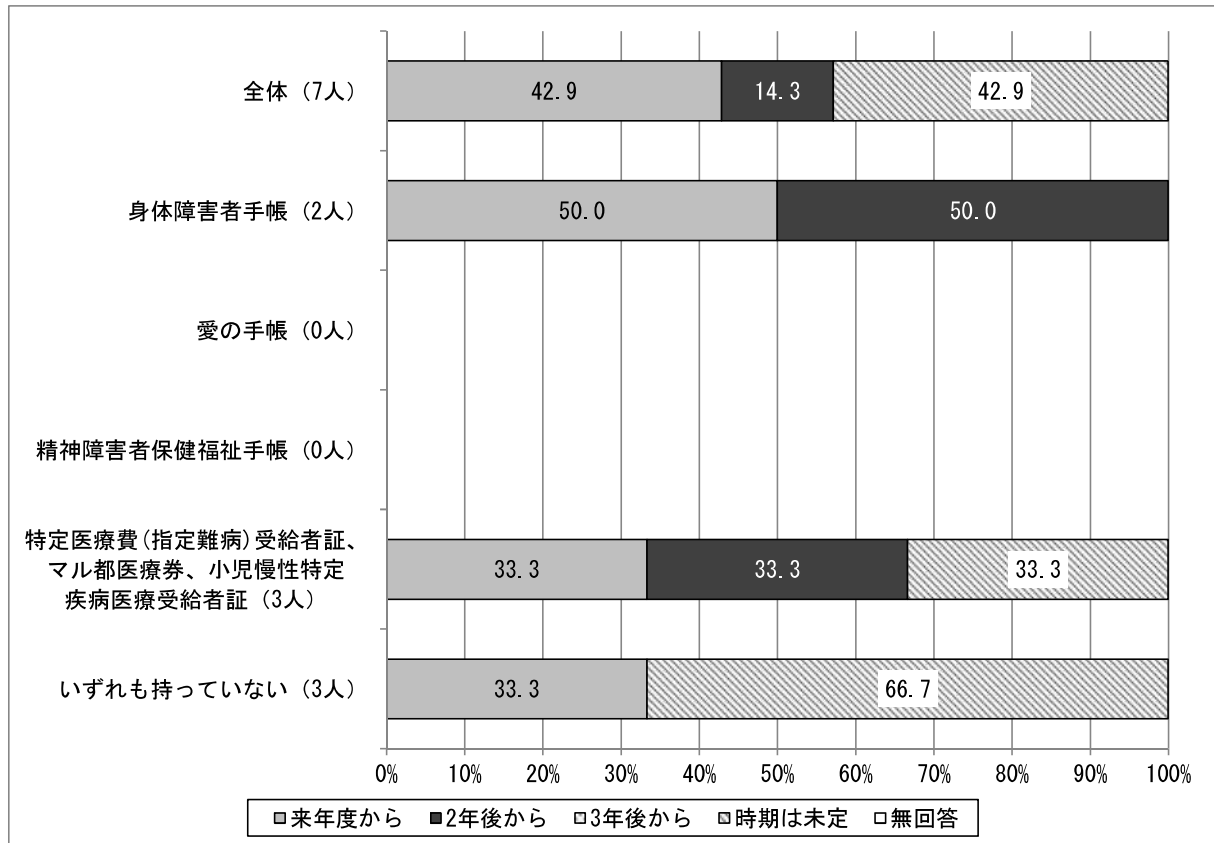
- ③ ④ で「１」から「３」のいずれかに回答した方におたずねします。いつ頃からの利用を希望しますか。（１つに○）

＜全体の傾向＞

サービスの利用時期について、「来年度から」と「時期は未定」がともに 42.9%（７人中３人）、「２年後から」が 14.3%（７人中１人）となっています。

＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。



Ⅱ－１ 未就学児への調査

- ⑥ 医療的ケアの必要なお子さんの日常生活について、困っていること、今後の希望等がありましたら、ご自由にお書きください。

医療的ケア児の困りごと、今後の希望等について「医療的ケア児を受け入れる保育園、学校の増加」が5件、「医療的ケア児専用の施設の設置」と「経済的支援の充実」が3件みられます。

分 類	回答数
医療的ケア児を受け入れる保育園、学校の増加	5
医療的ケア児専用の施設の設置	3
経済的支援の充実	3
相談、支援等の施設が少ない	2
週末に利用できるサービスの設置	2
保育園職員のスキルの向上	1
用具レンタルの充実	1
家族の支援（休息の確保）	1
専門の医療機関の増加	1
健康状態把握の事例、就学時の手引き情報	1

※ 自由記述の内容を分類。複数回答あり。

お子さんの生活について

問 20 幼稚園や保育園、療育施設等を利用している方におたずねします。

- ① 幼稚園や保育園、療育施設等の生活で、困っていることや心配していることはありますか。
(主なものを2つまでに○)

＜全体の傾向＞

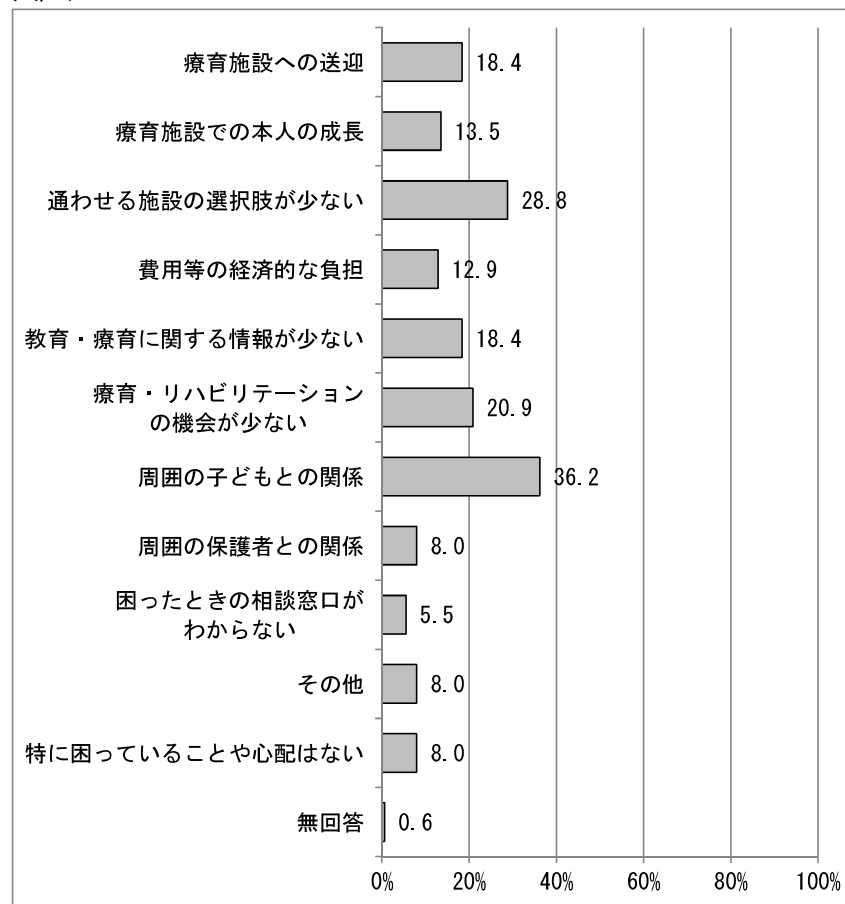
幼稚園や保育園、療育施設等の生活で困っていることや心配していることについて、「周囲の子どもとの関係」が36.2%と最も割合が高く、次いで「通わせる施設の選択肢が少ない」が28.8%、「療育・リハビリテーションの機会が少ない」が20.9%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

「愛の手帳」では「療育・リハビリテーションの機会が少ない」が31.1%と比較的高い割合となっています。

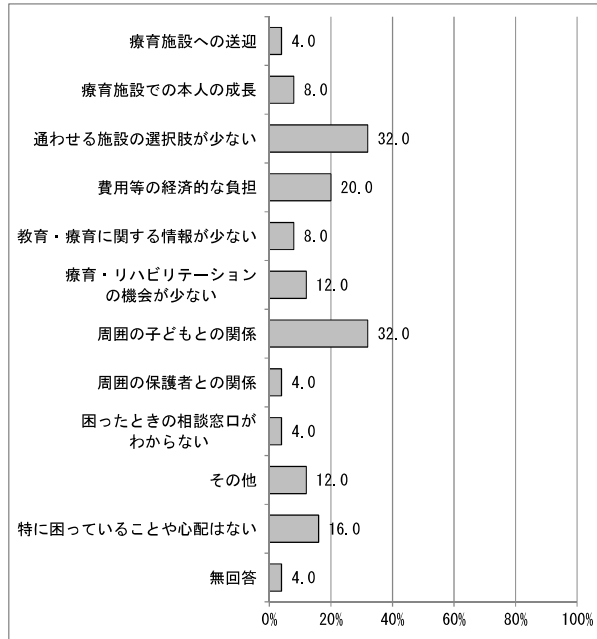
「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では「療育施設への送迎」が40.0%と最も割合が高くなっています。

＜全体（163人）＞

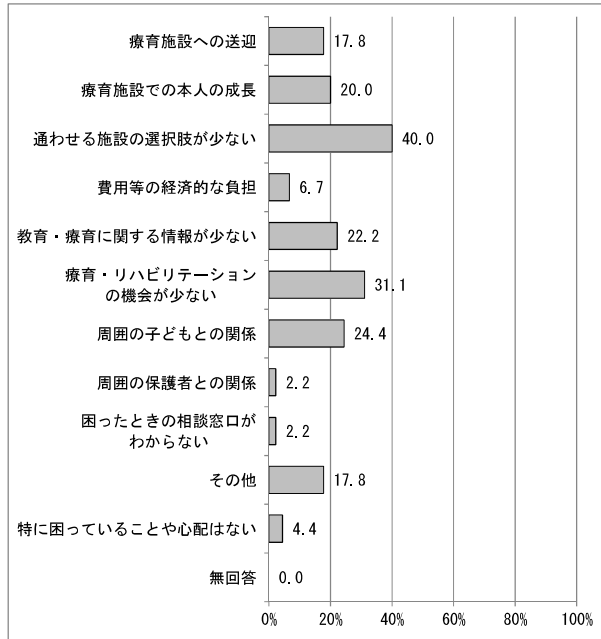


Ⅱ－１ 未就学児への調査

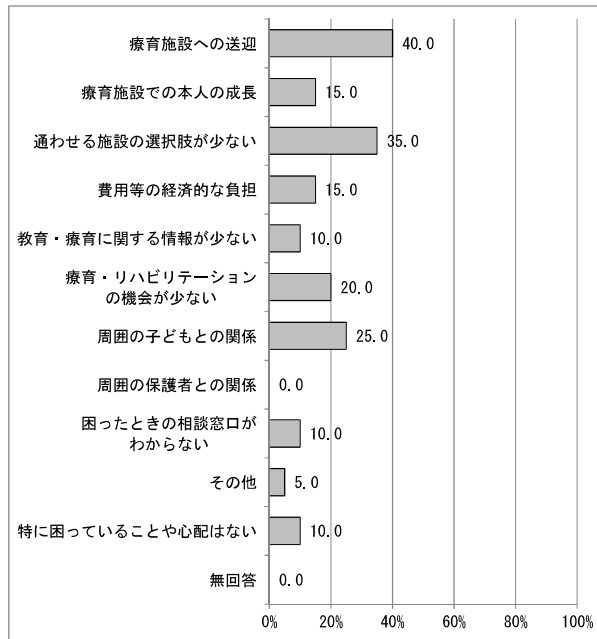
＜身体障害者手帳（25人）＞



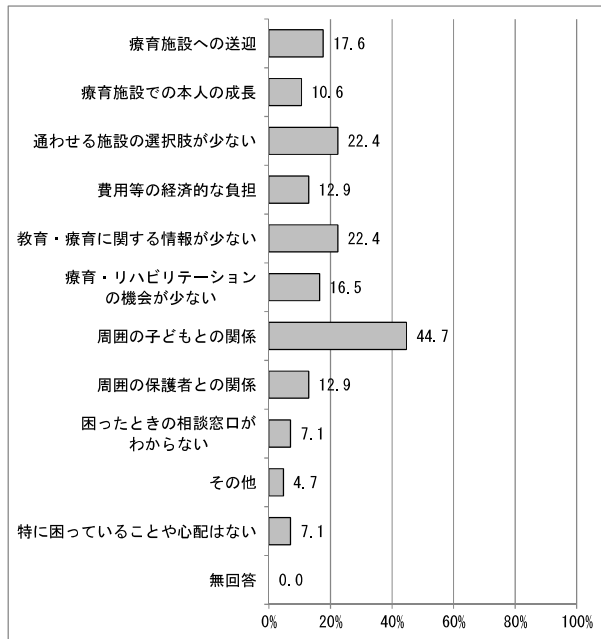
＜愛の手帳（45人）＞



＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（20人）＞



＜いずれも持っていない（85人）＞



② 幼稚園や保育園、療育施設等にいる以外の時間は、どのように過ごしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

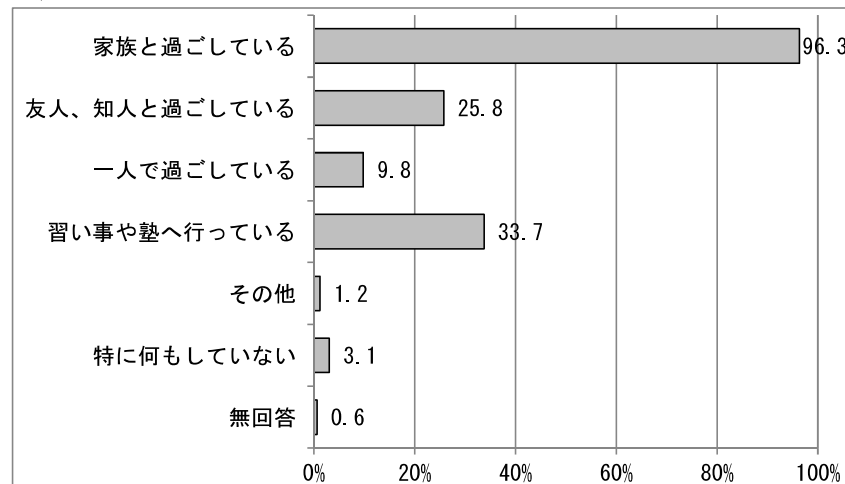
＜全体の傾向＞

幼稚園や保育園、療育施設等にいる以外の時間の過ごし方について、「家族と過ごしている」が96.3%と最も割合が高く、次いで「習い事や塾へ行っている」が33.7%、「友人、知人と過ごしている」が25.8%となっています。

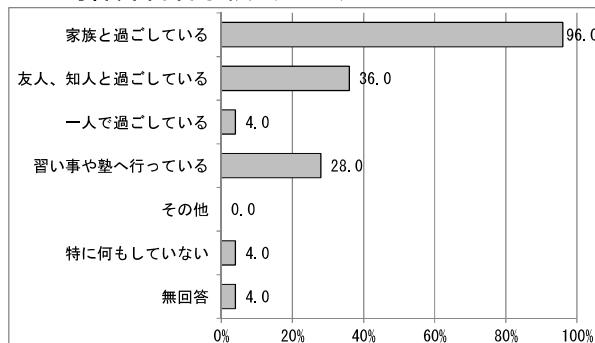
＜手帳種別の傾向＞

「愛の手帳」では、「友人、知人と過ごしている」が4.4%（45人中2人）と低い割合となっています。

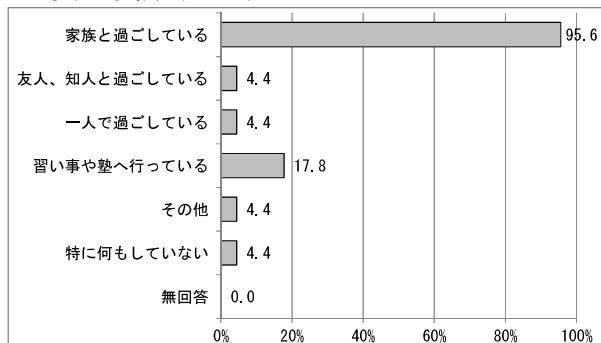
＜全体（163人）＞



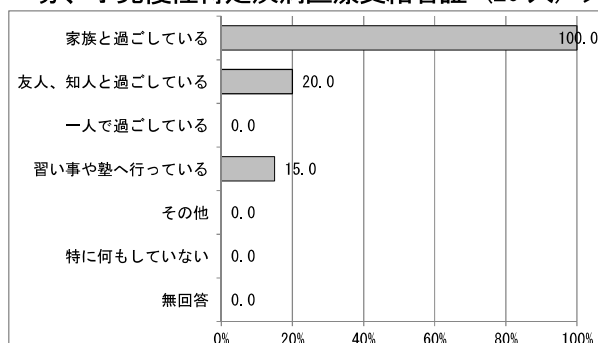
＜身体障害者手帳（25人）＞



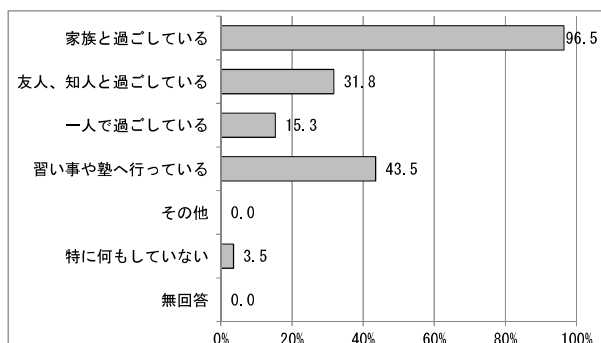
＜愛の手帳（45人）＞



＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（20人）＞



＜いずれも持っていない（85人）＞



Ⅱ－１ 未就学児への調査

- ③ 幼稚園や保育園、療育施設等にいる以外の時間について、現在の過ごし方以外にどのような過ごし方を希望しますか。ご自由にお書きください。

現状以外の過ごし方について、「習い事・スポーツ」「同世代の子どもとの遊び」「療育・福祉サービス」の回答が多くみられます。

分 類	回答数
習い事・スポーツ	23
同世代の子どもとの遊び	21
療育・福祉サービス	18
家庭で過ごす	9
子ども向け施設	8
保育施設、一時預かり施設	6
外出・レジャー	5
その他	4

※ 自由記述の内容を分類。複数回答あり。

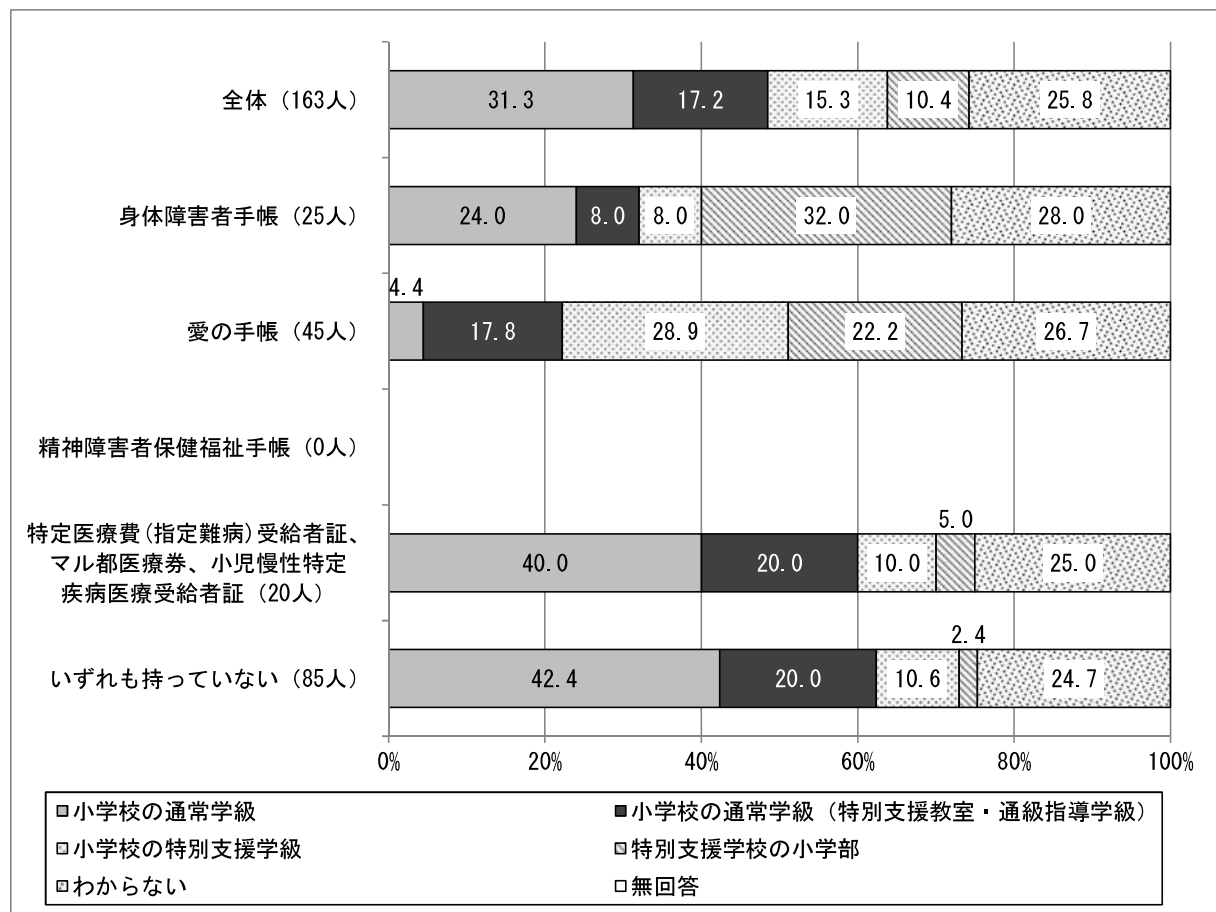
問 21 小学校入学時は、どの教育機関を希望しますか。（１つに○）

＜全体の傾向＞

小学校入学時に希望する教育機関について、「小学校の通常学級」が 31.3%と最も割合が高く、次いで「わからない」が 25.8%、「小学校の通常学級（特別支援教室・通級指導学級）」が 17.2%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

「身体障害者手帳」では「特別支援学校の小学部」が 32.0%、「愛の手帳」では「小学校の特別支援学級」が 28.9%と最も割合が高くなっています。



Ⅱ－１ 未就学児への調査

問 22 お子さんの今後の生活や進学等について、心配していることがありましたら、ご自由にお書きください。

今後の生活や進学先等の心配ごとについて、「進学先の選択について」「学業・学校生活について」「福祉サービスの利用について」「コミュニケーション、いじめについて」の回答が多くみられます。

分 類	回答数
進学先の選択について	31
学業・学校生活について	31
福祉サービスの利用について	26
コミュニケーション、いじめについて	21
進学・進路の情報について	18
子どもの将来について	17
保護者の仕事への影響について	10
通学、すまいるスクールへの送迎手段について	9
周りの理解について	8
支援学校、支援級等での教育内容について	8
どこに相談していいかわからない	5
本人に適した受け皿（保育施設等）の確保について	4
長期休暇の過ごし方について	4
保育所、学校での介助員の配置について	3
障害児に対応できる施設・設備の整備について	3
近くの学校に特別支援学級がない	3
その他	37

※ 自由記述の内容を分類。複数回答あり。

児童福祉法による障害児通所支援について

問 23 ア～ウのサービスの「現在の利用状況」と「今後の利用希望」をお答えください。

利用している方は、利用日数も記入してください。

(それぞれの項目について、現在、今後に1つずつ○)

＜全体の傾向＞

児童発達支援の「現在の利用状況」について、「利用している」が 80.1%、「利用していない」が 17.6%となっています。「今後の利用希望」については、「(今後も) 利用したい」が 66.5%と最も割合が高く、次いで「わからない」が 6.3%、「利用したいが、できない」と「利用希望はない」が 5.7%となっています。

医療型児童発達支援の「現在の利用状況」について、「利用していない」が 46.6%、「利用している」が 11.9%となっています。「今後の利用希望」については、「(今後も) 利用したい」が 14.8%と最も割合が高く、次いで「利用希望はない」と「わからない」が 14.2%、「利用したいが、できない」が 8.0%となっています。

保育所等訪問支援の「現在の利用状況」について、「利用していない」が 54.5%、「利用している」が 3.4%となっています。「今後の利用希望」については、「わからない」が 19.9%と最も割合が高く、次いで「利用希望はない」が 12.5%、「(今後も) 利用したい」が 9.7%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

児童発達支援の「現在の利用状況」について、「身体障害者手帳」では「利用していない」が 59.4%となっており、「今後の利用希望」において、「利用希望はない」が 25.0%と比較的高い割合となっています。

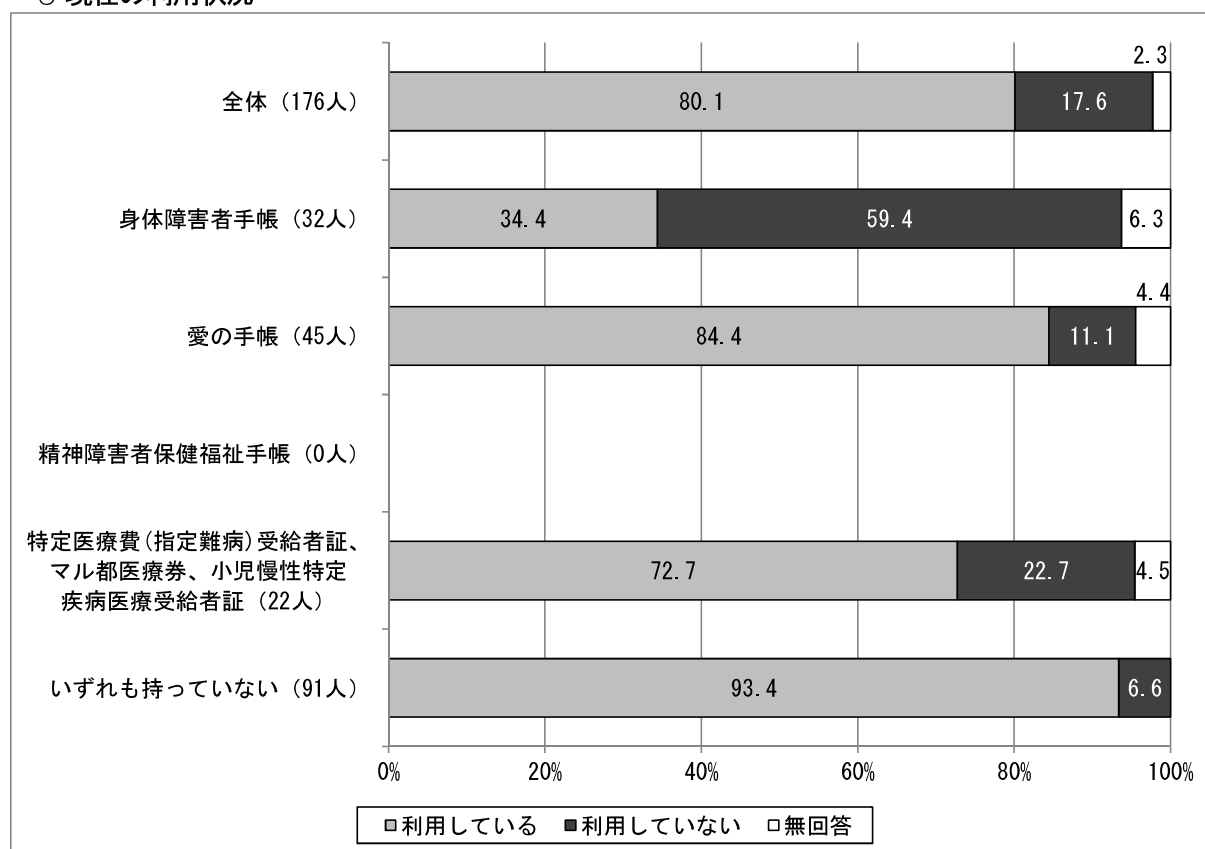
医療型児童発達支援の「現在の利用状況」について、「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では「利用している」が 27.3%、「利用していない」22.7%と「利用している」が「利用していない」をわずかに上回っています。

保育所等訪問支援の「現在の利用状況」について、「身体障害者手帳」では「利用していない」が 81.3%と比較的高い割合となっています。

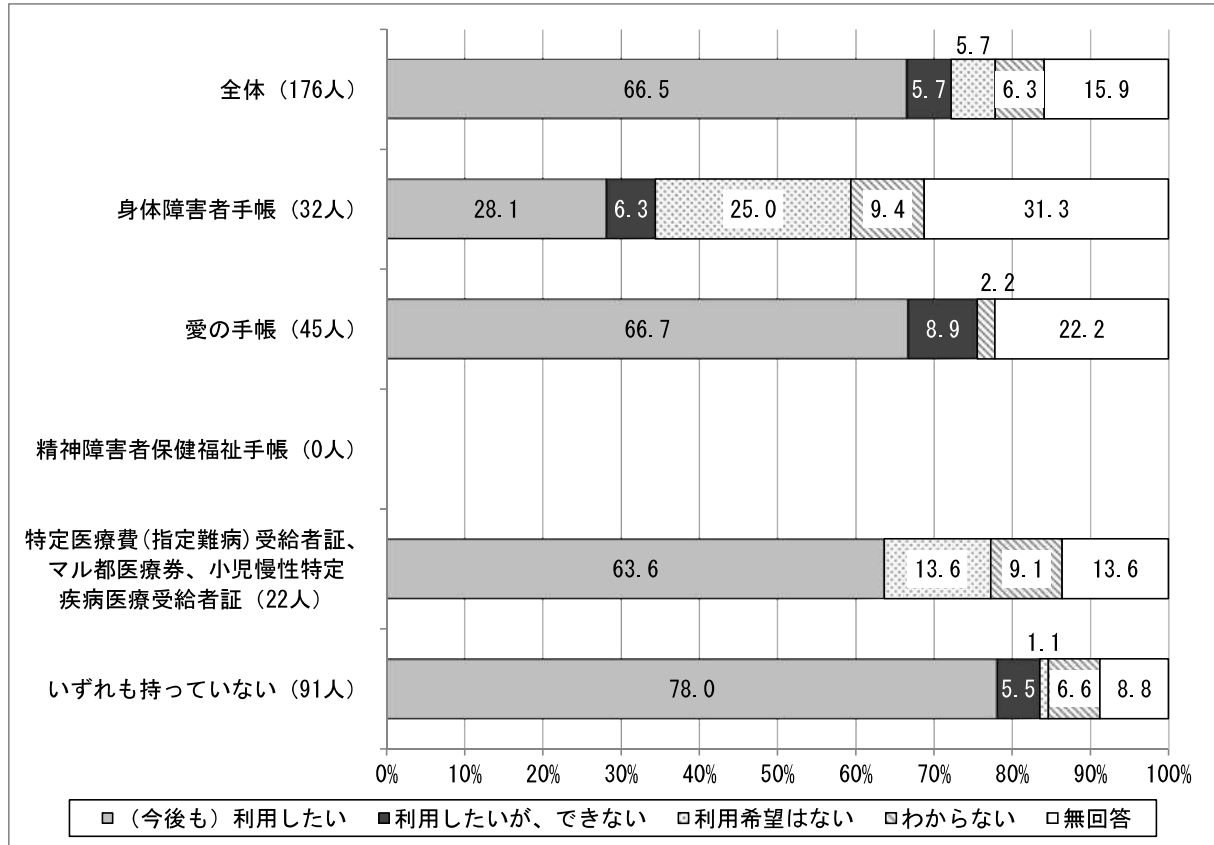
Ⅱ－１ 未就学児への調査

ア 児童発達支援

○ 現在の利用状況



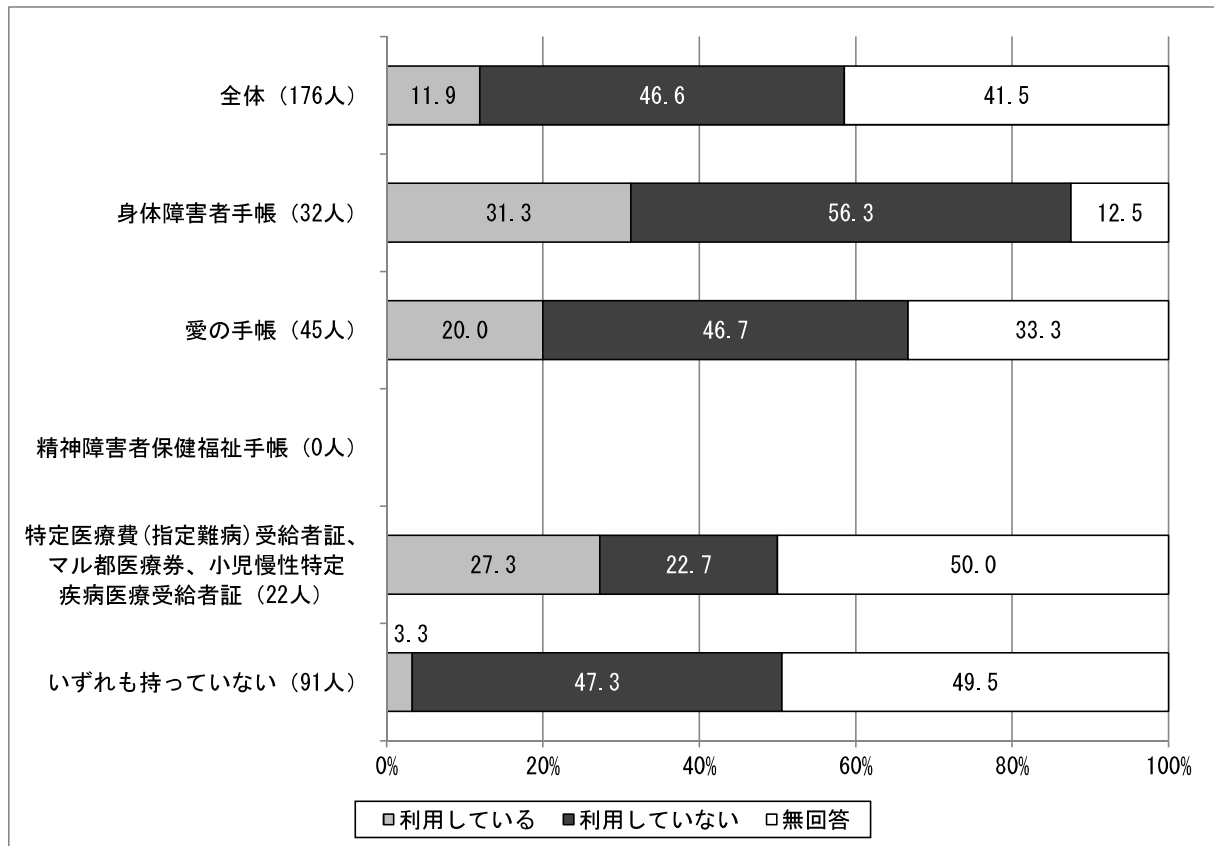
○ 今後の利用希望



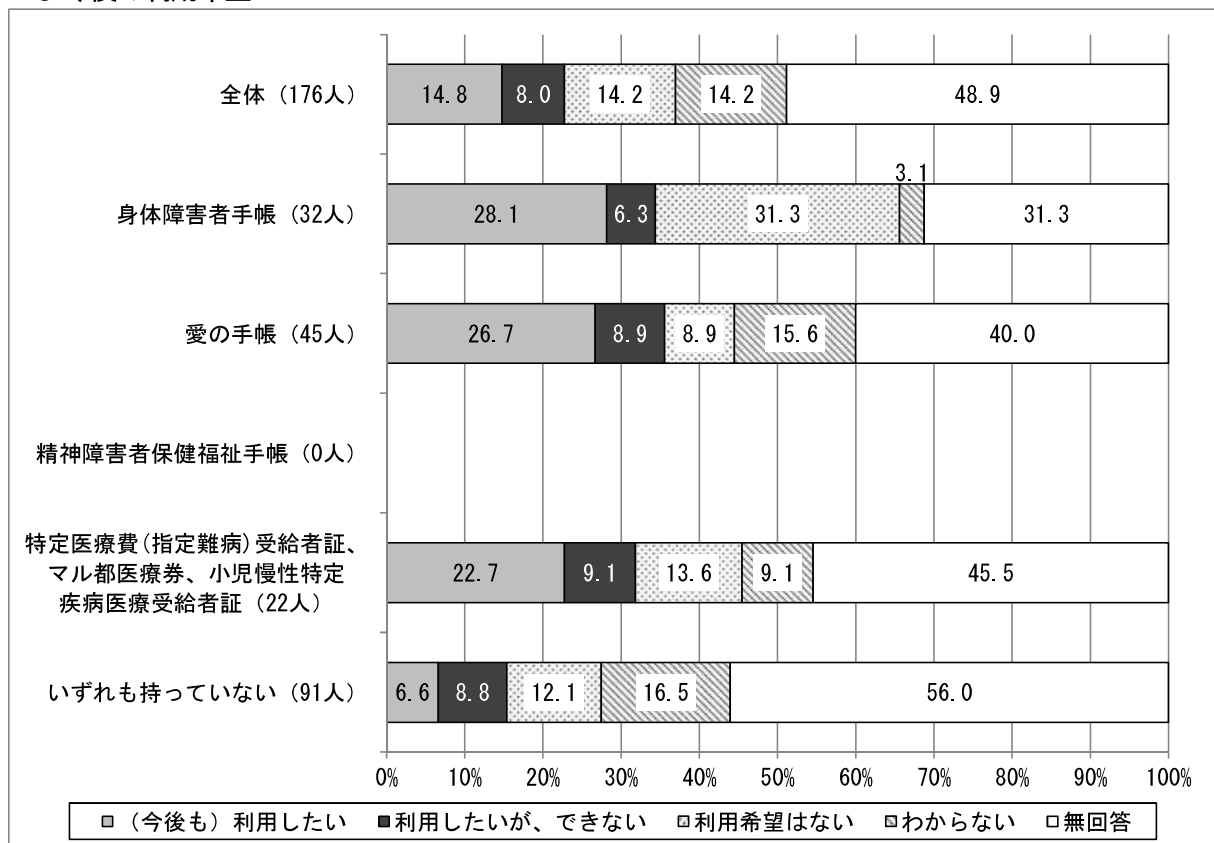
Ⅱ－１ 未就学児への調査

イ 医療型児童発達支援

○ 現在の利用状況

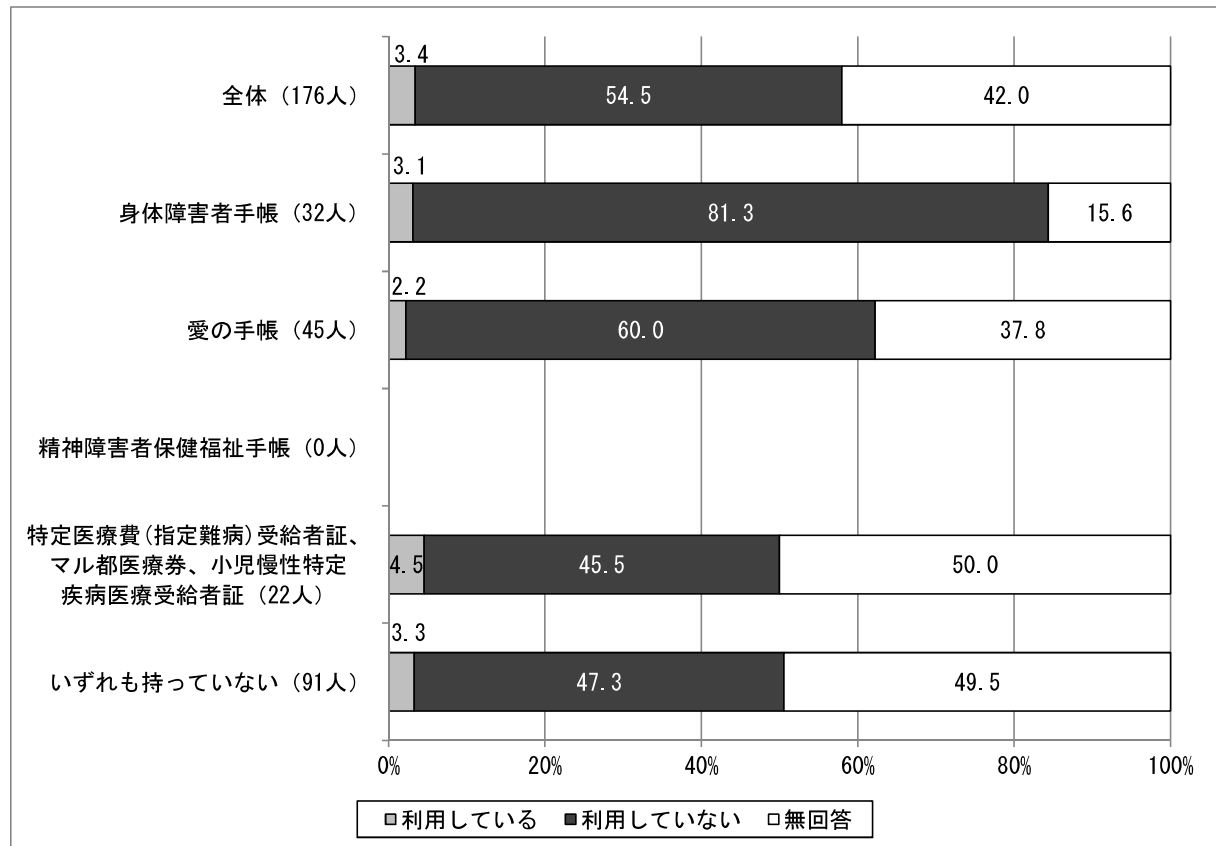


○ 今後の利用希望

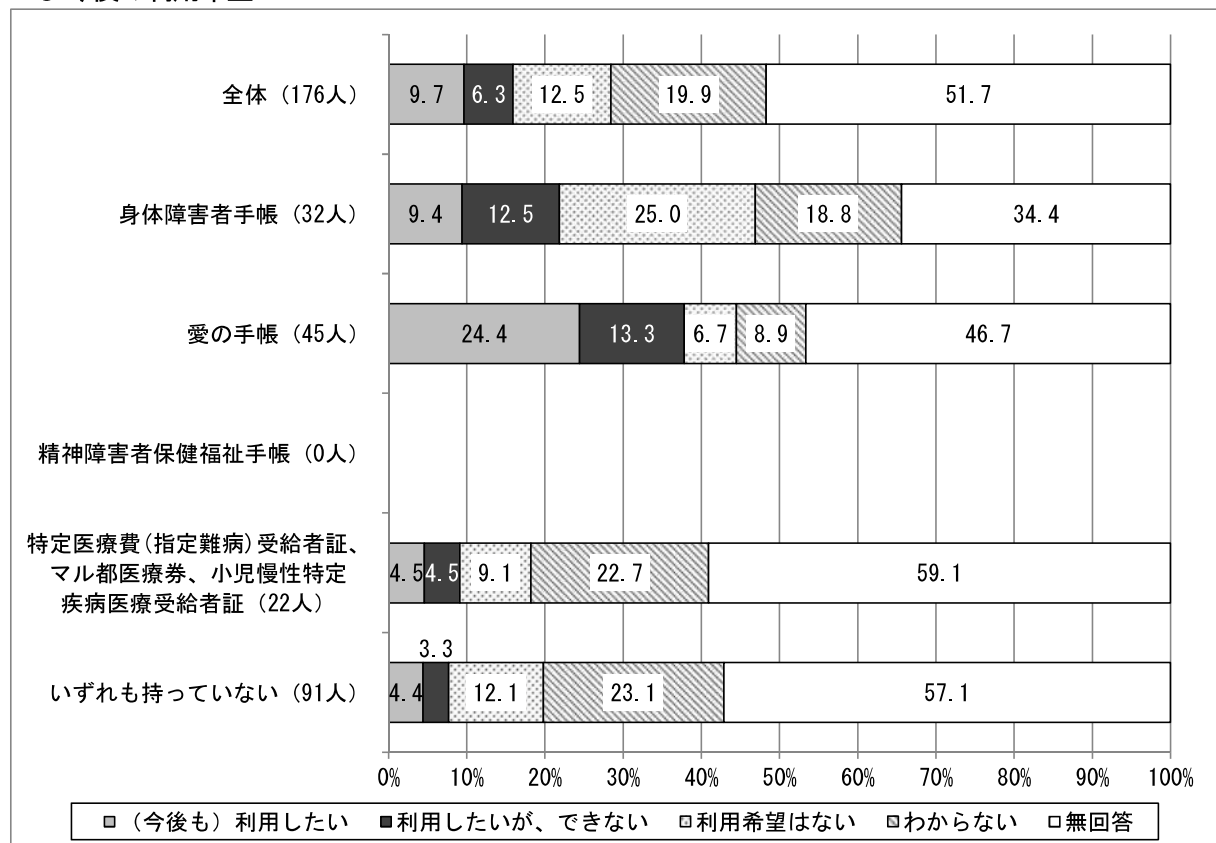


ウ 保育所等訪問支援

○ 現在の利用状況



○ 今後の利用希望



Ⅱ－１ 未就学児への調査

問 24 問 23 でア～ウの「現在の利用状況」のいずれかで「1」（利用している）と回答した方におたずねします。

① 現在利用しているサービスについて、どのように感じますか。

（現在利用しているサービスごとに、1つに○）

＜全体の傾向＞

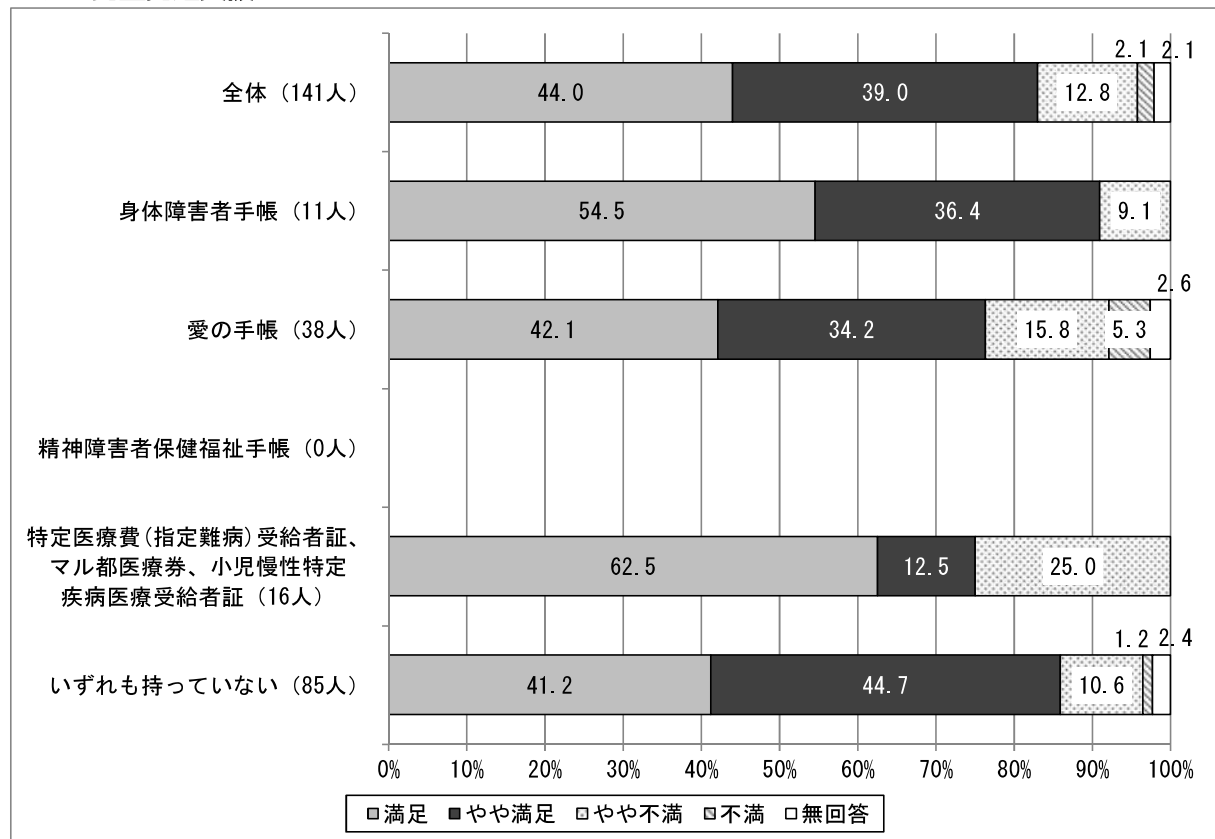
現在利用しているサービスの満足度は、児童発達支援について、「満足」が 44.0%と最も割合が高く、次いで「やや満足」が 39.0%、「やや不満」が 12.8%となっています。

また、医療型児童発達支援について、「やや満足」が 47.6%と最も割合が高く、「満足」と「やや不満」が 23.8%となっています。

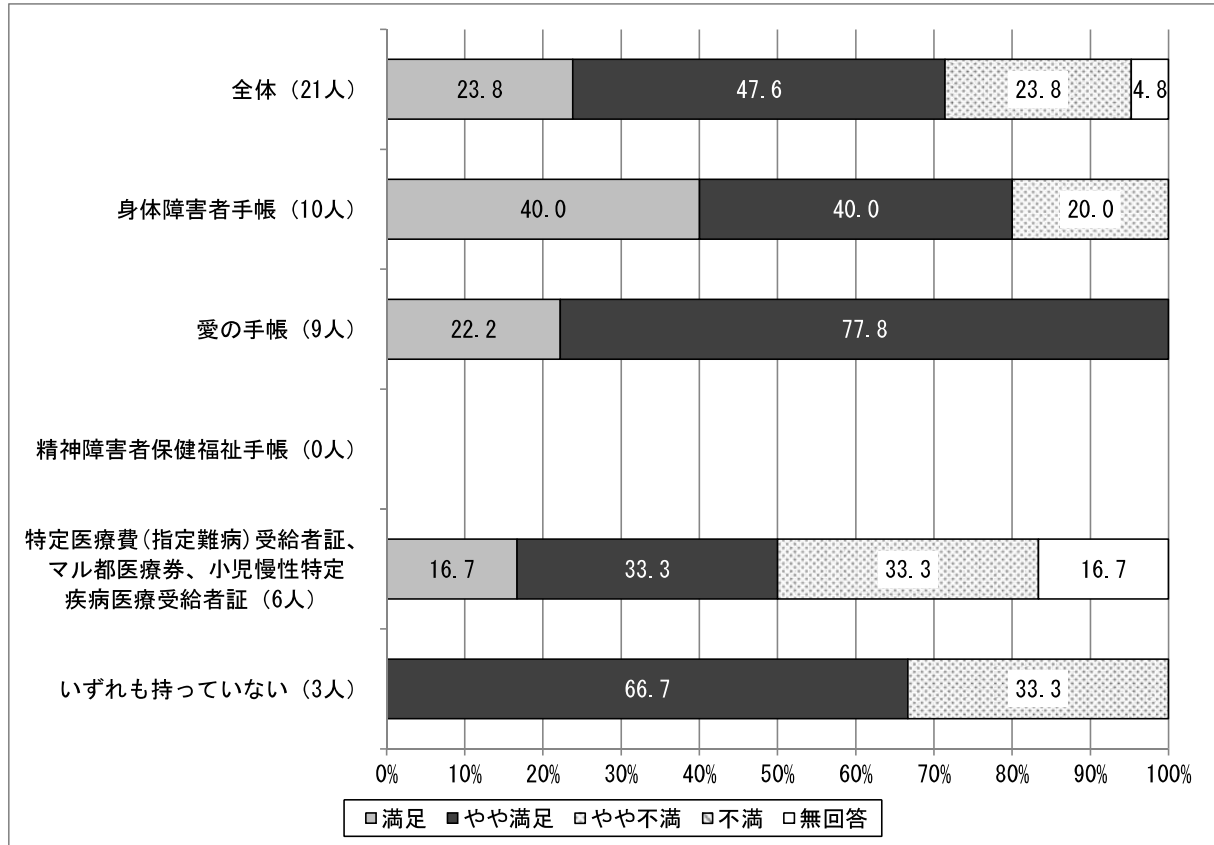
＜手帳種別の傾向＞

児童発達支援について「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では「やや不満」が 25.0%と比較的高い割合となっています。

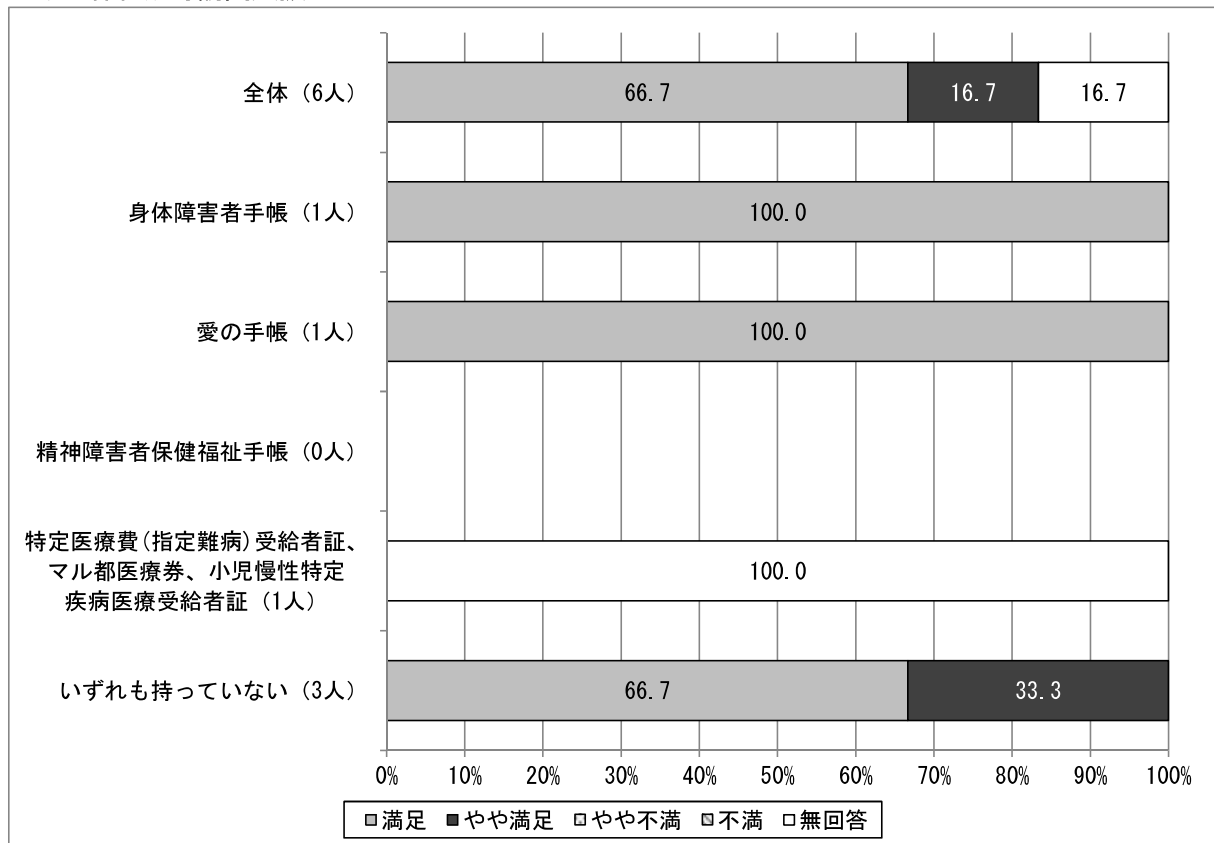
ア 児童発達支援



イ 医療型児童発達支援



ウ 保育所等訪問支援



Ⅱ－１ 未就学児への調査

② 現在利用しているサービスについて、困っていることがありますか。

(現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○)

<全体の傾向>

利用しているサービスで困っていることは、児童発達支援について、「利用できる時間や日数、回数が少ない」が45.4%、次いで「特にない」が26.2%、「その他」が19.9%となっています。

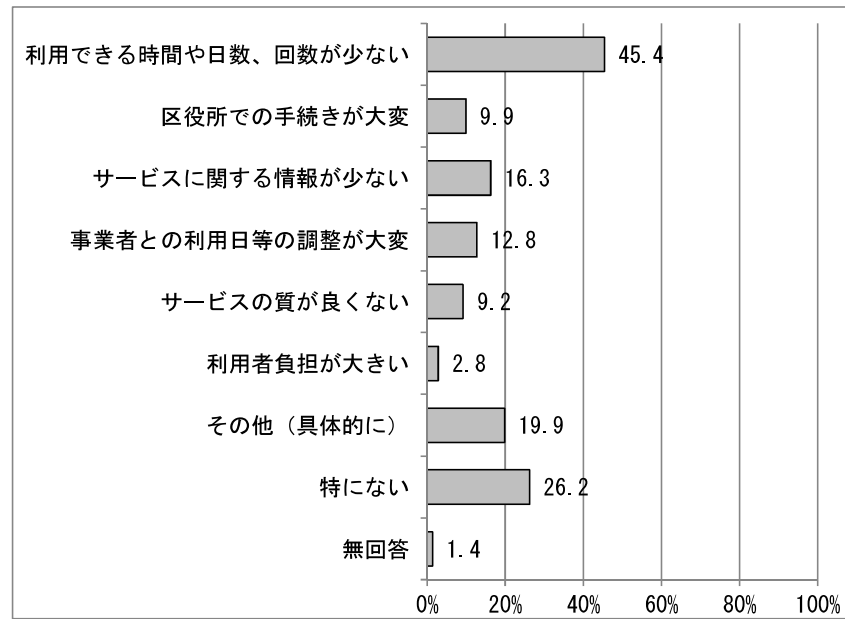
また、医療型児童発達支援について、「利用できる時間や日数、回数が少ない」が38.1%と最も割合が高く、次いで「その他」と「特にない」が23.8%、「区役所での手続きが大変」と「サービスに関する情報が少ない」、「事業者との利用日等の調整が大変」が9.5%となっています。

保育所等訪問支援では、「サービスに関する情報が少ない」が33.3%（6人中2人）、「特にない」が66.7%となっています。なお、「サービスに関する情報が少ない」の回答者は「特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」と「いずれも持っていない」の各1人となっています。

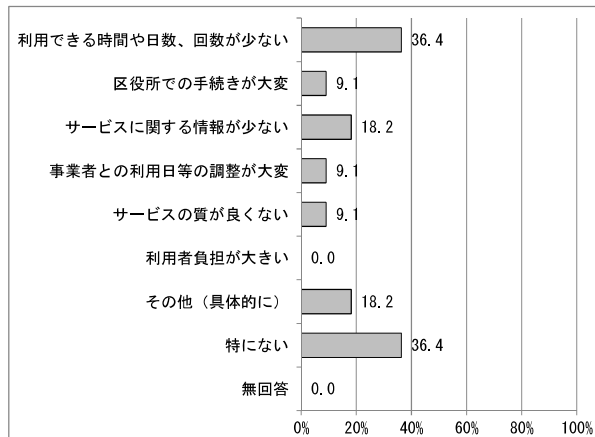
<手帳種別の傾向>

児童発達支援では、「愛の手帳」で「利用できる時間や日数、回数が少ない」が60.5%と比較的高い割合となっています。

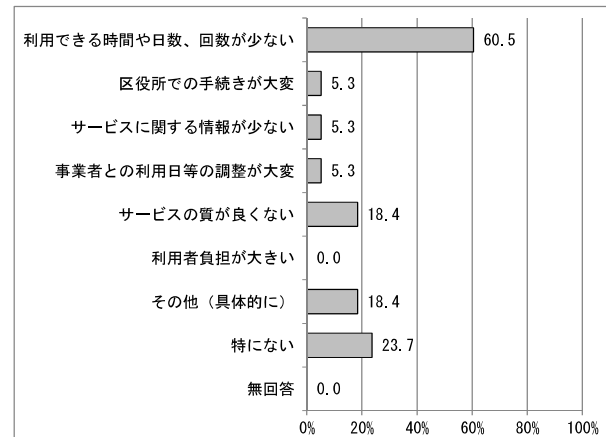
ア 児童発達支援
＜全体（141 人）＞



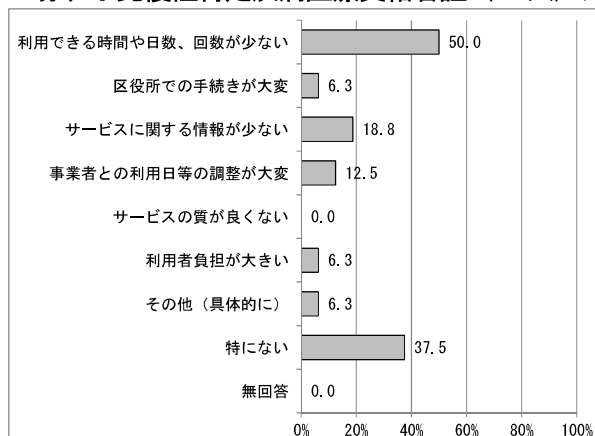
＜身体障害者手帳（11 人）＞



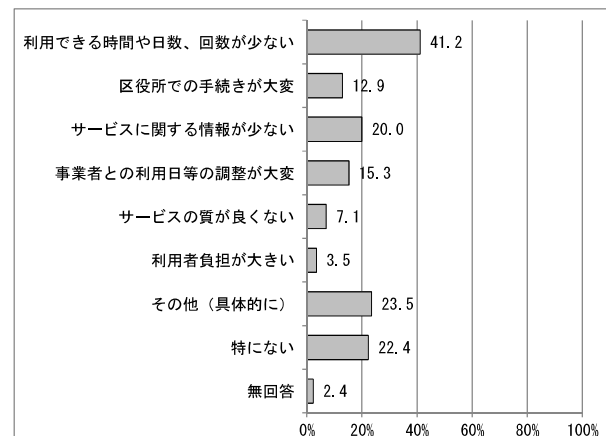
＜愛の手帳（38 人）＞



＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（16 人）＞



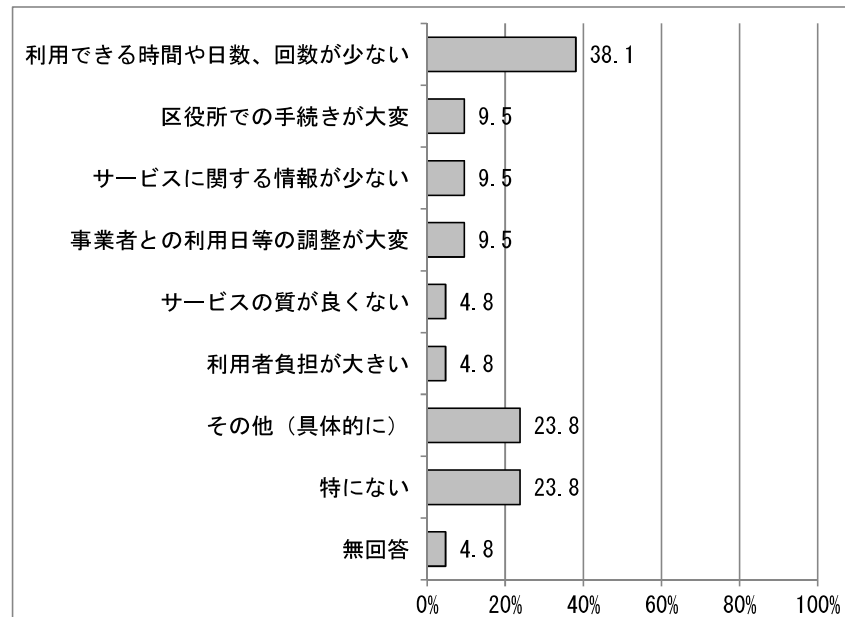
＜いずれも持っていない（85 人）＞



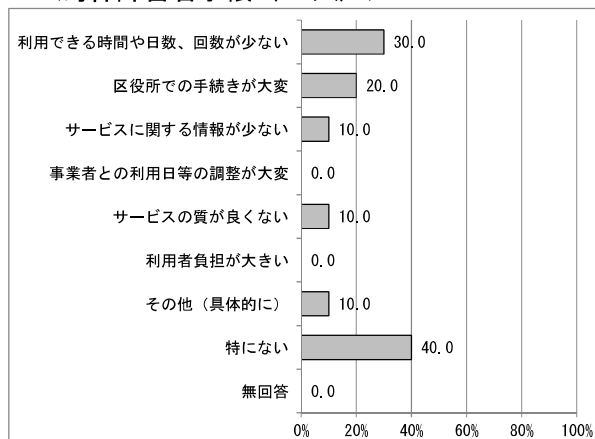
Ⅱ－１ 未就学児への調査

イ 医療型児童発達支援

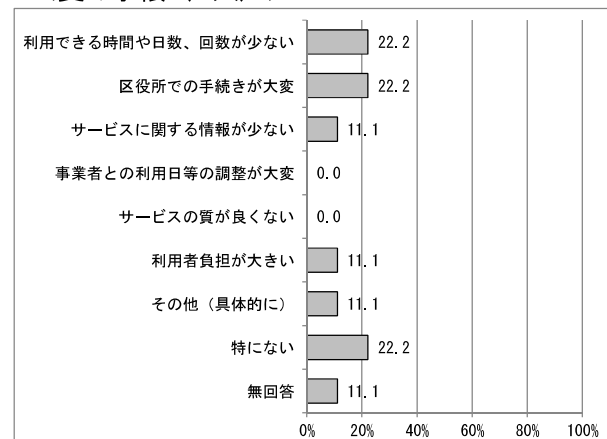
<全体（21 人）>



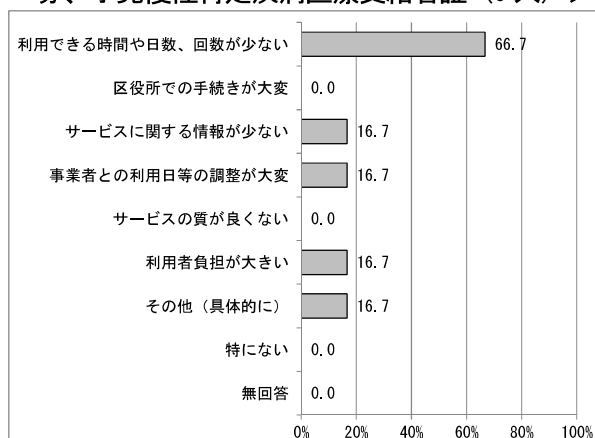
<身体障害者手帳（10 人）>



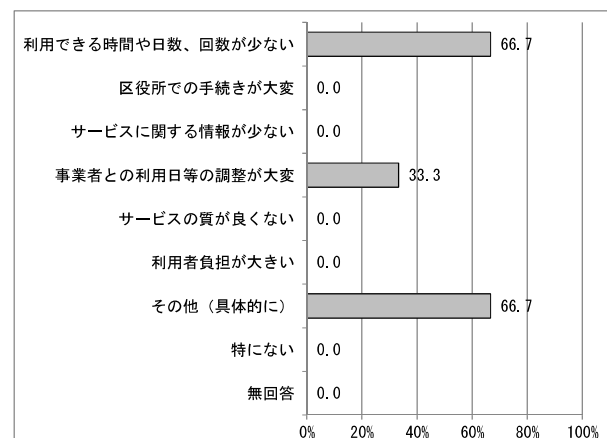
<愛の手帳（9 人）>



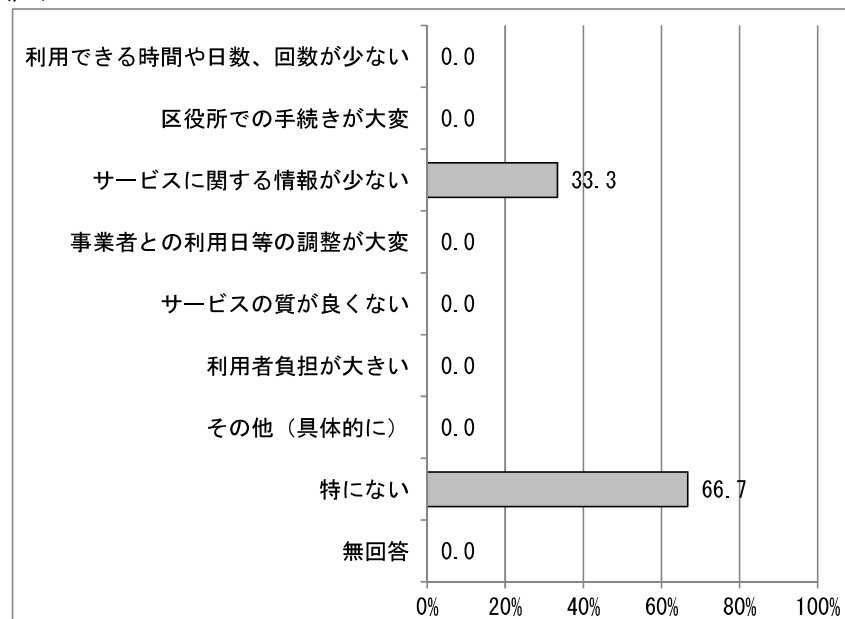
<特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（6 人）>



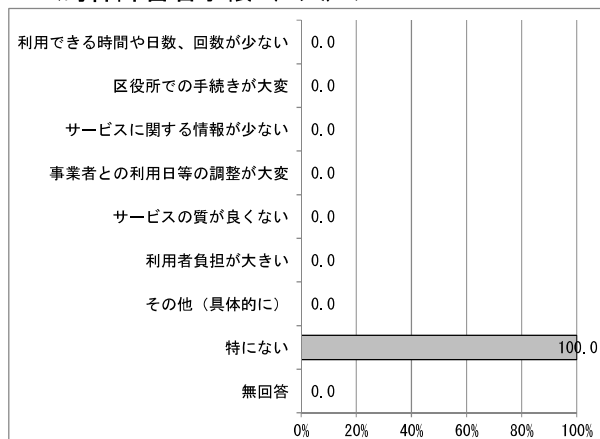
<いずれも持っていない（3 人）>



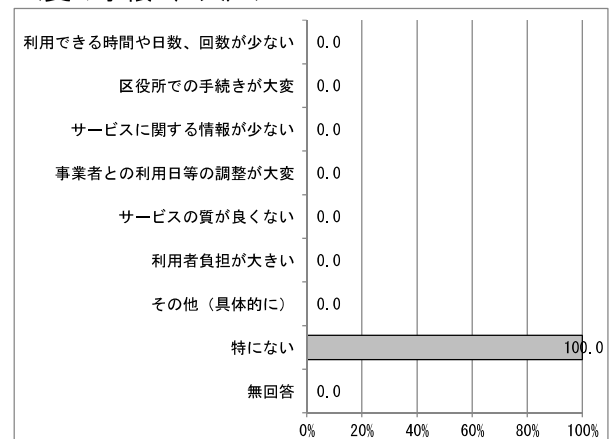
ウ 保育所等訪問支援
＜全体（６人）＞



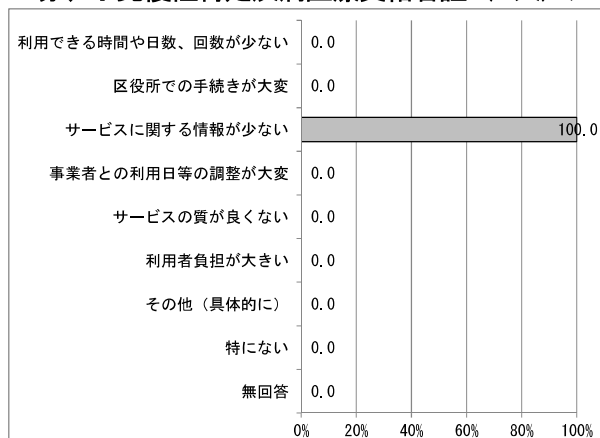
＜身体障害者手帳（１人）＞



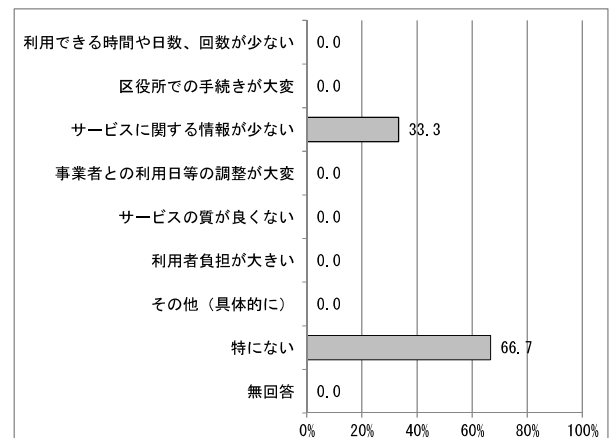
＜愛の手帳（１人）＞



＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（１人）＞



＜いずれも持っていない（３人）＞



Ⅱ－１ 未就学児への調査

- ③ ②でア～ウのいずれかで「１」（利用できる時間や日数、回数が少ない）と回答した方におたずねします。現在利用しているサービスについて、そう感じる理由は何ですか。具体的にお書きください。

サービス量が少ないと感じる理由について、児童発達支援では「利用できる日数が少ない」という回答が最も多く、次いで「利用できる時間が短い」回答が多くみられます。

医療型児童発達支援では、「利用できる日数が少ない」が５件、「事業者が少ない」が３件となっています。

保育所等訪問支援（該当者１人）では、「他地域との比較」の回答が得られています。

ア 児童発達支援

分 類	回答数
利用できる日数が少ない	27
利用できる時間が短い	10
事業者が少ない	9
他地域との比較	7
効果・成長がみえない	4
サービスの質に不満がある	3
長期休暇中に利用できるに数を増やしてほしい	3
週末に多く利用したい	2
施設が遠い	1
その他	8

※ 自由記述の内容を分類。複数回答あり。

イ 医療型児童発達支援

分 類	回答数
利用できる日数が少ない	5
事業者が少ない	3
他地域との比較	2
効果・成長がみえない	2
長期休暇中に利用できるに数を増やしてほしい	1
サービスの質に不満がある	1
週末に多く利用したい	1
付き添いの負担が大きい	1

※ 自由記述の内容を分類。複数回答あり。

ウ 保育所等訪問支援

分 類	回答数
他地域との比較	1

- ④ ① でア～ウのいずれかで「3」または「4」（不満）と回答した方におたずねします。不満な理由は何ですか。（現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○）

＜全体の傾向＞

児童発達支援で不満がある理由について、「職員の専門性が低い」が 61.9%と最も割合が高く、次いで「その他」が 42.9%、「個々の状況に合わせた柔軟な対応ができない」が 33.3%となっています。

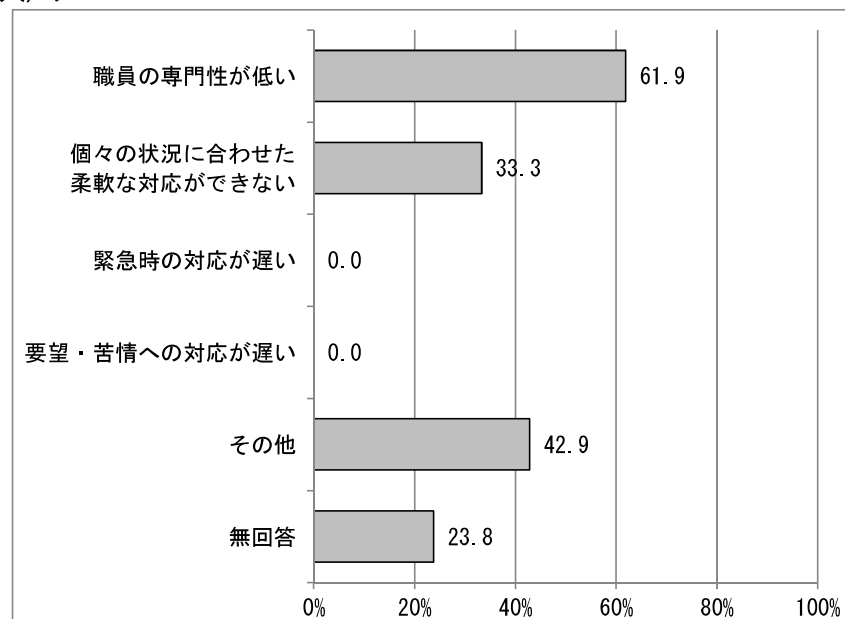
医療型児童発達支援で不満がある理由について、「要望・苦情への対応が遅い」と「その他」がともに 40.0%（5人中2人）となっています。

＜手帳種別の傾向＞

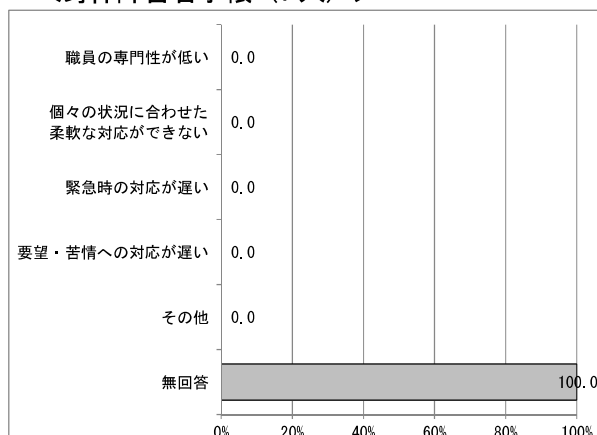
手帳種別の特徴はみられません。

ア 児童発達支援

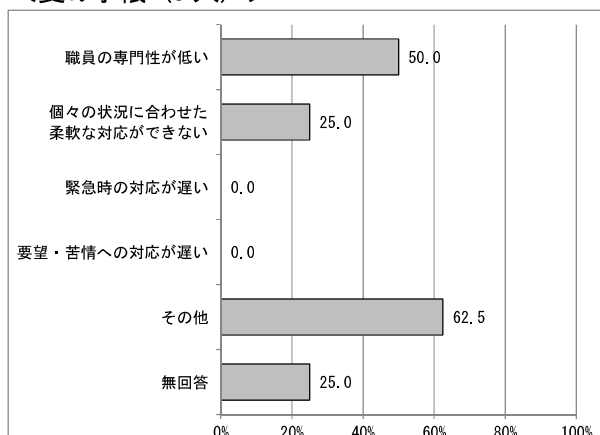
＜全体（21人）＞



＜身体障害者手帳（1人）＞

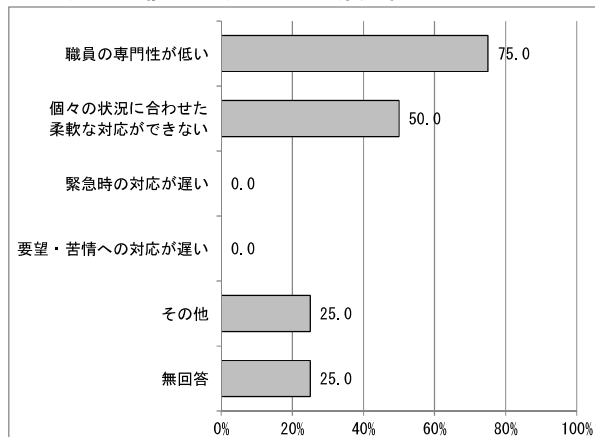


＜愛の手帳（8人）＞

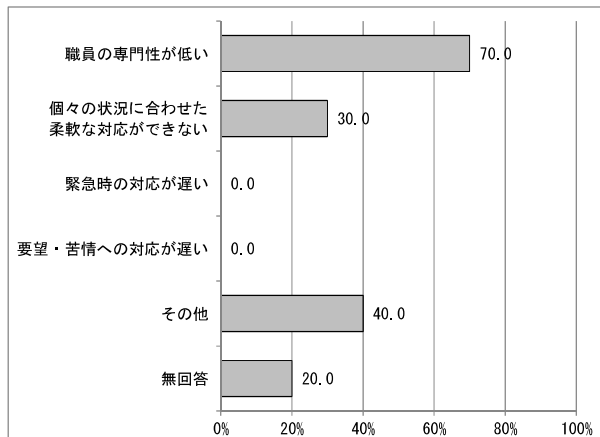


Ⅱ－１ 未就学児への調査

＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（４人）＞

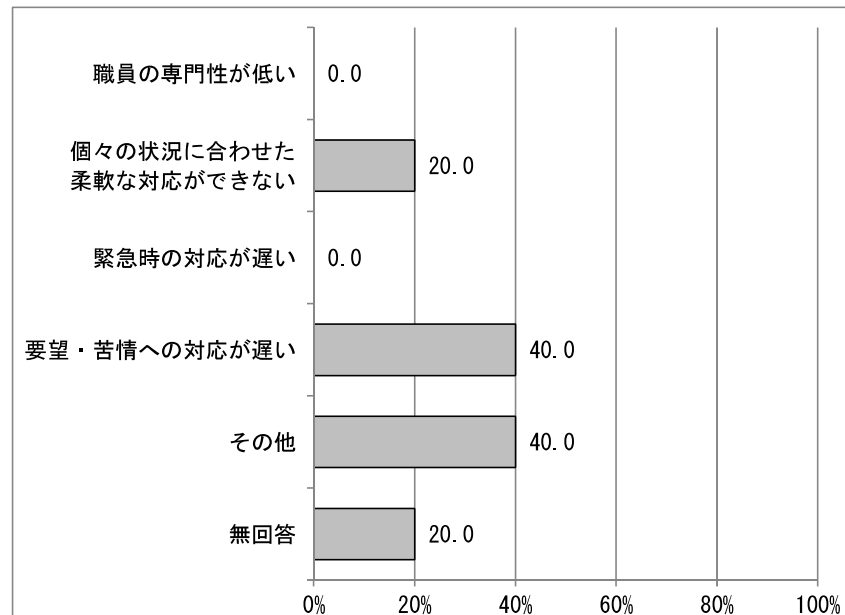


＜いずれも持っていない（10人）＞

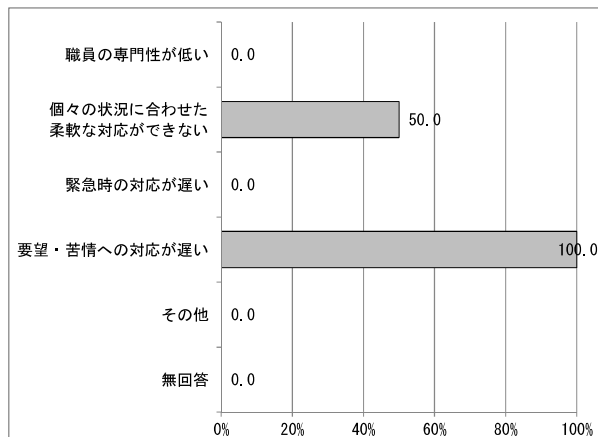


イ 医療型児童発達支援

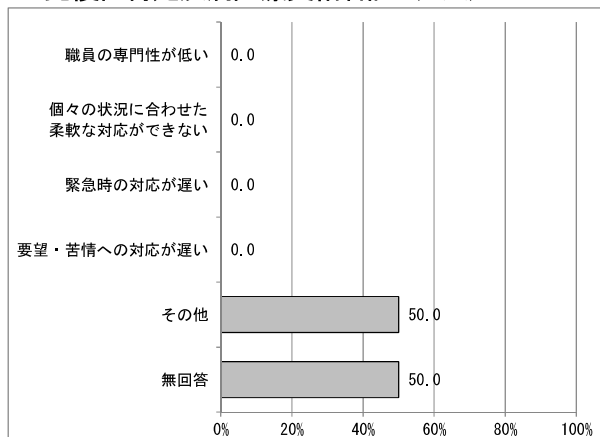
＜全体（５人）＞



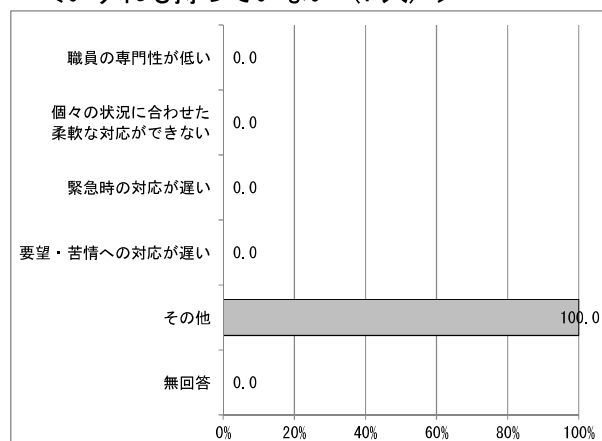
＜身体障害者手帳（２人）＞



＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（２人）＞



<いずれも持っていない（１人）>



※ 回答のあった分類のみ記載

ウ 保育所等訪問支援

※ 回答者なし

Ⅱ－１ 未就学児への調査

問 25 問 23 でア～ウの「今後の利用希望」のいずれかで「2」（利用したいが、利用できない）と回答した方におたずねします。その理由は何ですか。（主なものを2つまでに○）

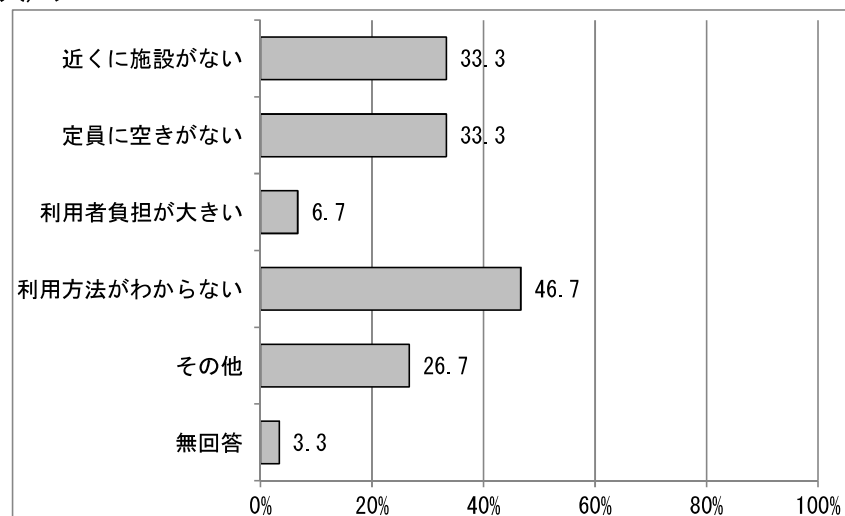
＜全体の傾向＞

障害児通所支援を利用したいが、利用できない理由について、「利用方法がわからない」が 46.7%と最も割合が高く、次いで「近くに施設がない」と「定員に空きがない」が 33.3%、「その他」が 26.7%となっています。

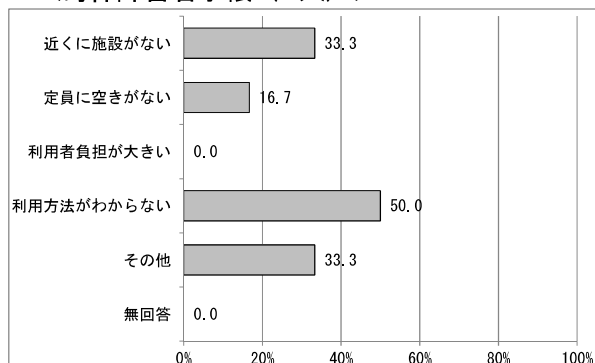
＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。

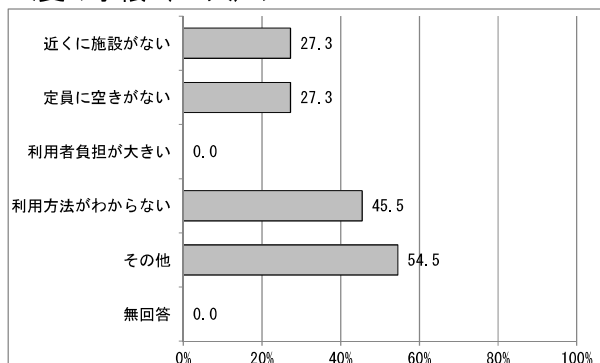
＜全体（30 人）＞



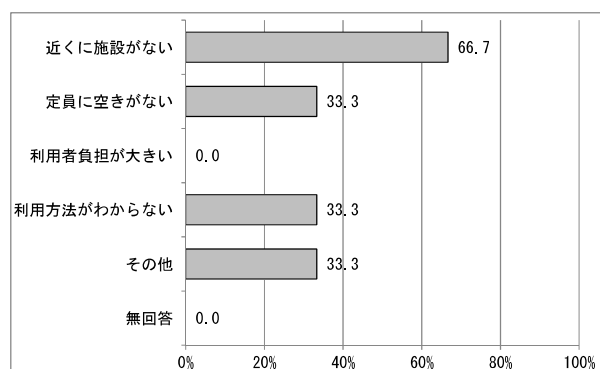
＜身体障害者手帳（6 人）＞



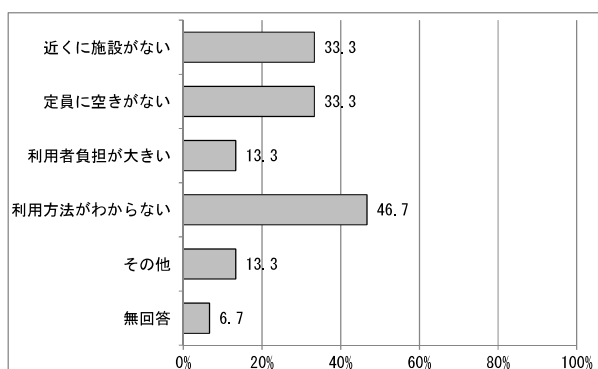
＜愛の手帳（11 人）＞



＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（３人）＞



＜いずれも持っていない（15人）＞



障害福祉サービスの利用状況・利用希望について

問 26 ア～ウのサービスの「現在の利用状況」と「今後の利用希望」をお答えください。

（それぞれの項目について、現在、今後に1つずつ○）

＜全体の傾向＞

居宅介護（ホームヘルプ）の「現在の利用状況」について、「利用していない」が69.9%、「利用している」が1.1%となっています。「今後の利用希望」については、「利用希望はない」が23.3%と最も割合が高く、次いで「わからない」が11.9%、「（今後も）利用したい」が6.3%となっています。

行動援護の「現在の利用状況」について、「利用していない」が71.0%、「利用している」が0.6%となっています。「今後の利用希望」については、「利用希望はない」が22.2%と最も割合が高く、次いで「わからない」が14.2%、「（今後も）利用したい」が5.1%となっています。

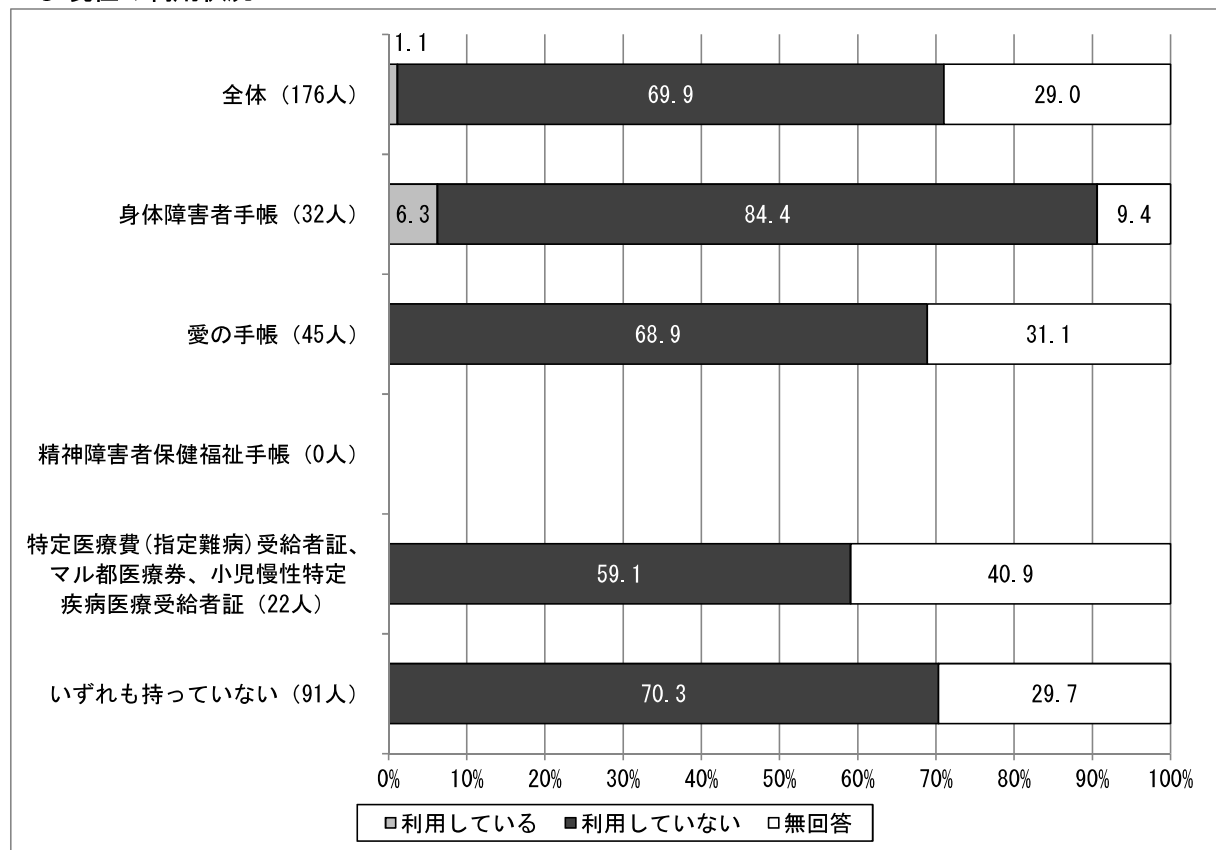
短所入所（ショートステイ）の「現在の利用状況」について、「利用していない」が70.5%、「利用している」が1.7%となっています。「今後の利用希望」については、「利用希望はない」が19.9%と最も割合が高く、次いで「わからない」が14.2%、「（今後も）利用していない」が8.0%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

「行動援護」について、「現在の利用状況」の「利用している」が全体では0.6%となっていますが、「今後の利用希望」の「（今後も）利用したい」が「身体障害者手帳」では15.6%、「愛の手帳」では13.3%となっています。

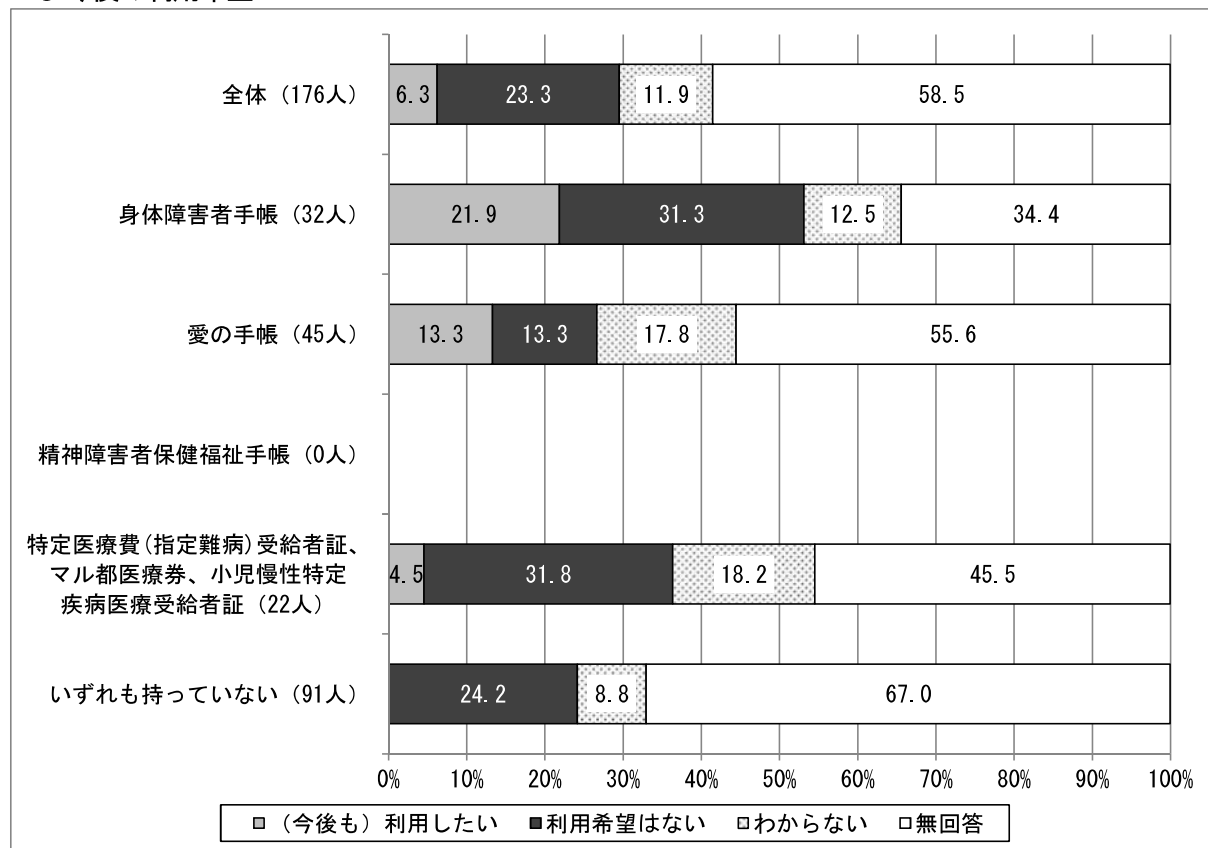
ア 居宅介護（ホームヘルプ）

○ 現在の利用状況



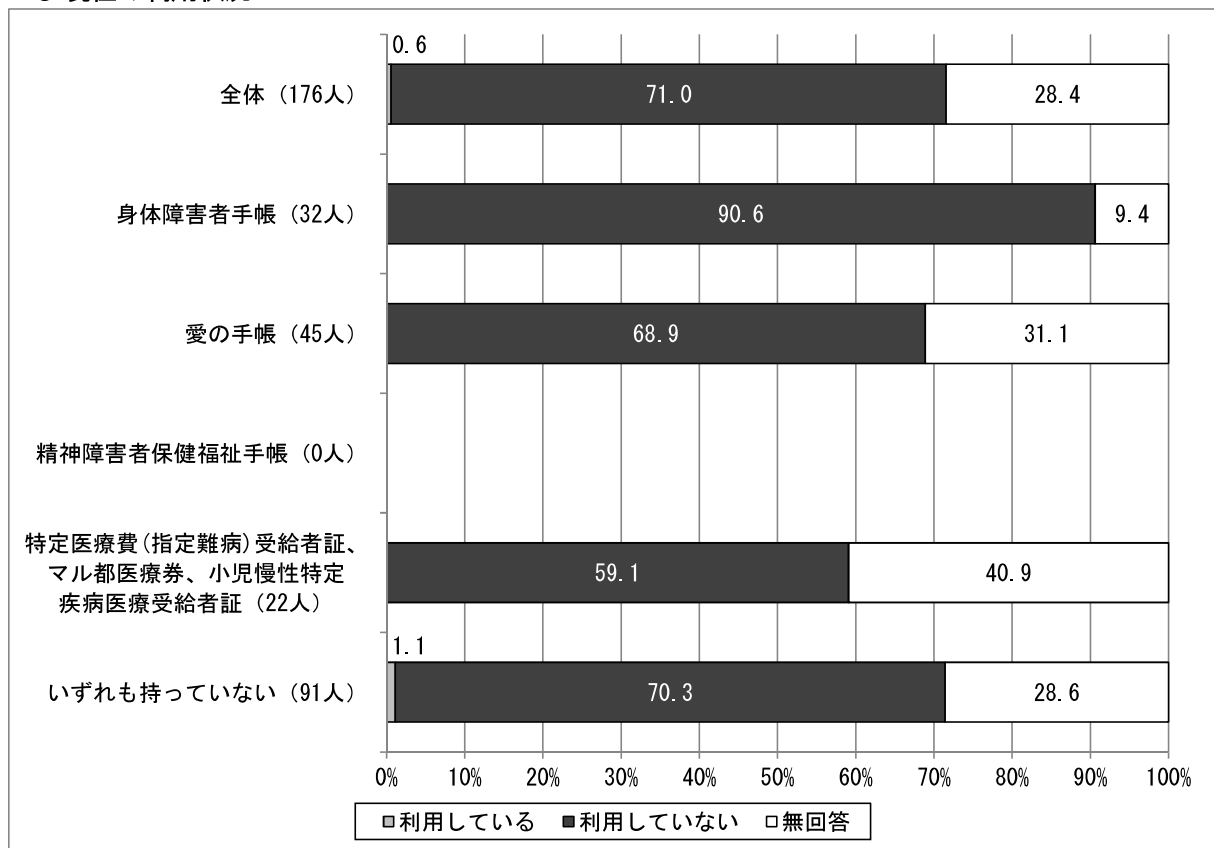
Ⅱ－１ 未就学児への調査

○ 今後の利用希望

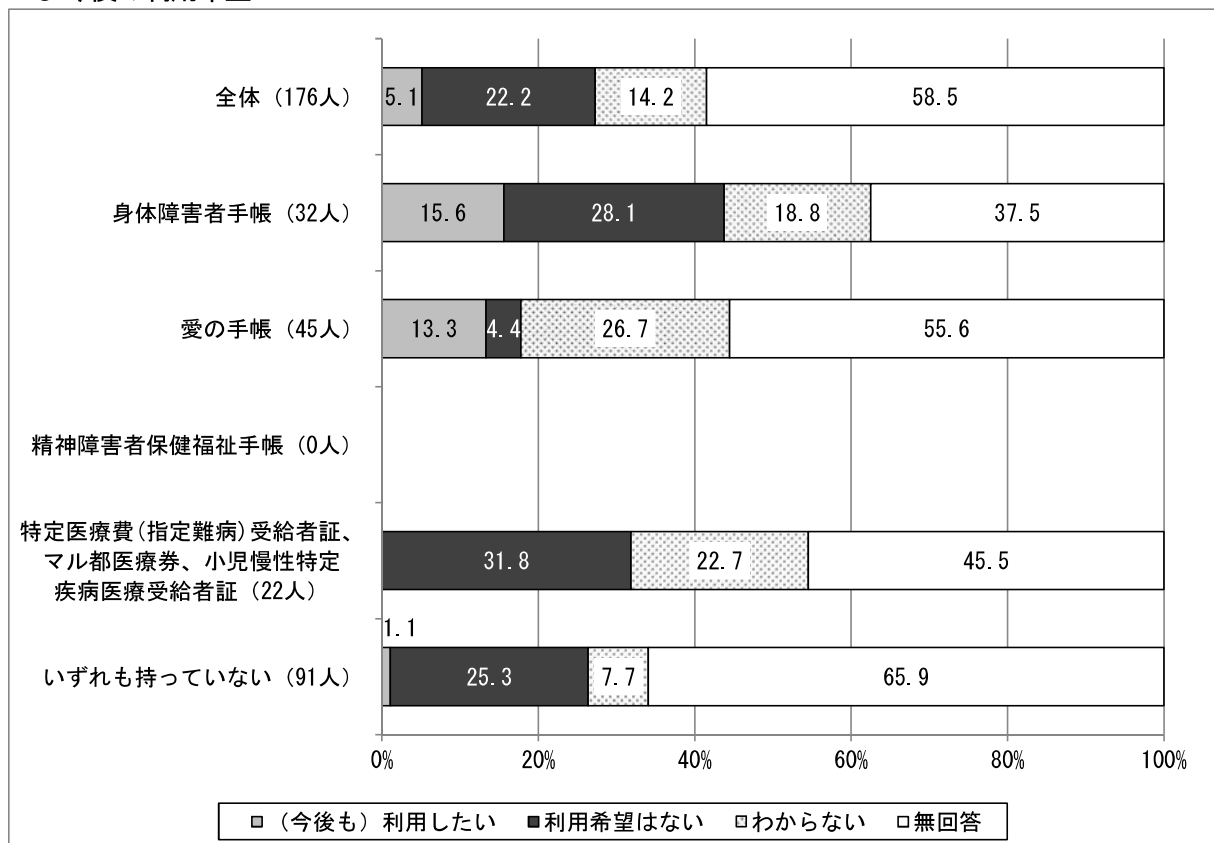


イ 行動援護

○ 現在の利用状況



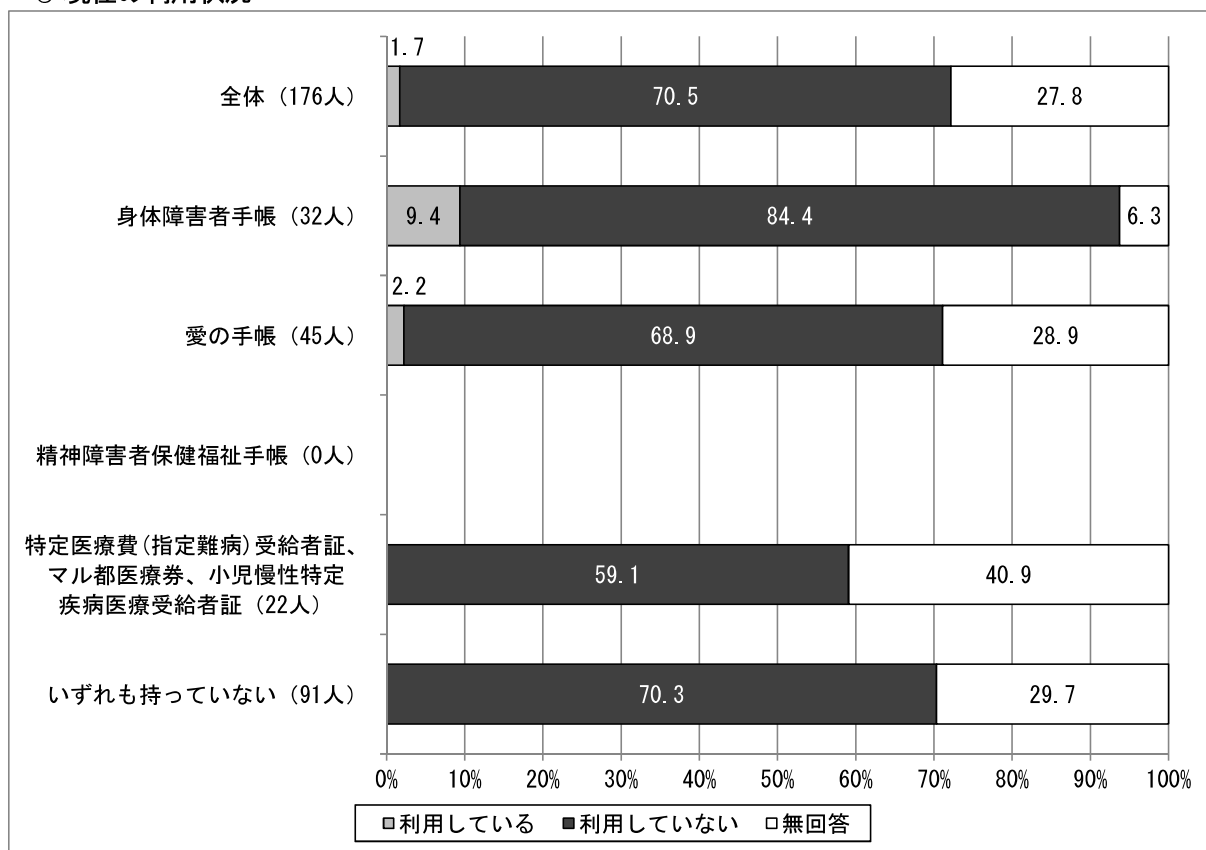
○ 今後の利用希望



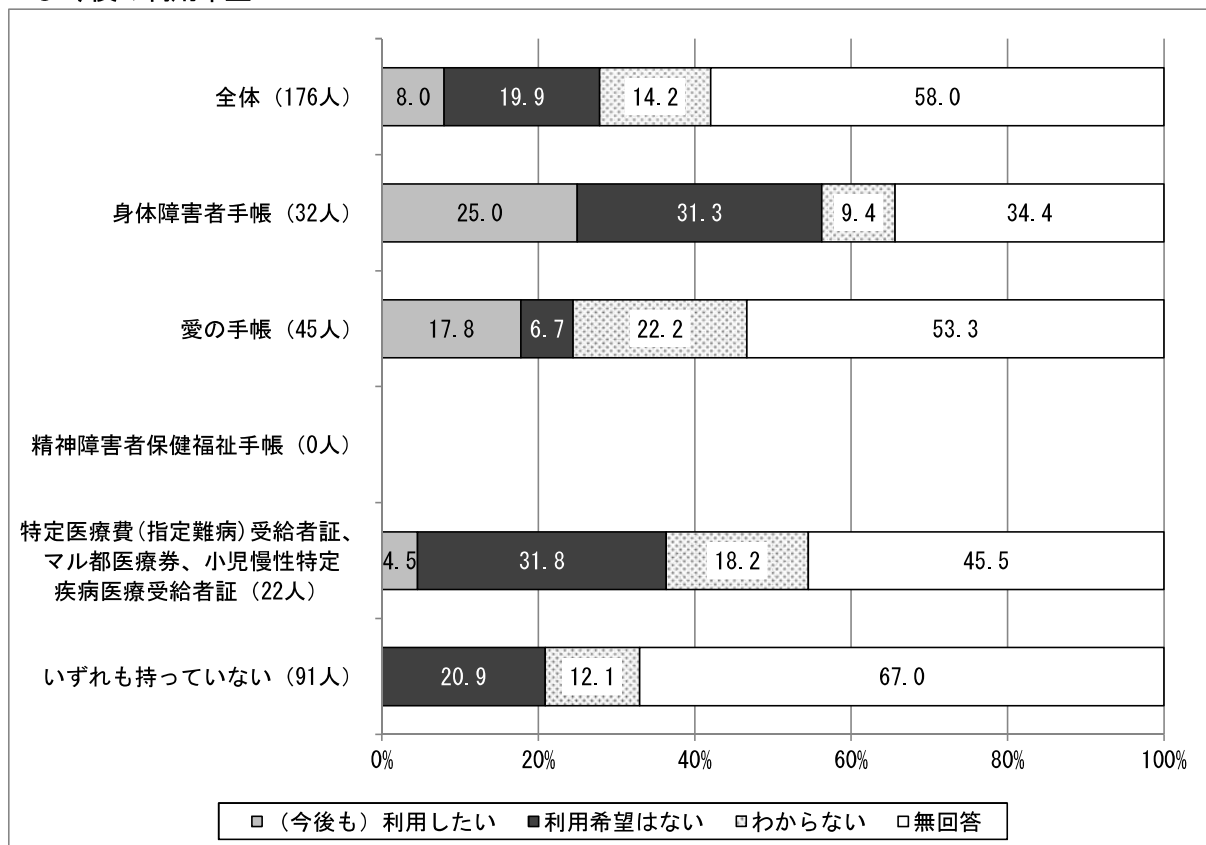
Ⅱ－１ 未就学児への調査

ウ 短期入所（ショートステイ）

○ 現在の利用状況



○ 今後の利用希望



問27 問26でア～ウの「現在の利用状況」のいずれかで「1」（利用している）と回答した方におたずねします

① 現在利用しているサービスについて、どのように感じますか。

（現在利用しているサービスごとに、1つに○）

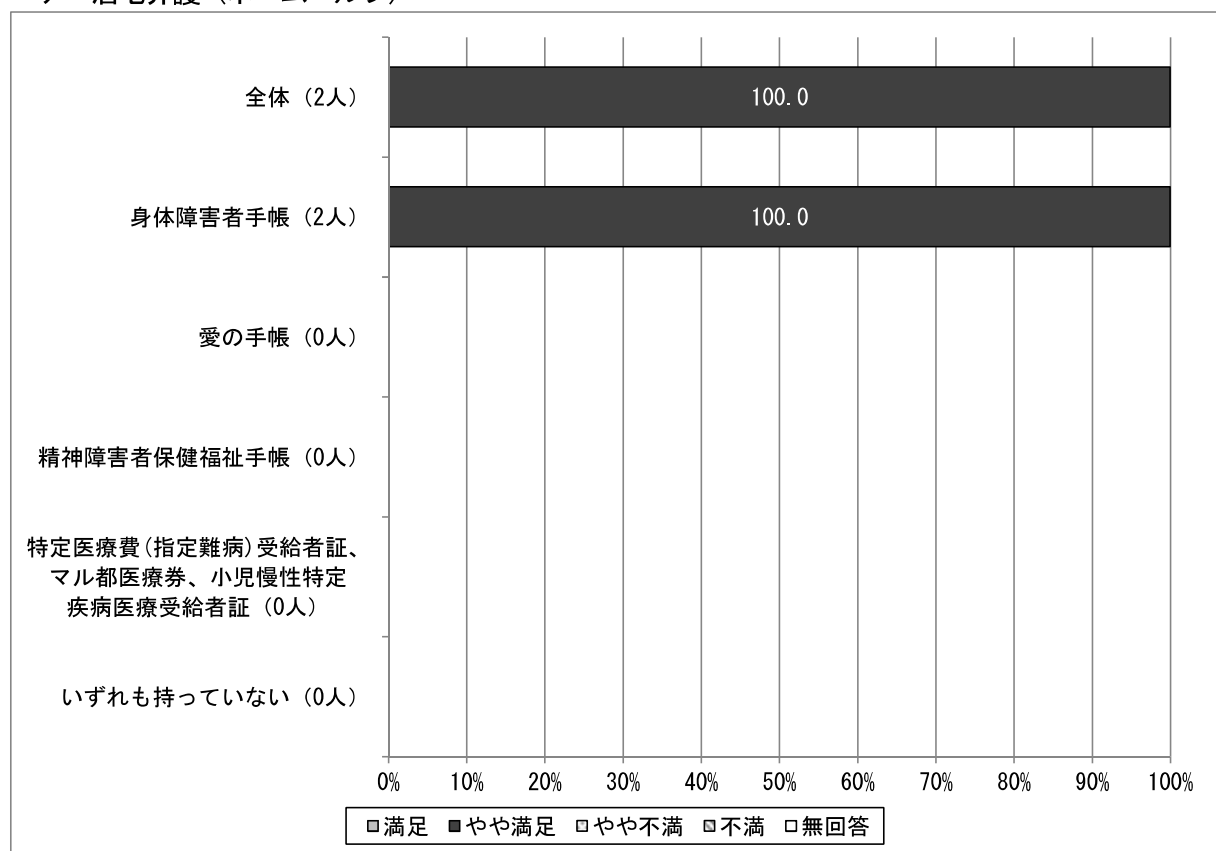
＜全体の傾向＞

居宅介護（ホームヘルプ）（該当者2人）の満足度について、2人とも「やや満足」と回答しています。

行動援護（該当者1人）の満足度について、「満足」と回答が得られています。

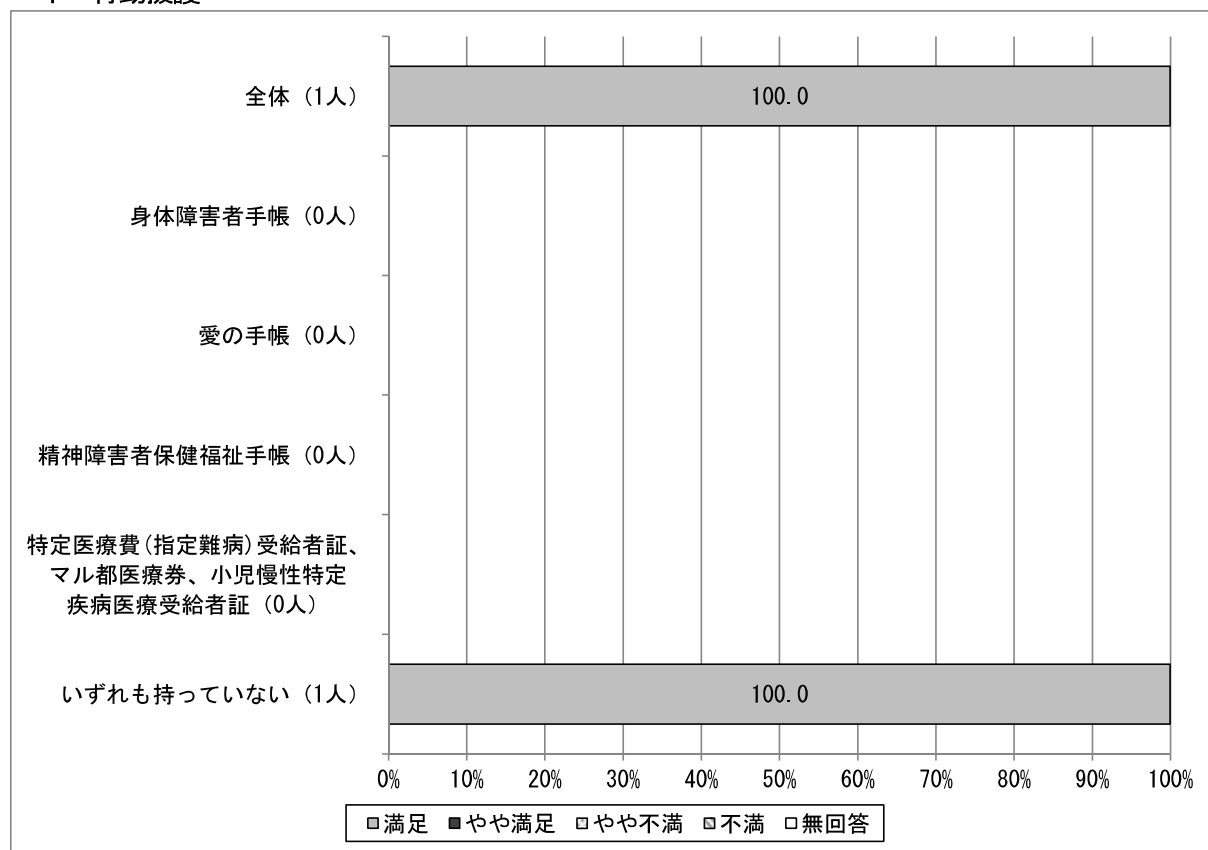
短期入所（ショートステイ）（該当者3人）の満足度について、2人が「やや満足」、1人が「やや不満」と回答しています。

ア 居宅介護（ホームヘルプ）

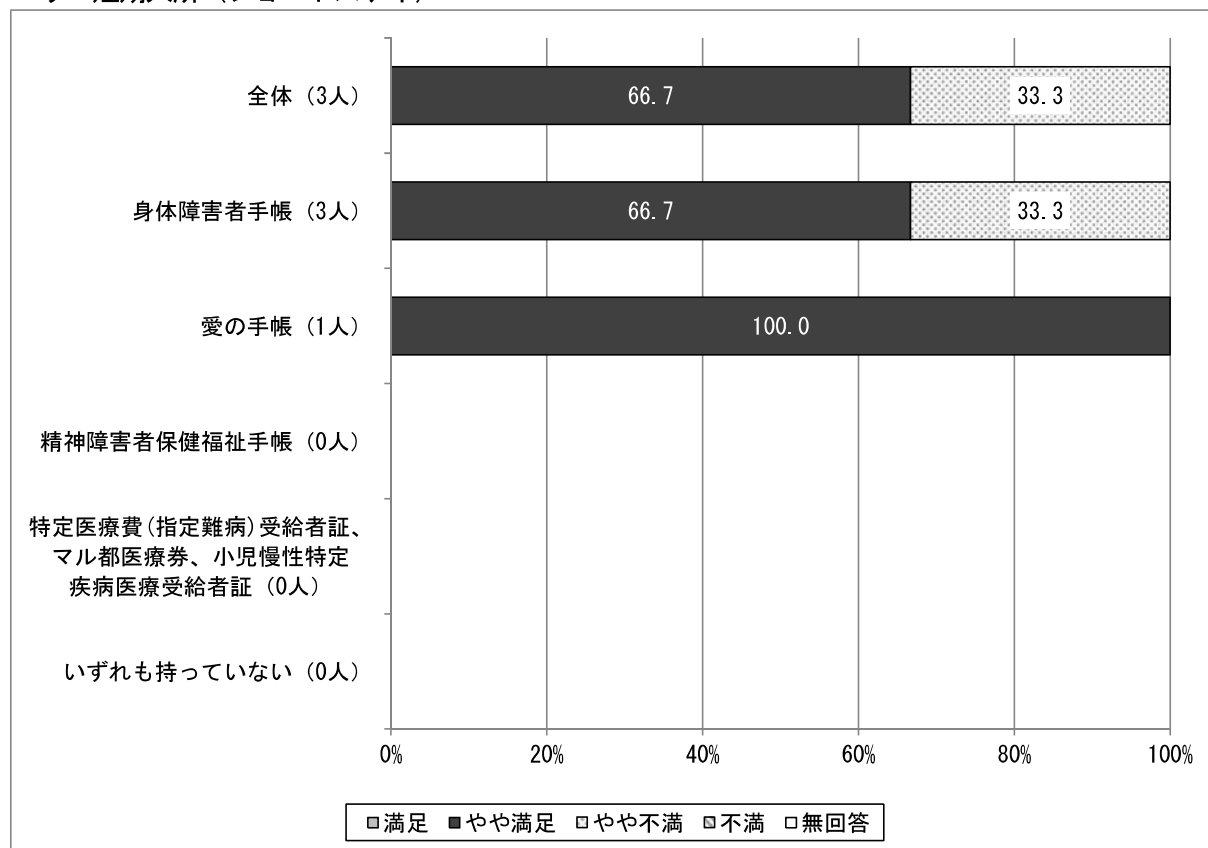


Ⅱ－１ 未就学児への調査

イ 行動援護



ウ 短期入所 (ショートステイ)



② 現在利用しているサービスについて、困っていることがありますか。

(現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○)

＜全体の傾向＞

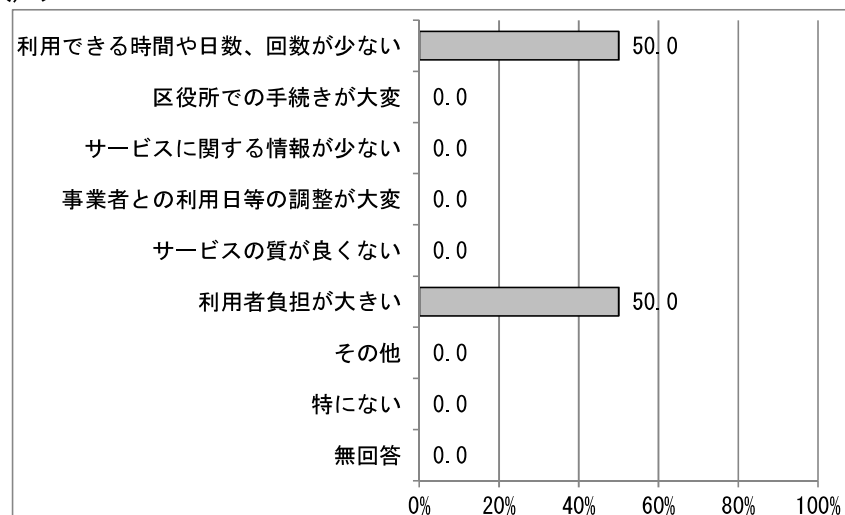
居宅介護（ホームヘルプ）（該当者2人）の困りごとについて、「利用できる時間や日数、回数が少ない」と「利用者負担が大きい」が各1人となっています。

行動援護（該当者1人）の困りごとについて、「特にない」と回答が得られています。

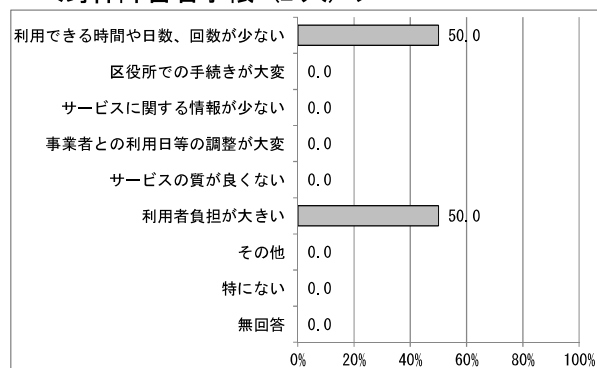
短期入所（ショートステイ）（該当者3人）の困りごとについて、「利用できる時間や日数、回数が少ない」「サービスに関する情報が少ない」「事業者との利用日等の調整が大変」「サービスの質が良くない」が各1人となっています。

ア 居宅介護（ホームヘルプ）

＜全体（2人）＞



＜身体障害者手帳（2人）＞

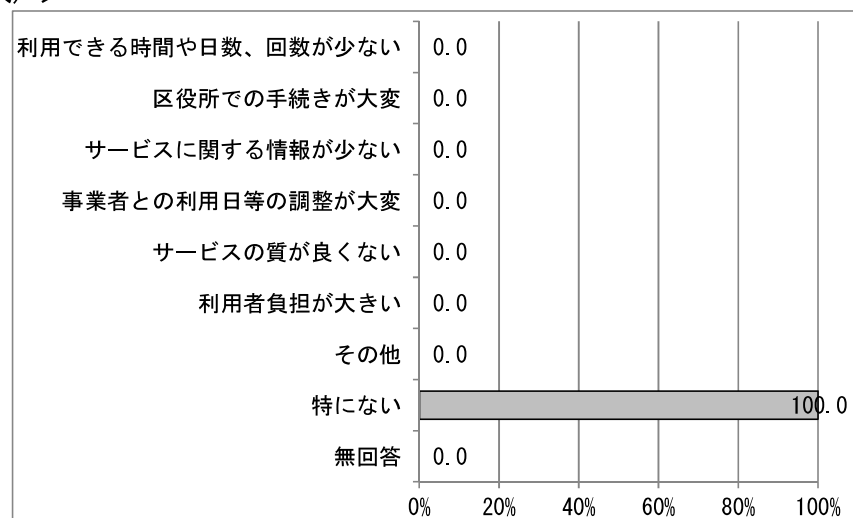


※ 回答のあった分類のみ記載

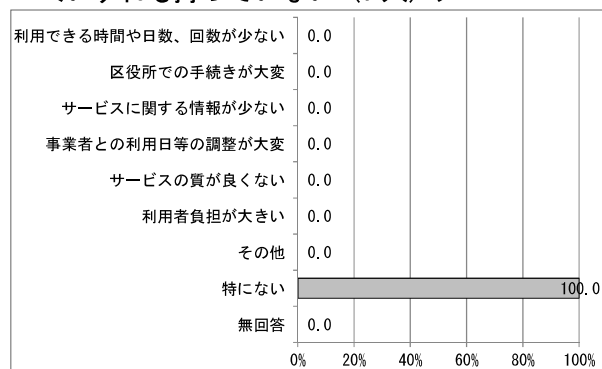
Ⅱ－１ 未就学児への調査

イ 行動援護

<全体（１人）>



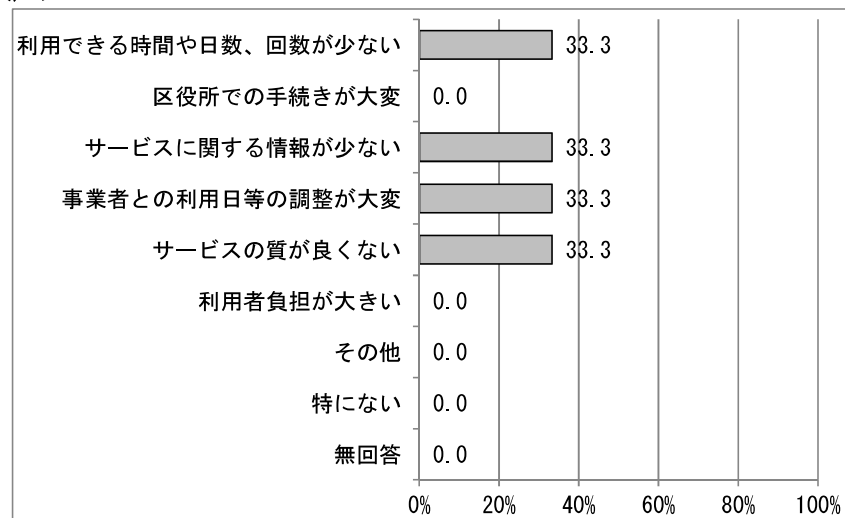
<いずれも持っていない（１人）>



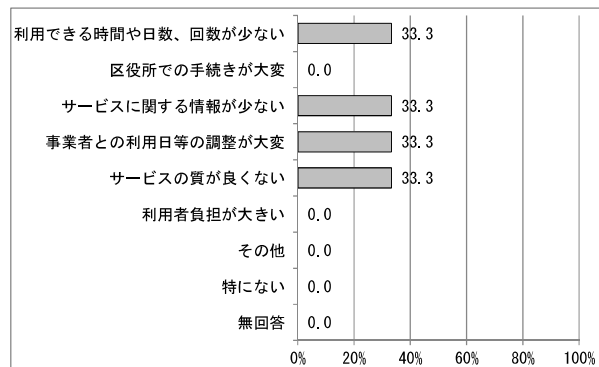
※ 回答のあった分類のみ記載

ウ 短期入所（ショートステイ）

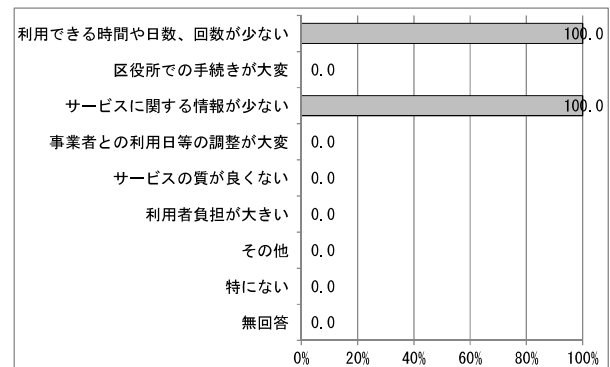
<全体（３人）>



<身体障害者手帳（３人）>



<愛の手帳（１人）>



※ 回答のあった分類のみ記載

Ⅱ－１ 未就学児への調査

- ③ ① でア～ウのいずれかで「3」または「4」（不満）と回答した方におたずねします。不満な理由は何ですか。（現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○）

<全体の傾向>

短期入所（ショートステイ）では該当者が1人いますが、無回答となっています。

ア 居宅介護（ホームヘルプ）

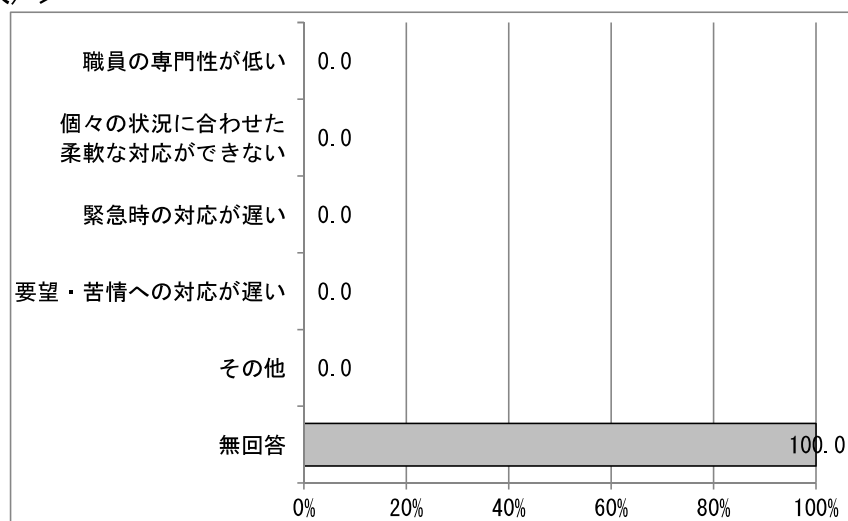
※ 該当者なし

イ 行動援護

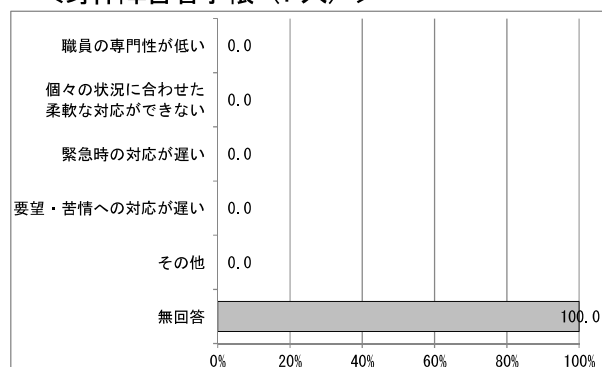
※ 該当者なし

ウ 短期入所（ショートステイ）

<全体（1人）>



<身体障害者手帳（1人）>



※ 回答のあった分類のみ記載

問28 問26でア～ウの「現在の利用状況」のいずれかで「2」（利用していない）と回答した方におたずねします。現在利用していないサービスについて、その理由は何ですか。

（現在利用していないサービスごとに、主なもの2つまでに○）

＜全体の傾向＞

障害福祉サービスを利用していない理由について、居宅介護（ホームヘルプ）では、「必要がない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「サービスを知らなかった」が17.9%、「利用方法がわからない」が17.1%となっています。

行動援護では、「必要がない」が62.4%と最も割合が高く、次いで「サービスを知らなかった」が20.0%、「利用方法がわからない」が18.4%となっています。

短期入所（ショートステイ）では、「必要がない」が60.5%と最も割合が高く、次いで「利用方法がわからない」が21.0%、「サービスを知らなかった」が16.1%となっています。

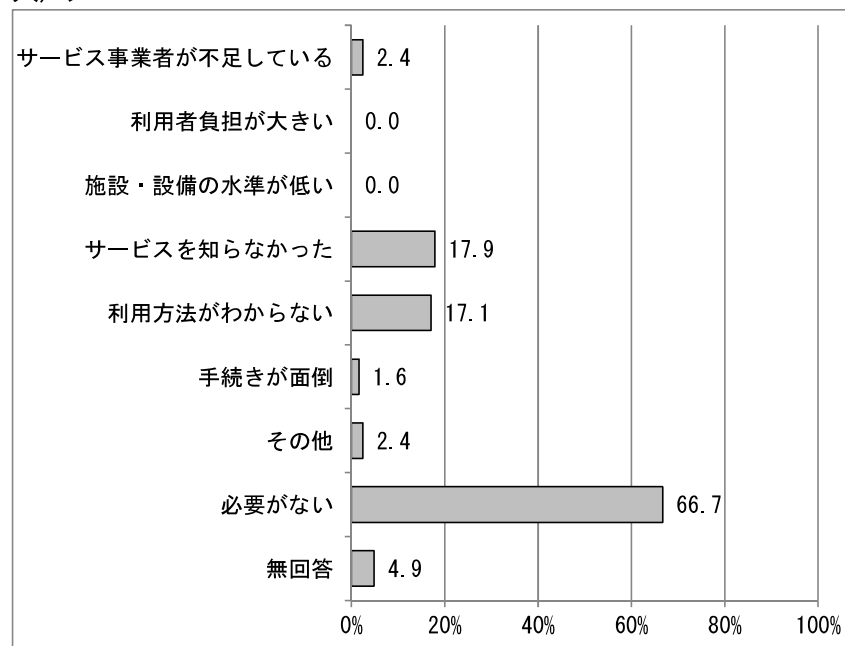
＜手帳種別の傾向＞

「サービス事業者が不足している」は「身体障害者手帳」「愛の手帳」でのみ回答がみられます。

「いずれも持っていない」では「必要がない」が73.7%と比較的高い割合となっています。

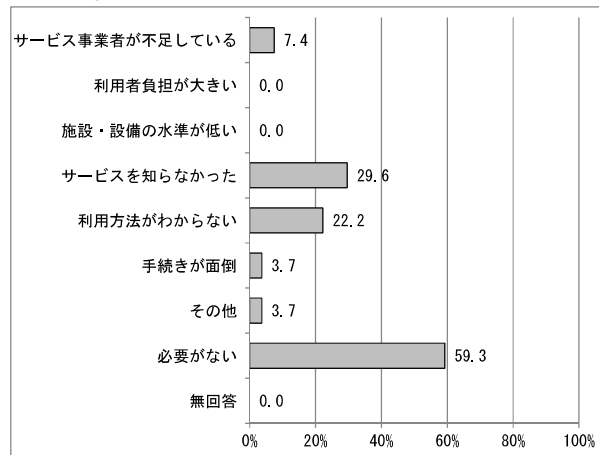
ア 居宅介護（ホームヘルプ）

＜全体（123人）＞

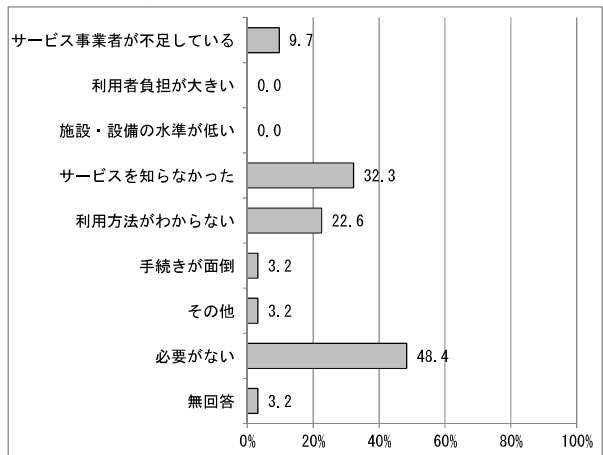


Ⅱ－１ 未就学児への調査

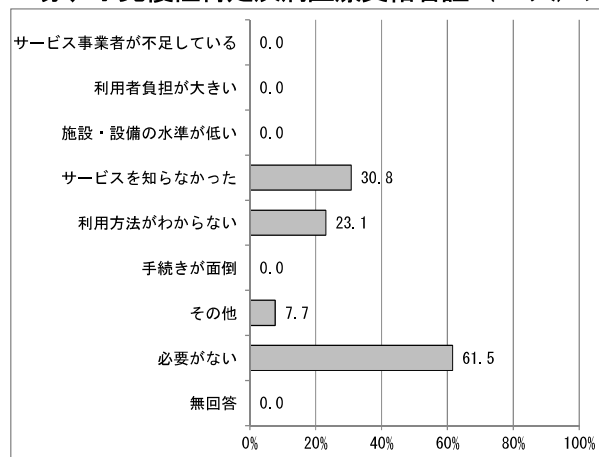
＜身体障害者手帳（27人）＞



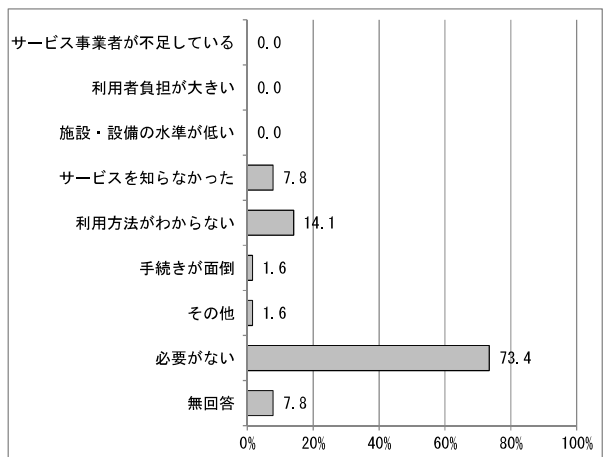
＜愛の手帳（31人）＞



＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（13人）＞

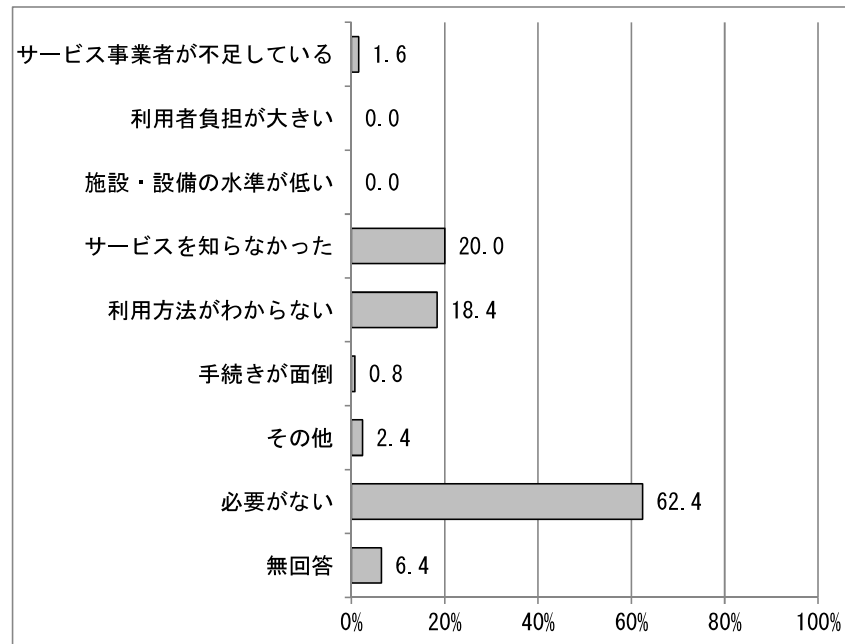


＜いずれも持っていない（64人）＞

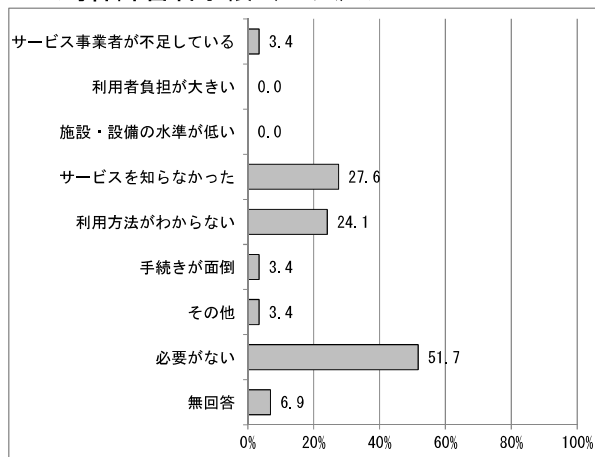


イ 行動援護

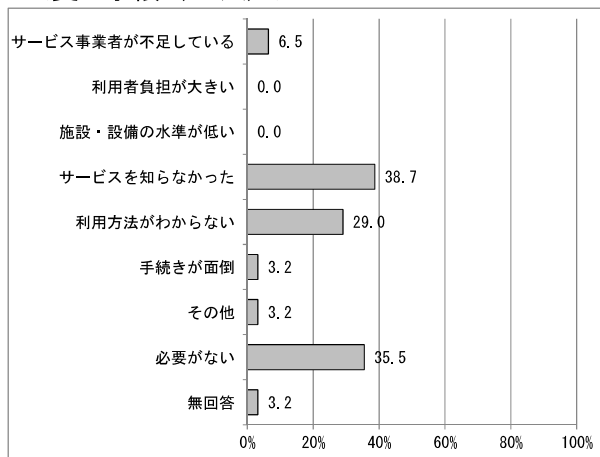
＜全体（125人）＞



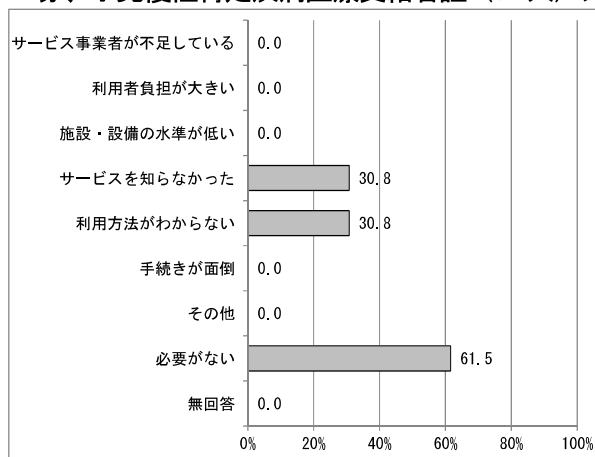
＜身体障害者手帳（29人）＞



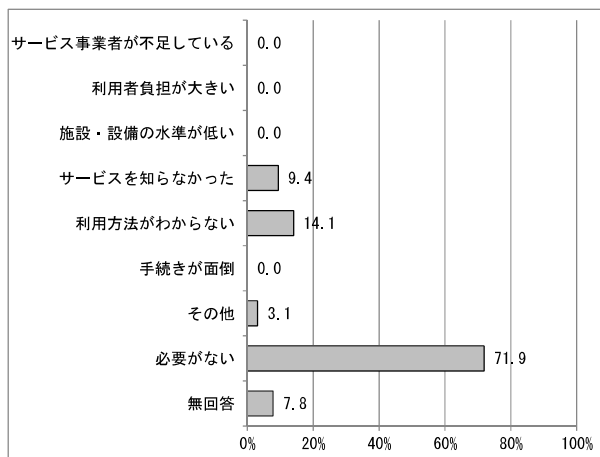
＜愛の手帳（31人）＞



＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（13人）＞

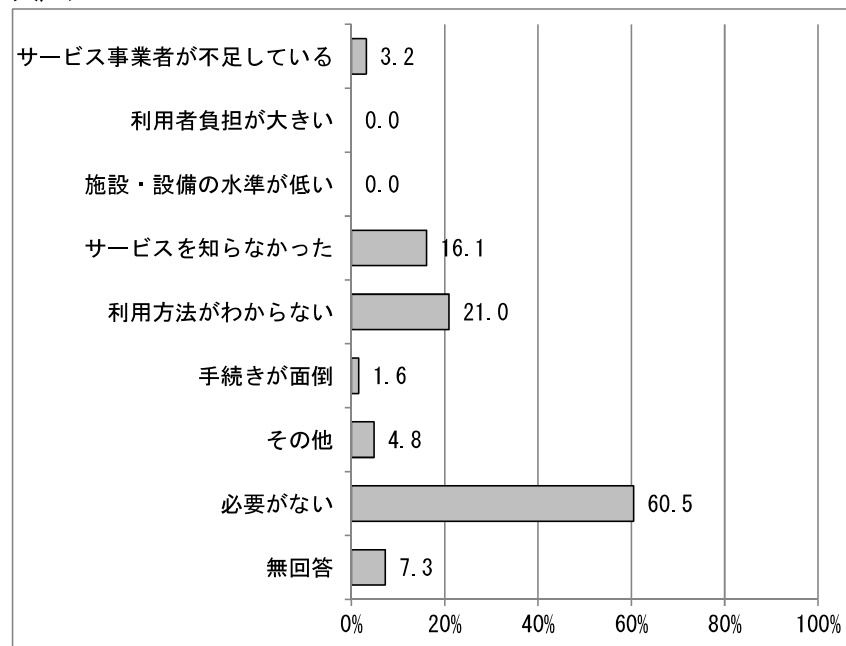


＜いずれも持っていない（64人）＞

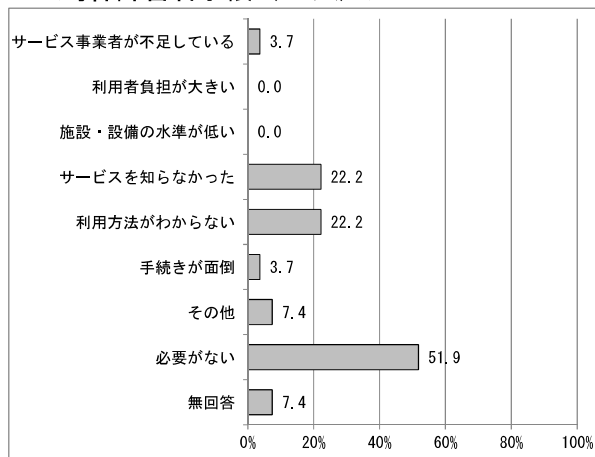


Ⅱ－１ 未就学児への調査

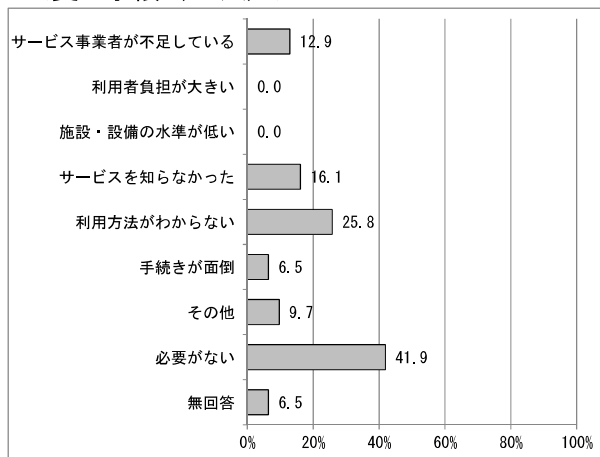
ウ 短期入所（ショートステイ） ＜全体（124人）＞



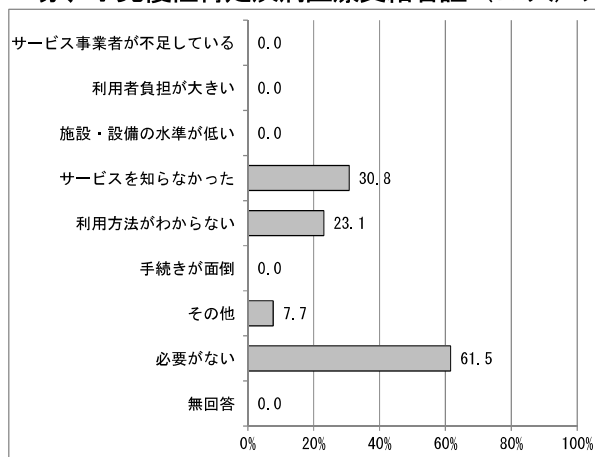
＜身体障害者手帳（27人）＞



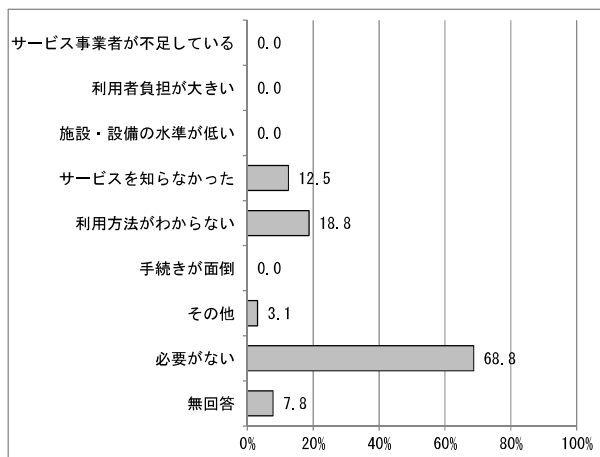
＜愛の手帳（31人）＞



＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（13人）＞



＜いずれも持っていない（64人）＞



障害に対する理解について

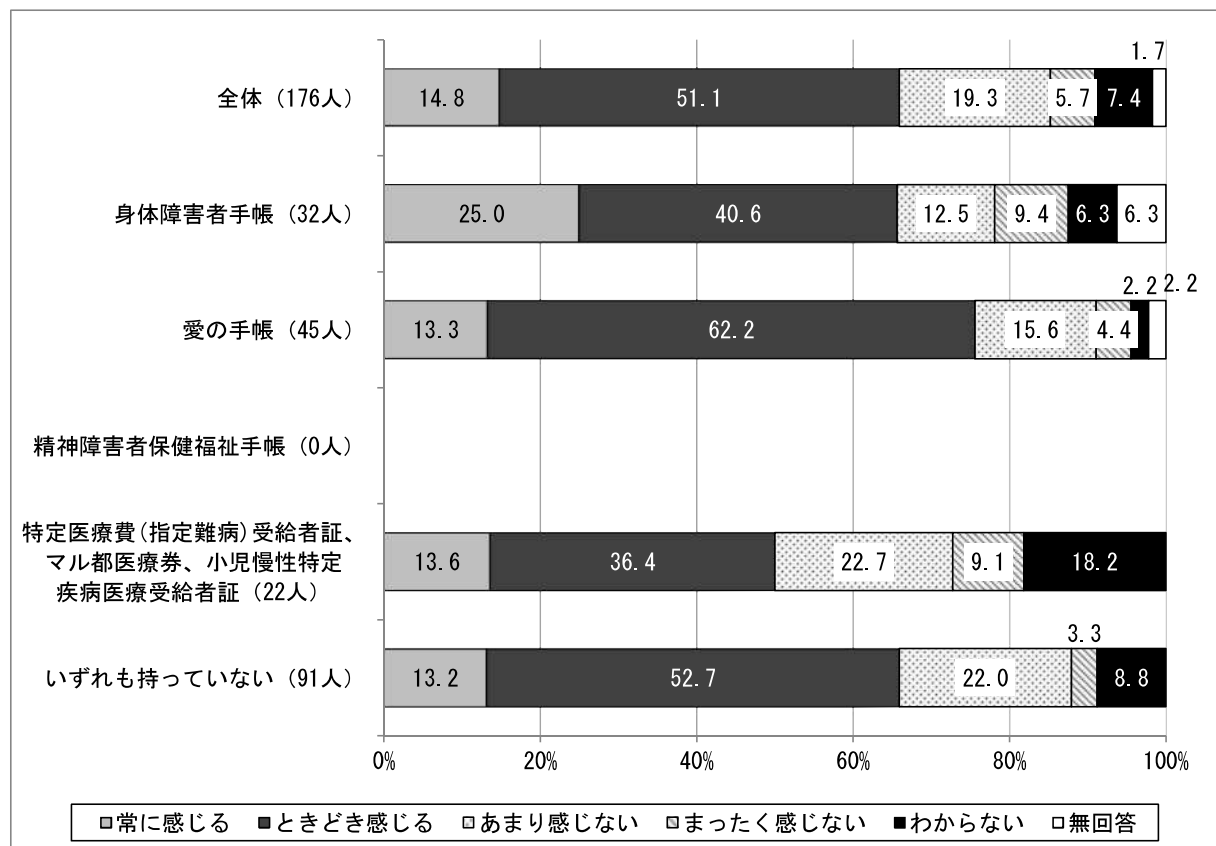
問 29 普段の暮らしの中で、障害や病気への差別・偏見を感じるときがありますか。（１つに○）

<全体の傾向>

障害や病気への差別・偏見について、「ときどき感じる」が 51.1%と最も割合が高く、次いで「あまり感じない」が 19.3%、「常を感じる」が 14.8%となっている。

<手帳種別の傾向>

「愛の手帳」では、「常を感じる」が 13.3%、「ときどき感じる」が 62.2%と合わせると 70%以上で比較的高い割合となっています。



Ⅱ－１ 未就学児への調査

問 30 周囲の人たちに対して、障害への理解を進めていくためにどのようなことを重視すべきだと思いますか。（主なもの2つまでに○）

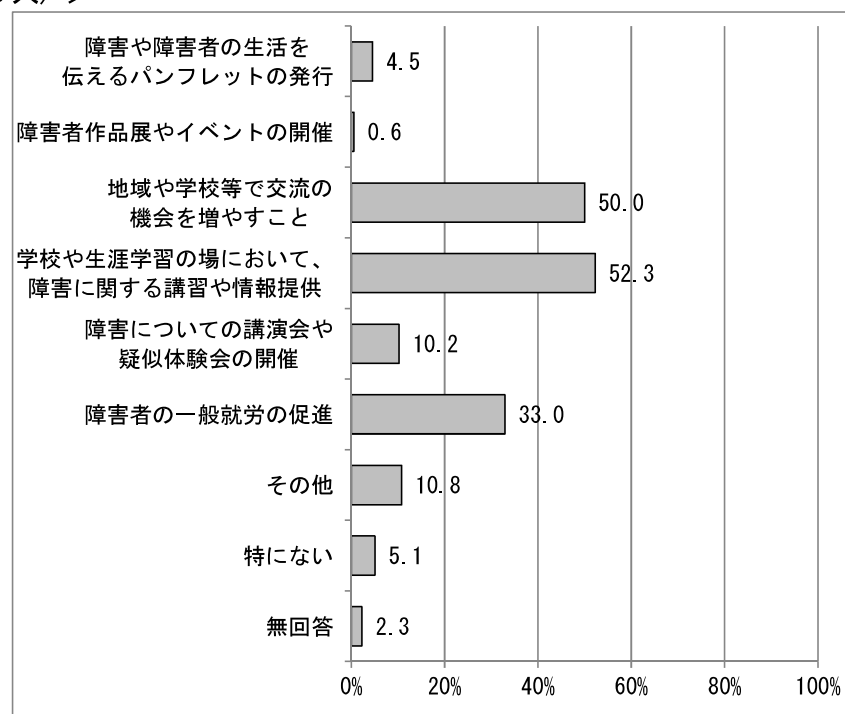
＜全体の傾向＞

障害への理解を進めていくために重視すべきことについて、「学校や生涯学習の場において、障害に関する講習や情報提供」が52.3%と最も割合が高く、次いで「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」が50.0%、「障害者の一般就労の促進」が33.0%となっています。

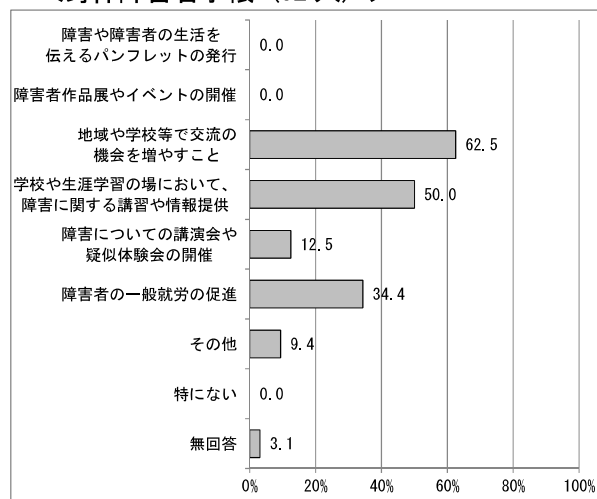
＜手帳種別の傾向＞

「身体障害者手帳」と「愛の手帳」、「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では「地域や学校での交流の機会を増やすこと」が60%以上で最も割合が高くなっています。

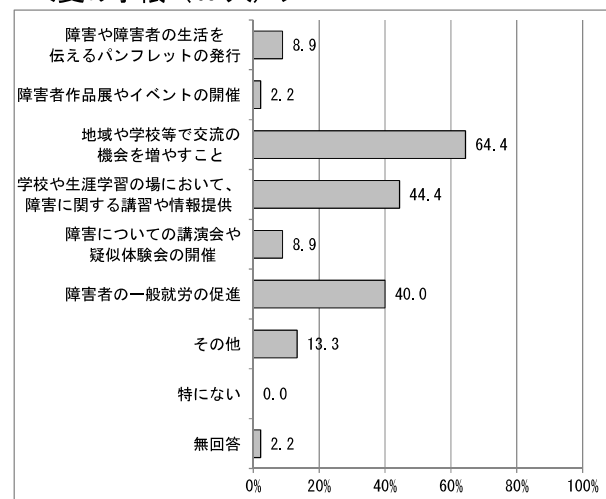
＜全体（176人）＞



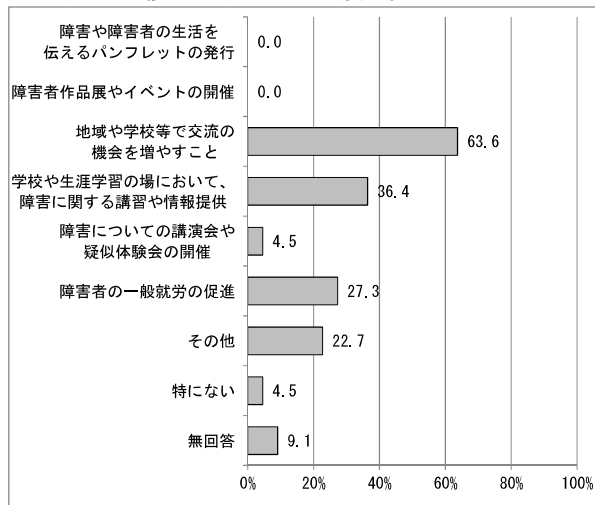
＜身体障害者手帳（32人）＞



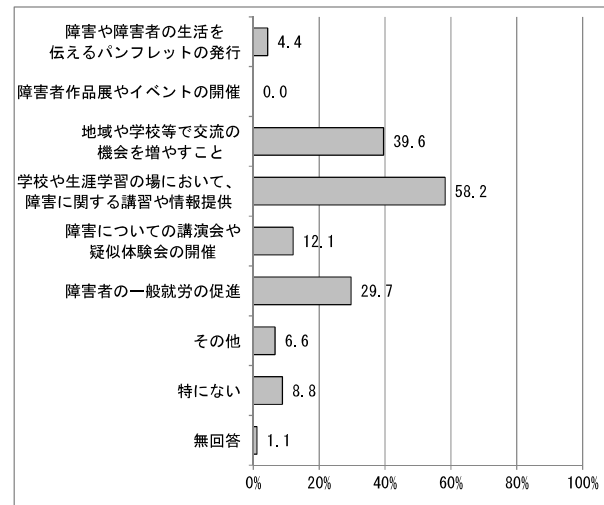
＜愛の手帳（45人）＞



＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証(22人)＞



＜いずれも持っていない(91人)＞



Ⅱ－１ 未就学児への調査

問31 品川区は、お子さんやご家族の方にとって暮らしやすいまちですか。（１つに○）

＜全体の傾向＞

品川区の暮らしやすさについて「どちらかという暮らしやすい」が50.6%と最も割合が高く、次いで「どちらかという暮らしにくい」が15.9%、「わからない」が14.2%となっています。

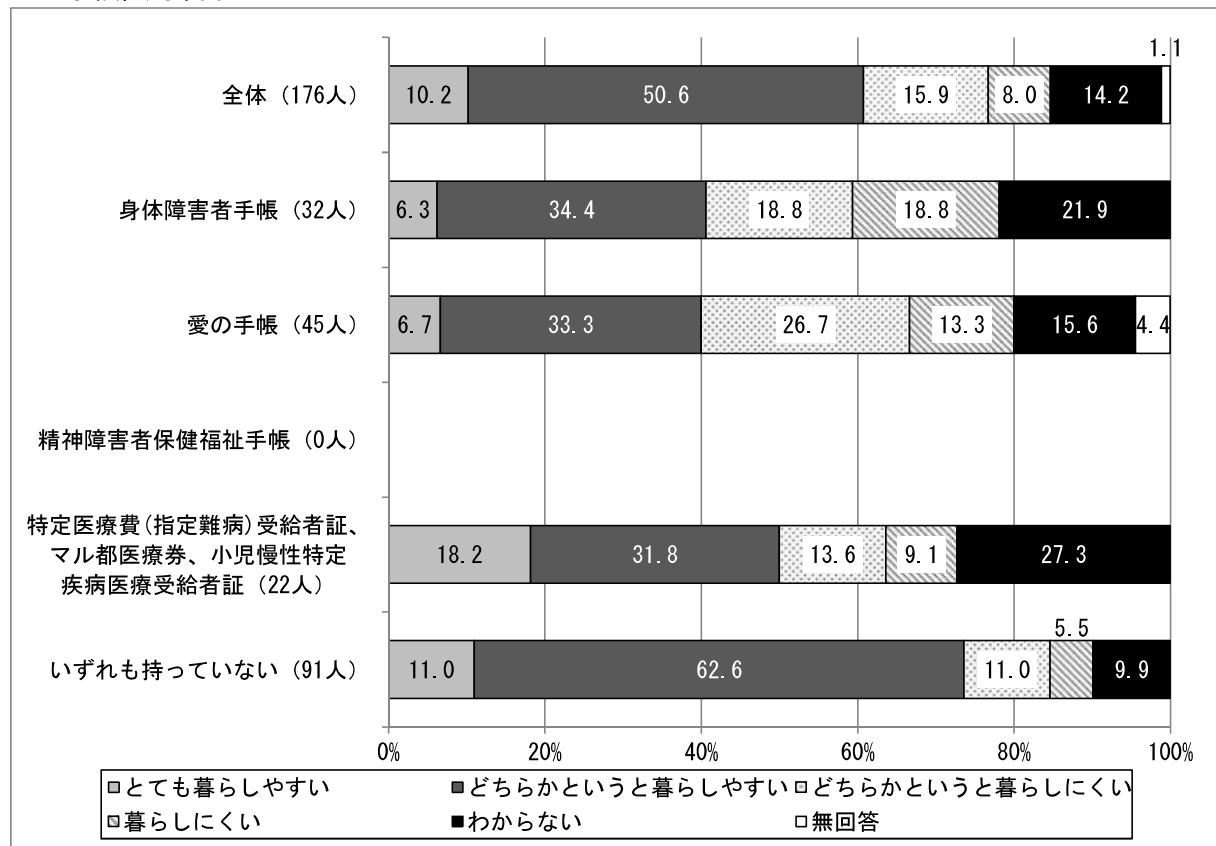
＜手帳種別の傾向＞

「いずれも持っていない」では、「どちらかという暮らしやすい」が62.6%、「とても暮らしやすい」が11.0%と合わせると暮らしやすいとの回答が70%以上となっています。

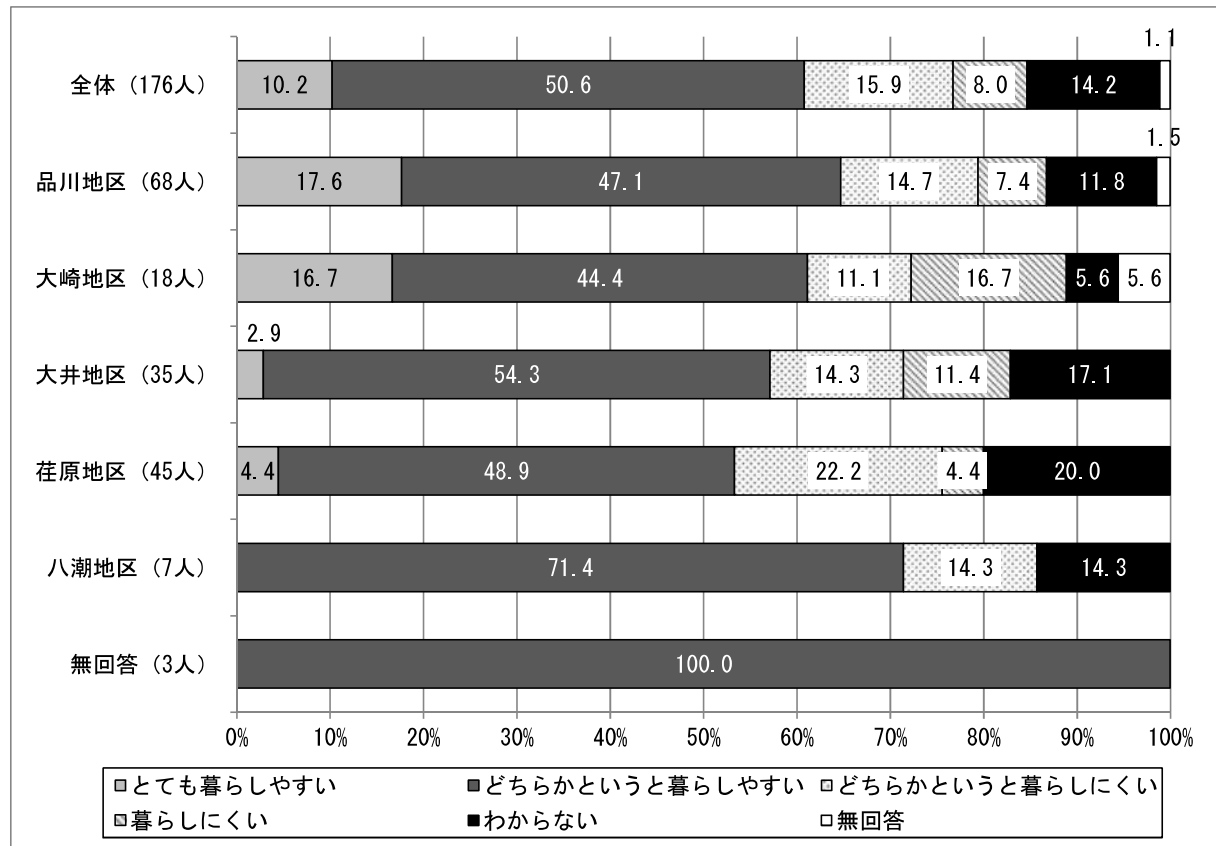
＜地区別の傾向＞

地区別の特徴はみられません。

＜手帳種別集計＞



<地区別集計>



生活の状況・区の施策について

問 32 障害のある方が地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。

(主なものを2つまでに○)

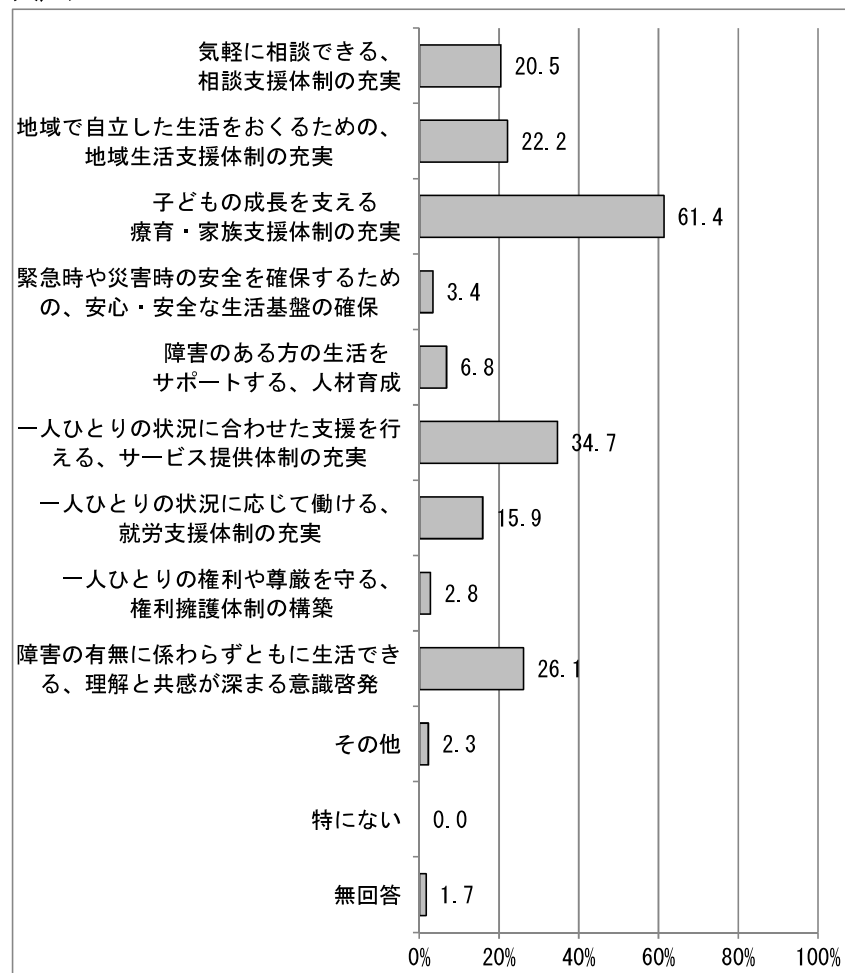
<全体の傾向>

安心していくために重要な施策について、「子どもの成長を支える療育・家族支援体制の充実」が61.4%と最も割合が高く、次いで「一人ひとりの状況に合わせた支援を行える、サービス提供体制の充実」が34.7%、「障害の有無に係わらずとも生活できる、理解と共感が深まる意識啓発」が26.1%となっています。

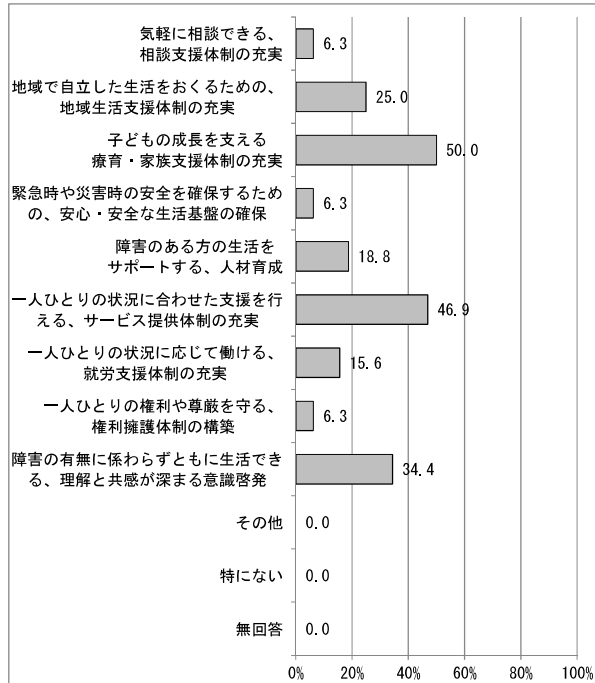
<手帳種別の傾向>

手帳種別の特徴はみられません。

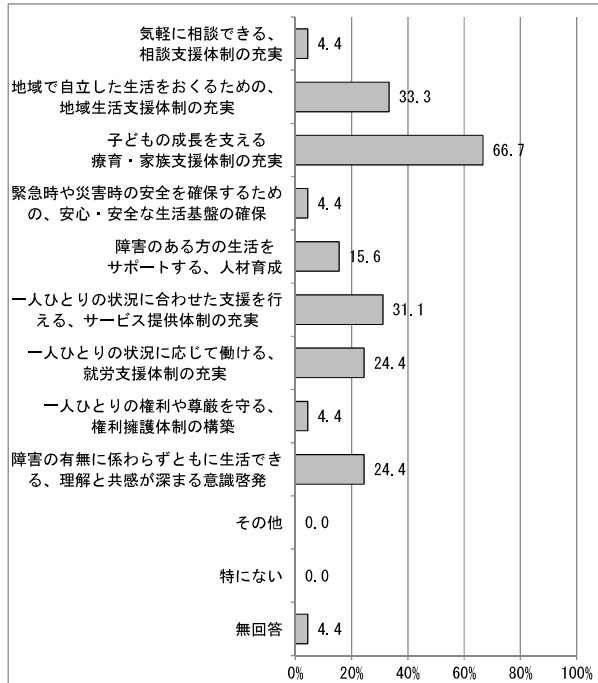
<全体（176人）>



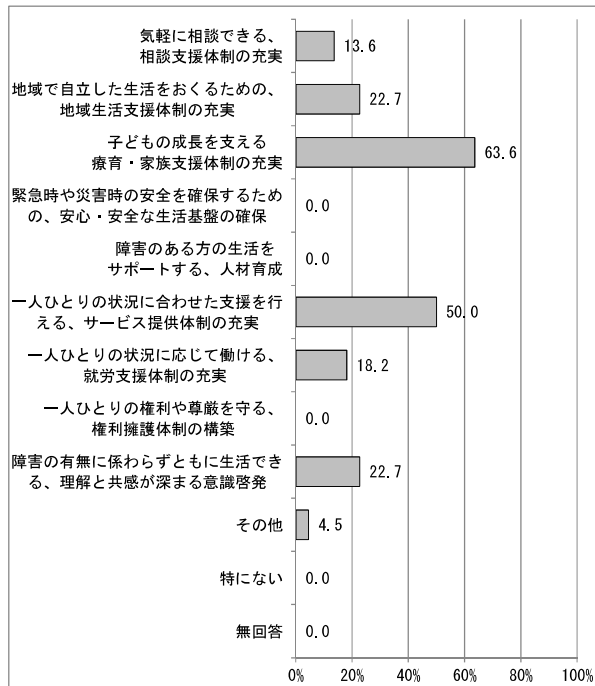
＜身体障害者手帳（32人）＞



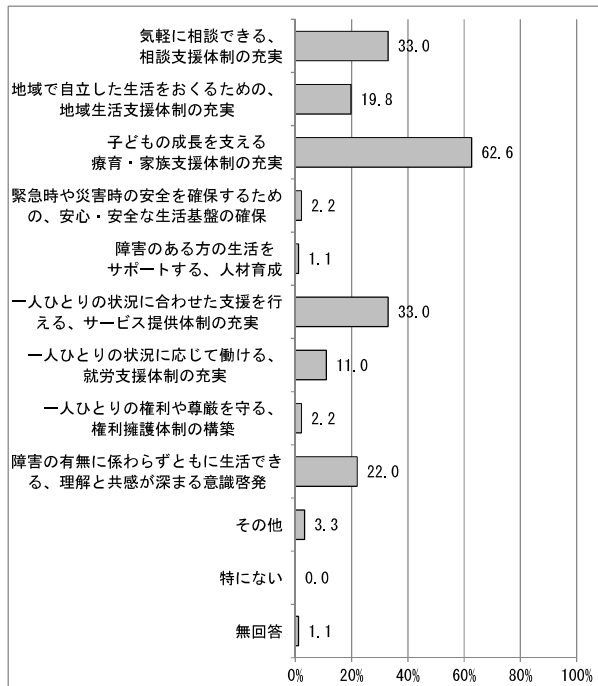
＜愛の手帳（45人）＞



＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（22人）＞



＜いずれも持っていない（91人）＞



Ⅱ－１ 未就学児への調査

問 33 障害のある方への支援施策について、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

障害児等への支援施策について、「行政施策について」「サービス・質の向上について」の回答が多くみられます。

分 類	回答数
行政施策・体制について	86
サービス・質の向上について	77
施設の整備・充実について	33
生活環境の改善について	27
施設利用しやすさについて	25
他地域との比較で感じることにについて	25
子どもの学習・将来について	24
経済的支援について	13
情報収集、情報発信について	13
その他	19

※ 自由記述の内容を分類。複数回答あり。

２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

お子さん・世帯の状況について

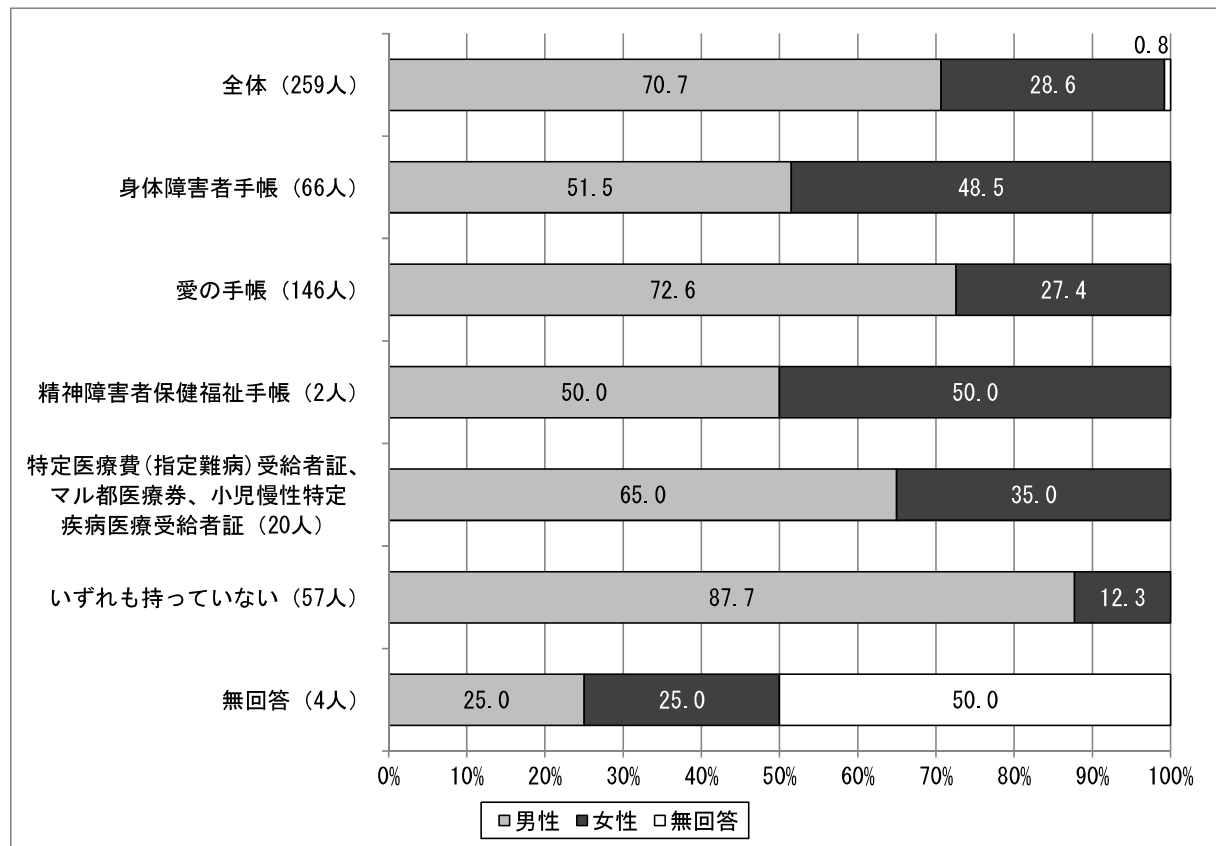
問１ お子さんの性別をお答えください。（１つに○）

＜全体の傾向＞

子どもの性別について、「男性」が 70.7%、「女性」が 28.6%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

「いずれも持っていない」では、「男性」が 87.7%、「愛の手帳」では、「男性」が 72.6%と比較的高い割合となっています。



Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

問２ 平成 29 年 4 月 2 日現在のお子さんの年齢をお答えください。（数字を記入）

＜全体の傾向＞

子どもの年齢について、「6 歳」が 12.7%と最も割合が高く、次いで「7 歳」が 11.2%、「8 歳」が 10.4%となっています。

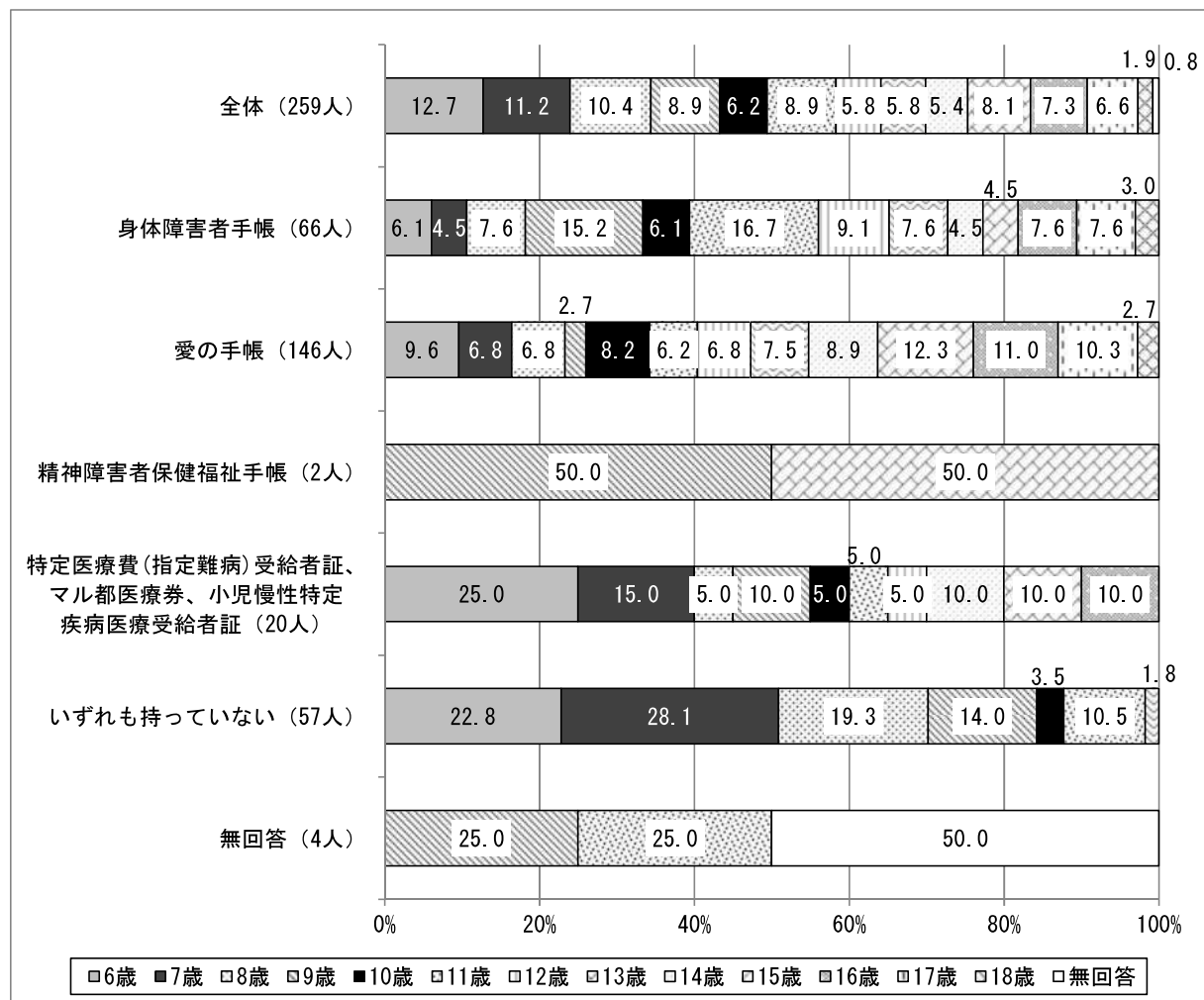
＜手帳種別の傾向＞

「身体障害者手帳」では、「11 歳」が 16.7%と最も割合が高く、次いで「9 歳」が 15.2%、「12 歳」が 9.1%となっています。

「愛の手帳」では、「15 歳」が 12.3%と最も割合が高く、次いで「16 歳」が 11.1%、「17 歳」が 10.3%となっています。

「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「6 歳」が 25.0%と最も割合が高く、次いで「7 歳」が 15.0%、「4 歳」と「9 歳」、「10 歳」、「11 歳」が 10.0%となっています。

「いずれも持っていない」では、「7 歳」が 28.1%で最も割合が高く、次いで「6 歳」が 22.8%で合わせると過半数を占めています。

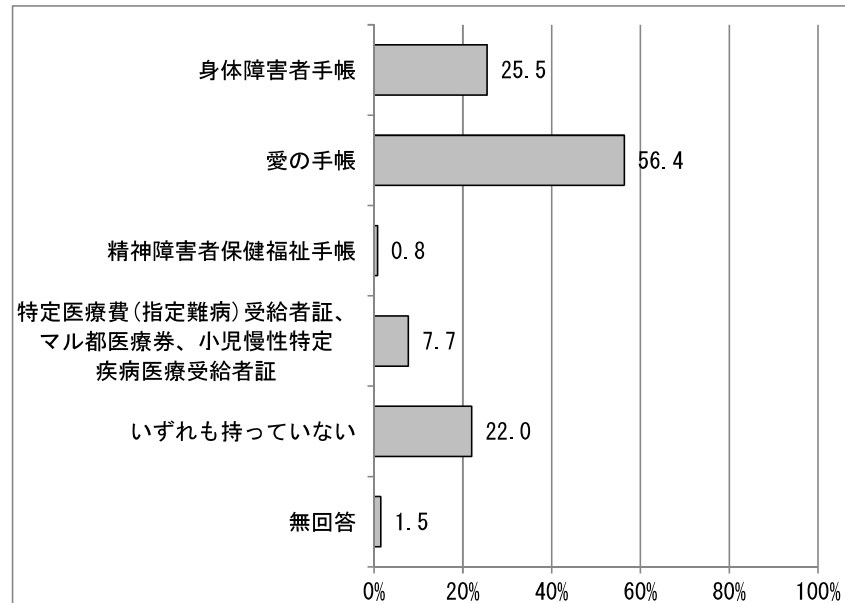


問３ お子さんがお持ちの障害者手帳の種類と等級をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

(１) 手帳の種類

障害者手帳の種類について、「愛の手帳」が 56.4%と最も割合が高く、「身体障害者手帳」が 25.5%、「いずれも持っていない」が 22.0%となっています。

<全体 (259 人) >



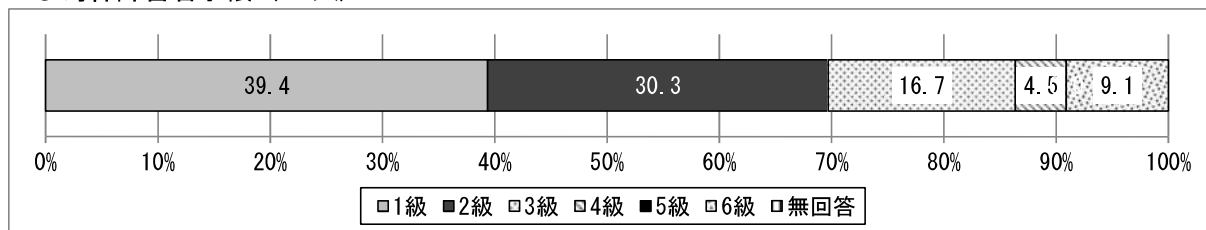
Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

(2) 手帳の等級

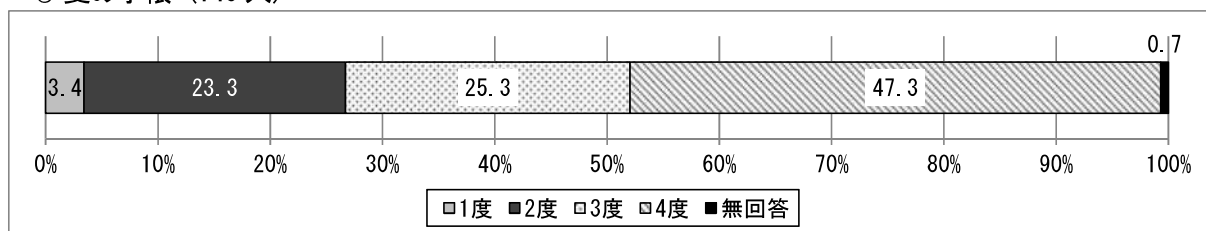
障害者手帳の等級について、「身体障害者手帳」では「1級」が 39.4%と最も割合が高く、次いで「2級」が 30.3%、「3級」が 16.7%となっています。

また、「愛の手帳」では「4度」が 47.3%が最も割合が高く、次いで「3度」が 25.3%、「2度」が 23.3%となっています。

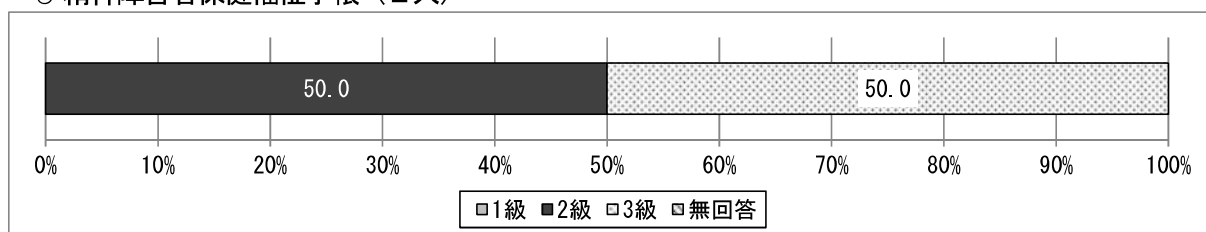
○ 身体障害者手帳（66 人）



○ 愛の手帳（146 人）



○ 精神障害者保健福祉手帳（2 人）



問４ 現在お住まいの地区をお答えください。（１つに○）

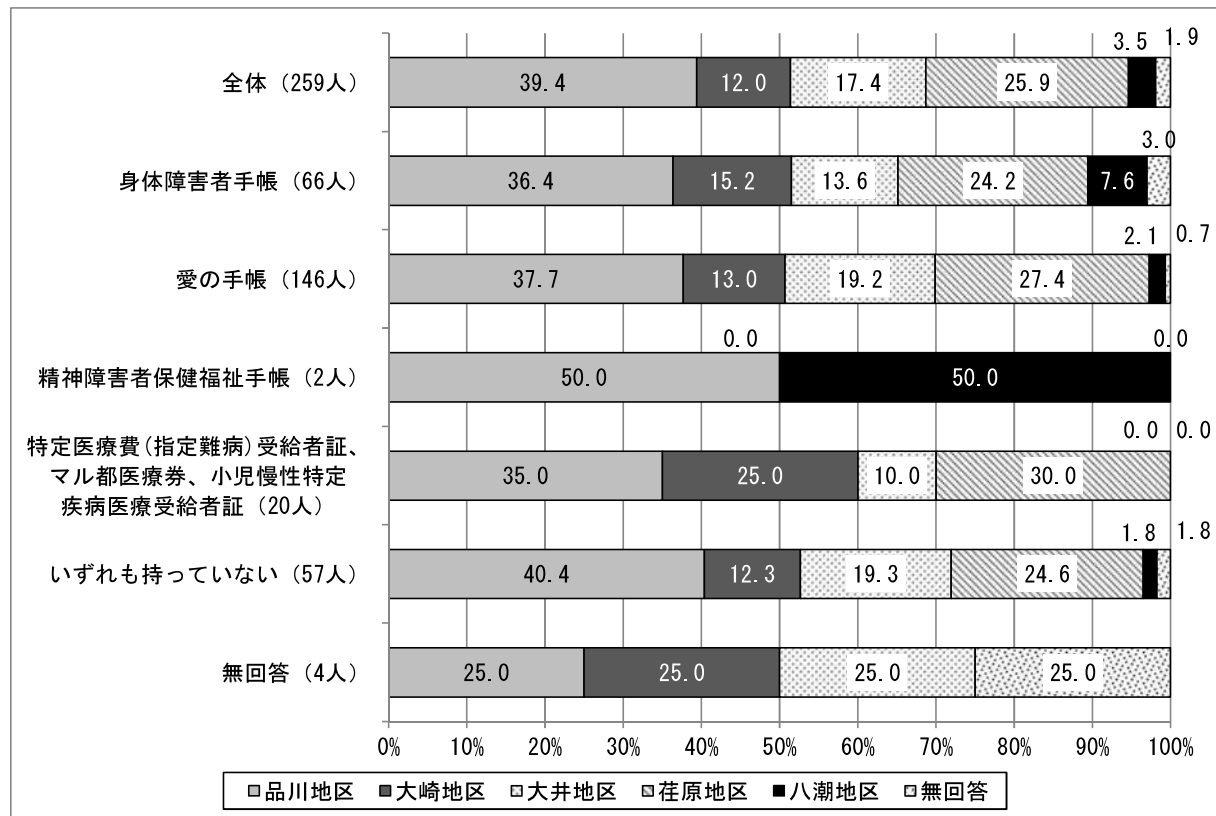
＜全体の傾向＞

現在の居住地区について、「品川地区」が 39.4%と最も割合が高く、次いで「荏原地区」が 25.9%、「大井地区」が 17.4%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

「身体障害者手帳」と「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「品川地区」が最も割合が高く、次いで「荏原地区」、「大崎地区」となっています。

また、「愛の手帳」と「いずれも持っていない」では、「品川地区」が最も割合が高く、次いで「荏原地区」、「大井地区」となっています。



Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

問５ 現在同居している家族をすべてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

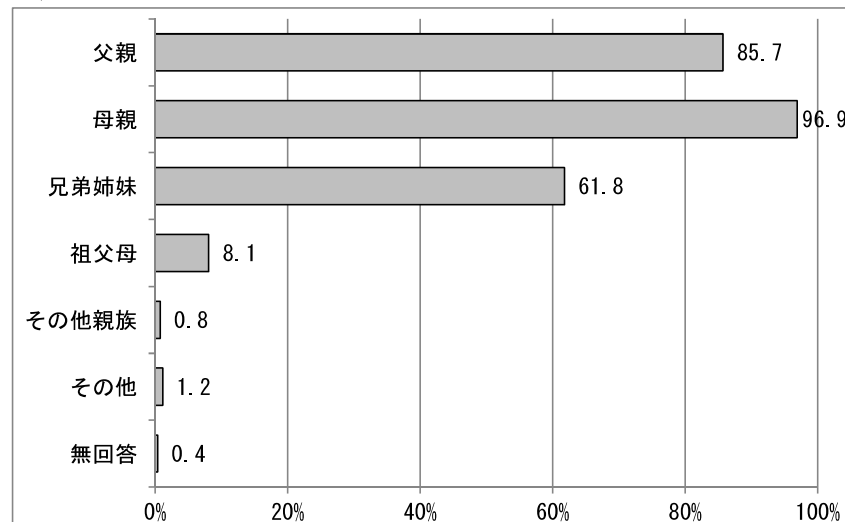
＜全体の傾向＞

同居している家族について、「母親」が 96.9%と最も割合が高く、次いで「父親」が 85.7%、「兄弟姉妹」が 61.8%となっています。

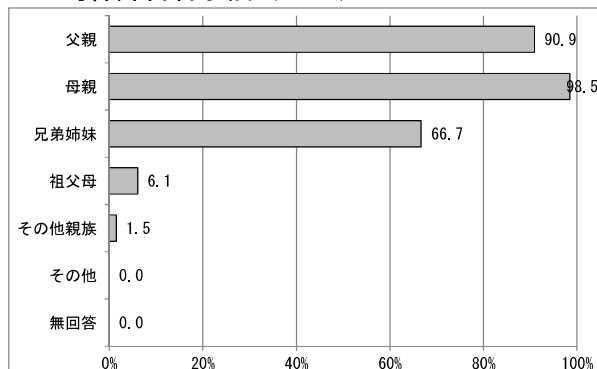
＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。

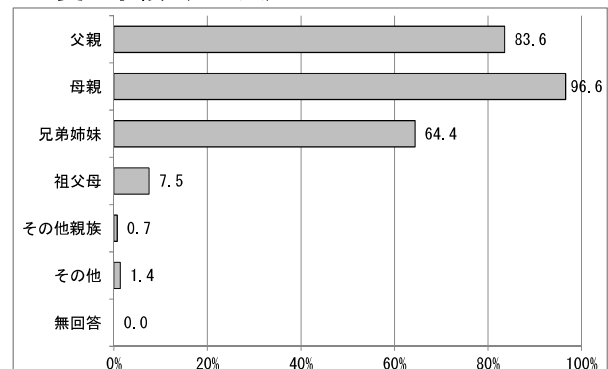
＜全体（259 人）＞



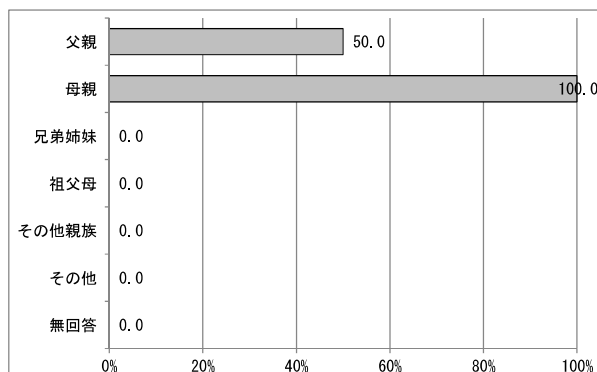
＜身体障害者手帳（66 人）＞



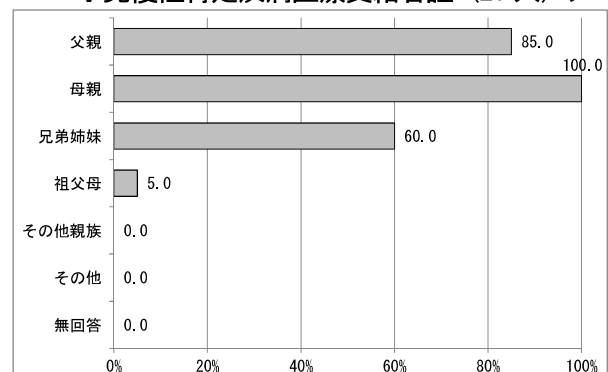
＜愛の手帳（146 人）＞



＜精神障害者保健福祉手帳（2 人）＞

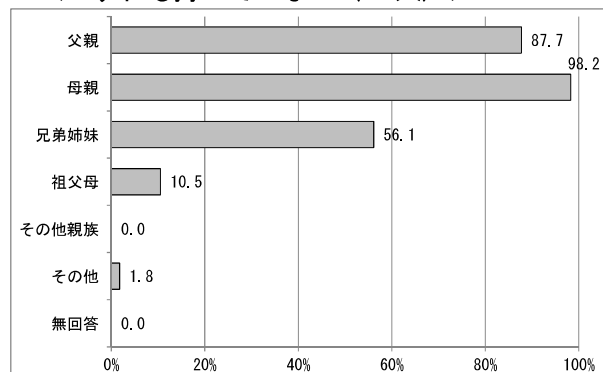


＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（20 人）＞

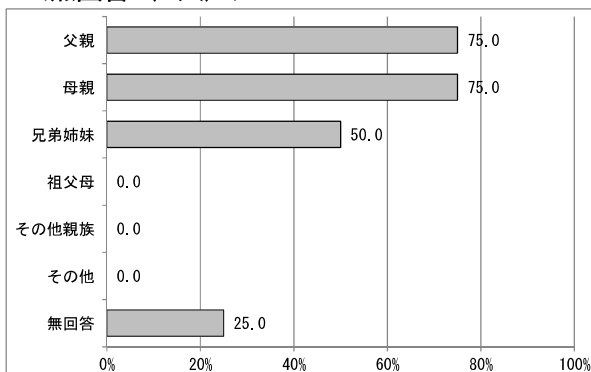


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

＜いずれも持っていない（57 人）＞



＜無回答（4 人）＞



お子さんの障害・疾病の状況について

問６ お子さんの障害（もしくは、発達・発育で気になる点）に最初に気付いたのはいつ頃ですか。

（１つに○）

＜全体の傾向＞

障害の発見時期について、「出生時」が 22.8%と最も割合が高く、次いで「２歳」が 18.1%、「１歳」と「３歳」が 16.2%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

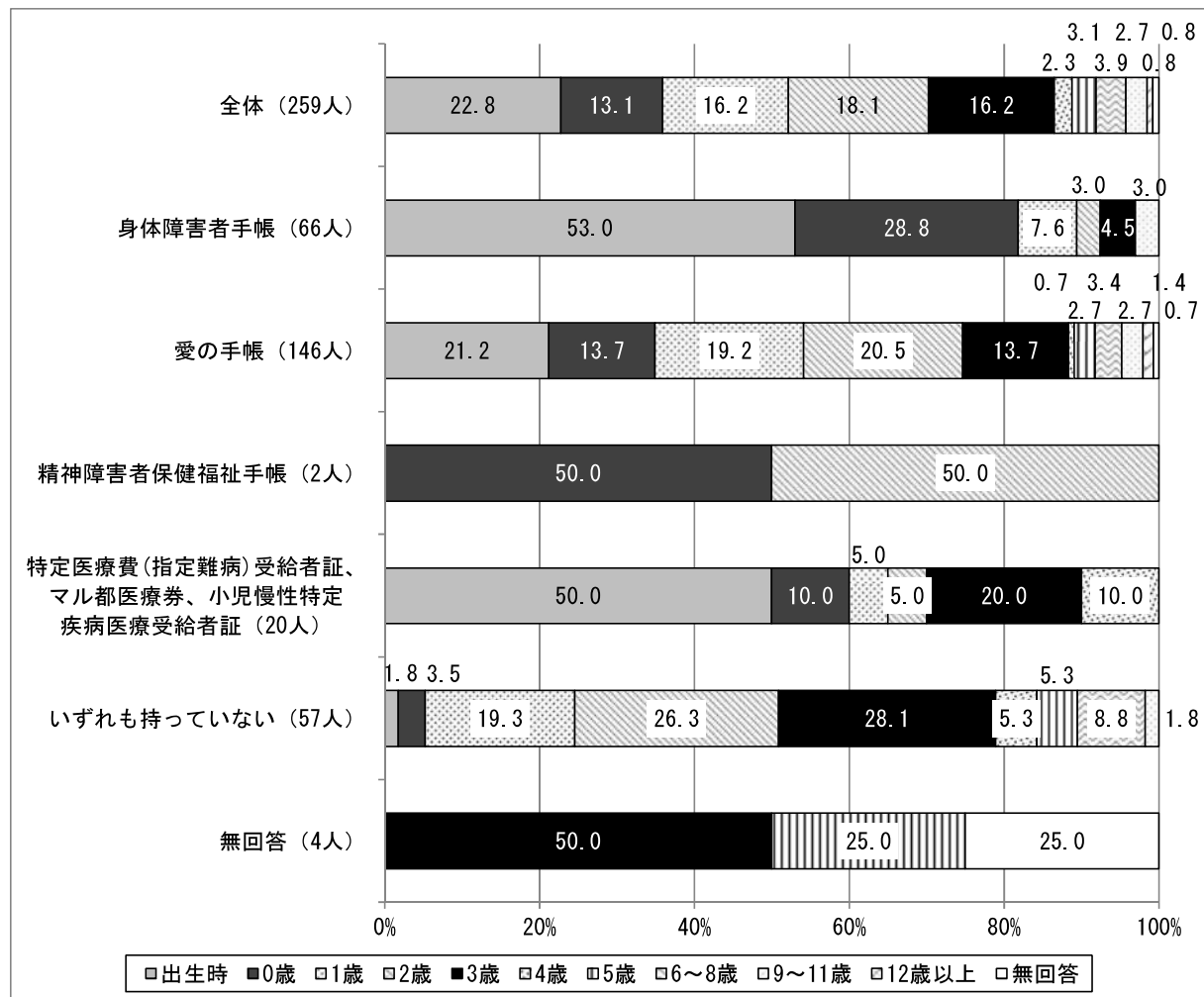
「身体障害者手帳」では、「出生時」が 53.0%と最も割合が高く、次いで「０歳」が 28.8%、「１歳」が 7.6%となっています。

「愛の手帳」では、「出生時」が 21.2%と最も割合が高く、次いで「２歳」が 20.5%、「１歳」が 19.2%となっています。

「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「出生時」が 50.0%と最も割合が高く、次いで「３歳」が 20.0%、「０歳」と「４歳」が 10.0%となっています。

「いずれも持っていない」では、「３歳」が 28.1%と最も割合が高く、次いで「２歳」が 26.3%、「１歳」が 19.3%となっており、「身体障害者手帳」と「愛の手帳」、「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」で最も割合の高い「出生時」は 1.8%と低い特徴がみられます。

Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査



Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

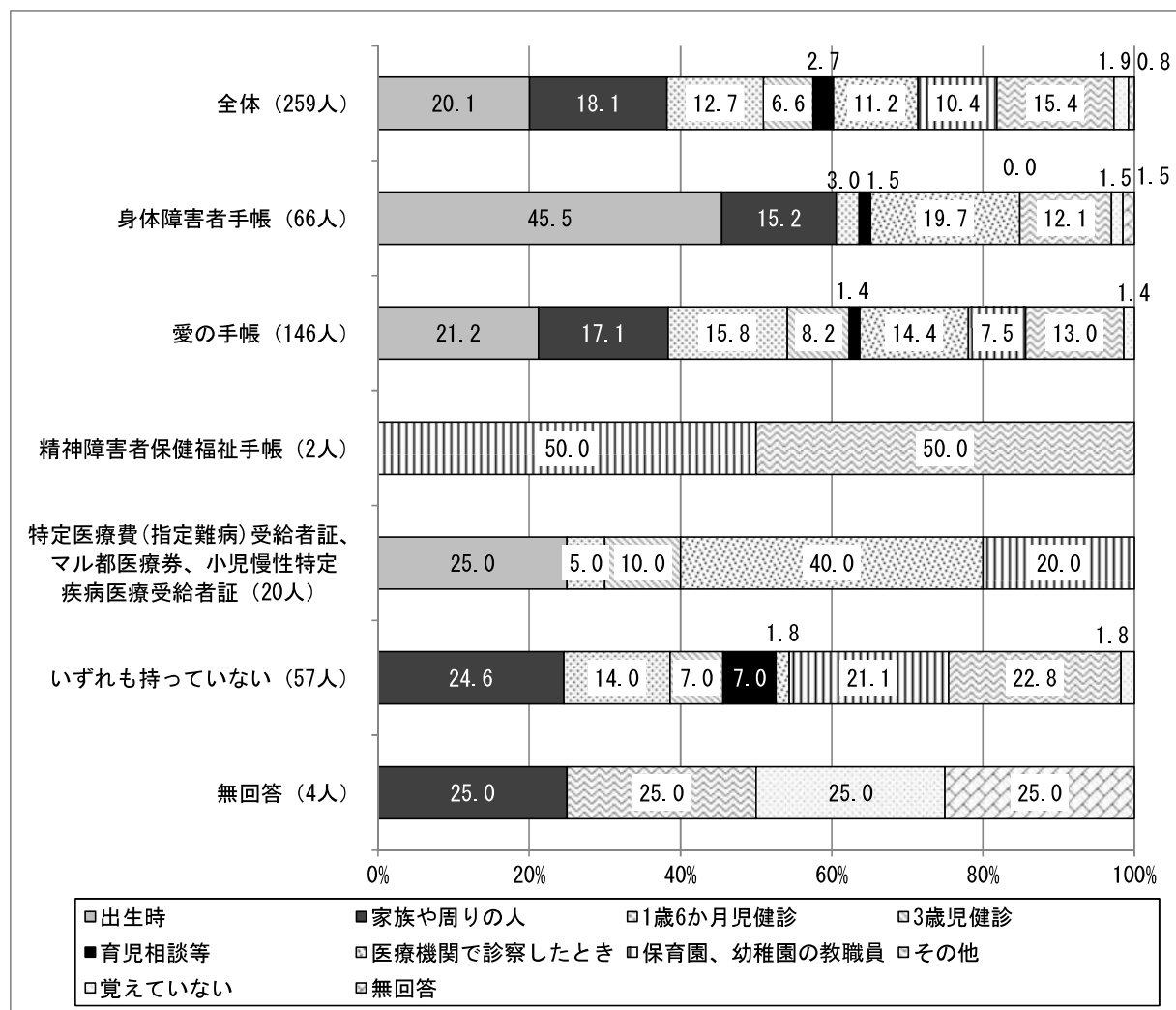
問７ お子さんの障害（もしくは、発達・発育で気になる点）について、最初に気付いたのはどのようなときでしたか。（１つに○）

<全体の傾向>

障害の発見について、「出産時」が 20.1%と最も割合が高く、次いで「家族や周りの人」が 18.1%、「その他」が 15.4%となっています。

<手帳種別の傾向>

「身体障害者手帳」、「愛の手帳」では「出産時」、「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では「医療機関で診察したとき」、「いずれも持っていない」では「家族や周りの人」が最も高い割合となっています。



問8 お子さんには、どのような障害がありますか。（あてはまるものすべてに○）

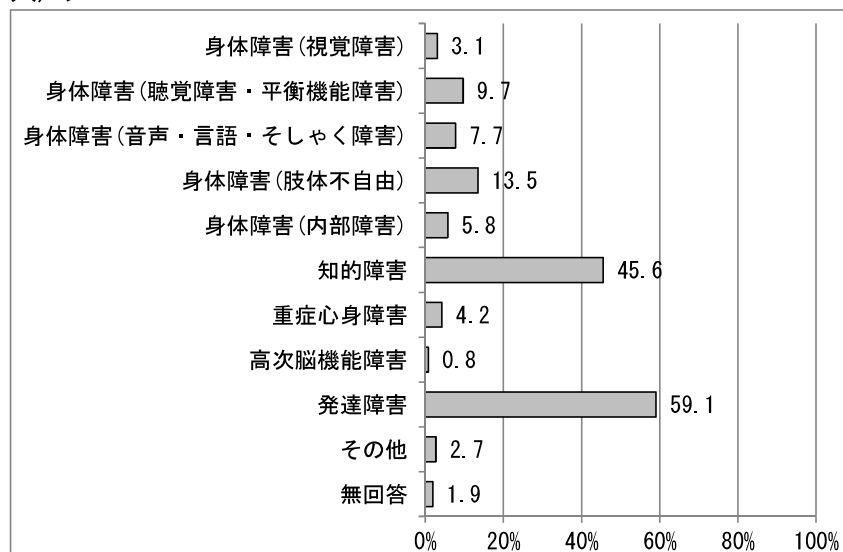
＜全体の傾向＞

子どもの障害について、「発達障害」が 59.1%と最も割合が高く、次いで「知的障害」が 45.6%、「身体障害（肢体不自由）」が 13.5%となっています。

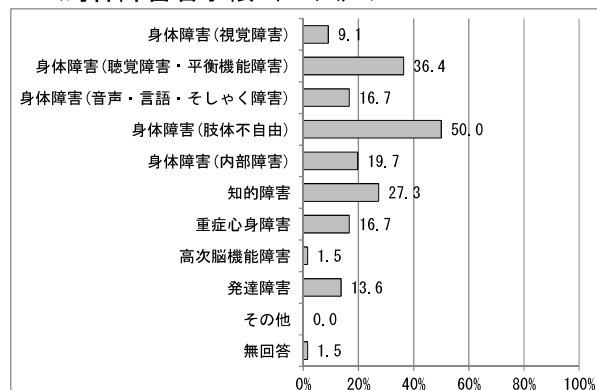
＜手帳種別の傾向＞

「愛の手帳」と「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では「知的障害」と「発達障害」、「身体障害者手帳」では「身体障害（肢体不自由）」、「いずれも持っていない」では「発達障害」が比較的高い割合となっています。

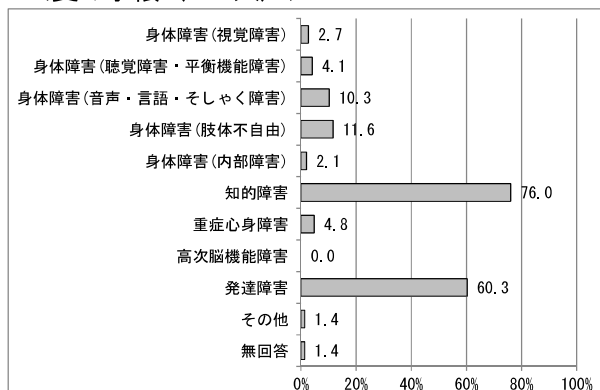
＜全体（259 人）＞



＜身体障害者手帳（66 人）＞

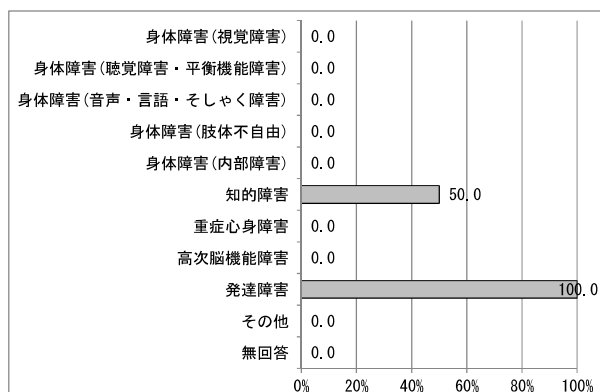


＜愛の手帳（146 人）＞

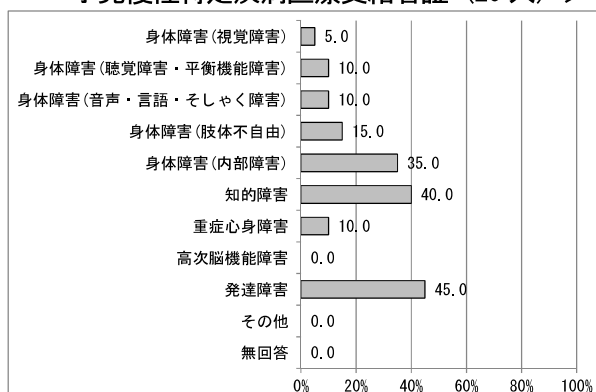


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

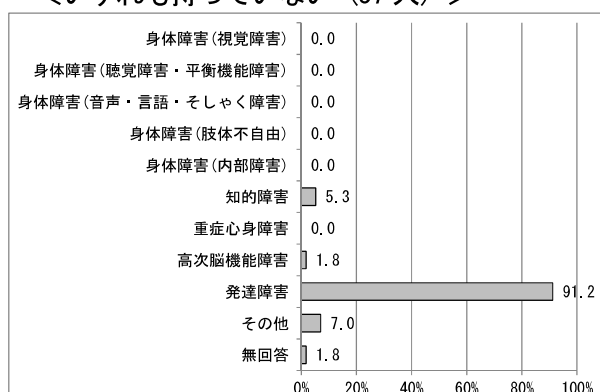
<精神障害者保健福祉手帳（2 人）>



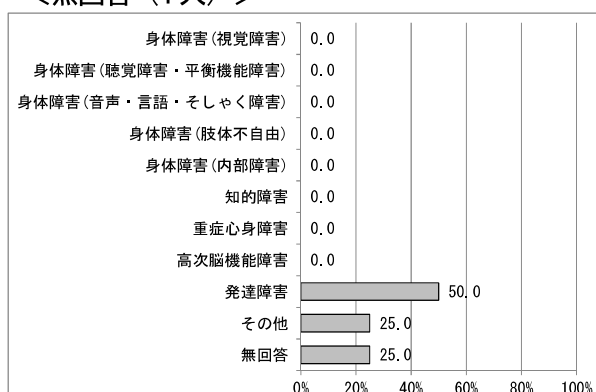
<特定医療費 (指定難病) 受給者証、マル都医療券、 小児慢性特定疾病医療受給者証（20 人）>



<いずれも持っていない（57 人）>



<無回答（4 人）>



問9 問8で「9」と回答した方におたずねします。お子さんは次のような診断を受けていますか。
(あてはまるものすべてに○)

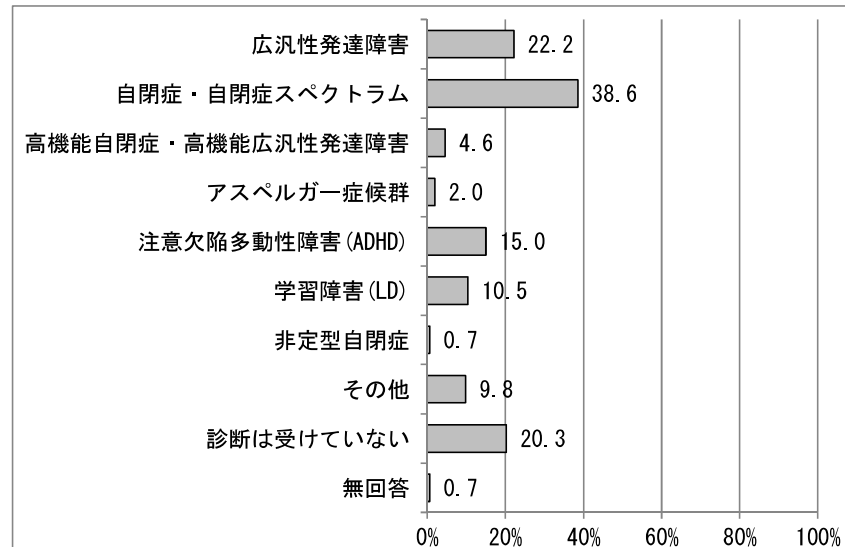
＜全体の傾向＞

発達障害の診断について、「自閉症・自閉症スペクトラム」が 38.6%と最も割合が高く、次いで「広汎性発達障害」が 22.2%、「診断は受けていない」が 20.3%となっています。

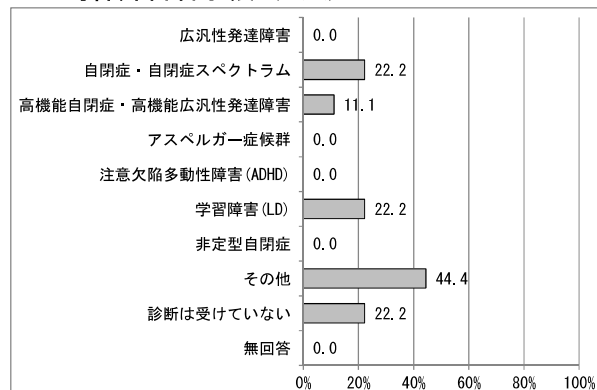
＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。

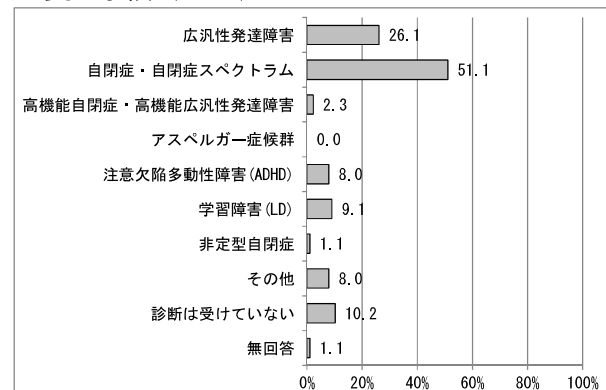
＜全体（153 人）＞



＜身体障害者手帳（9 人）＞

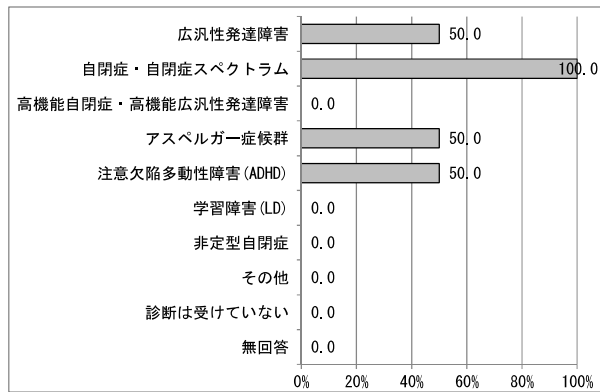


＜愛の手帳（88 人）＞

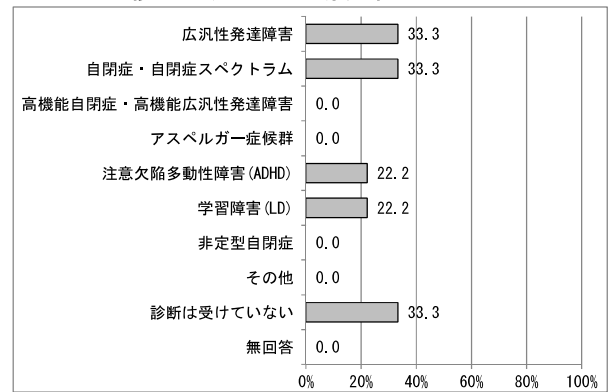


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

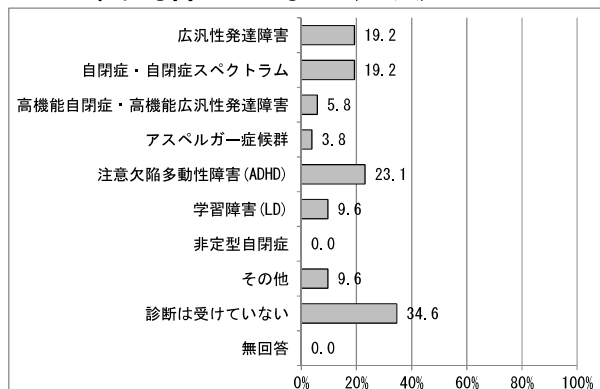
<精神障害者保健福祉手帳（2 人）>



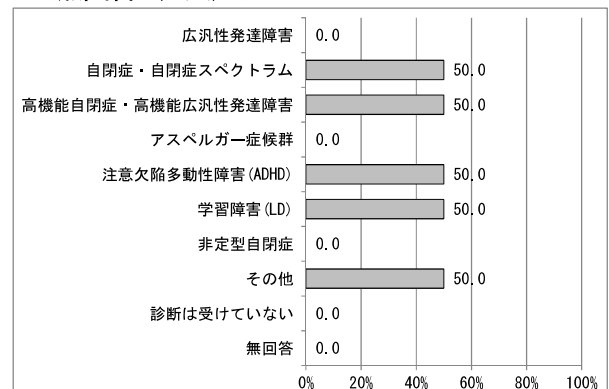
<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、 小児慢性特定疾病医療受給者証（9 人）>



<いずれも持っていない（52 人）>



<無回答（2 人）>



困りごとの相談、介助者への支援について

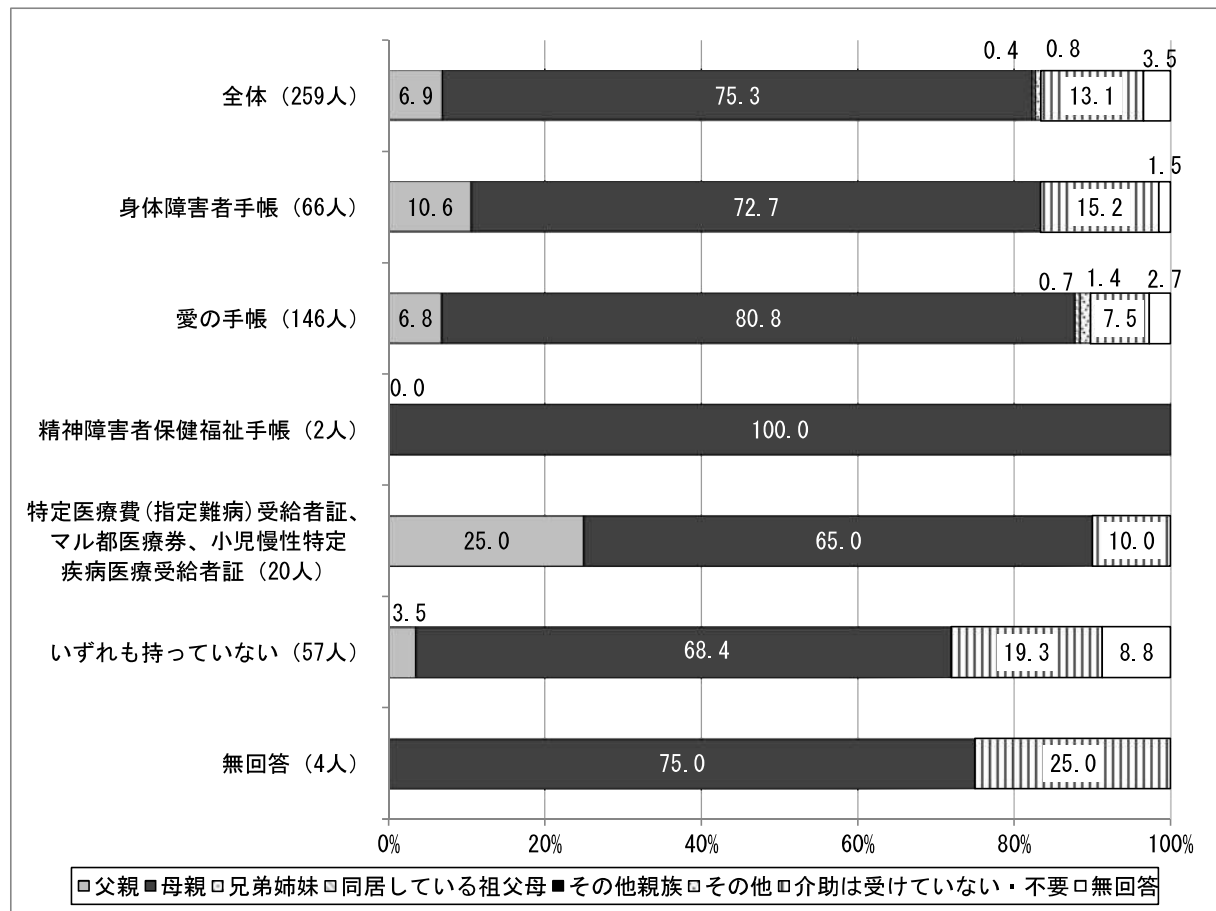
問 10 お子さんを主に介助している方（主な介助者）はどなたですか。（1つに○）

＜全体の傾向＞

主な介助者について、「母親」が 75.3%と最も割合が高く、次いで「介助は受けていない」が 13.1%、「父親」が 6.9%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「母親」が 65.0%と最も割合が高く、次いで「父親」が 25.0%、「介助は受けていない」が 10.0%となっており、「父親」の割合が比較的多い特徴がみられます。



Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

問11 問10で「1」から「5」のいずれかに回答した方におたずねします。主な介助者をサポートしてくれる親族・知人の方はいますか。（主なもの2つまでに○）

＜全体の傾向＞

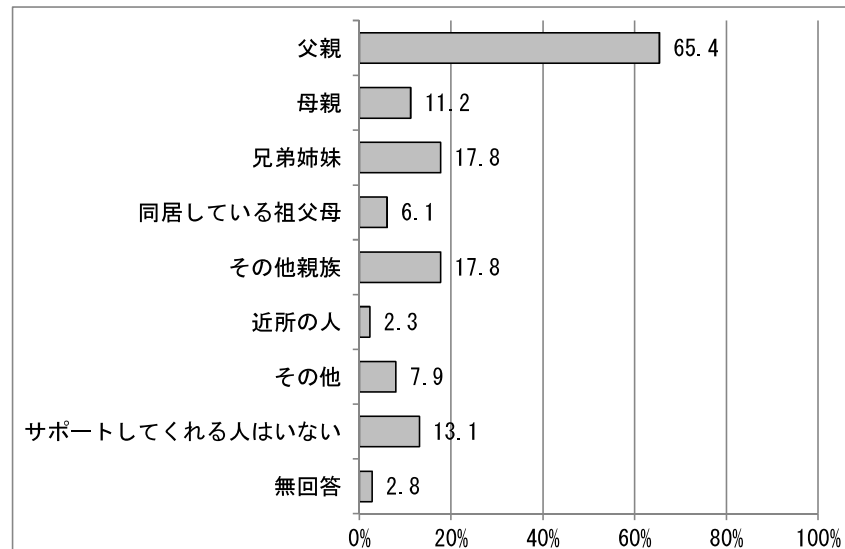
主な介助者のサポートについて、「父親」が 65.4%と最も割合が高く、次いで「兄弟姉妹」と「その他親族」が 17.8%、「サポートしてくれる人はいない」が 13.1%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

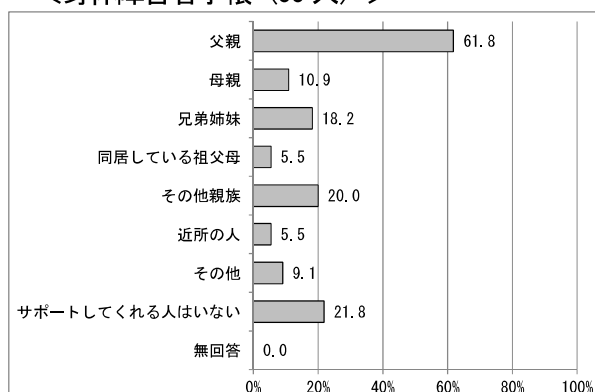
「父親」が「身体障害者手帳」と「愛の手帳」、「いずれも持っていない」で 60%以上となっています。

また、「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「父親」が 44.4%と最も割合が高く、次いで「サポートしてくれる人はいない」が 27.8%、「母親」と「その他親族」が 16.7%となっています。

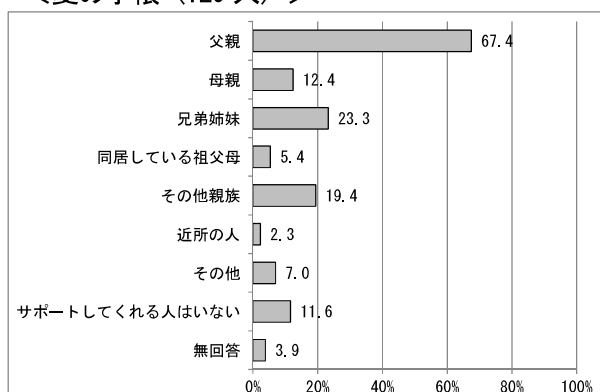
＜全体（214 人）＞



＜身体障害者手帳（55 人）＞

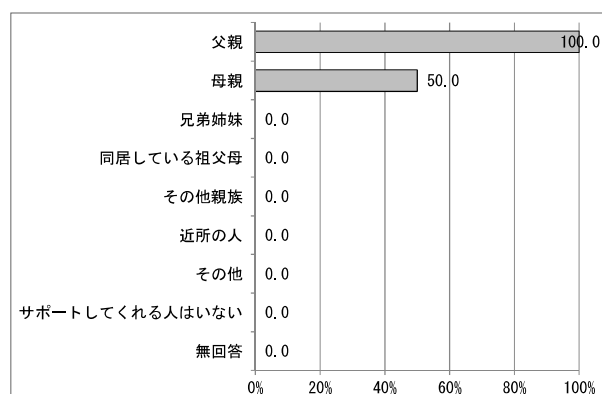


＜愛の手帳（129 人）＞

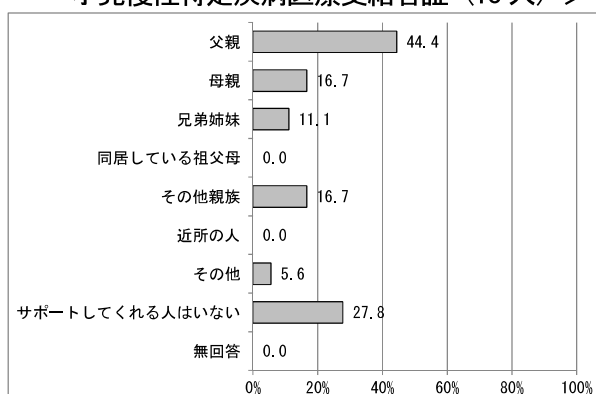


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

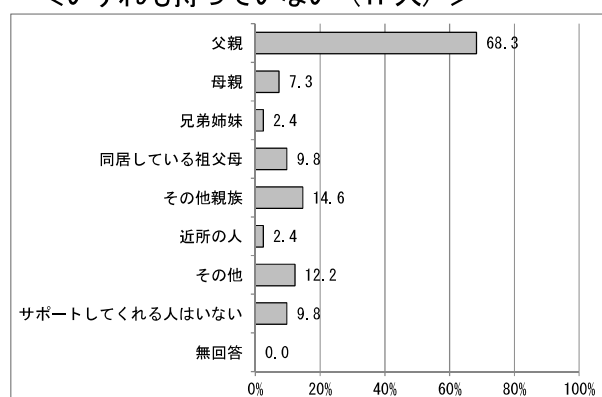
＜精神障害者保健福祉手帳（2 人）＞



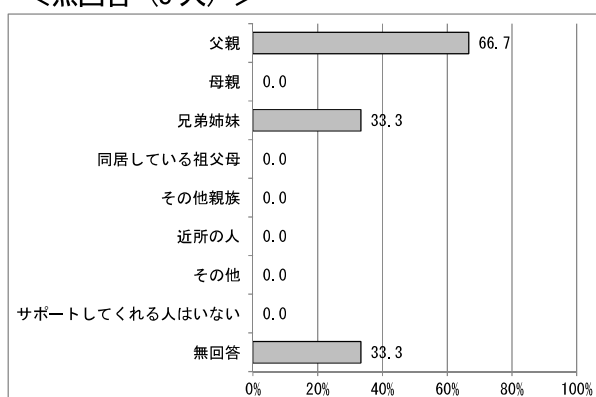
＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（18 人）＞



＜いずれも持っていない（41 人）＞



＜無回答（3 人）＞



Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

問 12 子育てについて、困っていることはありますか。（主なもの 2 つまでに○）

<全体の傾向>

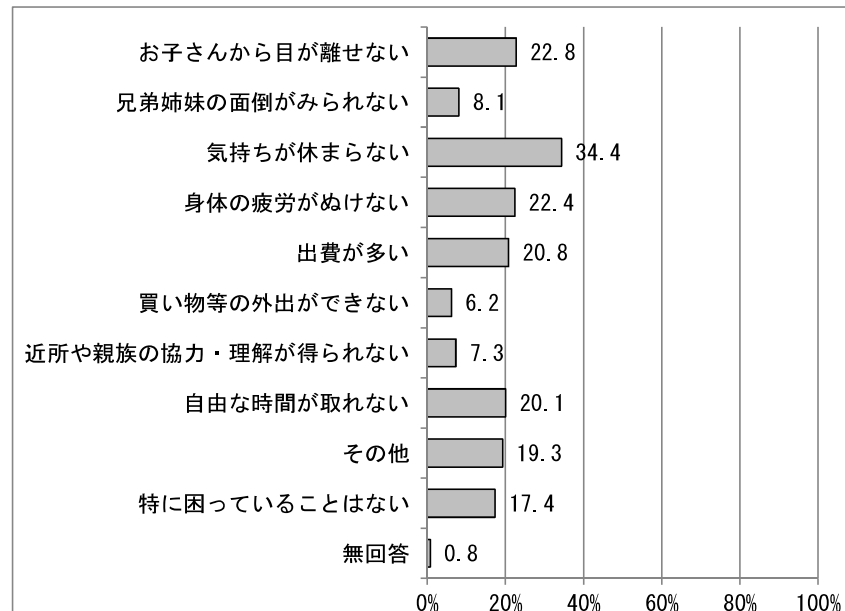
子育てで困っていることについて、「気持ちが休まらない」が 34.4%と最も割合が高く、次いで「お子さんから目が離せない」が 22.8%、「身体の疲労がぬけない」が 22.4%となっています。

<手帳種別の傾向>

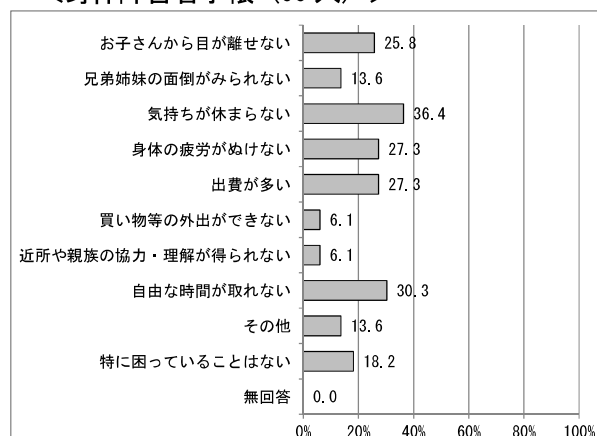
「身体障害者手帳」と「愛の手帳」、「いずれも持っていない」では、「気持ちが休まらない」が最も割合が高く、「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「お子さんから目が離せない」が 35.0%と最も高くなっています。

また、「身体障害者手帳」では「出費が多い」が 27.3%、「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では「近所や親族の協力・理解が得られない」が 25.0%と比較的高い割合となっています。

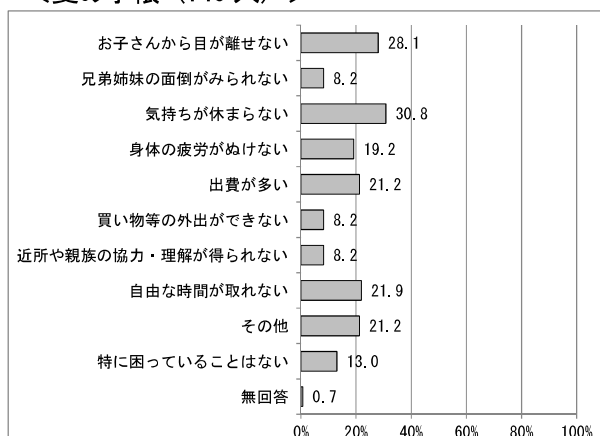
<全体（259 人）>



<身体障害者手帳（66 人）>

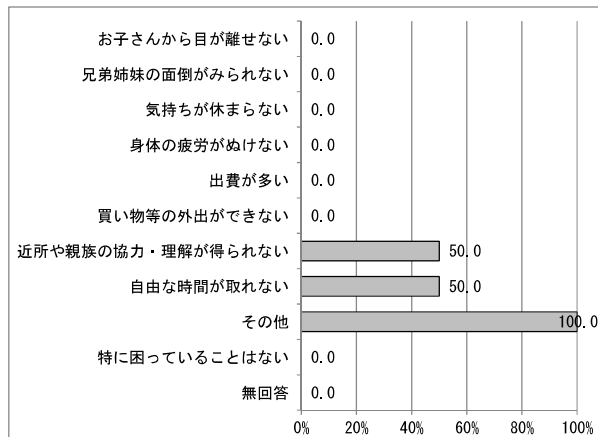


<愛の手帳（146 人）>

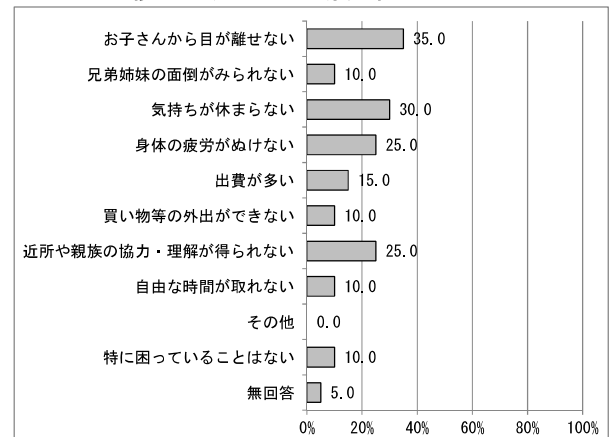


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

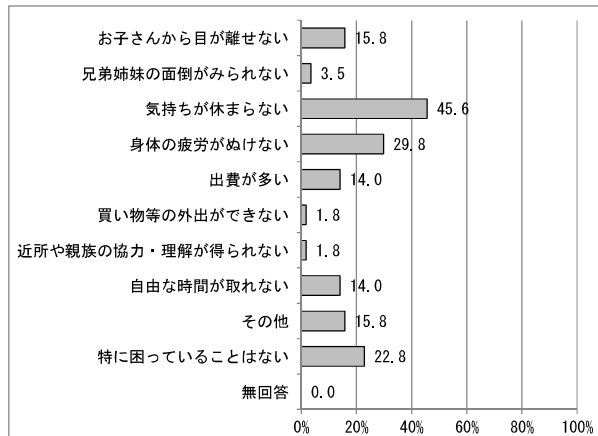
＜精神障害者保健福祉手帳（2 人）＞



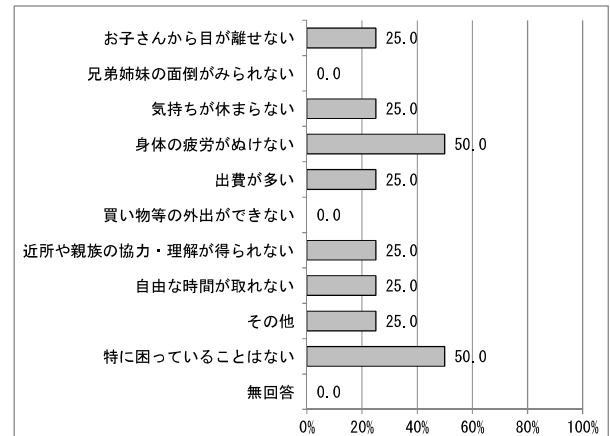
＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（20 人）＞



＜いずれも持っていない（57 人）＞



＜無回答（4 人）＞



Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

問 13 家族や知人以外で、日常生活の中で困ったときの相談先はどこですか。

(主なものを2つまでに○)

＜全体の傾向＞

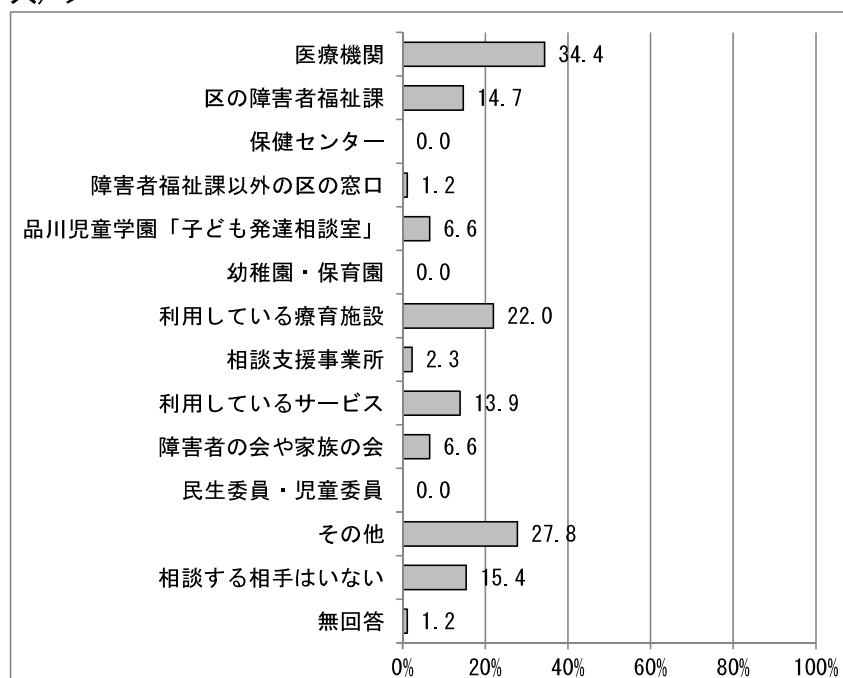
家族や知人以外の相談先について、「医療機関」が 34.4%と最も割合が高く、次いで「その他」が 27.8%、「利用している療育施設」が 22.0%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

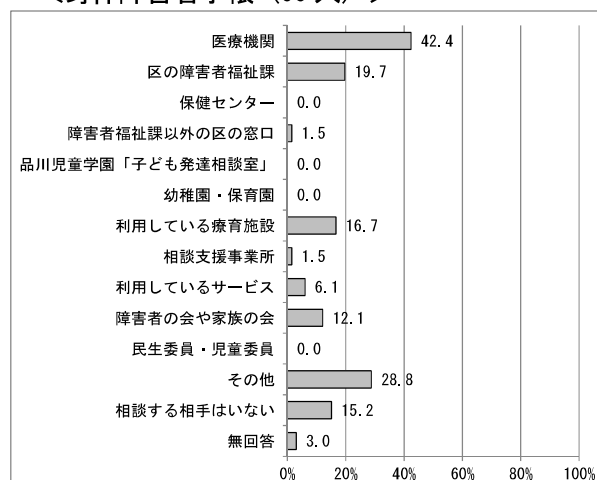
「身体障害者手帳」と「愛の手帳」、「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「医療機関」が最も割合が高く、「いずれも持っていない」では「利用している療育施設」が 35.1%と最も割合が高くなっています。

また、「愛の手帳」では「相談する相手はいない」が 19.9%と比較的高い割合となっています。

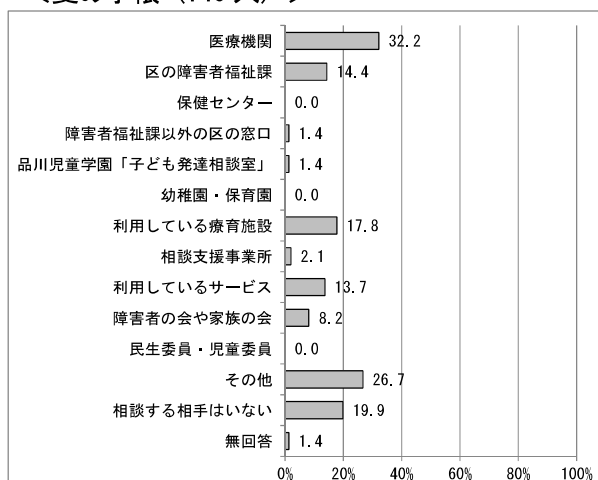
＜全体（259 人）＞



＜身体障害者手帳（66 人）＞

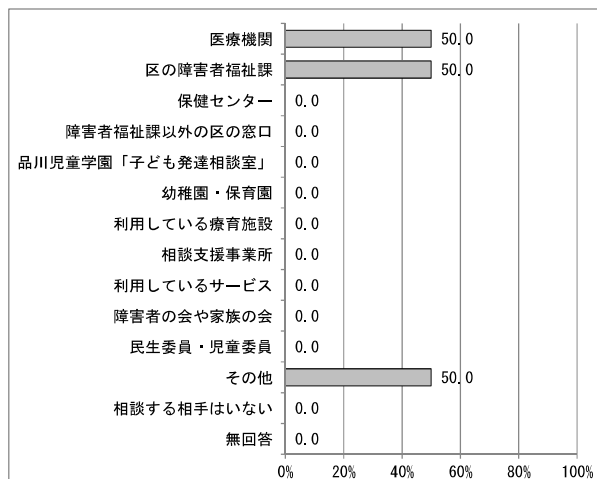


＜愛の手帳（146 人）＞

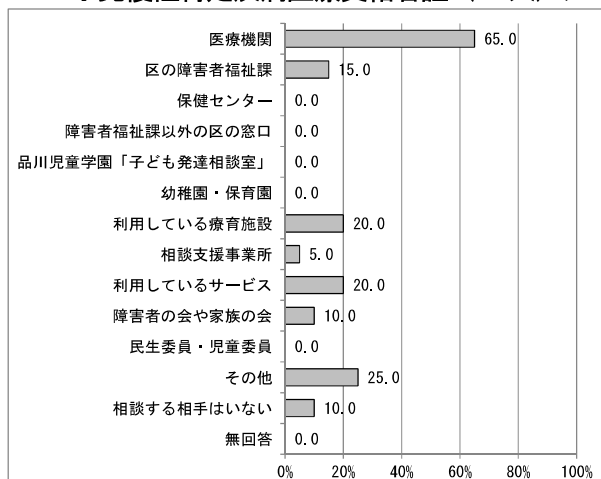


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

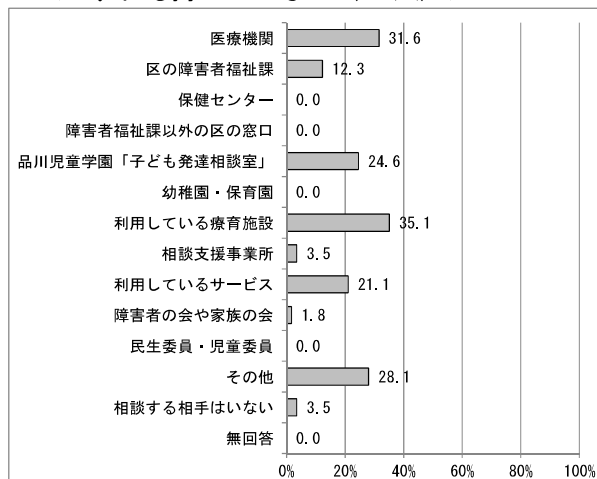
＜精神障害者保健福祉手帳（2 人）＞



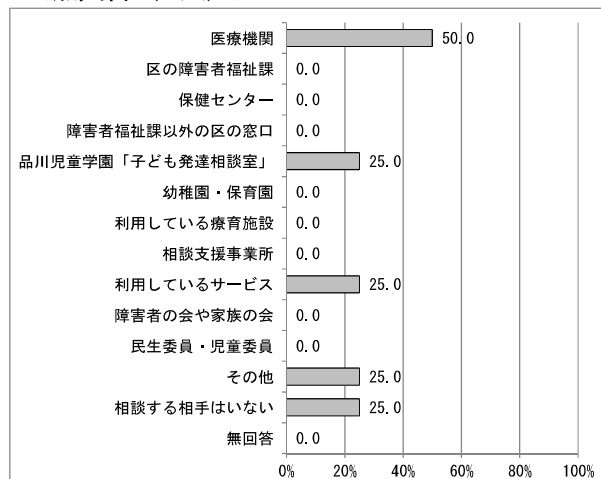
＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（20 人）＞



＜いずれも持っていない（57 人）＞



＜無回答（4 人）＞



Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

問 14 問 13 で「1」から「12」と回答した方におたずねします。

① 主な相談内容は何ですか。具体的にお書きください。

主な相談内容について「発達や障害、問題行動のことについて」「教育・療育、学校生活について」の回答が多くみられます。

分 類	回答数
発達や障害、問題行動のことについて	67
教育・療育、学校生活について	56
日常の子育てについて	42
行政支援・情報について	31
他者とのコミュニケーションについて	29
日常生活について	24
進路・将来のことについて	15
保護者の支援について	5
病気時の対応について	4
福祉サービスについて	4
兄弟姉妹の世話について	2
その他	20

※ 自由記述の内容を分類。複数回答あり。

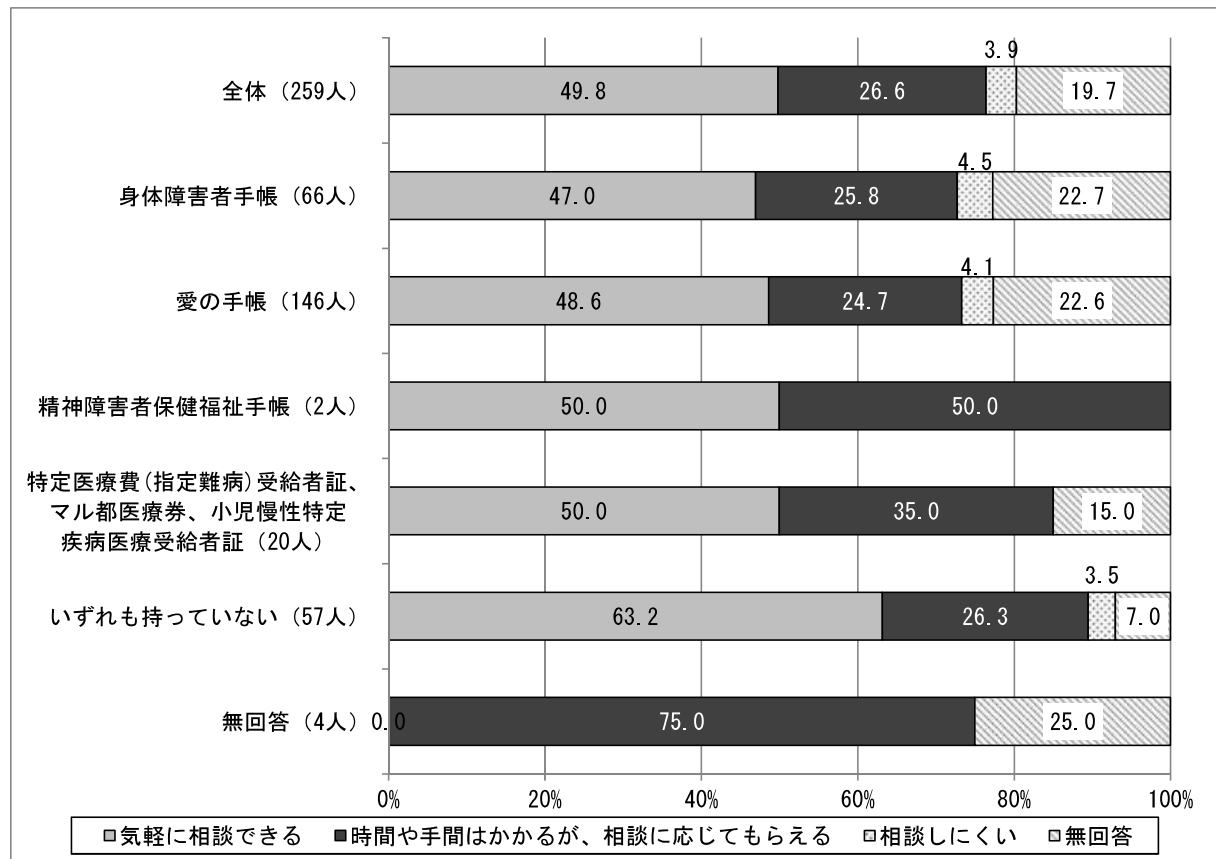
② その相談先は、相談しやすいですか。（１つに○）

＜全体の傾向＞

相談のしやすさについて、「気軽に相談できる」が 49.8%と最も割合が高く、次いで「時間や手間はかかるが、相談に応じてもらえる」が 26.6%、「相談しにくい」が 19.7%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。



Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

- ③ ②で「3」と回答した方におたずねします。「相談しにくい」と感じる理由は何ですか。具体的にお書きください。

相談しにくい理由について「担当者が多忙」が4件、「きちんと理解されない」と「相談する時間がない」が3件みられます。

分 類	回答数
担当者が多忙	4
きちんと理解されない	3
相談する時間がない	3
その他	9

※ 自由記述の内容を分類。複数回答あり。

問 15 区や事業者などの相談窓口に期待することはありますか。（主なもの 2 つまでに○）

＜全体の傾向＞

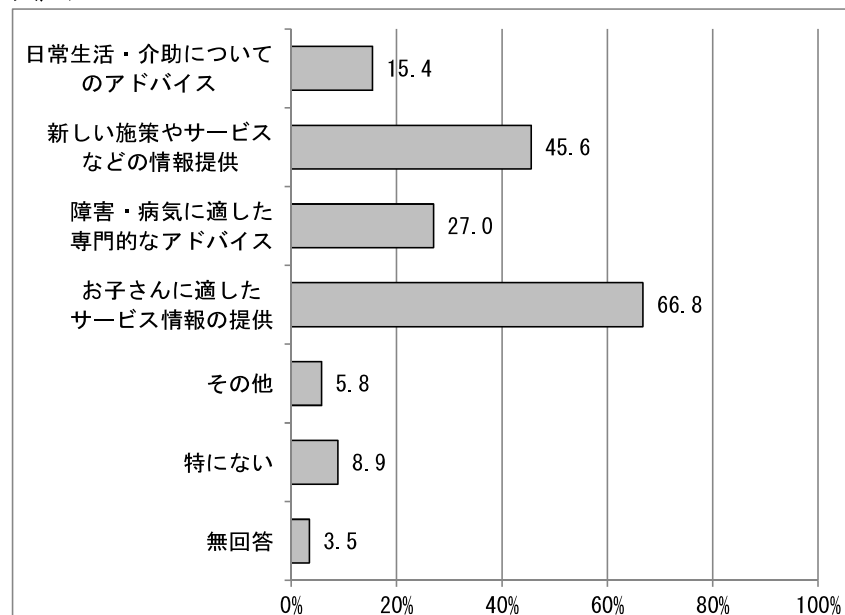
区や事業者などの相談窓口に期待することについて、「お子さんに適したサービス情報の提供」が 66.8%と最も割合が高く、次いで「新しい施策やサービスなどの情報提供」が 45.6%、「障害・病気に適した専門的なアドバイス」が 27.0%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

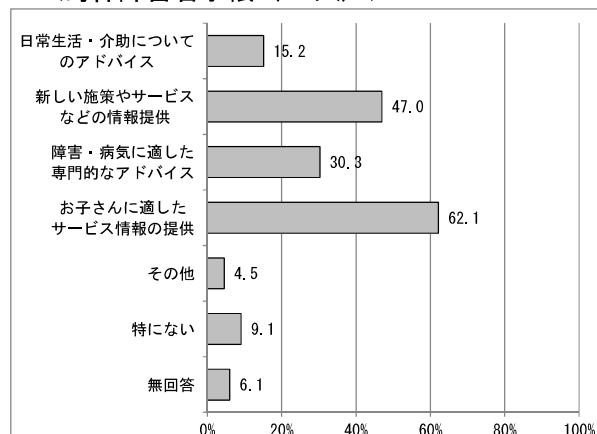
「身体障害者手帳」と「愛の手帳」、「いずれも持っていない」では、「お子さんに適した情報の提供」が最も割合が高く、次いで「新しい施策やサービスなどの情報提供」、「障害・病気に適した専門的なアドバイス」となっています。

「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「新しい施策やサービスなどの情報提供」が 60.0%と最も割合が高く、次いで「お子さんに適したサービス情報の提供」が 55.0%、「日常生活・介助についてのアドバイス」と「障害・病気に適した専門的なアドバイス」が 10.0%となっています。

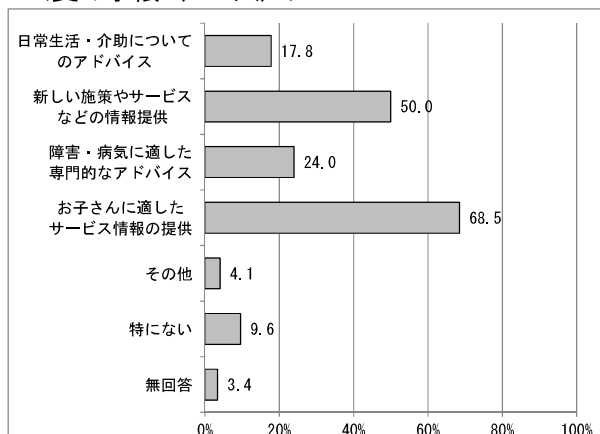
＜全体（259 人）＞



＜身体障害者手帳（66 人）＞

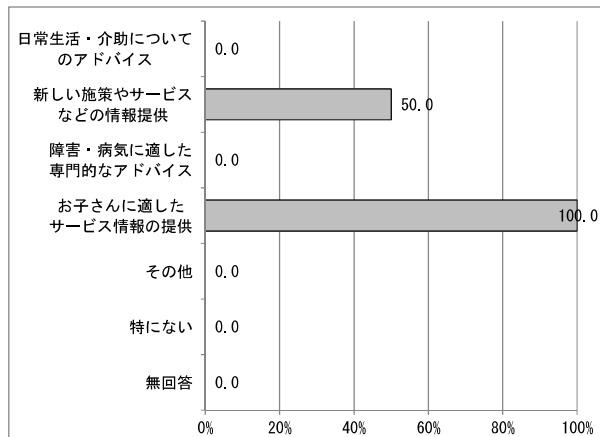


＜愛の手帳（146 人）＞

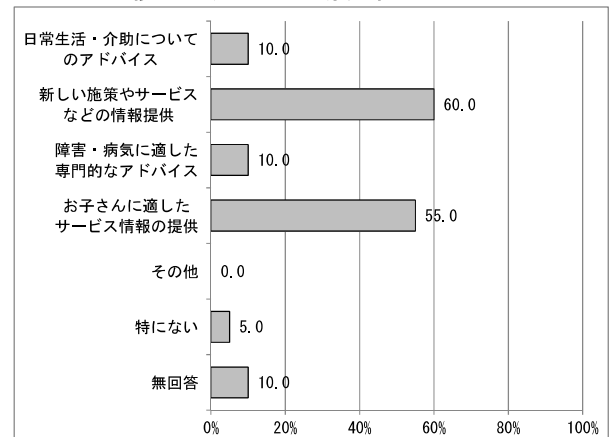


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

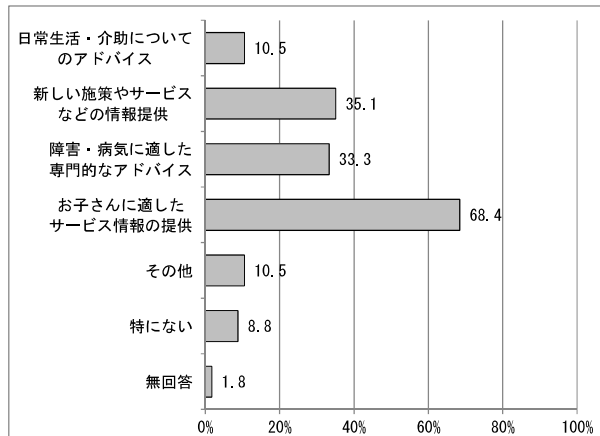
＜精神障害者保健福祉手帳（2 人）＞



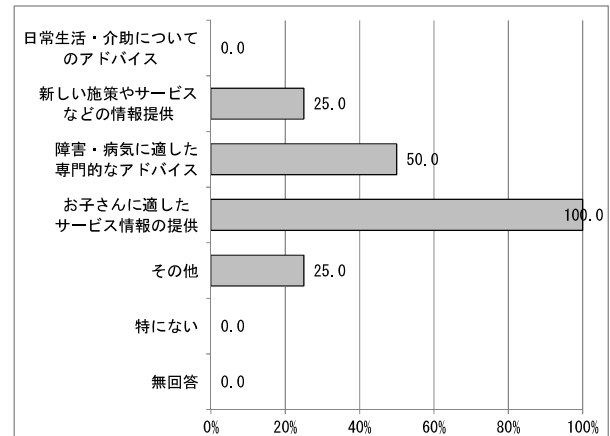
＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（20 人）＞



＜いずれも持っていない（57 人）＞



＜無回答（4 人）＞



問 16 主な介助者のために、必要な支援は何ですか。（主なもの 2 つまでに○）

＜全体の傾向＞

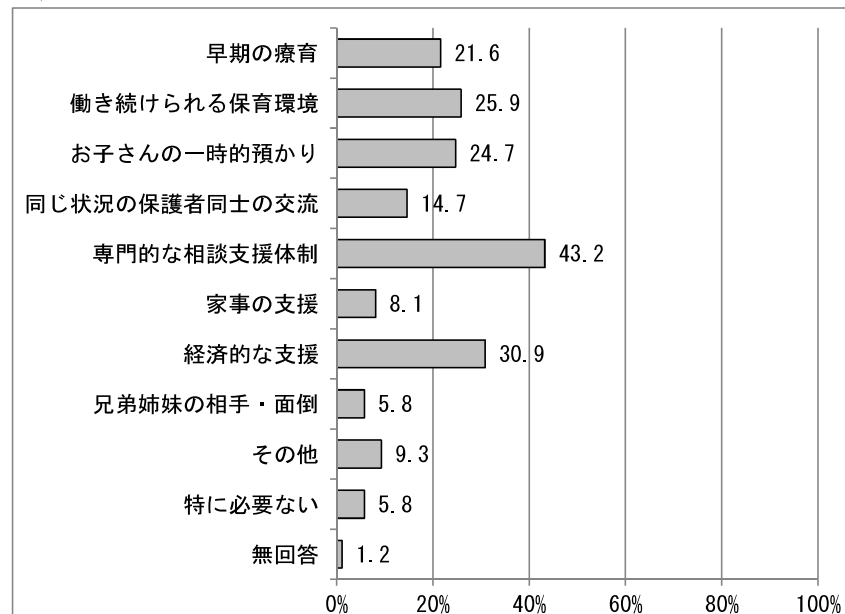
主な介助者への必要な支援について、「専門的な相談支援体制」が 43.2%と最も割合が高く、次いで「経済的な支援」が 30.9%、「働き続けられる保育環境」が 25.9%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

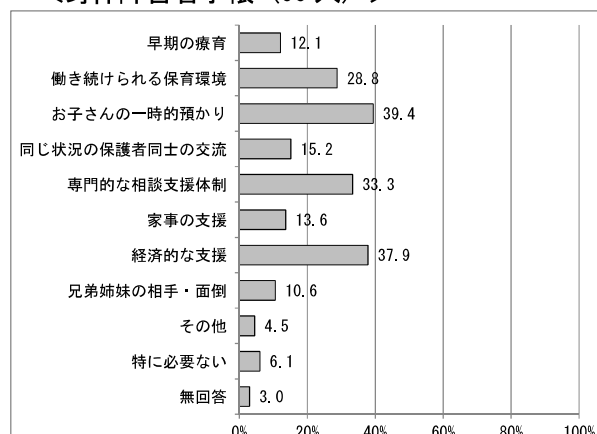
「身体障害者手帳」と「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「お子さんの一時的預かり」と「経済的な支援」が比較的高い割合となっています。

「愛の手帳」と「いずれも持っていない」では「専門的な相談支援体制」が最も割合が高くなっています。

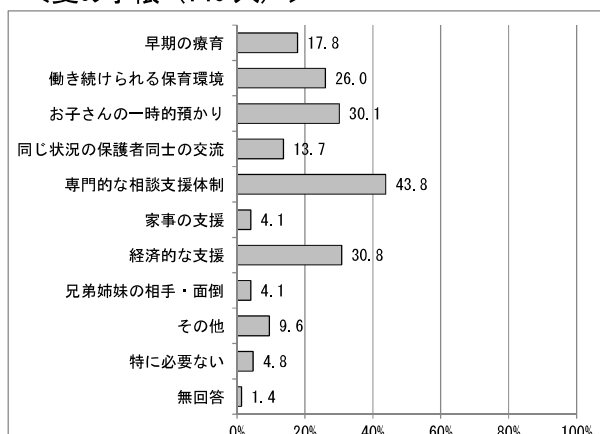
＜全体（259 人）＞



＜身体障害者手帳（66 人）＞

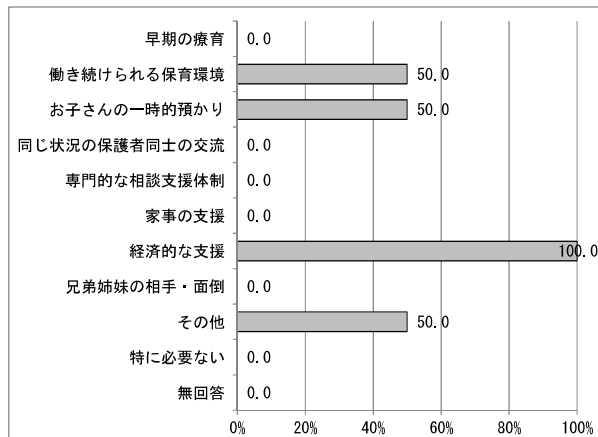


＜愛の手帳（146 人）＞

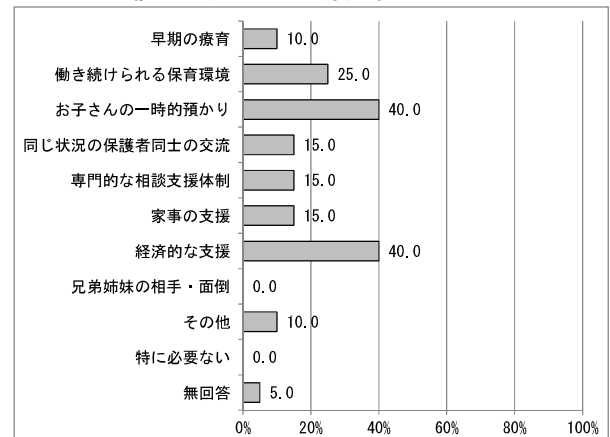


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

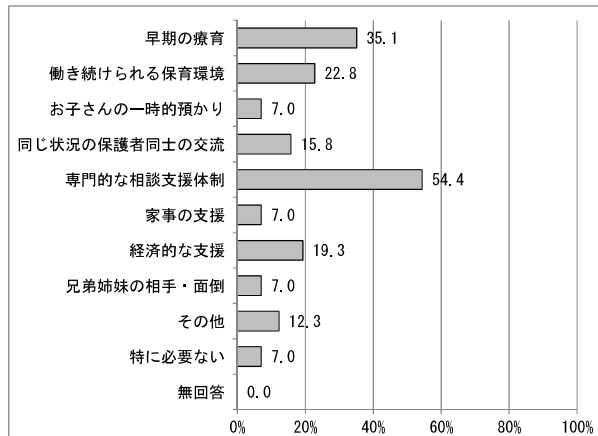
＜精神障害者保健福祉手帳（2 人）＞



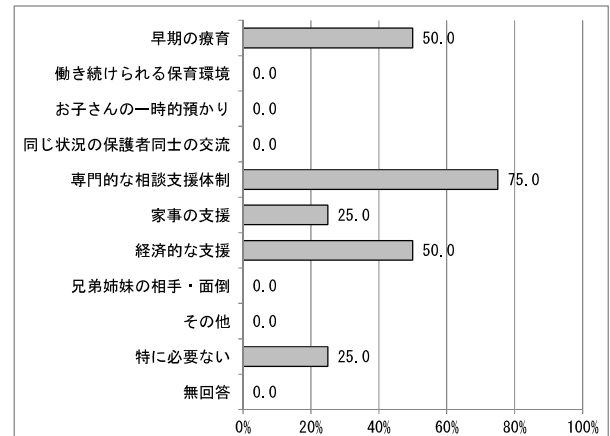
＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、 小児慢性特定疾病医療受給者証（20 人）＞



＜いずれも持っていない（57 人）＞



＜無回答（4 人）＞



医療的ケアの必要なお子さんについて

問 17 お子さんは日常生活において、以下の医療的ケアを必要としていますか。

(あてはまるものすべてに○)

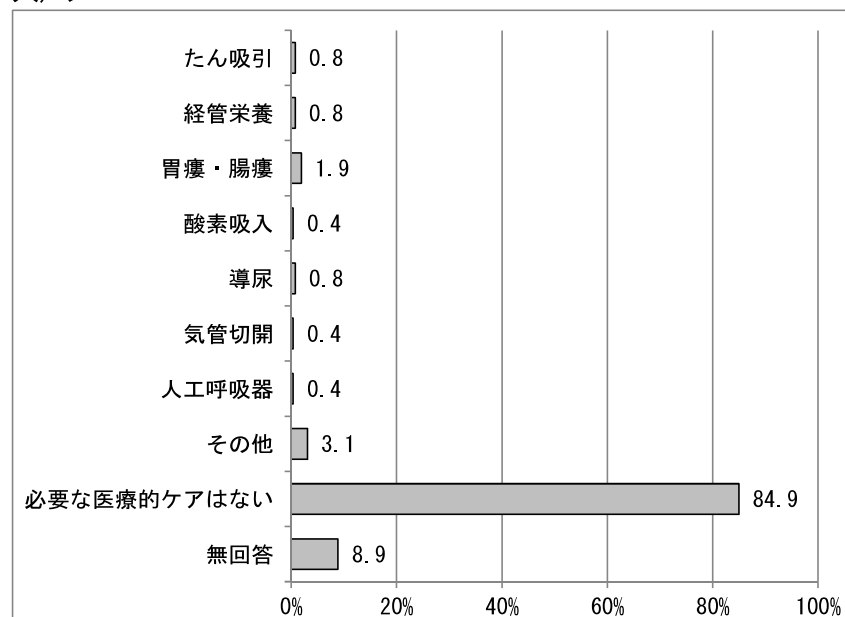
＜全体の傾向＞

必要な医療的ケアについて、「必要な医療的ケアはない」が 84.9%と最も割合が高く、次いで「その他」が 3.1%、「胃瘻・腸瘻」が 1.9%となっています。

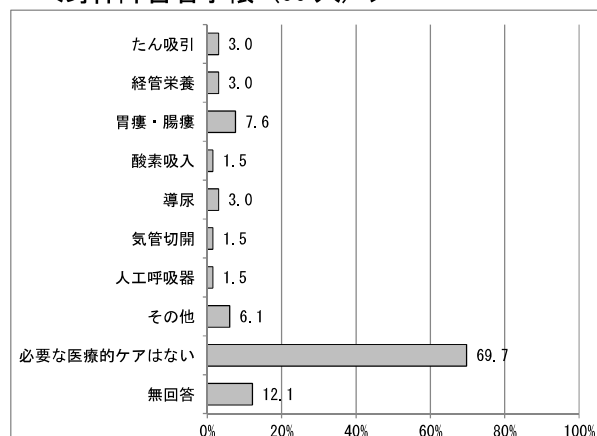
＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。

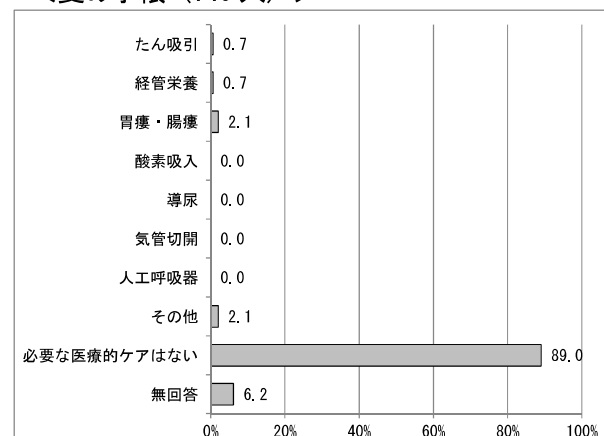
＜全体（259 人）＞



＜身体障害者手帳（66 人）＞

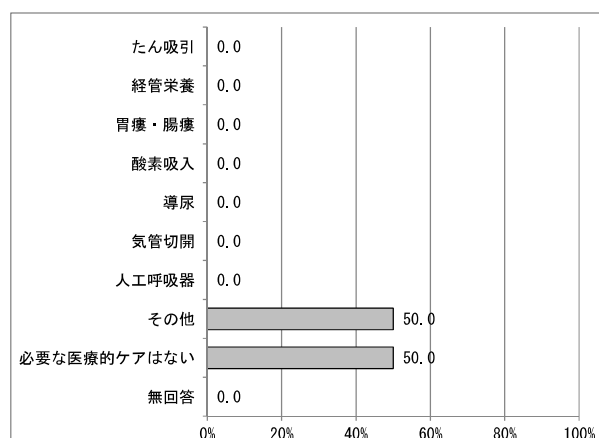


＜愛の手帳（146 人）＞

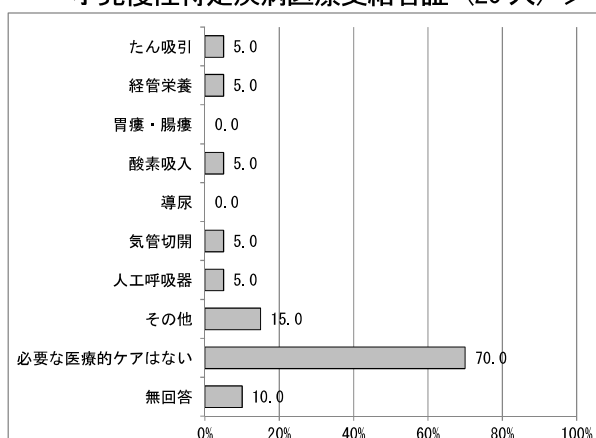


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

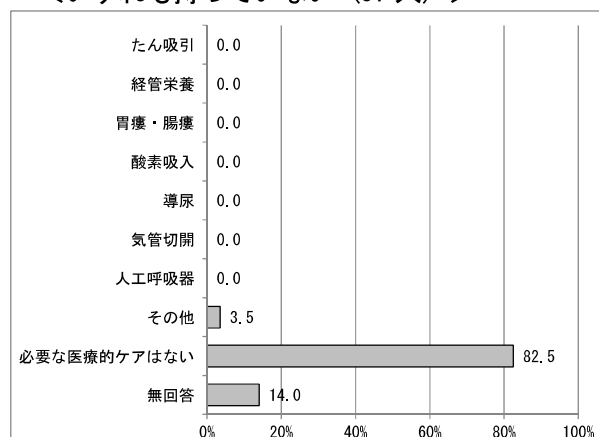
＜精神障害者保健福祉手帳（2 人）＞



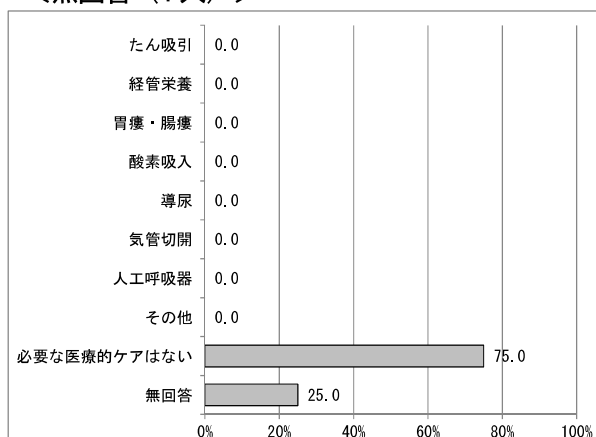
＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（20 人）＞



＜いずれも持っていない（57 人）＞



＜無回答（4 人）＞



問 18 問 17 で「1」から「8」のいずれかに回答した方におたずねします。

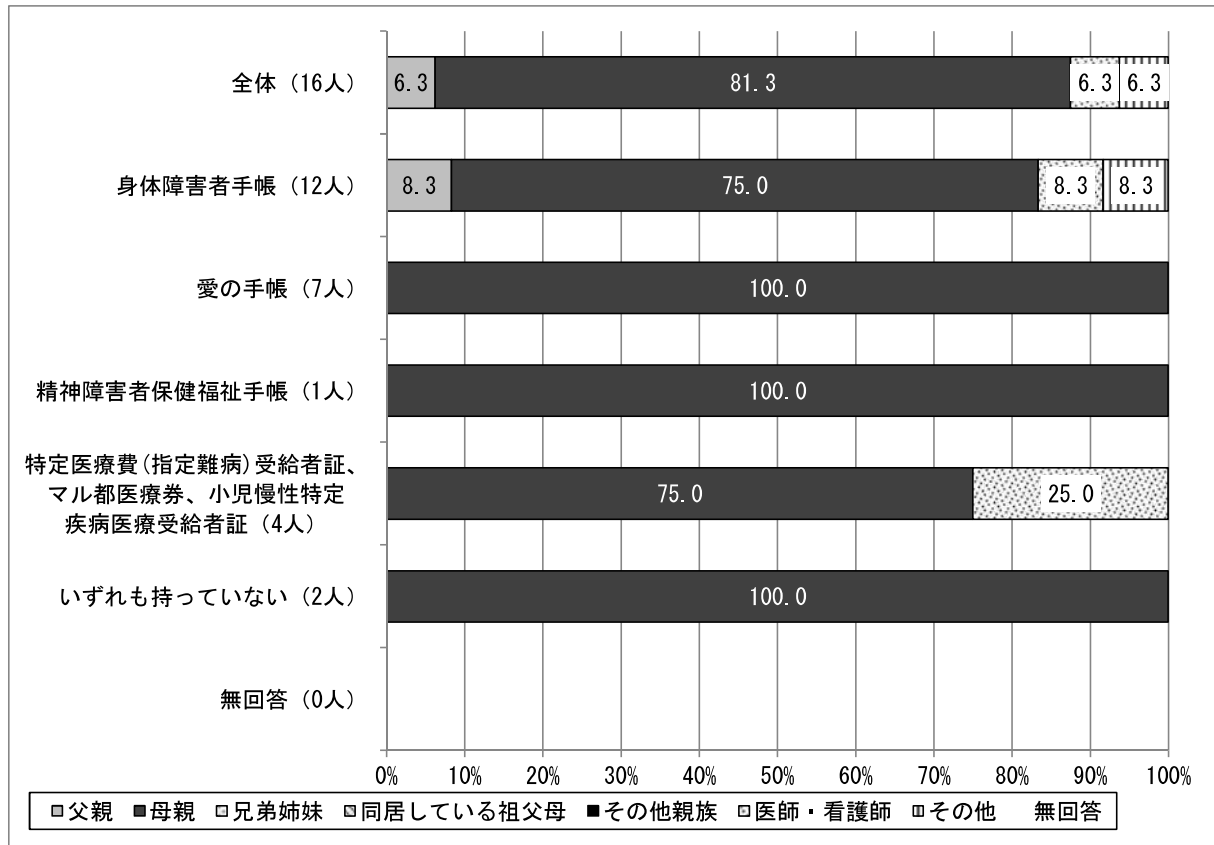
① 主に医療的ケアを行っているのはどなたですか。（1つに○）

<全体の傾向>

行っている医療ケアについて「母親」が 81.3%と最も割合が高く、次いで「父親」「医師・看護師」と「その他」が 6.3%となっています。

<手帳種別の傾向>

手帳種別の特徴はみられません。



Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

- ② 医療的ケアの必要なお子さんの日常生活について、困っていること、今後の希望等がありましたら、ご自由にお書きください。

医療的ケア児の困りごと、今後の希望等について「一時預かり等の支援施設の不足について」と「医療ケアの負担について」が 3 件、「リハビリ先の不足について」が 2 件みられます。

分 類	回答数
一時預かり等の支援施設の不足について	3
医療ケアの負担について	3
リハビリ先の不足について	2
支援の内容、選択肢を説明してほしい	1
将来のことについて	1
経済的支援について	1
宿泊行事での見守り等の配慮	1
医療的ケアの有無に係わらず、必要な支援の実施	1

※ 自由記述の内容を分類。複数回答あり。

お子さんの進路・将来について

問 19 お子さんの通学状況をお答えください。（１つに○）

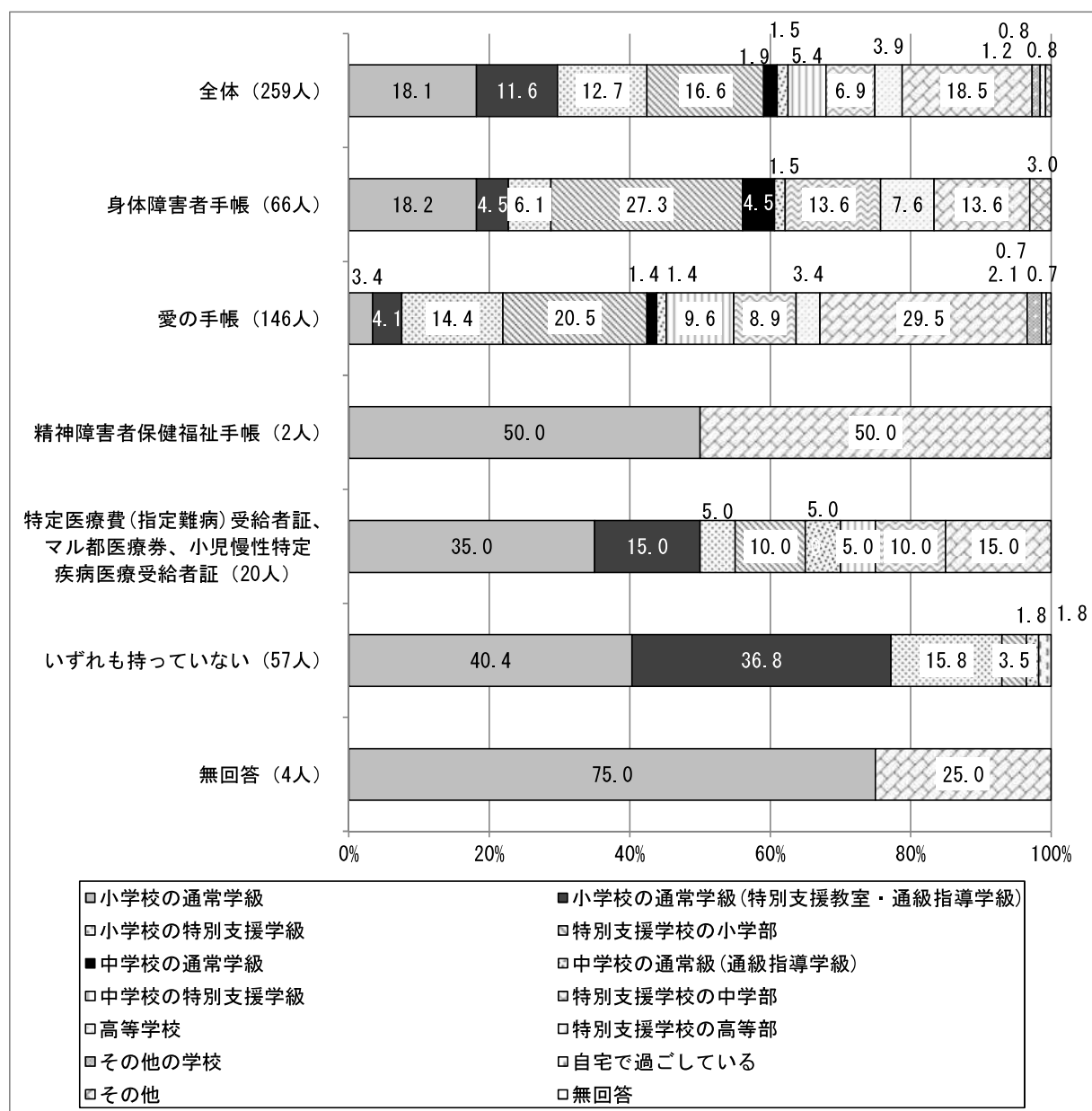
＜全体の傾向＞

通学状況について、「特別支援学校の高等部」が 18.5%と最も割合が高く、次いで「小学校の通常学級」が 18.1%、「特別支援学校の小学部」が 16.6%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

「身体障害者手帳」では「特別支援学校の小学校部」が 27.3%、「愛の手帳」では「特別支援学校の高等部」が 29.5%と最も割合が高くなっています。

また、「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」と「いずれも持っていない」では「小学校の通常学級」が最も割合が高く、次いで「小学校の通常学級（特別支援教室・通級指導学級）」となっています。



Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

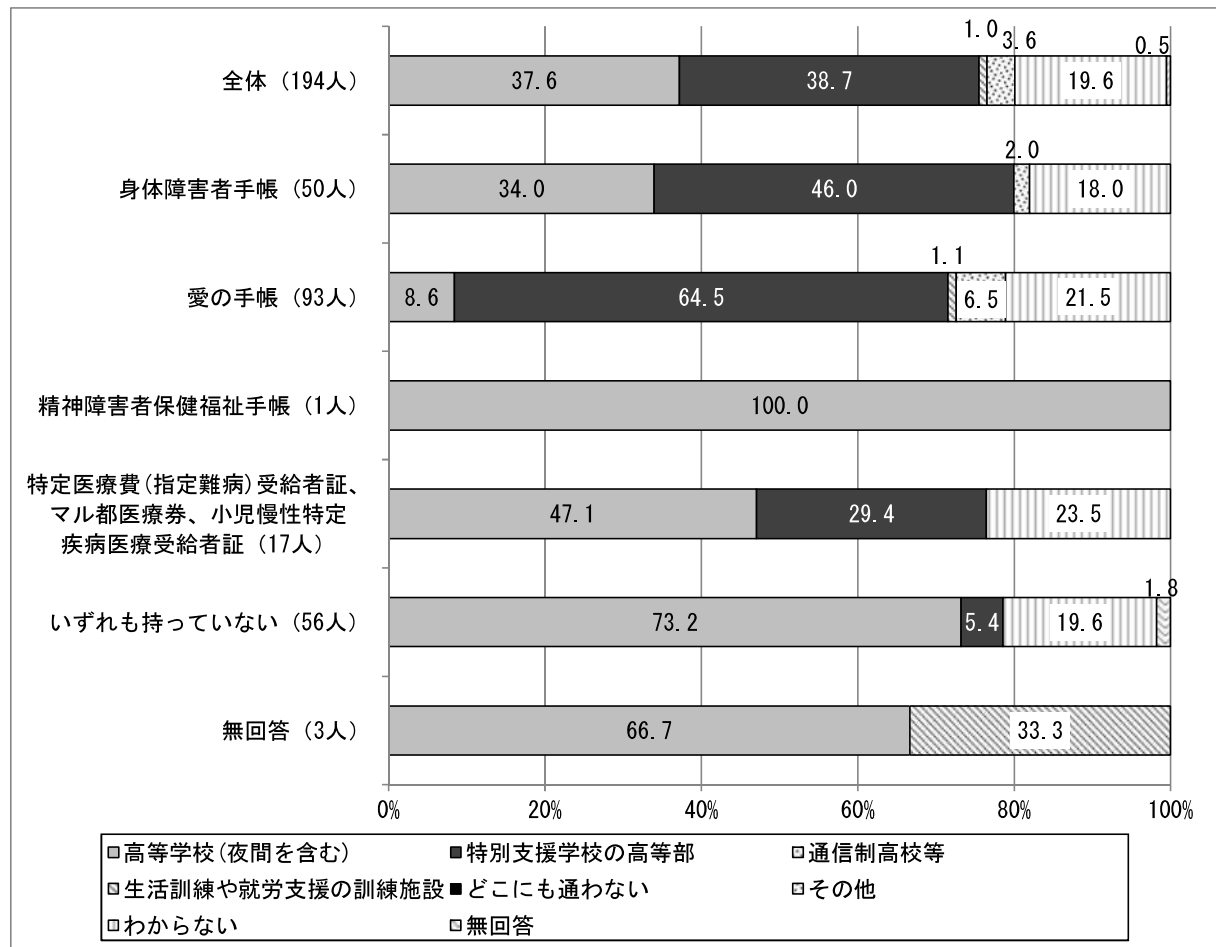
問 20 問 19 で「1」から「8」のいずれかに回答した方におたずねします。中学校（中学部）卒業後はどのような進路を希望しますか。（1つに○）

＜全体の傾向＞

中学校（中学部）卒業後に希望する進路について、「特別支援学校の高等部」が 38.7%と最も割合が高く、次いで「高等学校（夜間を含む）」が 37.6%、「わからない」が 19.6%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

「身体障害者手帳」と「愛の手帳」では「特別支援学校の高等部」が最も割合が高く、「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」と「いずれも持っていない」では「高等学校（夜間を含む）」が最も割合が高くなっています。



問21 問19で「9」または「10」と回答した方におたずねします。高等学校（高等部）卒業後はどのような進路を希望しますか。（1つに○）

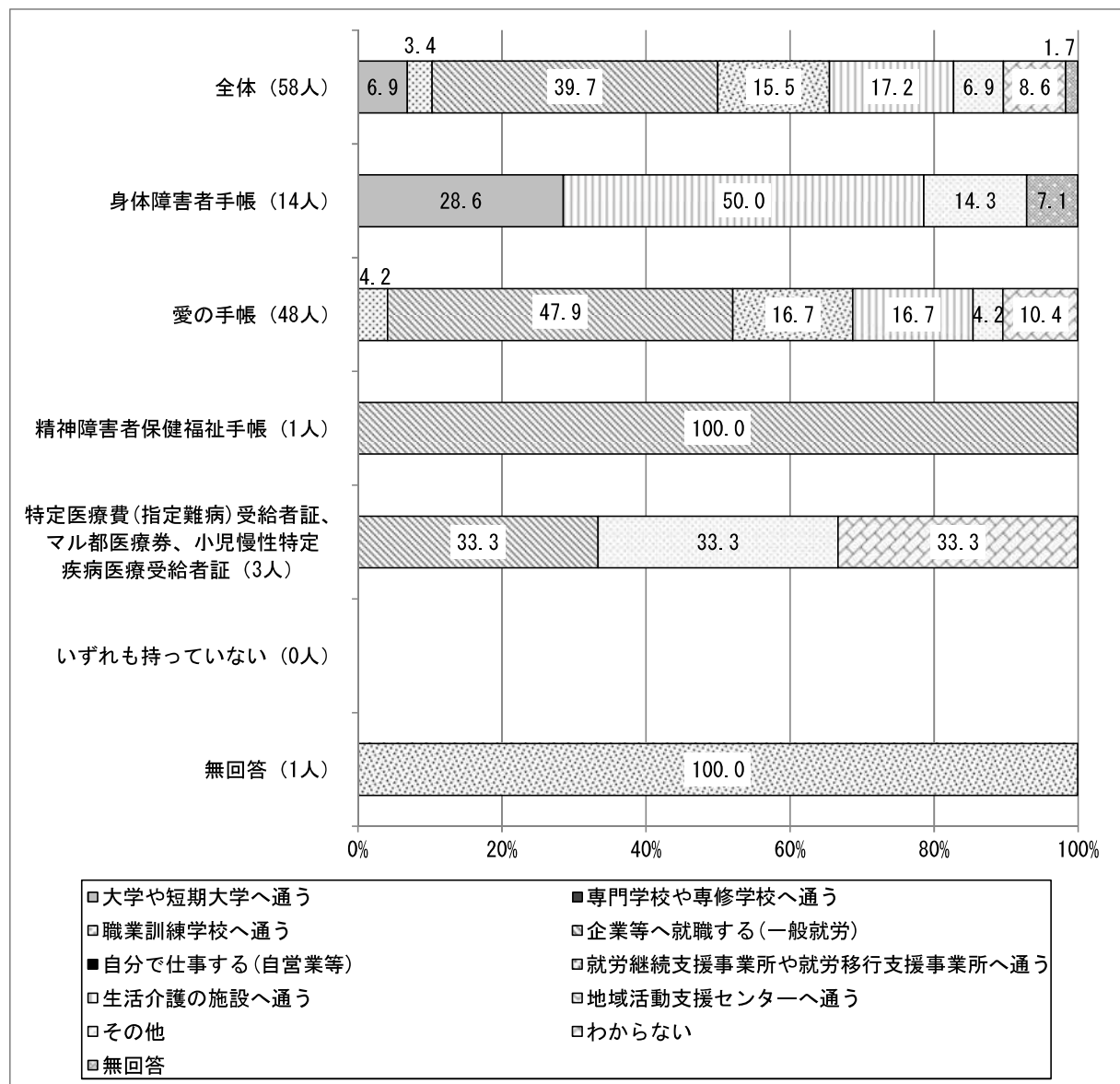
＜全体の傾向＞

高等学校（高等部）卒業後に希望する進路について、「企業等へ就職する」が 39.7%と最も割合が高く、次いで「生活介護の施設へ通う」が 17.2%、「就労継続支援事業所や就労移行支援事業所へ通う」が 15.5%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

「身体障害者手帳」では、「生活介護の施設へ通う」が 50.0%と最も割合が高く、次いで「大学や短期大学へ通う」が 28.6%、「その他」が 14.3%となっています。

また、「愛の手帳」では、「企業等へ就職する（一般就労）」が 47.9%と最も割合が高く、次いで「就労継続支援事業所や就労移行支援事業所へ通う」と「生活介護の施設へ通う」が 16.7%、「わからない」が 10.4%となっています。



Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

問 22 問 19 で「1」から「11」のいずれかに回答した方におたずねします。

① お子さんの現在の生活で、困っていることや心配していることはありますか。

(主なものを2つまでに○)

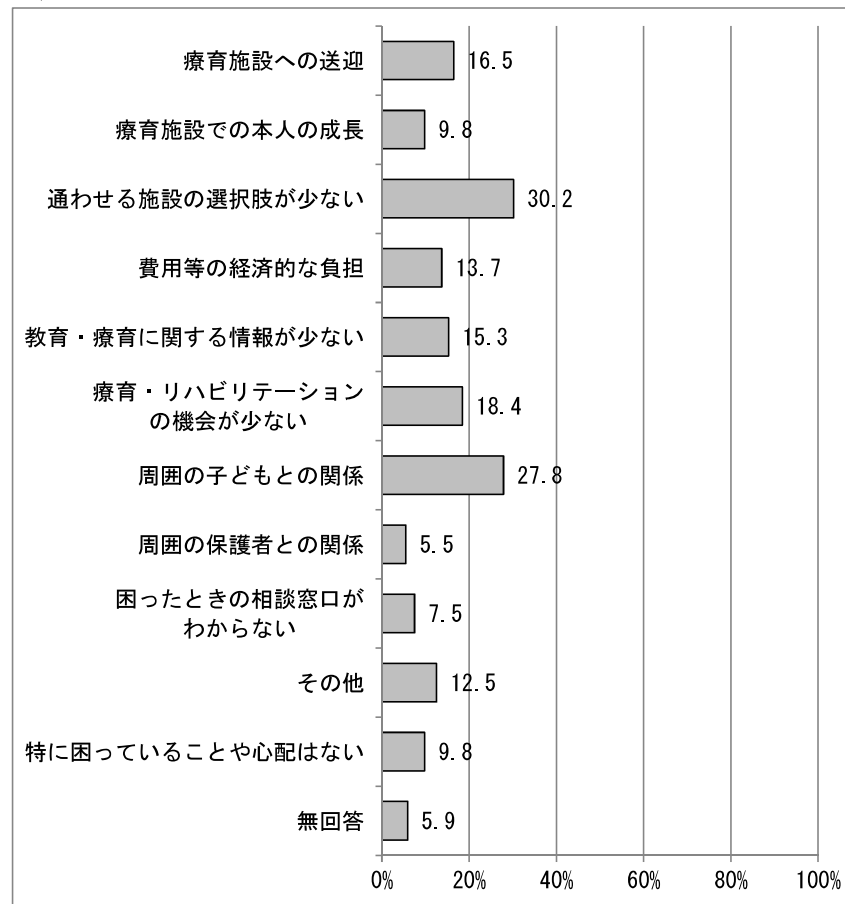
<全体の傾向>

現在の生活で困っていることや心配なことについて、「通わせる施設の選択肢が少ない」が 30.2%と最も割合が高く、次いで「周囲の子どもとの関係」が 27.8%、「療育・リハビリテーションの機会が少ない」が 18.4%となっています。

<手帳種別の傾向>

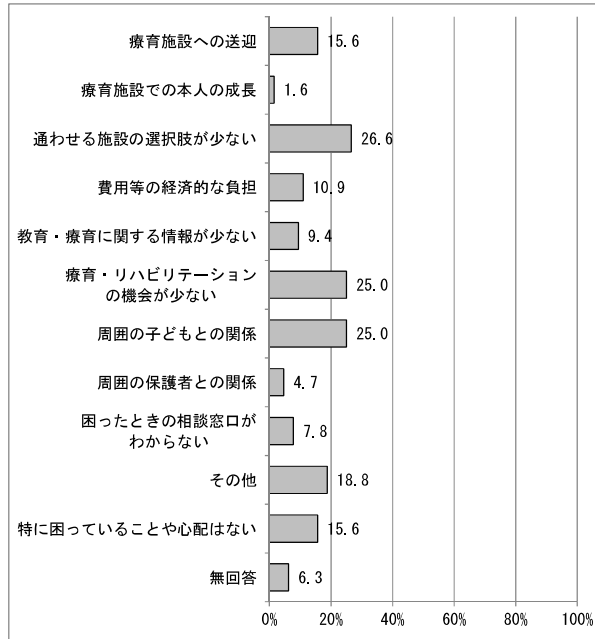
手帳種別の特徴はみられません。

<全体 (259 人) >

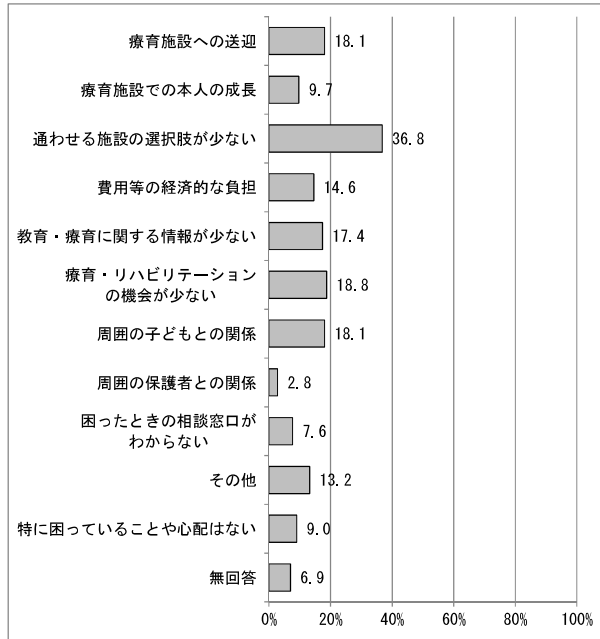


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

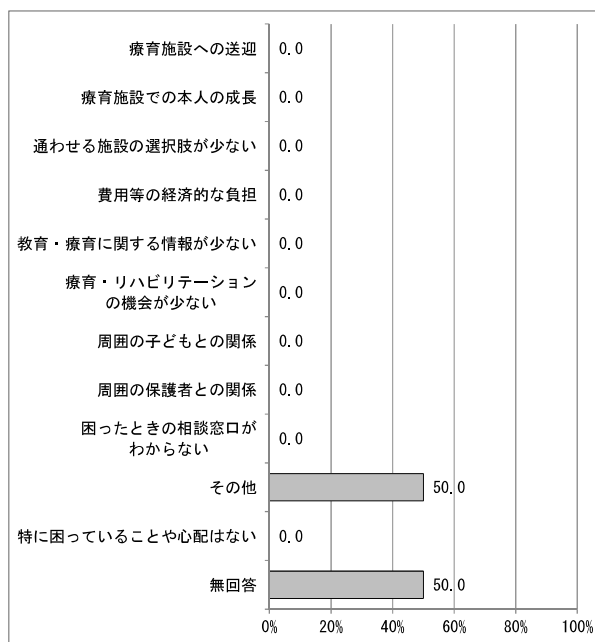
＜身体障害者手帳（66 人）＞



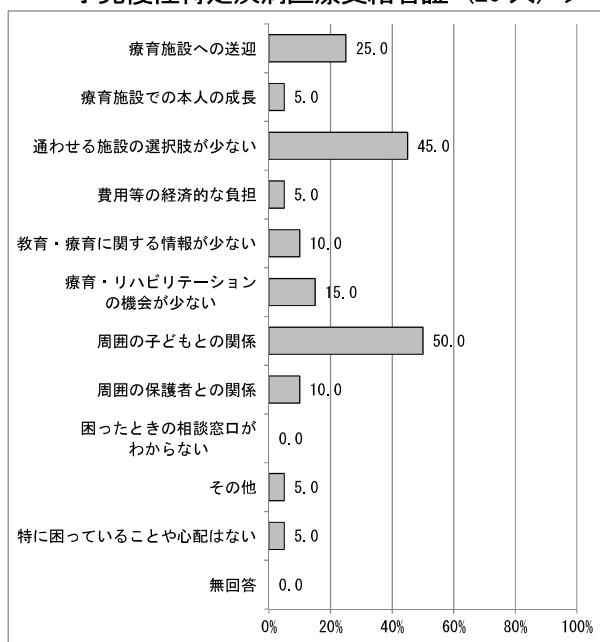
＜愛の手帳（146 人）＞



＜精神障害者保健福祉手帳（2 人）＞

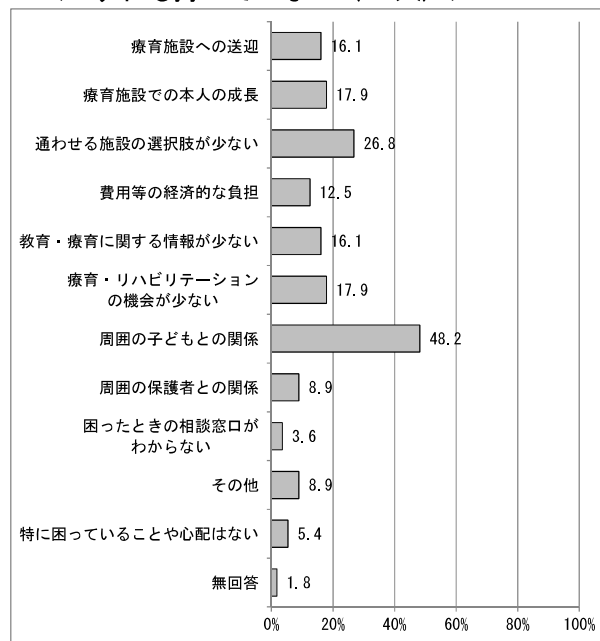


＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（20 人）＞

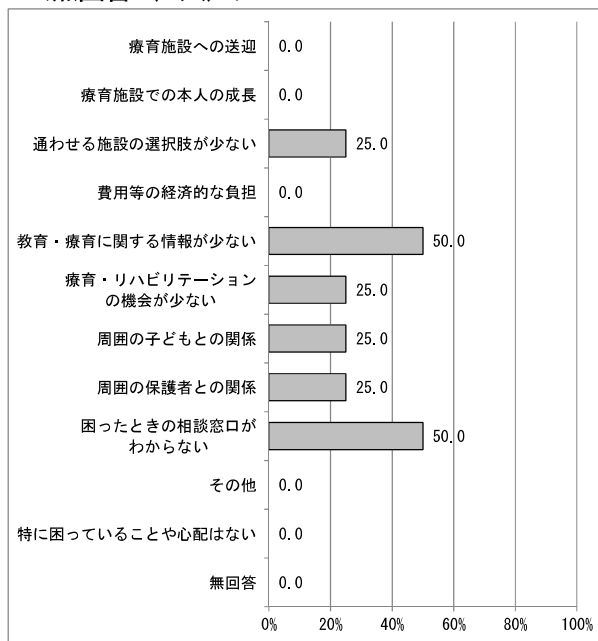


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

<いずれも持っていない (57 人)>



<無回答 (4 人)>



- ② 学校等にいる以外の時間（放課後や長期休業中など）は、どのように過ごしていますか。
（あてはまるものすべてに○）

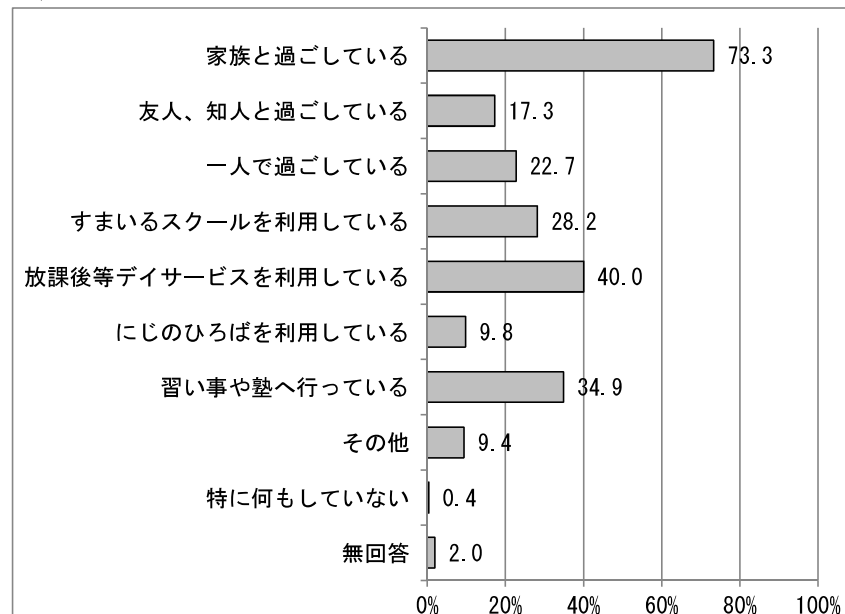
＜全体の傾向＞

学校にいない時間の過ごし方について、「家族と過ごしている」が 73.3%と最も割合が高く、次いで「放課後等デイサービスを利用している」が 40.0%、「習い事や塾へ行っている」が 34.9%となっています。

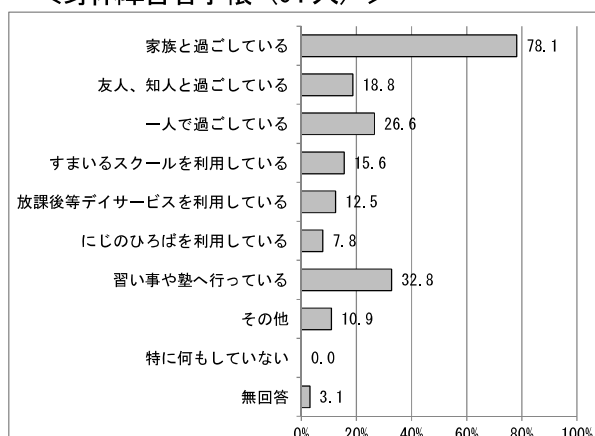
＜手帳種別の傾向＞

「身体障害者手帳」では「放課後等デイサービスを利用している」が 12.5%と割合が低くなっています。

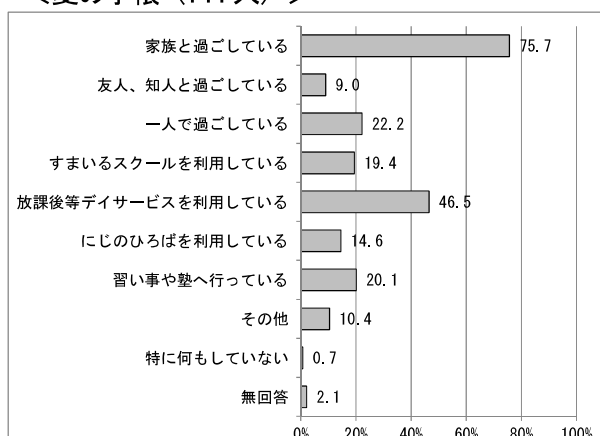
＜全体（255 人）＞



＜身体障害者手帳（64 人）＞

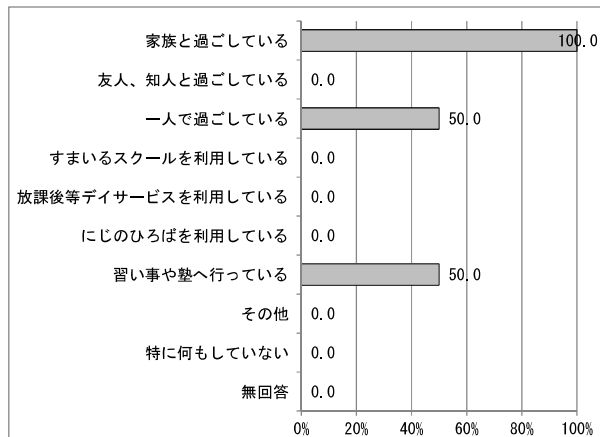


＜愛の手帳（144 人）＞

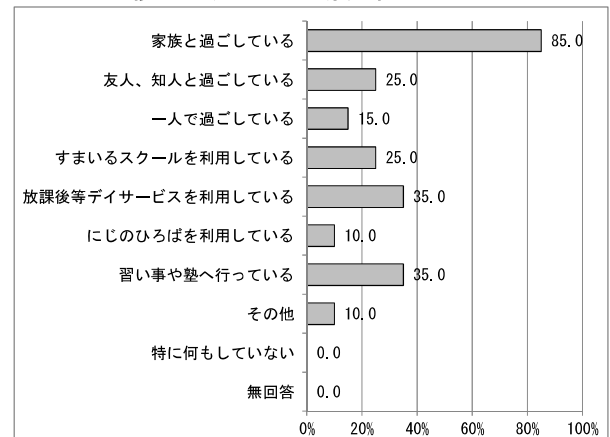


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

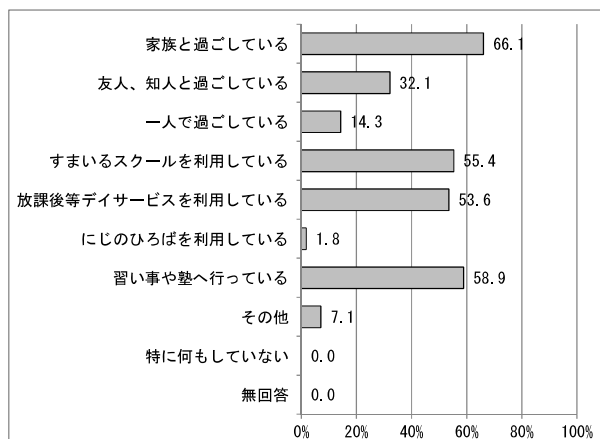
＜精神障害者保健福祉手帳（2 人）＞



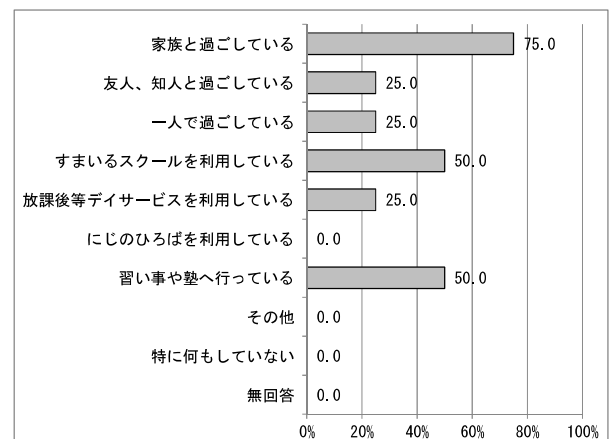
＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（20 人）＞



＜いずれも持っていない（56 人）＞



＜無回答（4 人）＞



- ③ 学校等にいる以外の時間（放課後や長期休業中など）について、現在の過ごし方以外にどのような過ごし方を希望しますか。ご自由にお書きください。

現状以外の過ごし方について、「療育・福祉サービス」「塾・習い事」「同世代の子どもとの遊び」の回答が多くみられます。

分 類	回答数
療育・福祉サービス	32
塾・習い事	26
同世代の子どもとの遊び・交流	19
外出・イベント	15
すまいるスクール、一時預かり	15
スポーツ	12
家庭で過ごす	10
子ども向け施設	6
部活、クラブ活動	4
地域活動	2
その他	17

児童福祉法による障害児通所支援について

問 23 ア、イのサービスの「現在の利用状況」と「今後の利用希望」をお答えください。

利用している方は、利用日数も記入してください。

(それぞれの項目について、現在、今後に1つずつ○)

<全体の傾向>

放課後等デイサービスの「現在の利用状況」について、「利用している」が53.7%、「利用していない」が42.5%となっています。「今後の利用希望」については、「(今後も) 利用したい」が49.4%と最も割合が高く、次いで「わからない」が15.8%、「利用希望はない」が11.6%となっています。

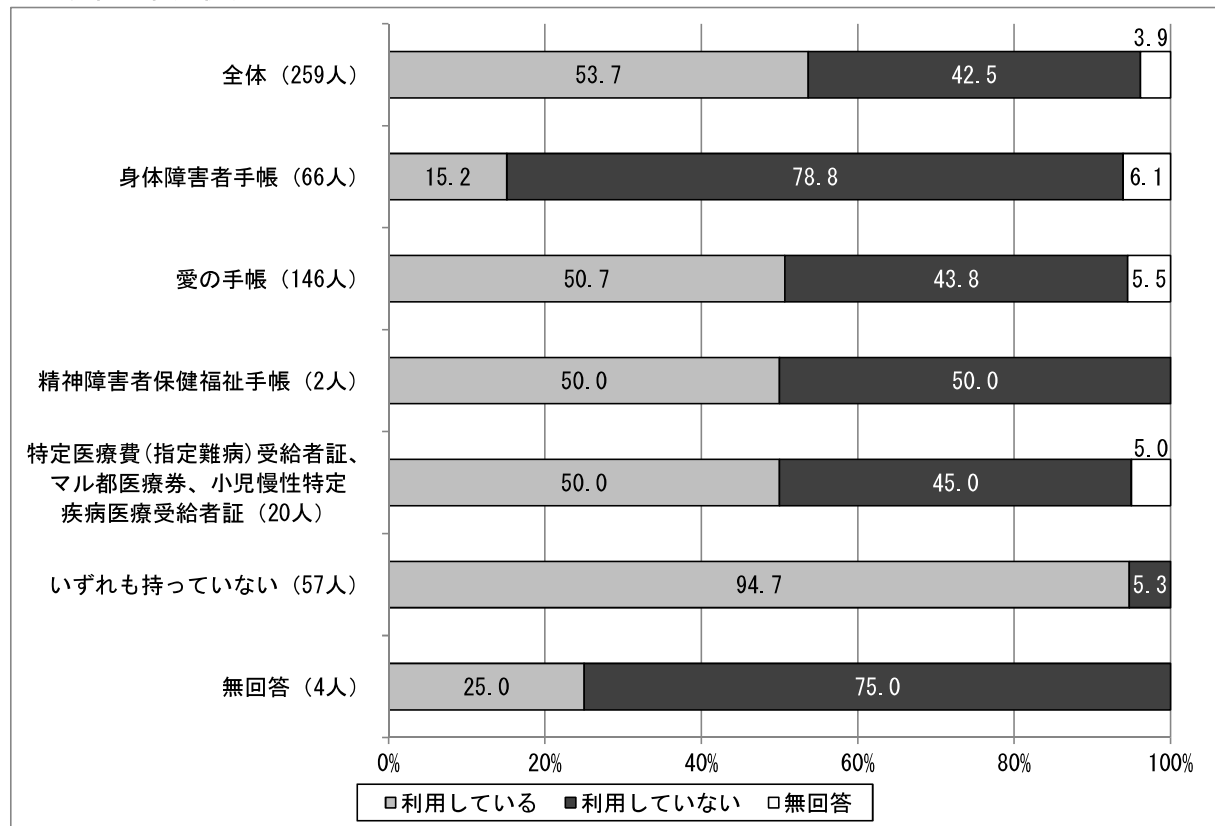
また、保育所等訪問支援の「現在の利用状況」について、「利用していない」が57.5%、「利用している」が0.4%となっています。「今後の利用希望」については、「利用希望はない」が22.4%と最も割合が高く、次いで「わからない」が16.2%、「(今後も) 利用したい」が3.1%となっています。

<手帳種別の傾向>

放課後等デイサービスの「現在の利用状況」について、「身体障害者手帳」では「利用していない」が78.8%、「いずれも持っていない」では「利用している」が94.7%と高い割合となっています。また、「今後の利用希望」については、「いずれも持っていない」では「(今後も) 利用したい」が73.7%と高い割合となっています。

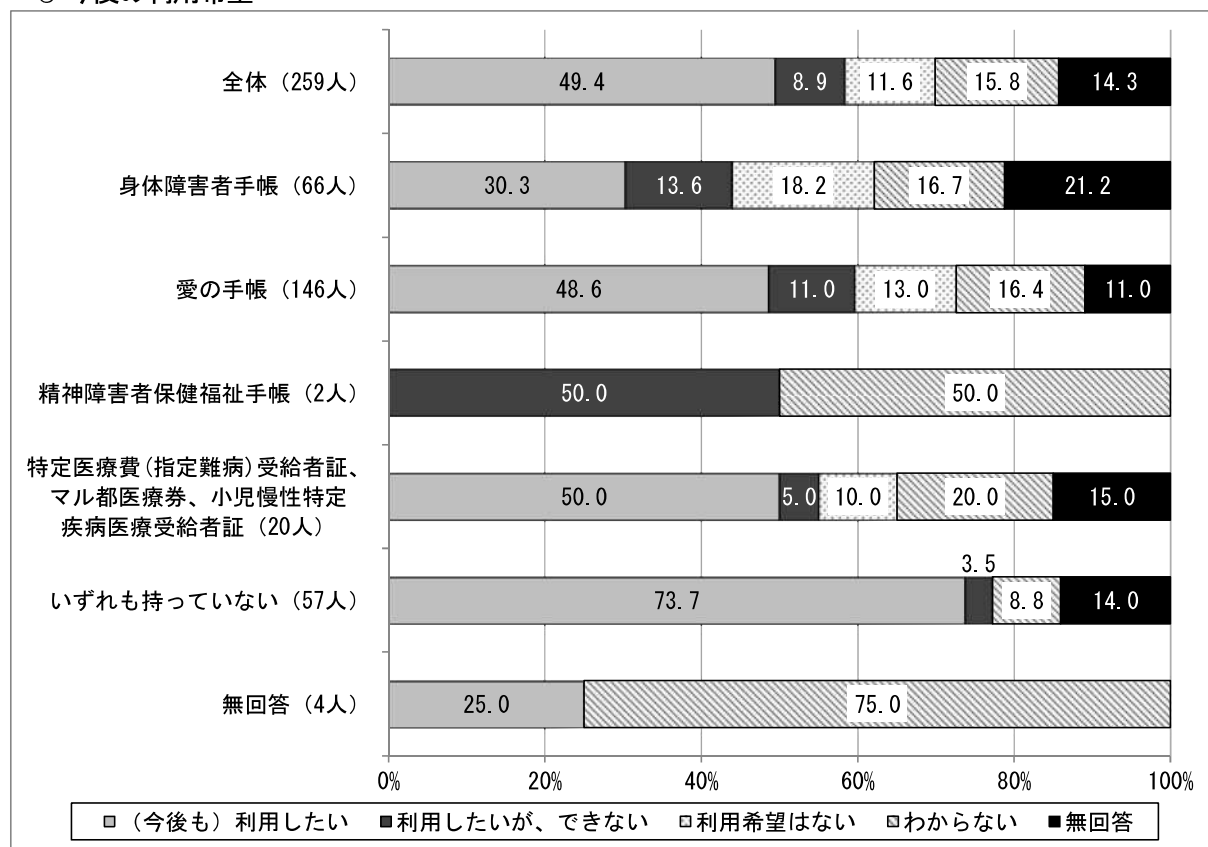
ア 放課後等デイサービス

○ 現在の利用状況



Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

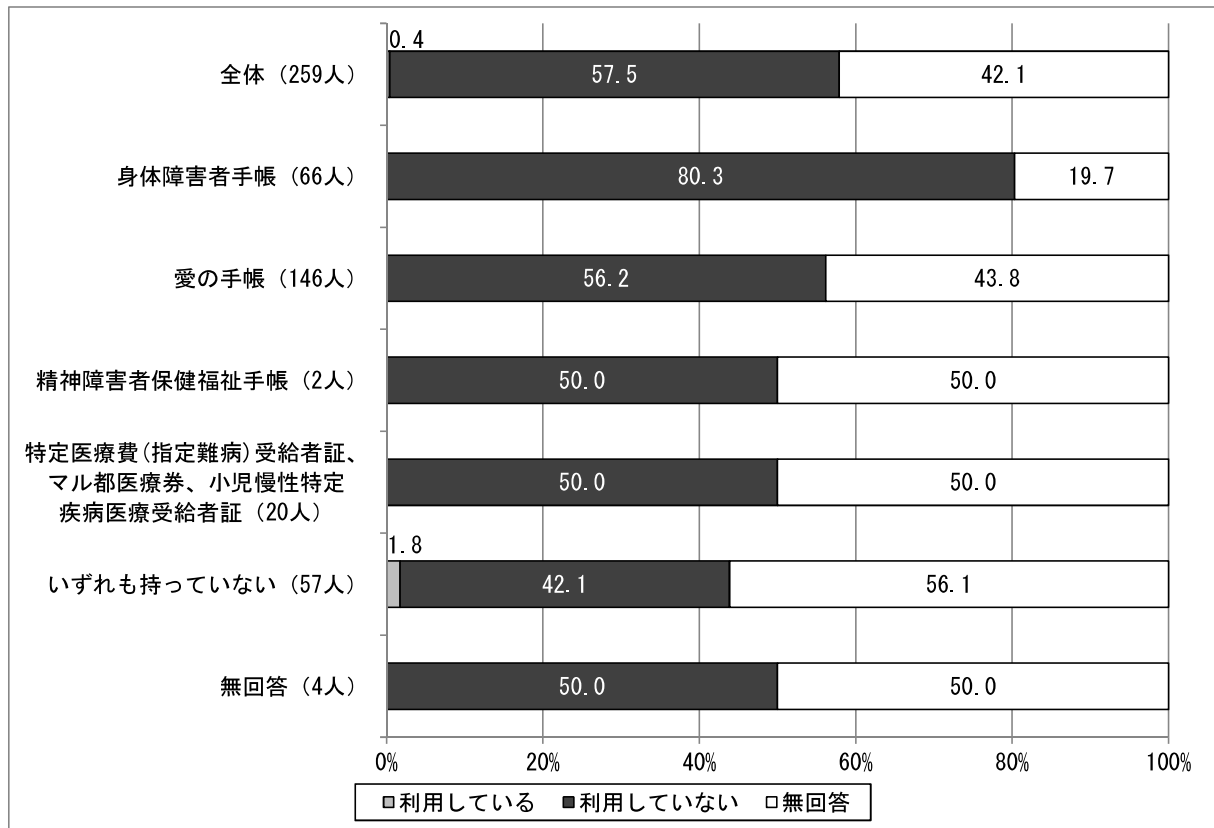
○ 今後の利用希望



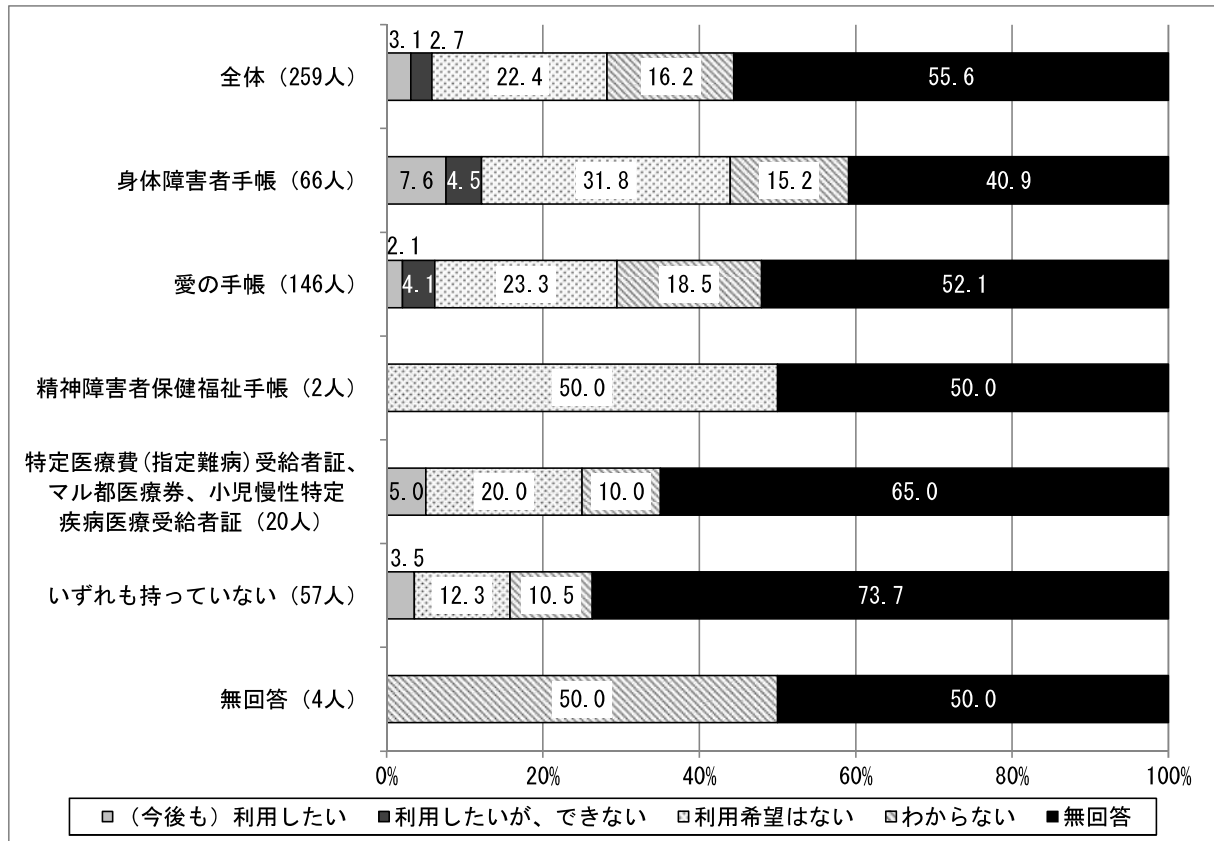
Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

イ 保育所等訪問支援

○ 現在の利用状況



○ 今後の利用希望



問 24 問 23 でア、イの「現在の利用状況」のいずれかで「1」（利用している）と回答した方におたずねします。

① 現在利用しているサービスについて、どのように感じますか。

（現在利用しているサービスごとに、1 つに○）

＜全体の傾向＞

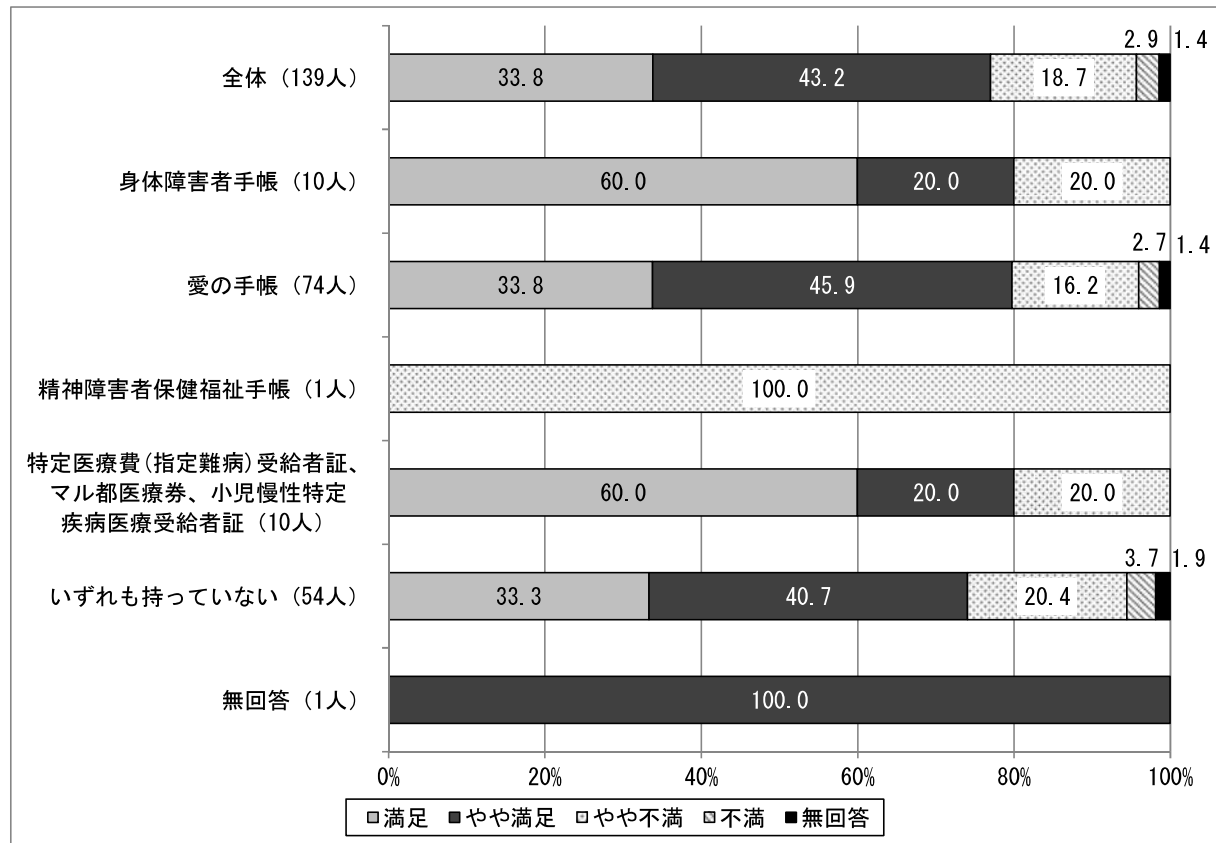
放課後等デイサービスの満足度について、「やや満足」が 43.2%と最も割合が高く、次いで「満足」が 33.8%、「やや不満」が 18.7%となっています。

保育所等訪問支援（該当者 1 人）の満足度について、「不満」の回答が得られています。

＜手帳種別の傾向＞

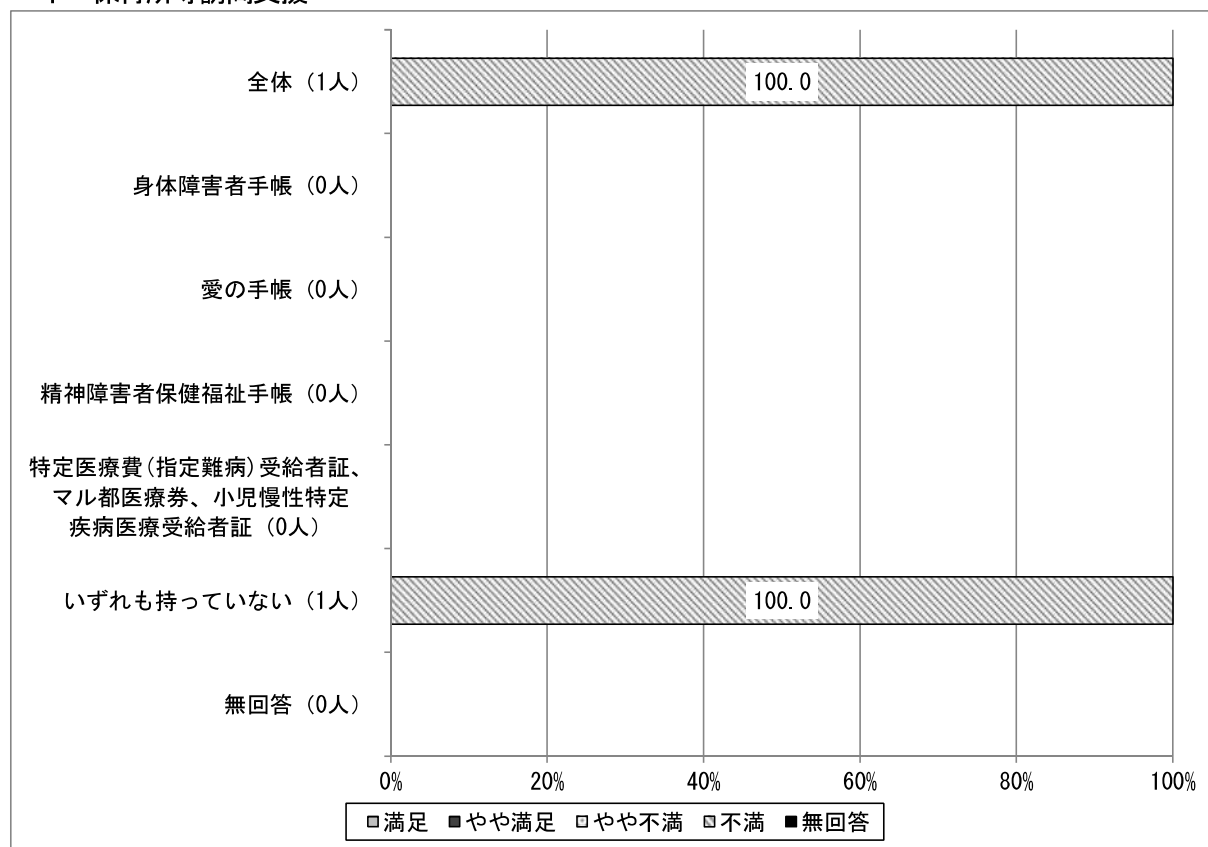
放課後等デイサービスの満足度について、「身体障害者手帳」と「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では「満足」の割合が高くなっています。

ア 放課後等デイサービス



Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

イ 保育所等訪問支援



② 現在利用しているサービスについて、困っていることがありますか。

（現在利用しているサービスごとに、主なもの 2 つまでに○）

＜全体の傾向＞

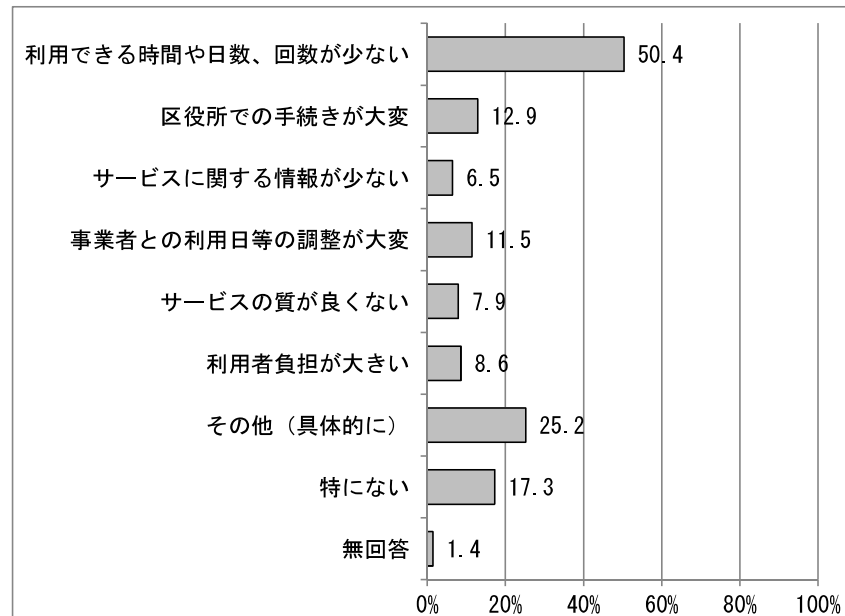
放課後等デイサービスの困っていることについて、「利用できる時間や日数、回数が少ない」が 50.4%と最も割合が高く、次いで「その他」が 25.2%、「区役所での手続きが大変」が 12.9%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

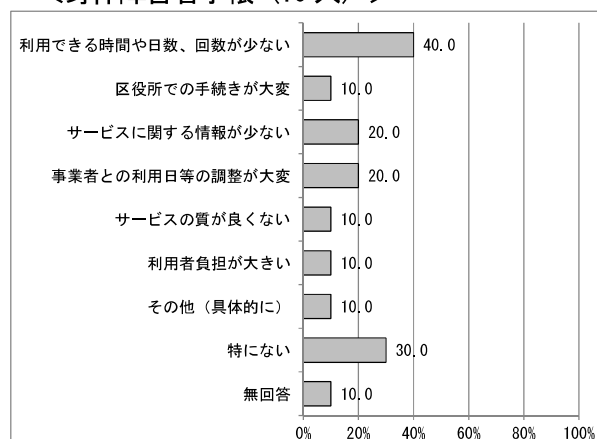
手帳種別の特徴はみられません。

ア 放課後等デイサービス

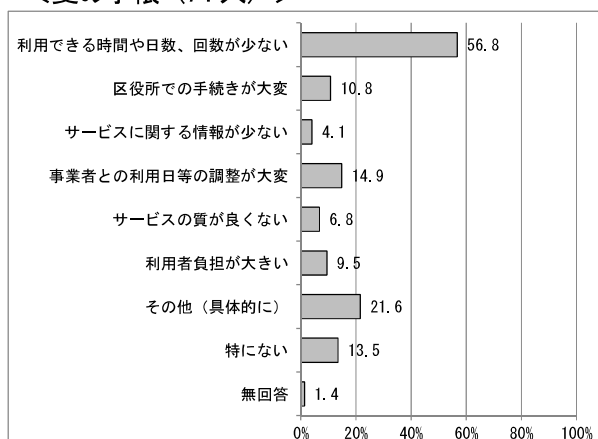
＜全体（139 人）＞



＜身体障害者手帳（10 人）＞

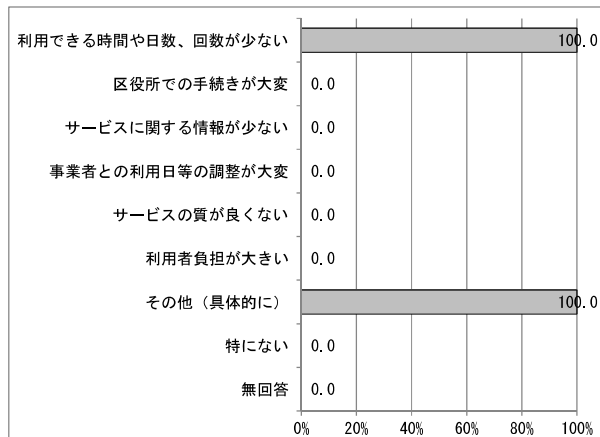


＜愛の手帳（74 人）＞

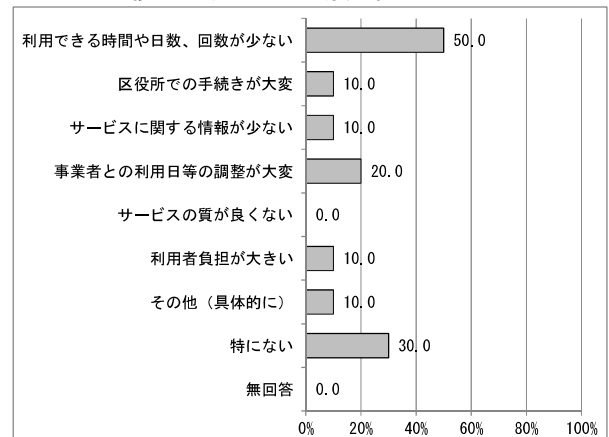


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

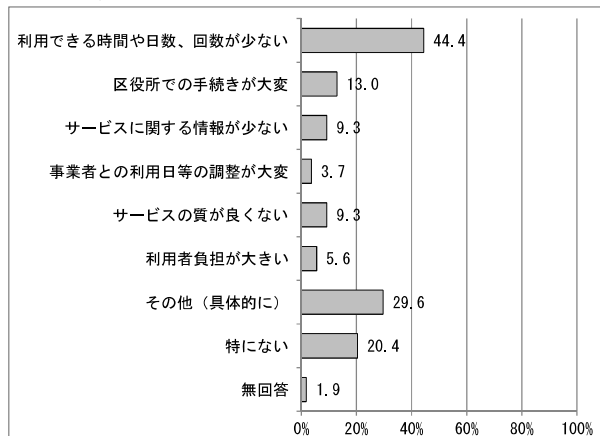
＜精神障害者保健福祉手帳（1 人）＞



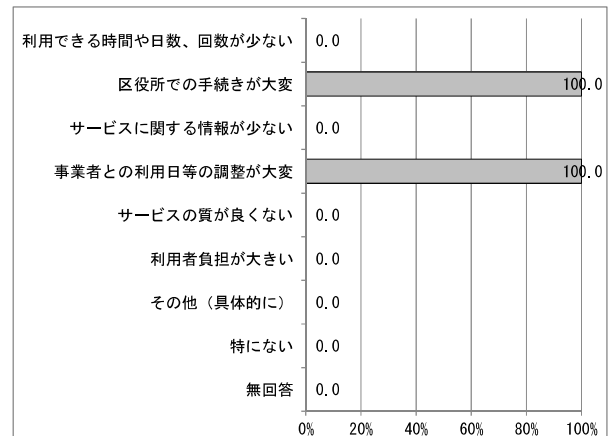
＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（10 人）＞



＜いずれも持っていない（54 人）＞

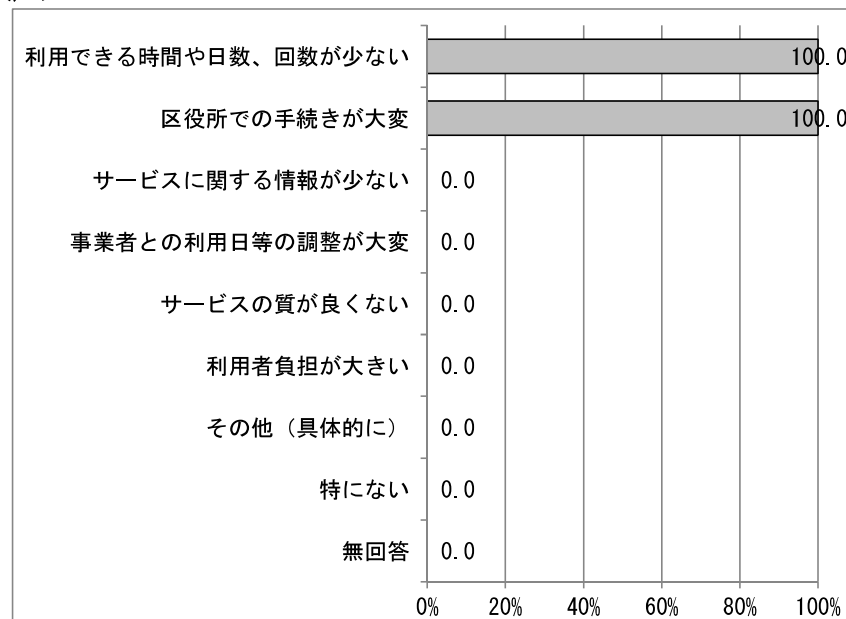


＜無回答（1 人）＞

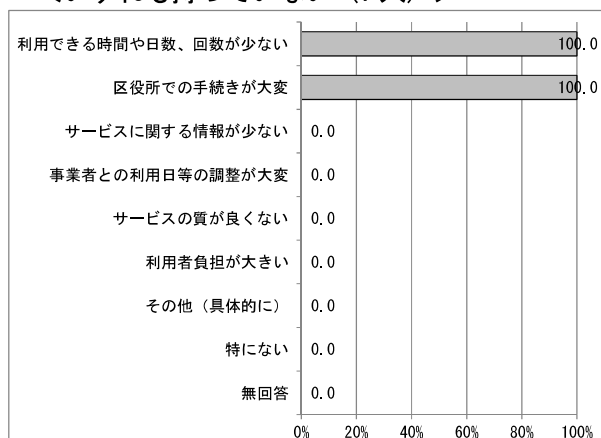


イ 保育所等訪問支援

<全体（1 人）>



<いずれも持っていない（1 人）>



※ 回答のあった分類のみ記載

Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

- ③ ②でア、イのいずれかで「１」（利用できる時間や日数、回数が少ない）と回答した方におたずねします。現在利用しているサービスについて、そう感じる理由は何ですか。具体的にお書きください。

サービス量が少ないと感じる理由について、放課後等デイサービスでは「利用できる日数が少ない」という回答が最も多く、次いで「利用したいときに利用できない」「長期休暇中に多く利用したい」回答が多くみられます。

保育所等訪問支援の回答者（１人）から、「利用できる日数が少ない」「職員が少なく、連絡がとりづらい」という回答が得られています。

ア 放課後等デイサービス

分 類	回答数
利用できる日数が少ない	37
利用したいときに利用できない	10
長期休暇中に多く利用したい	8
利用できる時間が短い、時間が合わない	7
他地域との比較	7
週末に多く利用したい	2
定員を増やしてほしい	2
デイサービスに通わせたい	2
費用負担が大きい	2
施設が遠い	1
事業者が少ない	1
その他	4

※ 自由記述の内容を分類。複数回答あり。

イ 保育所等訪問支援

分 類	回答数
利用できる日数が少ない	1
職員が少なく、連絡がとりづらい	1

※ 自由記述の内容を分類。複数回答あり。

- ④ ① でア、イのいずれかで「3」または「4」（不満）と回答した方におたずねします。不満な理由は何ですか。（現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○）

＜全体の傾向＞

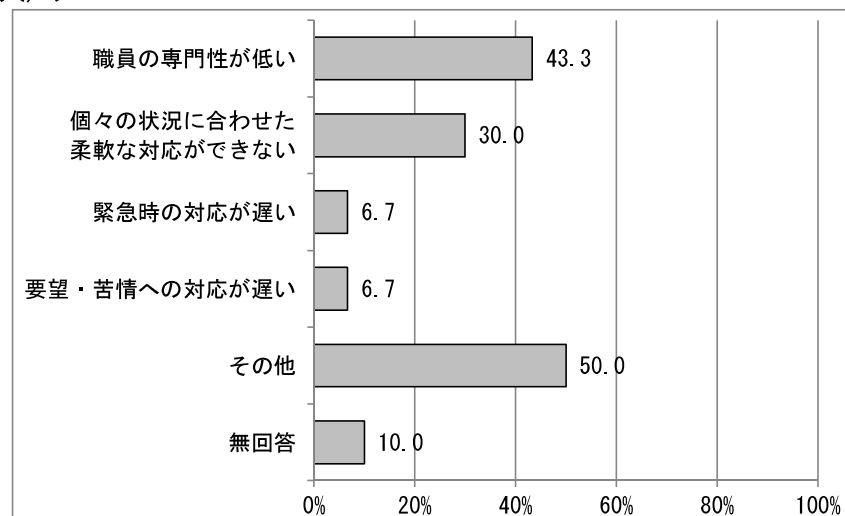
放課後等デイサービスの不満な理由について、「その他」が 50.0%と最も割合が高く、次いで「職員の専門性が低い」が 43.3%、「個々の状況に合わせた柔軟な対応ができない」が 30.0%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

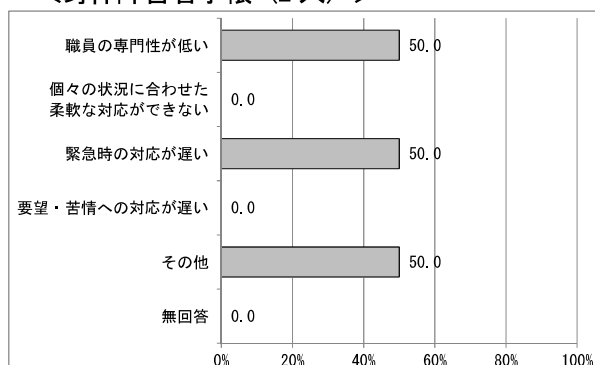
手帳種別の特徴はみられません。

ア 放課後等デイサービス

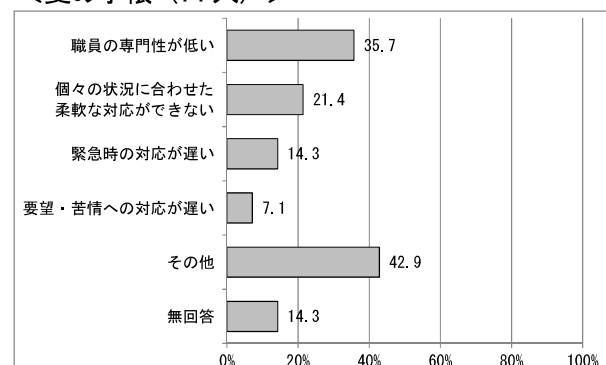
＜全体（30 人）＞



＜身体障害者手帳（2 人）＞

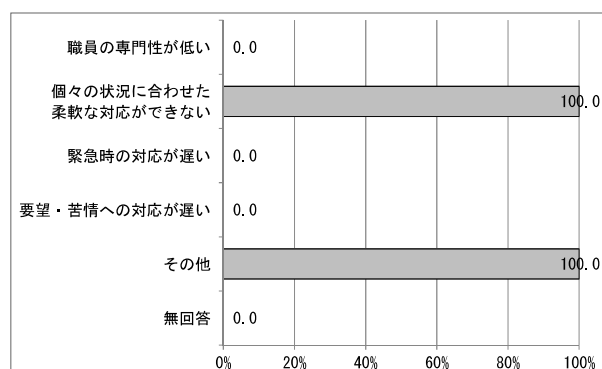


＜愛の手帳（14 人）＞

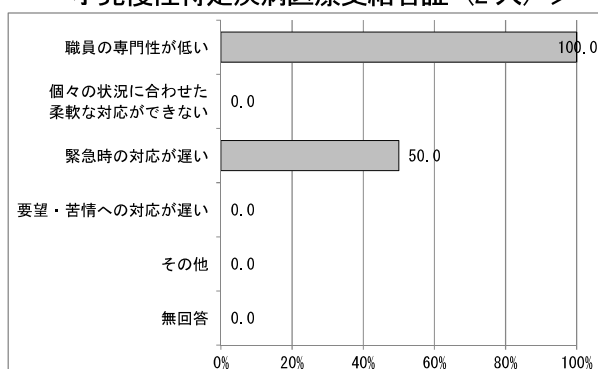


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

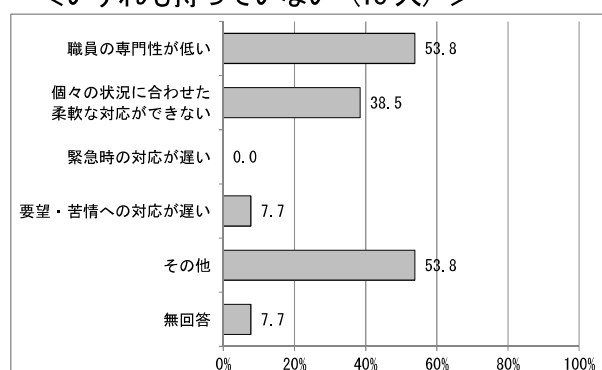
<精神障害者保健福祉手帳（1 人）>



<特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（2 人）>

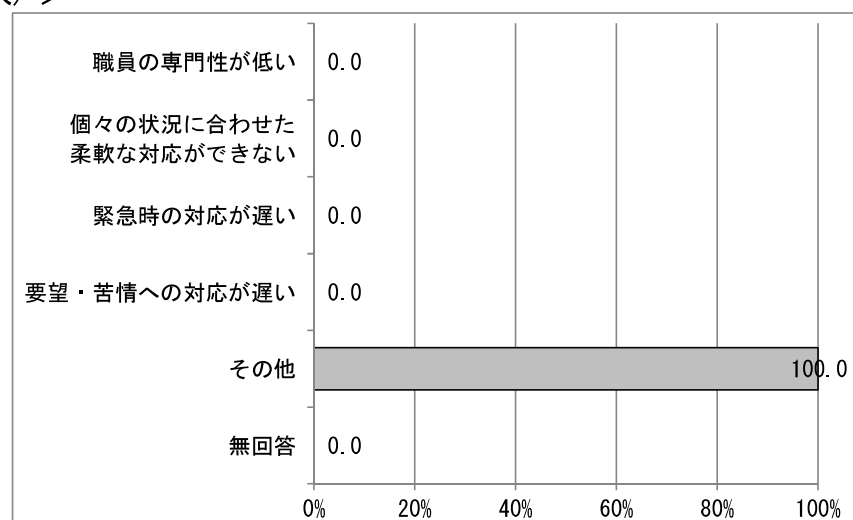


<いずれも持っていない（13 人）>

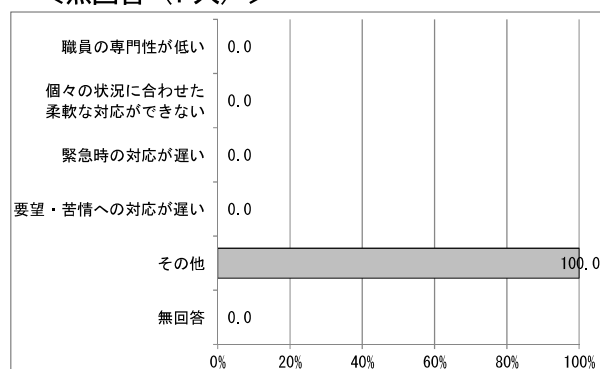


※ 回答のあった分類のみ記載

イ 保育所等訪問支援
＜全体（1 人）＞



＜無回答（1 人）＞



※ 回答のあった分類のみ記載

Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

問 25 問 23 でア、イの「今後の利用希望」のいずれかで「2」（利用したいが、利用できない）と回答した方におたずねします。その理由は何ですか。（主なものを2つまでに○）

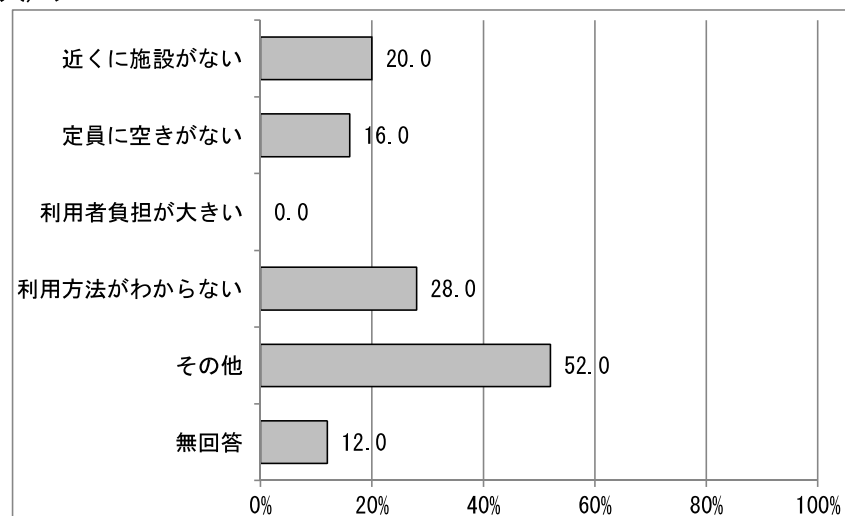
＜全体の傾向＞

放課後等デイサービスを「利用したいが、できない」理由について、「その他」が 52.0%と最も割合が高く、次いで「利用方法がわからない」が 28.0%、「近くに施設がない」が 20.0%となっています。

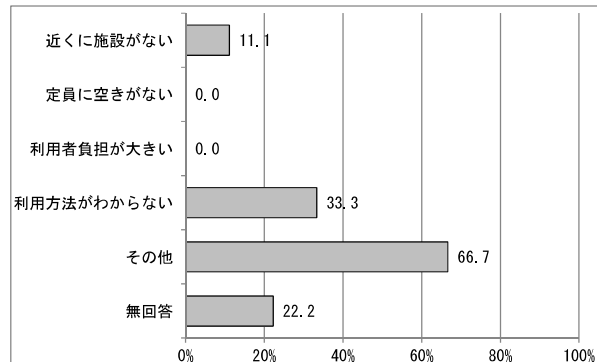
＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。

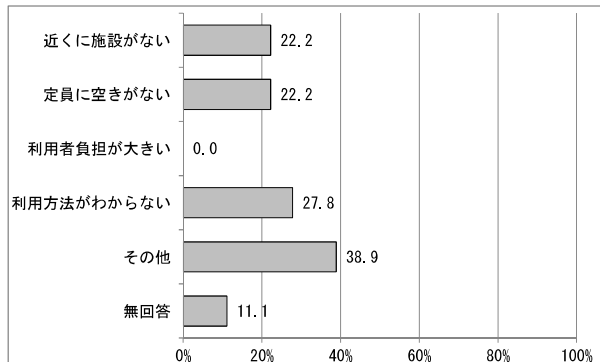
＜全体（25 人）＞



＜身体障害者手帳（9 人）＞

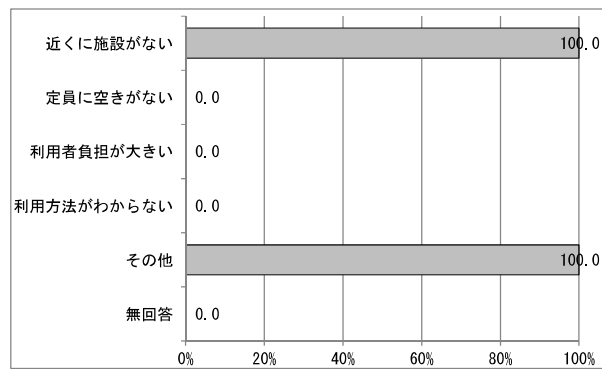


＜愛の手帳（18 人）＞

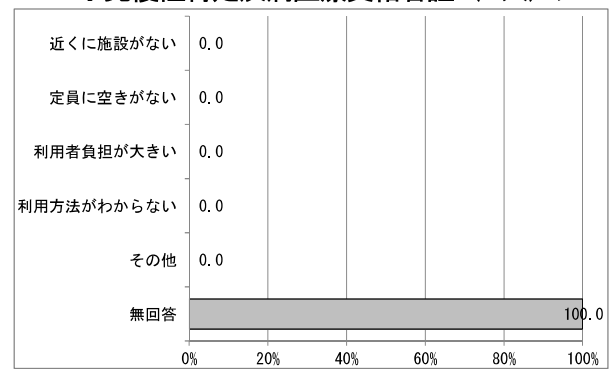


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

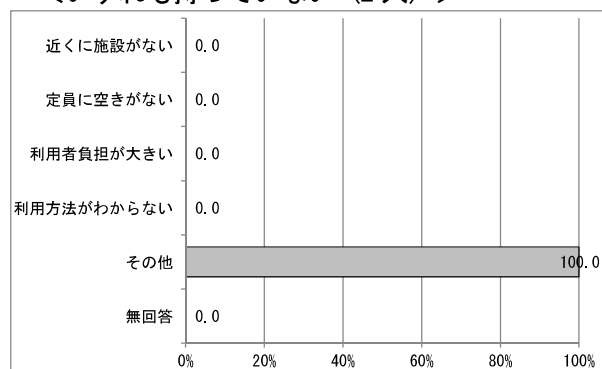
＜精神障害者保健福祉手帳（1 人）＞



＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、 小児慢性特定疾病医療受給者証（1 人）＞



＜いずれも持っていない（2 人）＞



※ 回答のあった分類のみ記載

障害福祉サービスの利用状況・利用希望について

問 26 ア～ケのサービスの「現在の利用状況」と「今後の利用希望」をお答えください。

(それぞれの項目について、現在、今後に 1 つずつ○)

＜全体の傾向＞

居宅介護（ホームヘルプ）の「現在の利用状況」について、「利用していない」が 84.9%と最も割合が高く、「利用している」が 1.9%となっています。「今後の利用希望」については「利用希望はない」が 40.5%と最も割合が高く、次いで「わからない」が 17.4%、「(今後も) 利用したい」が 7.7%となっています。

同行援護の「現在の利用状況」について、「利用していない」が 86.9%と最も割合が高くなっています。「今後の利用希望」については、「利用希望はない」が 48.6%と最も割合が高く、次いで「わからない」が 14.7%、「(今後も) 利用したい」が 2.3%となっています。

行動援護の「現在の利用状況」について、「利用していない」が 86.5%と最も割合が高く、「利用している」が 0.4%となっています。「今後の利用希望」については、「利用希望はない」が 40.5%と最も割合が高く、次いで「わからない」が 19.3%、「(今後も) 利用したい」が 5.8%となっています。

短期入所（ショートステイ）の「現在の利用状況」について、「利用していない」が 83.8%と最も割合が高く、「利用している」が 4.6%となっています。「今後の利用希望」については、「利用希望はない」が 31.7%と最も割合が高く、「(今後も) 利用したい」と「わからない」が 18.5%となっています。

移動支援事業の「現在の利用状況」について、「利用していない」が 82.6%と最も割合が高く、「利用している」が 6.6%となっています。「今後の利用希望」については、「利用希望はない」が 27.4%と最も割合が高く、次いで「(今後も) 利用したい」が 23.9%、「わからない」が 18.9%となっています。

日中一時支援事業の「現在の利用状況」について、「利用していない」が 77.6%と最も割合が高く、「利用している」が 11.6%となっています。「今後の利用希望」については、「利用希望はない」が 30.9%と最も割合が高く、次いで「(今後も) 利用したい」が 20.1%、「わからない」が 18.5%となっています。

手話通訳者派遣事業の「現在の利用状況」について、「利用していない」が 86.1%と最も割合が高く、「利用している」が 0.8%となっています。「今後の利用希望」については、「利用希望はない」が 51.7%と最も割合が高く、次いで「わからない」が 10.8%、「(今後も) 利用したい」が 5.0%となっています。

要約筆記者派遣事業の「現在の利用状況」について、「利用していない」が 86.9%と最も割合が高くなっています。「今後の利用希望」については、「利用希望はない」が 51.0%と最も割合が高く、次いで「わからない」が 12.4%、「(今後も) 利用したい」が 3.9%となっています。

日常生活用具給付等事業の「現在の利用状況」について、「利用していない」が 80.3%と最も割合が高く、「利用している」が 6.9%となっています。「今後の利用希望」について、「利用希望はない」が 39.4%と最も割合が高く、次いで「わからない」が 17.8%、「(今後も) 利用したい」が 10.0%となっています。

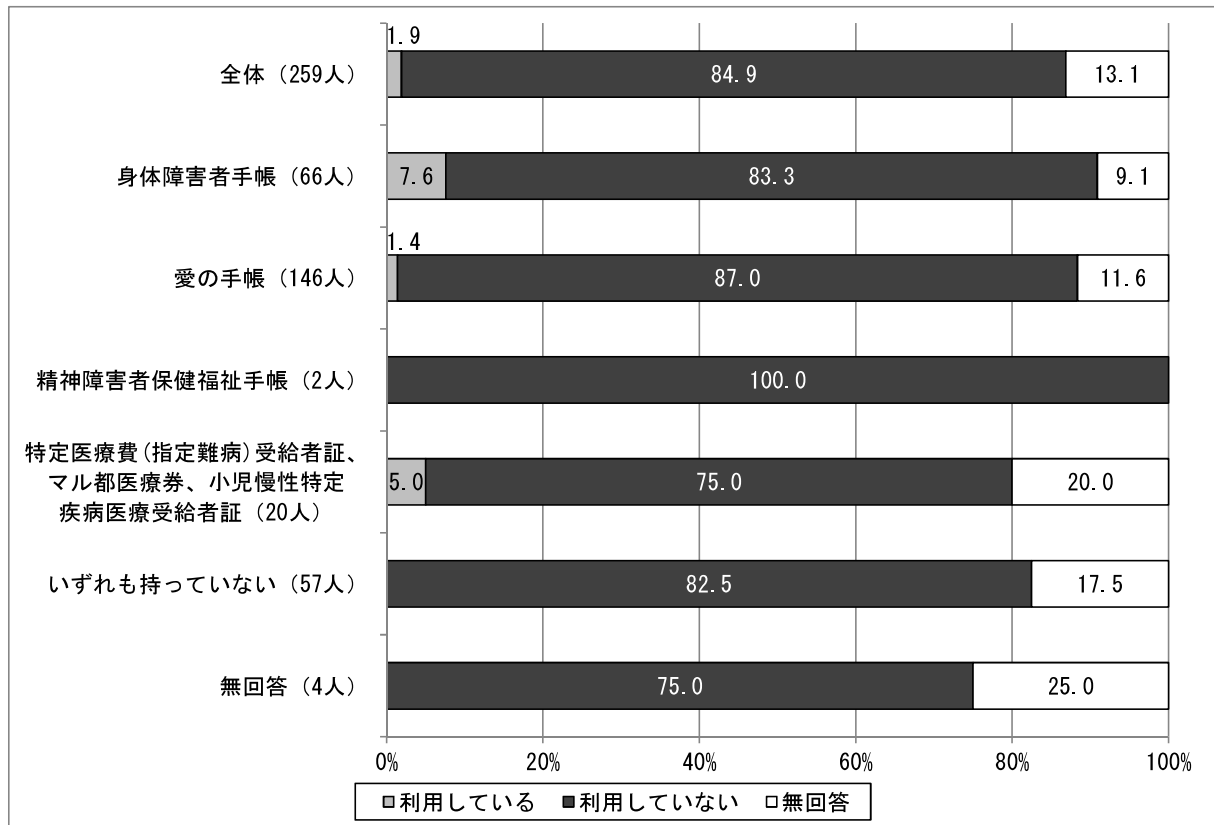
＜手帳種別の傾向＞

短期入所（ショートステイ）と移動支援事業、日中一時支援事業の「今後の利用希望」について、「いずれも持っていない」では「利用希望はない」が比較的高い割合となっています。

また、日常生活用具給付等事業の「今後の利用希望」について、「身体障害者手帳」では「(今後も)利用したい」が 34.8%と比較的高い割合となっています。

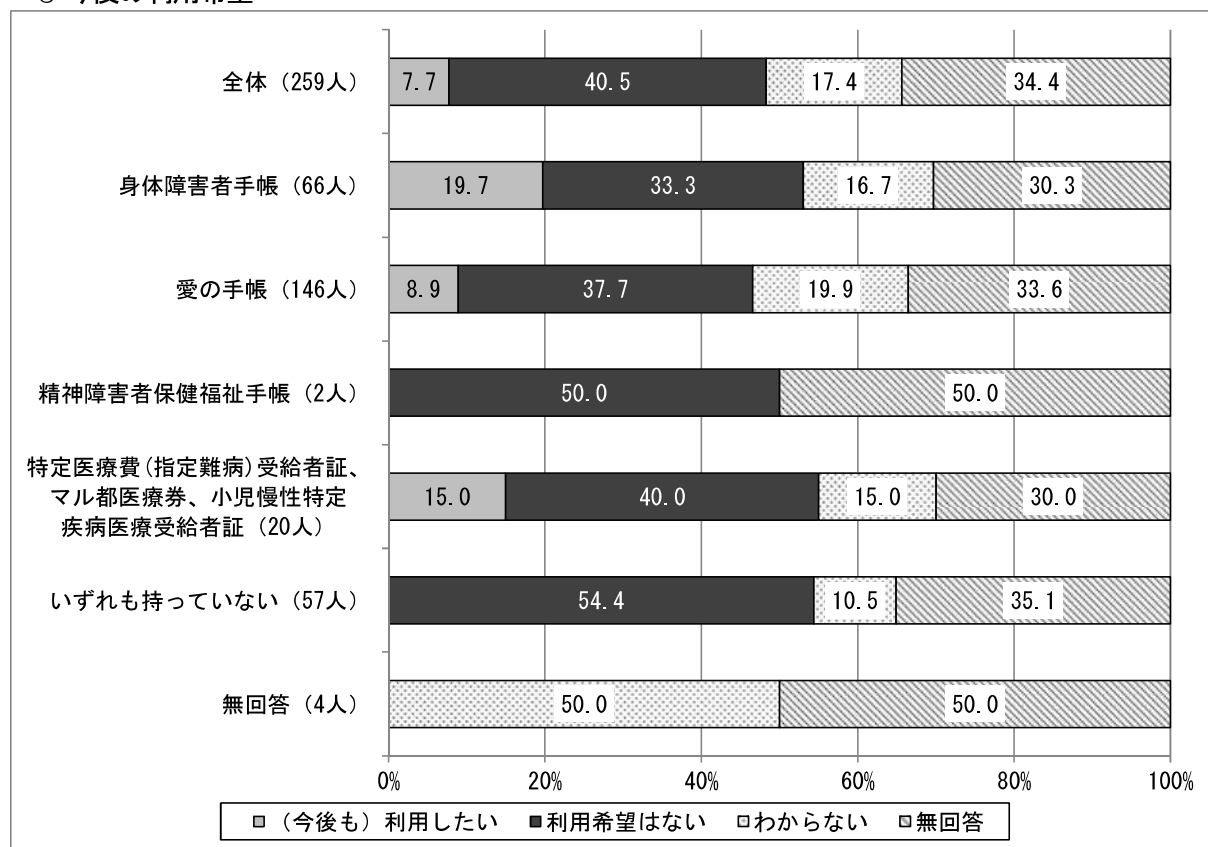
ア 居宅介護（ホームヘルプ）

○ 現在の利用状況



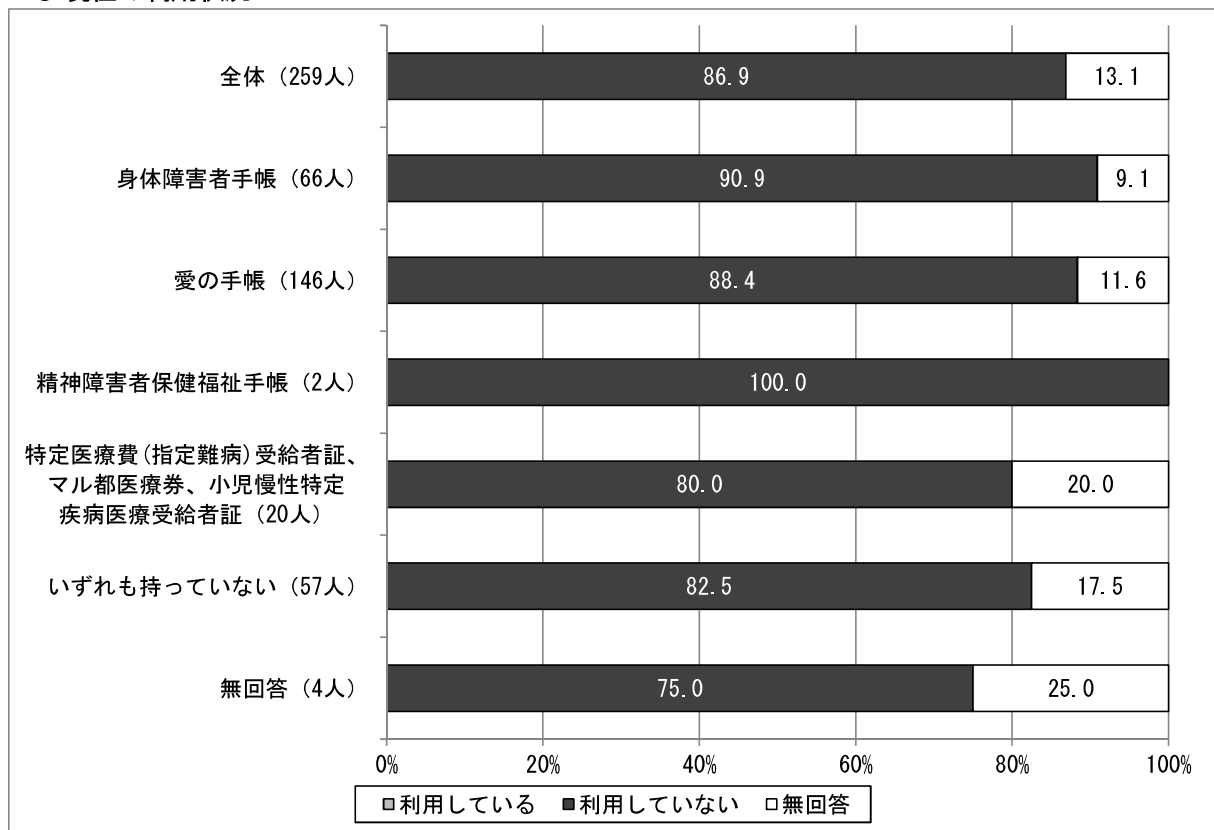
Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

○ 今後の利用希望

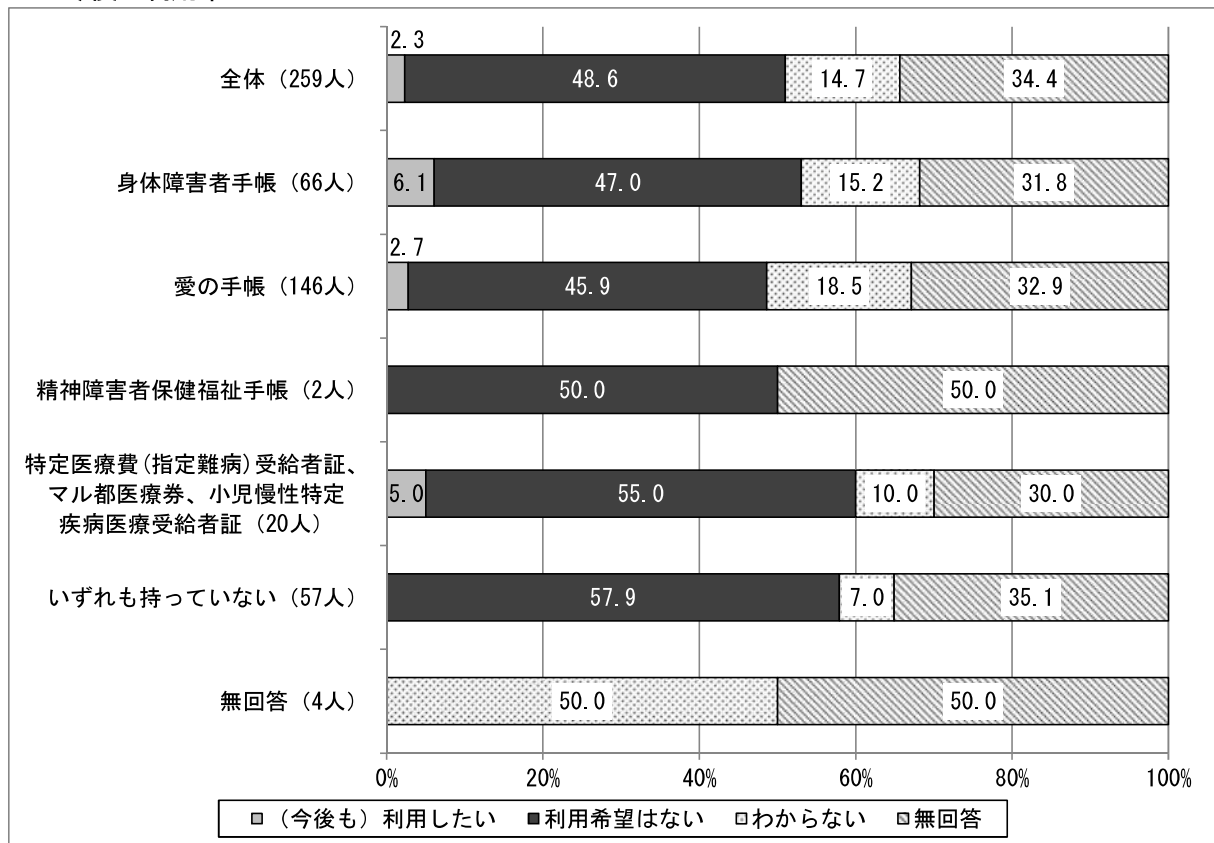


イ 同行援護

○ 現在の利用状況



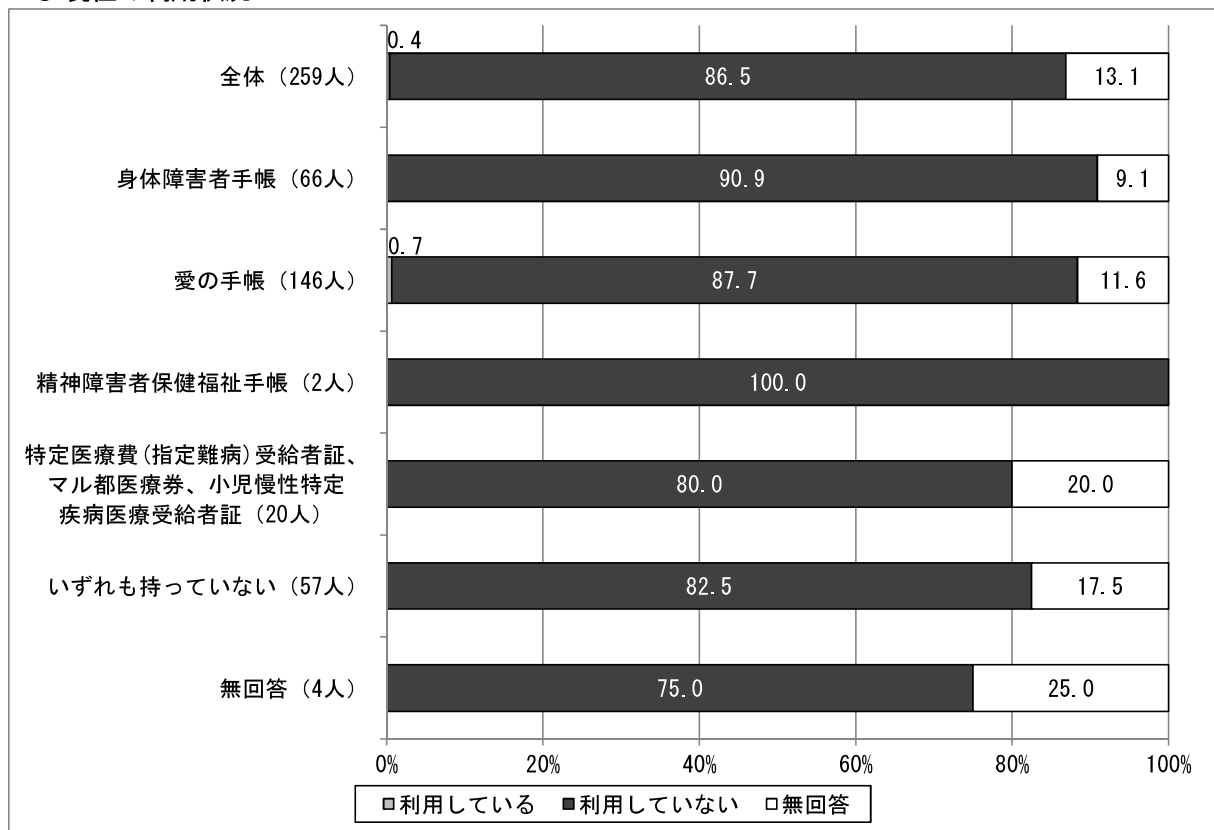
○ 今後の利用希望



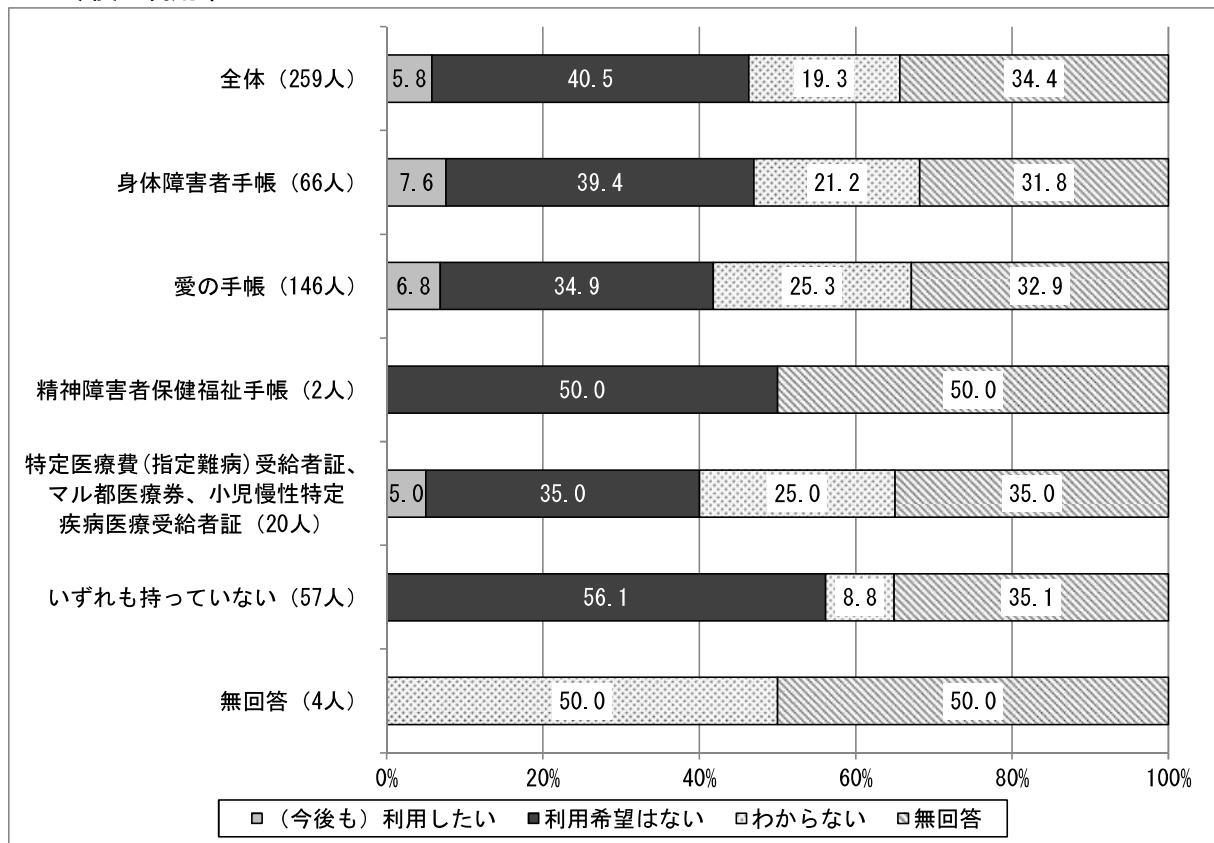
Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

ウ 行動援護

○ 現在の利用状況

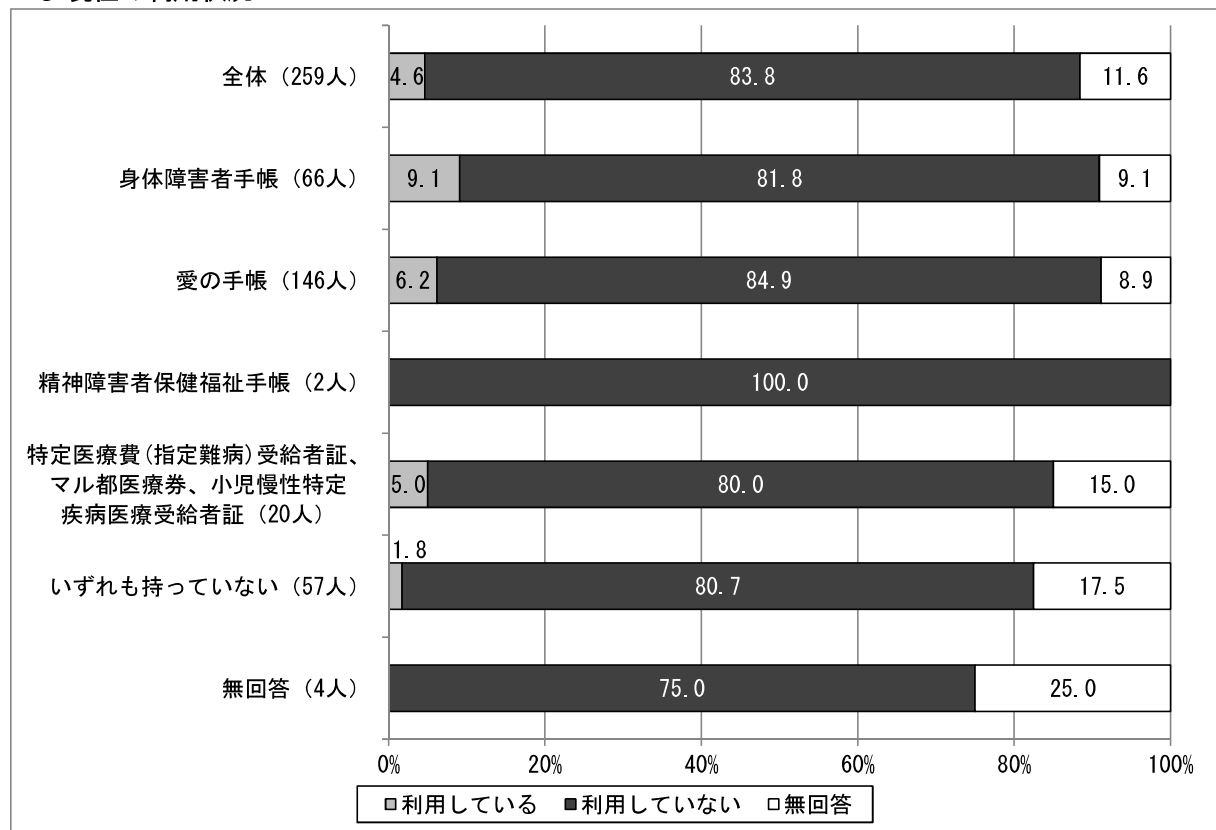


○ 今後の利用希望

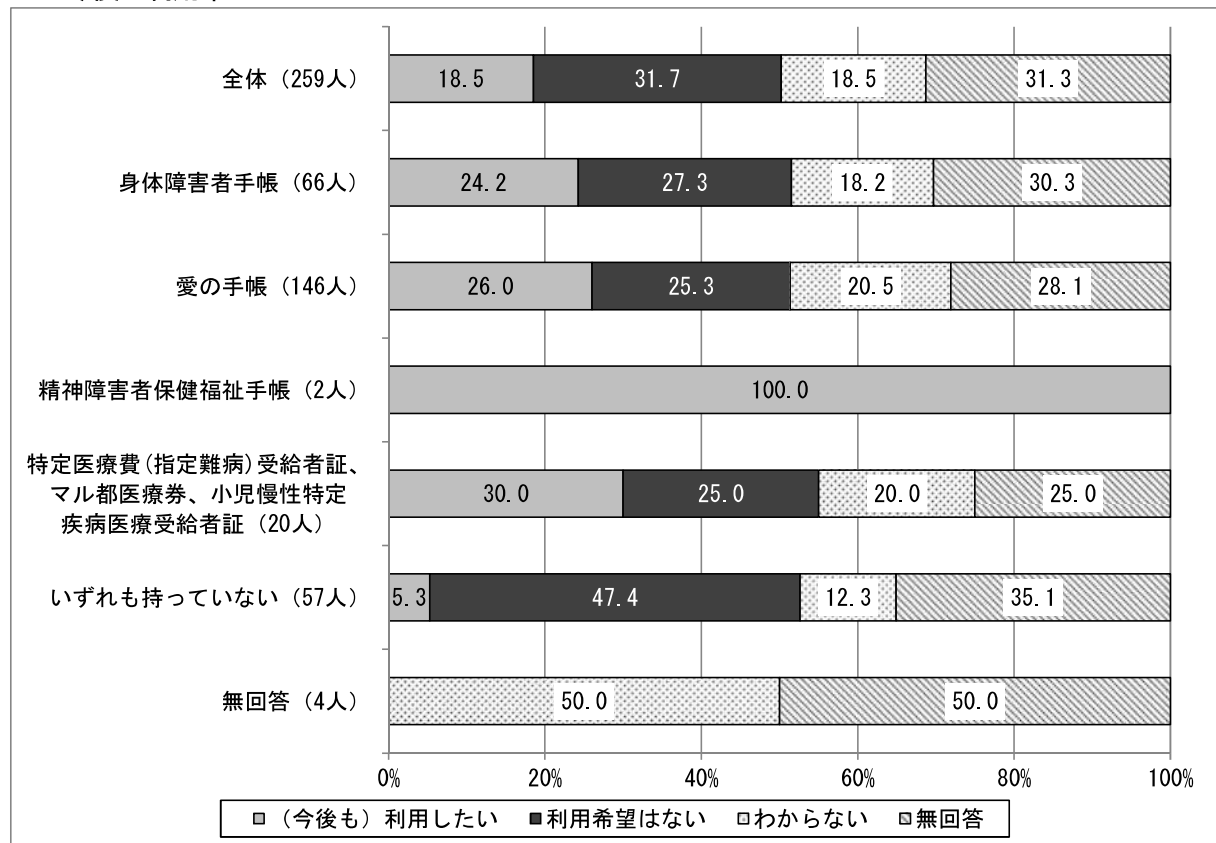


エ 短期入所（ショートステイ）

○ 現在の利用状況



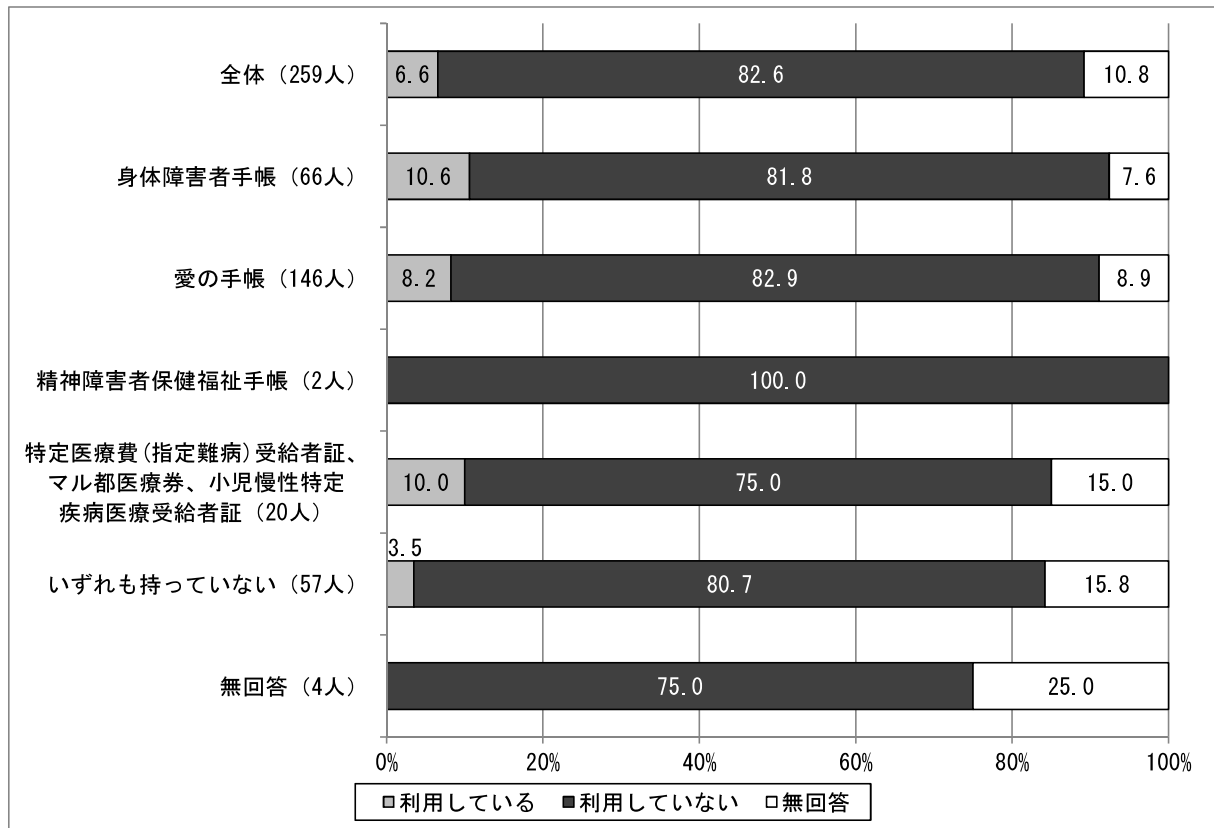
○ 今後の利用希望



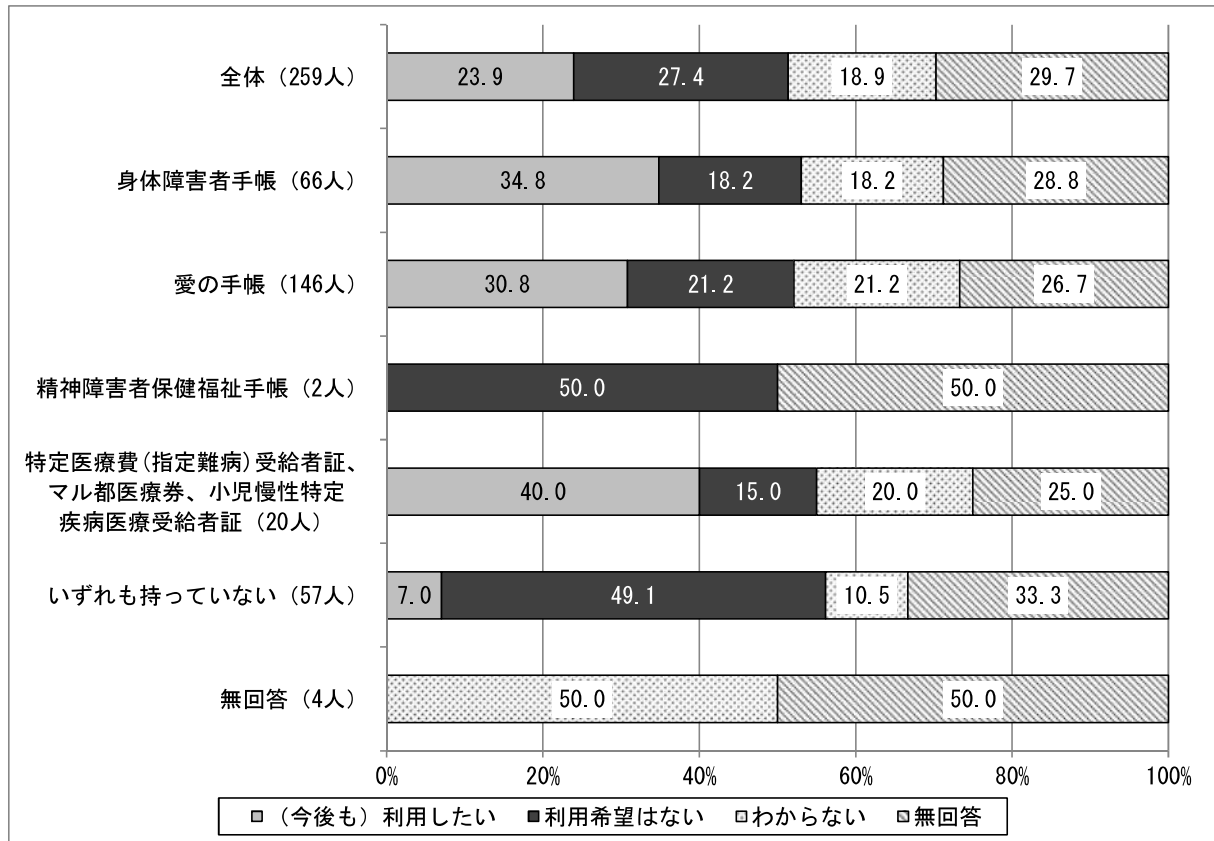
Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

オ 移動支援事業

○ 現在の利用状況



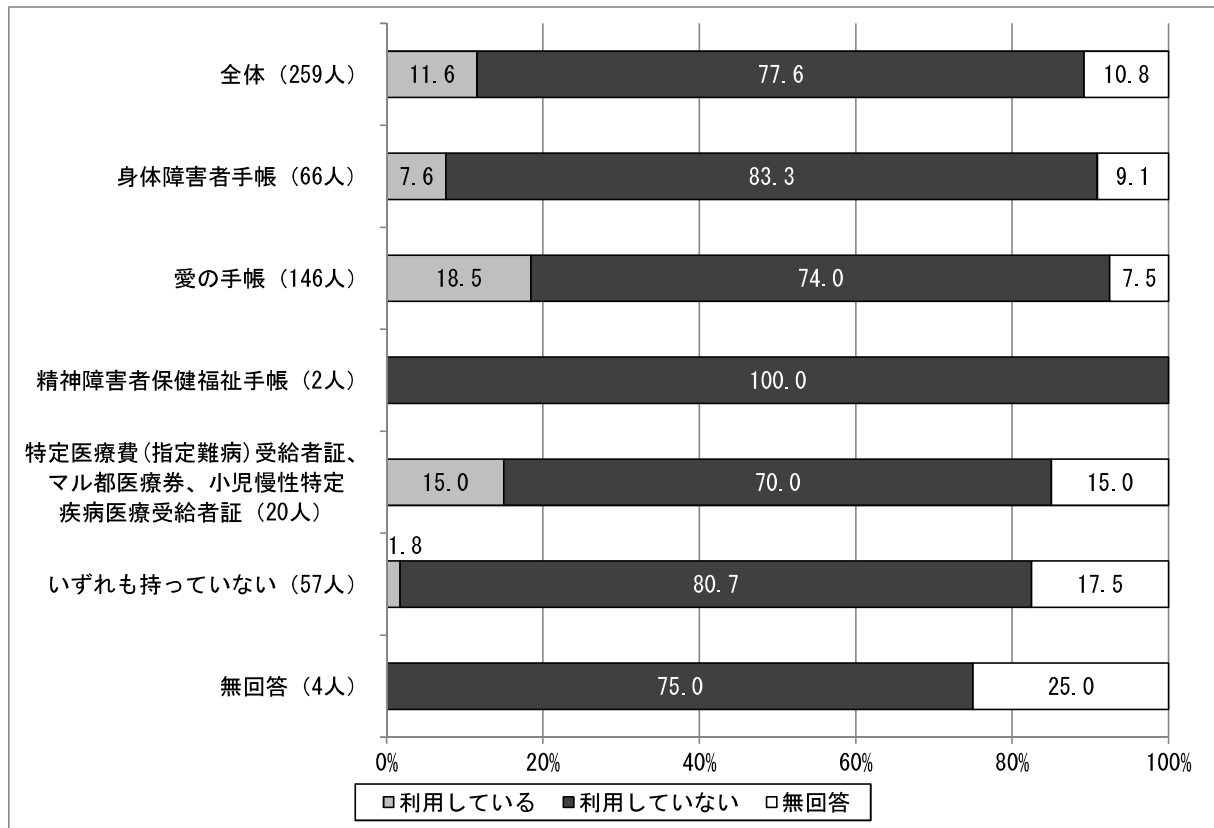
○ 今後の利用希望



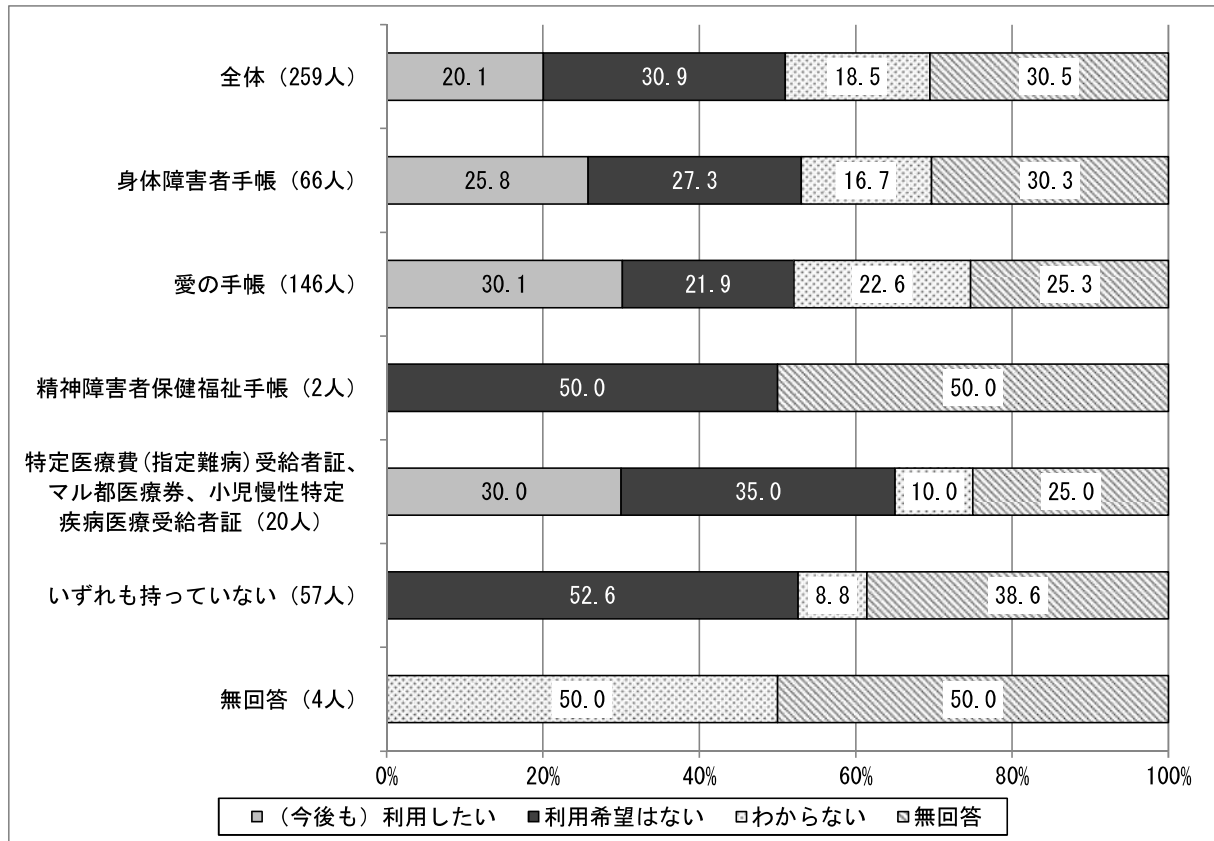
Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

力 日中一時支援事業

○ 現在の利用状況



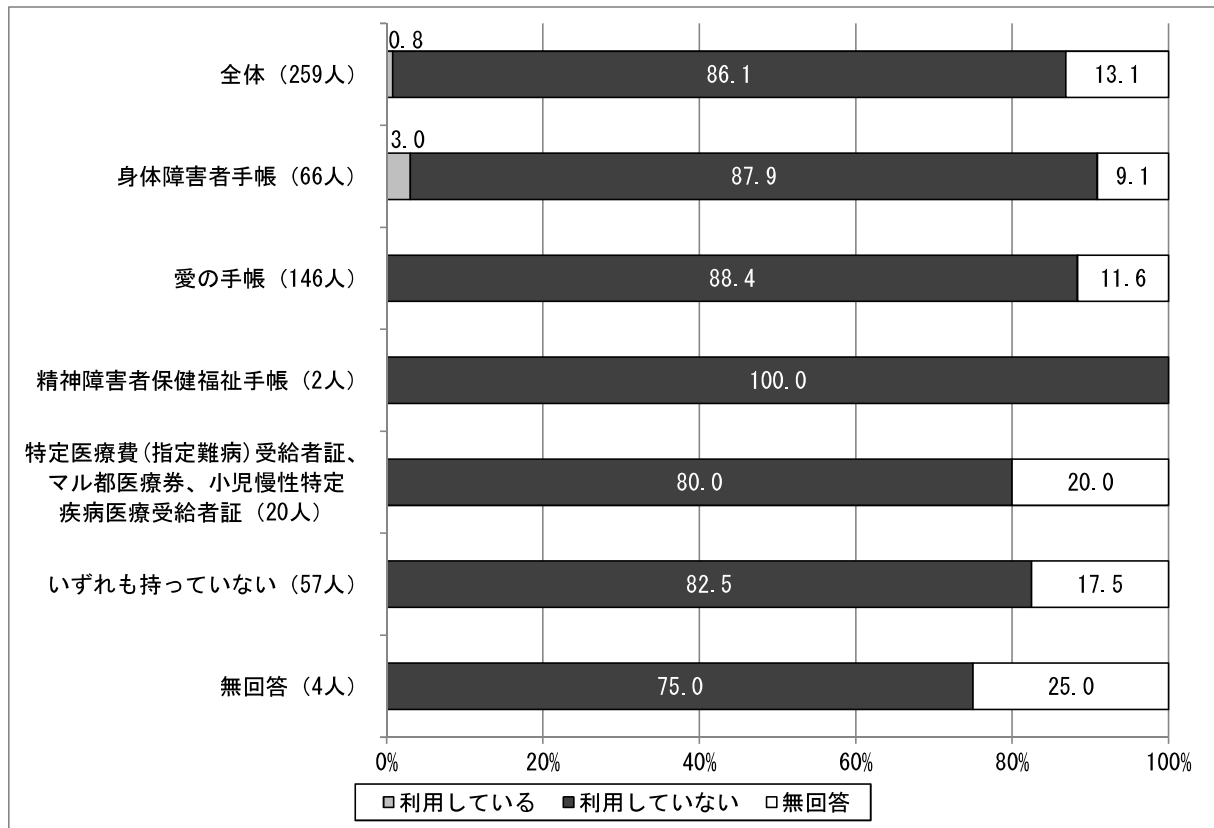
○ 今後の利用希望



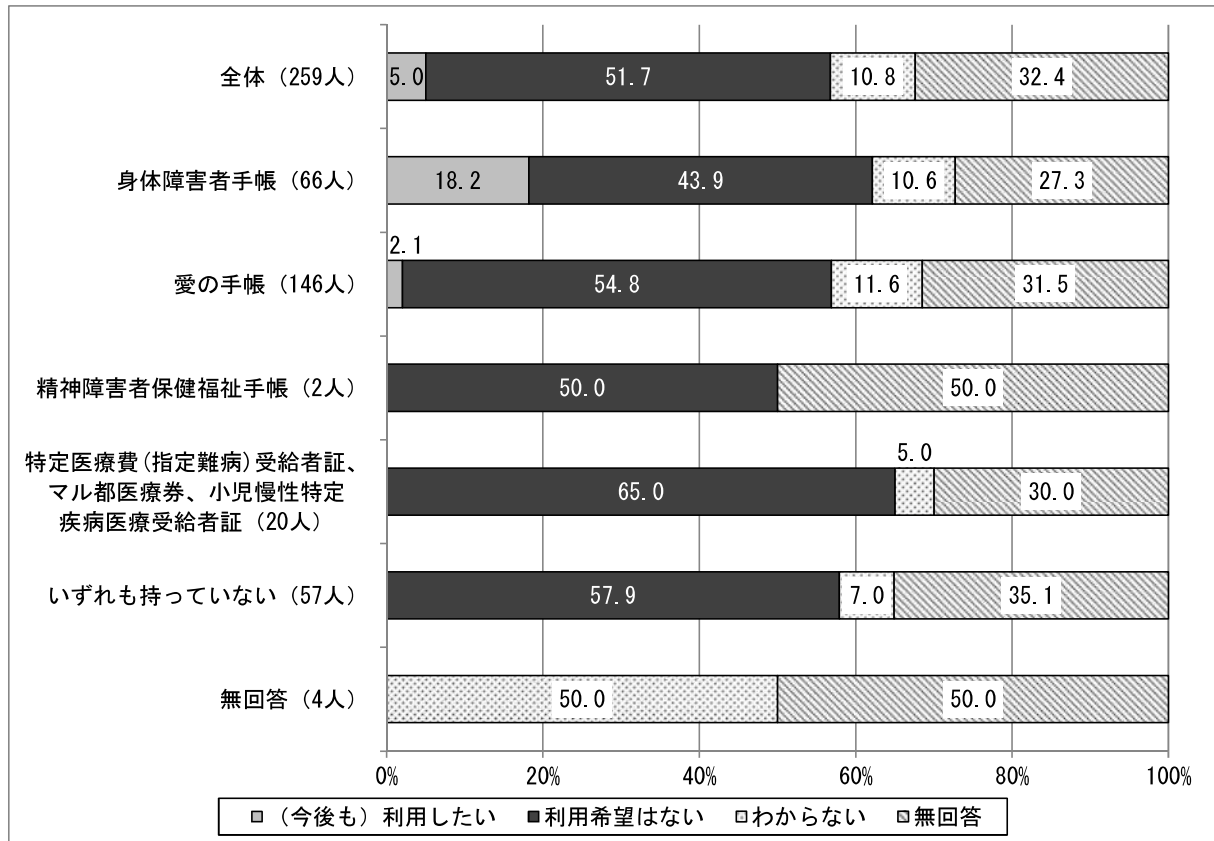
Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

キ 手話通訳者派遣事業

○ 現在の利用状況

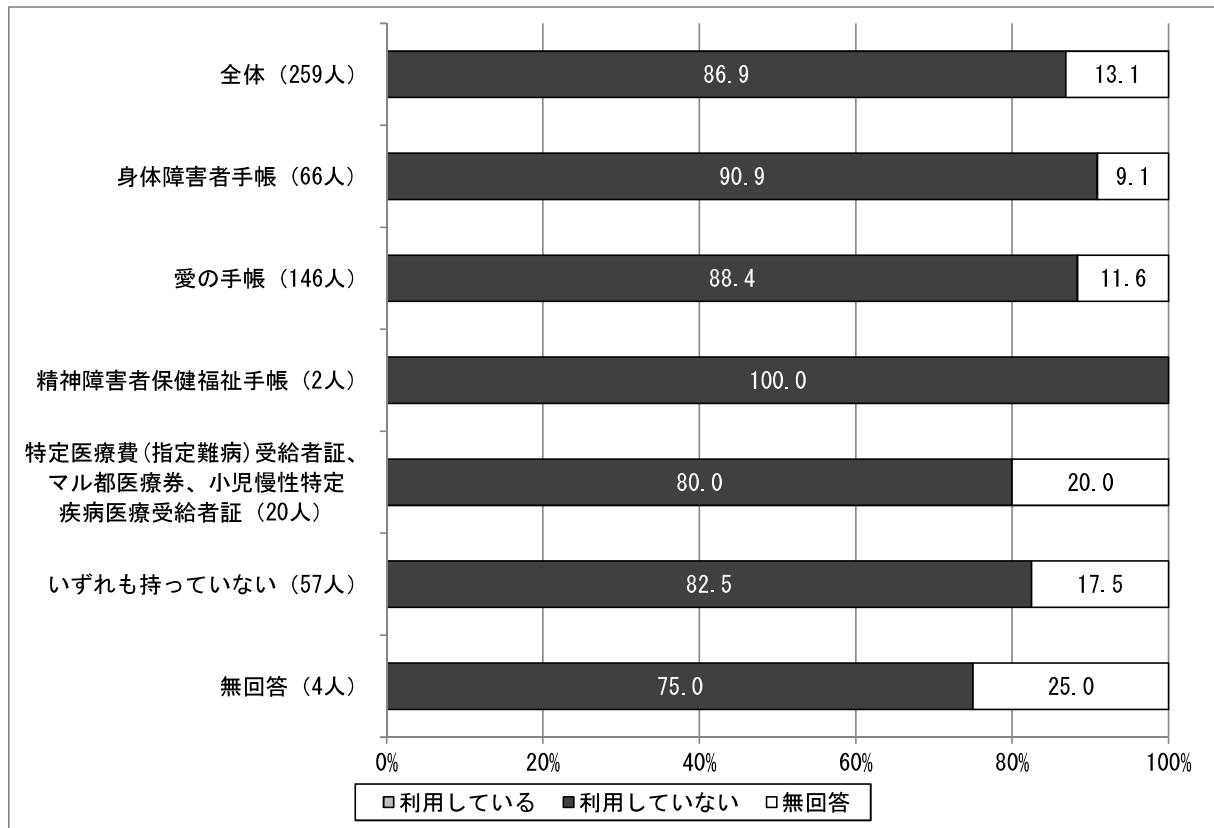


○ 今後の利用希望

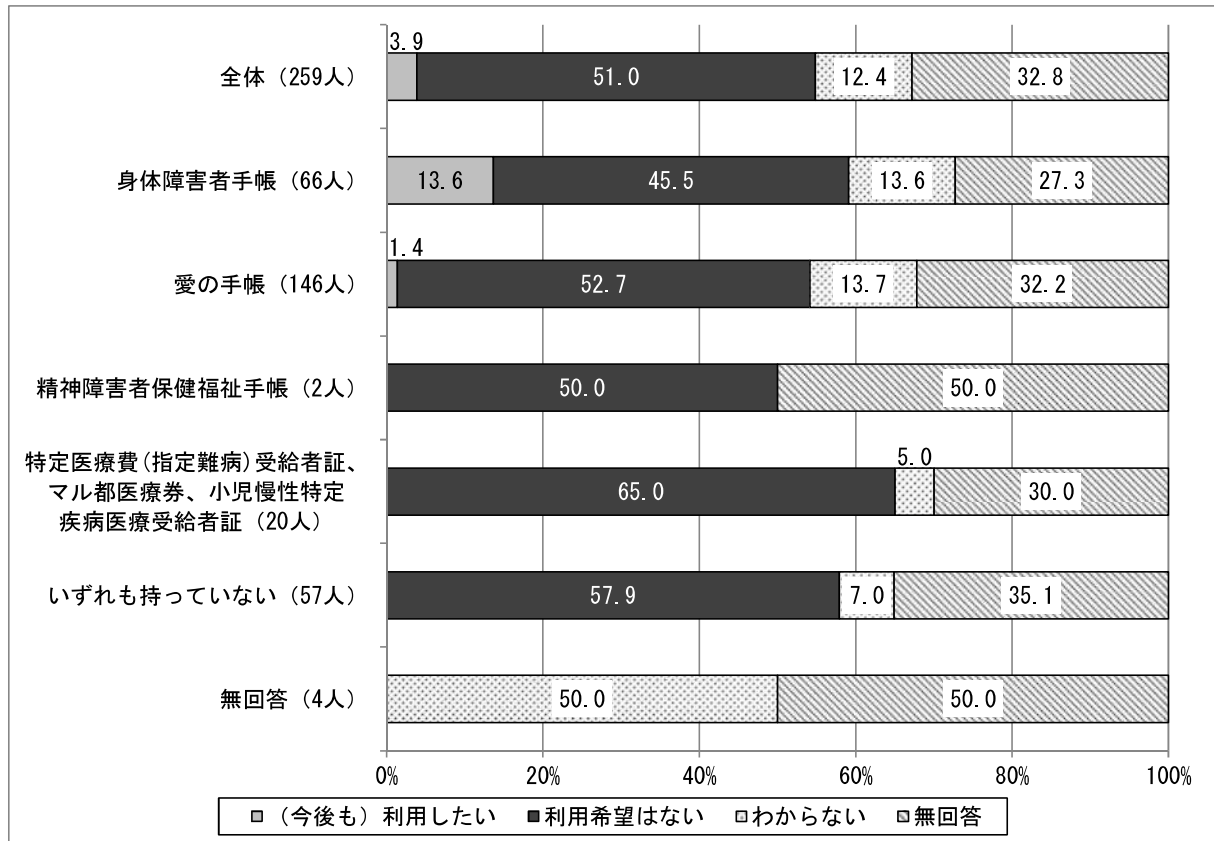


ク 要約筆記者派遣事業

○ 現在の利用状況



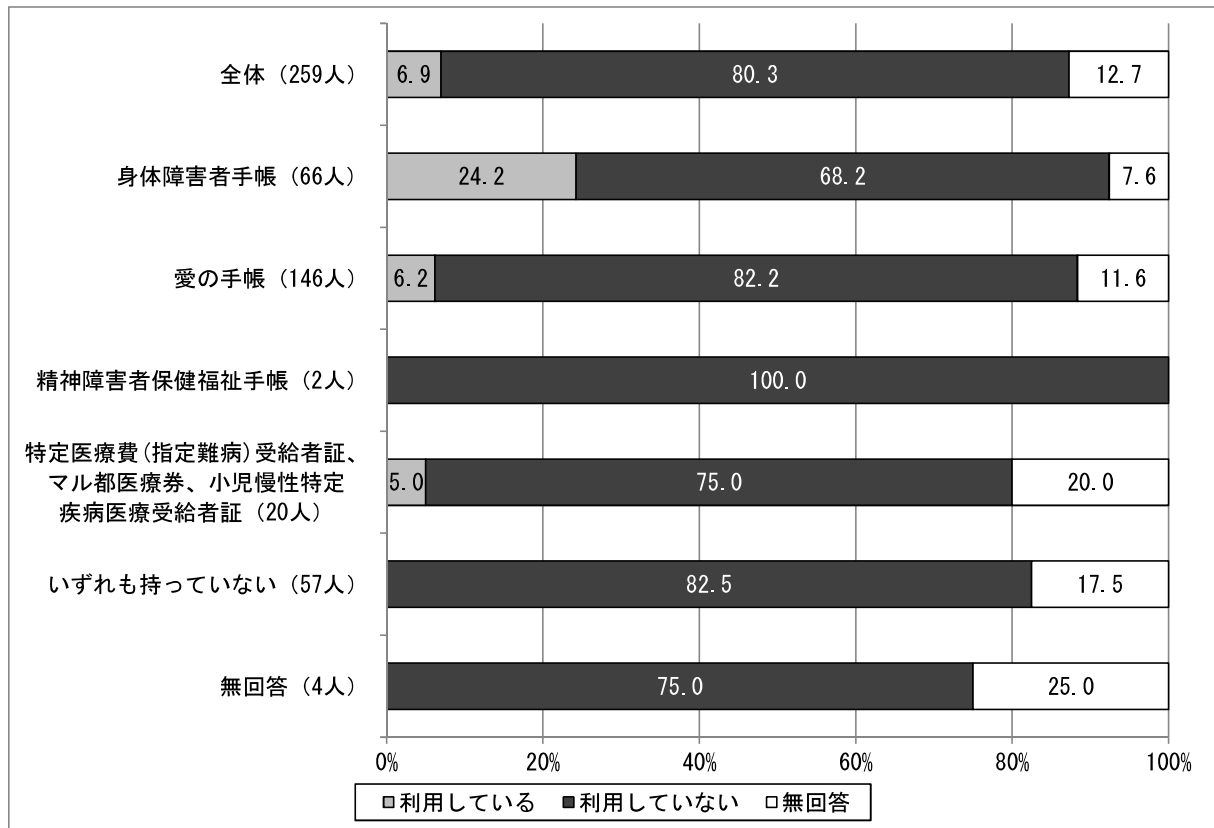
○ 今後の利用希望



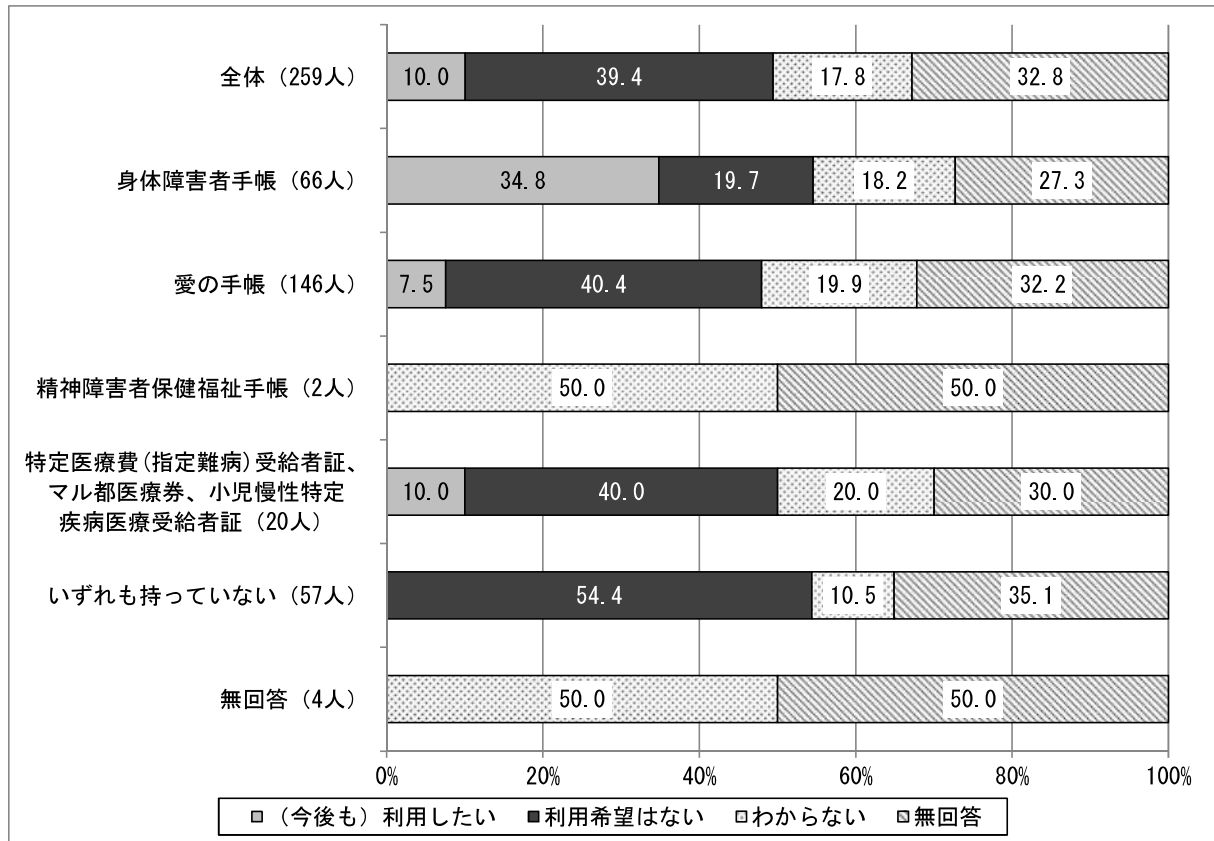
Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

ケ 日常生活用具給付等事業

○ 現在の利用状況



○ 今後の利用希望



問 27 問 26 でア～ケの「現在の利用状況」のいずれかで「１」（利用している）と回答した方におたずねします。

① 現在利用しているサービスについて、どのように感じますか。

（現在利用しているサービスごとに、１つに○）

＜全体の傾向＞

現在利用しているサービスの満足度について、居宅介護（ホームヘルプ）では、「満足」が 60.0%、「やや満足」が 40.0%となっています。

同行援護（該当者 1 人）では、「やや満足」との回答が得られています。

短所入所（ショートステイ）では、「満足」が 41.7%と最も割合が高く、次いで「やや不満」が 33.3%、「やや満足」が 16.7%となっています。

移動支援事業では、「満足」が 47.1%と最も割合が高く、次いで「やや満足」が 29.4%、「やや不満」が 17.6%となっています。

日中一時支援事業では、「やや満足」が 40.0%と最も割合が高く、次いで「満足」と「やや不満」が 26.7%、「不満」が 3.3%となっています。

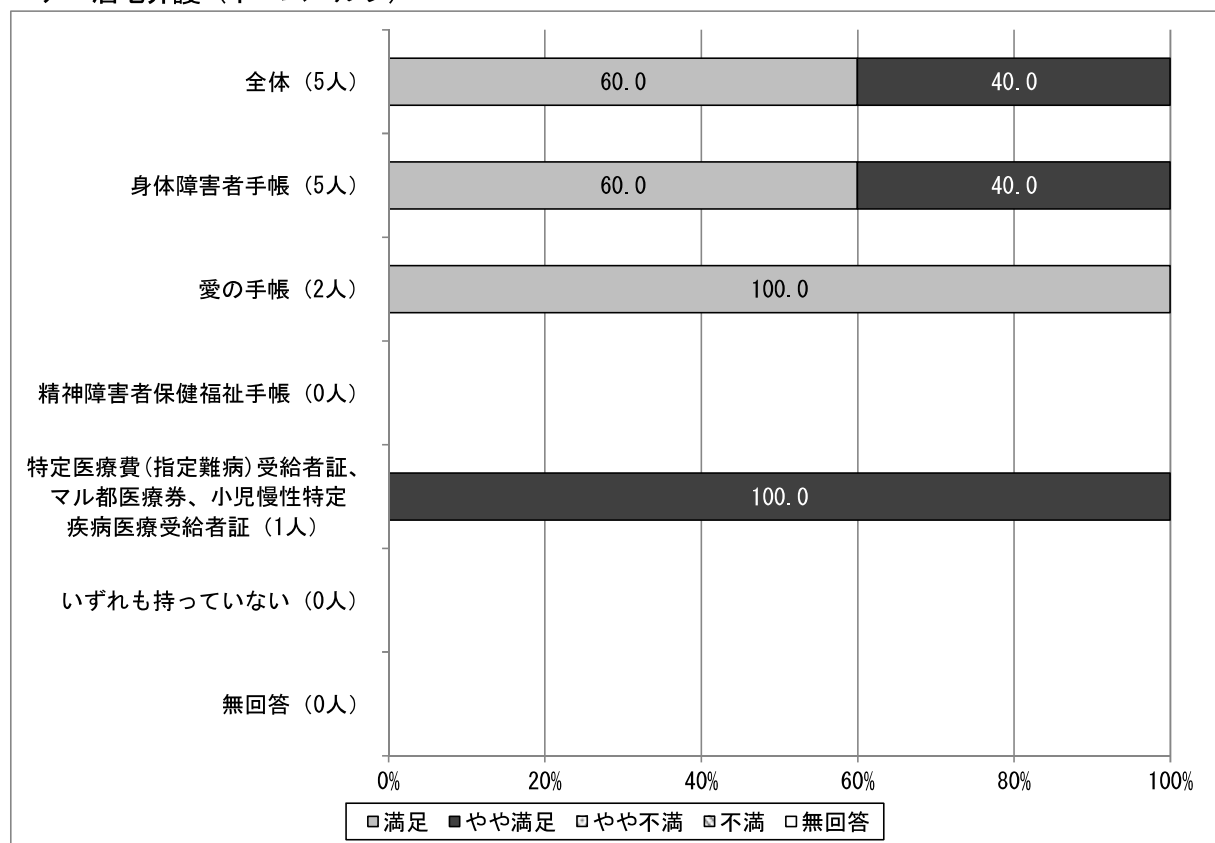
日常生活用具給付等事業では、「やや満足」が 55.6%と最も割合が高く、「満足」が 38.9%、「不満」が 5.6%となっています。

手話通訳者派遣事業では、「やや満足」と「やや不満」がともに 50.0%（各 1 人）となっています。

＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。

ア 居宅介護（ホームヘルプ）

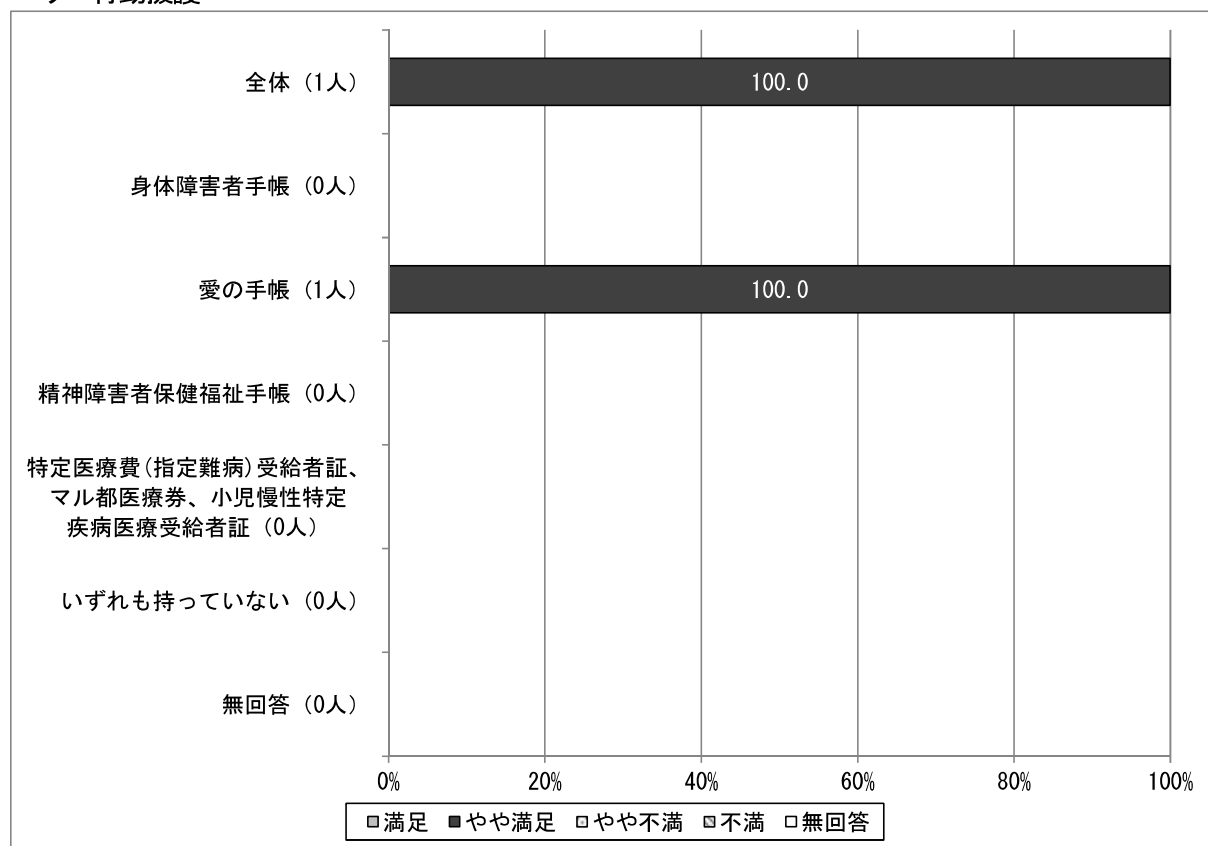


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

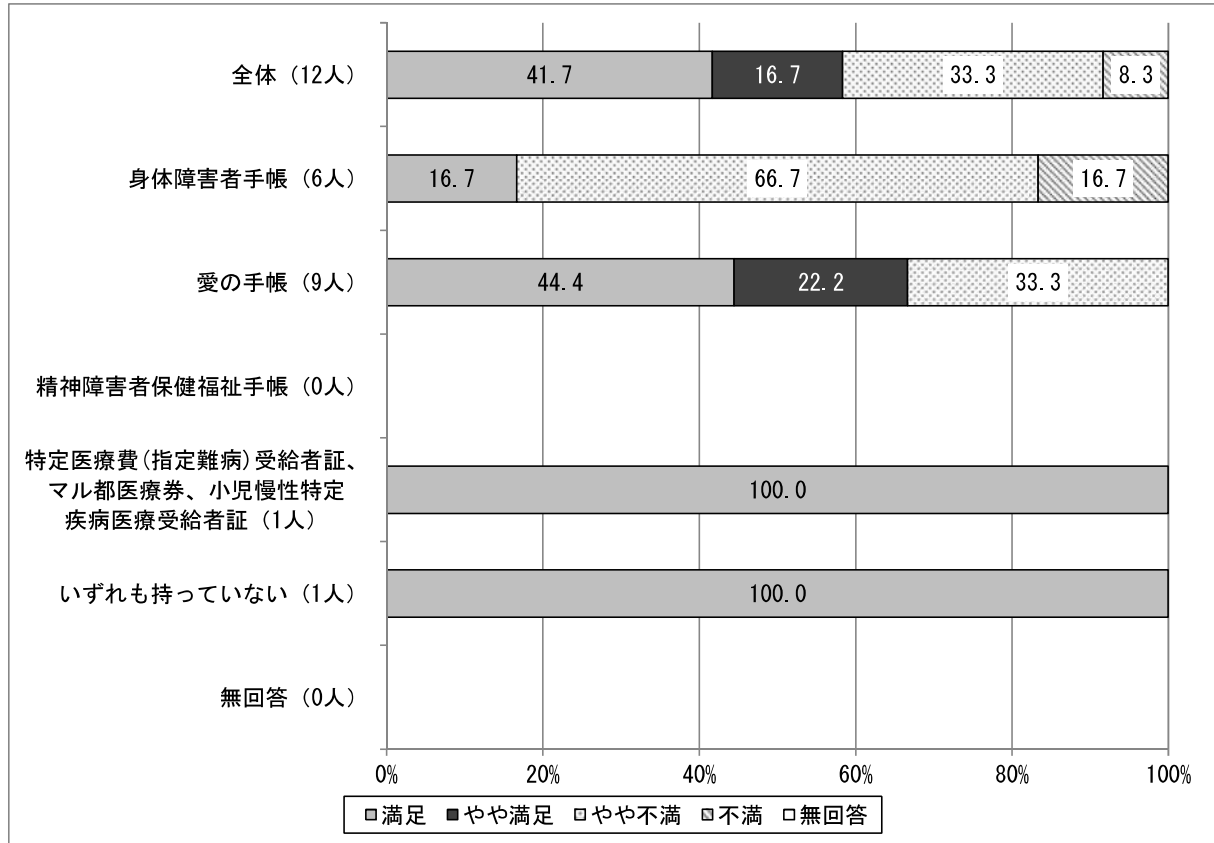
イ 同行援護

※ 回答者なし

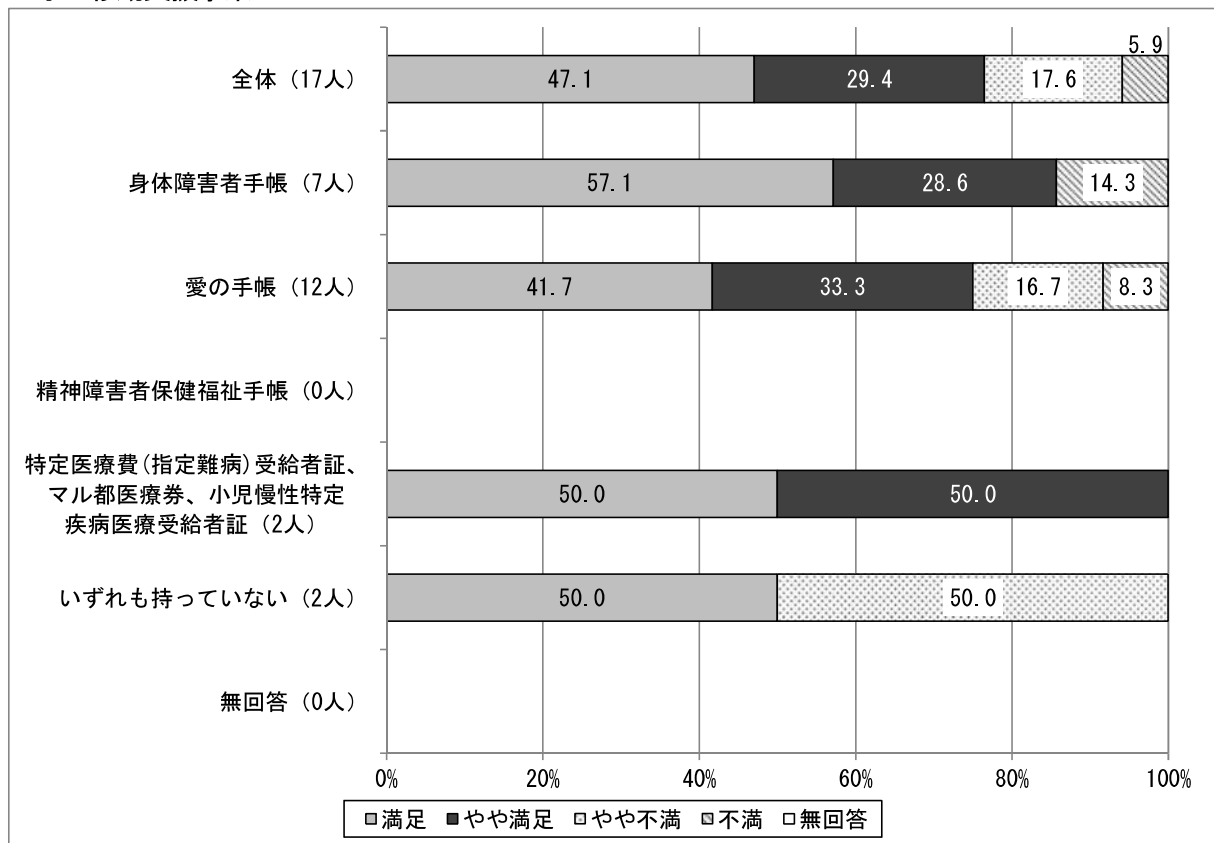
ウ 行動援護



エ 短期入所（ショートステイ）

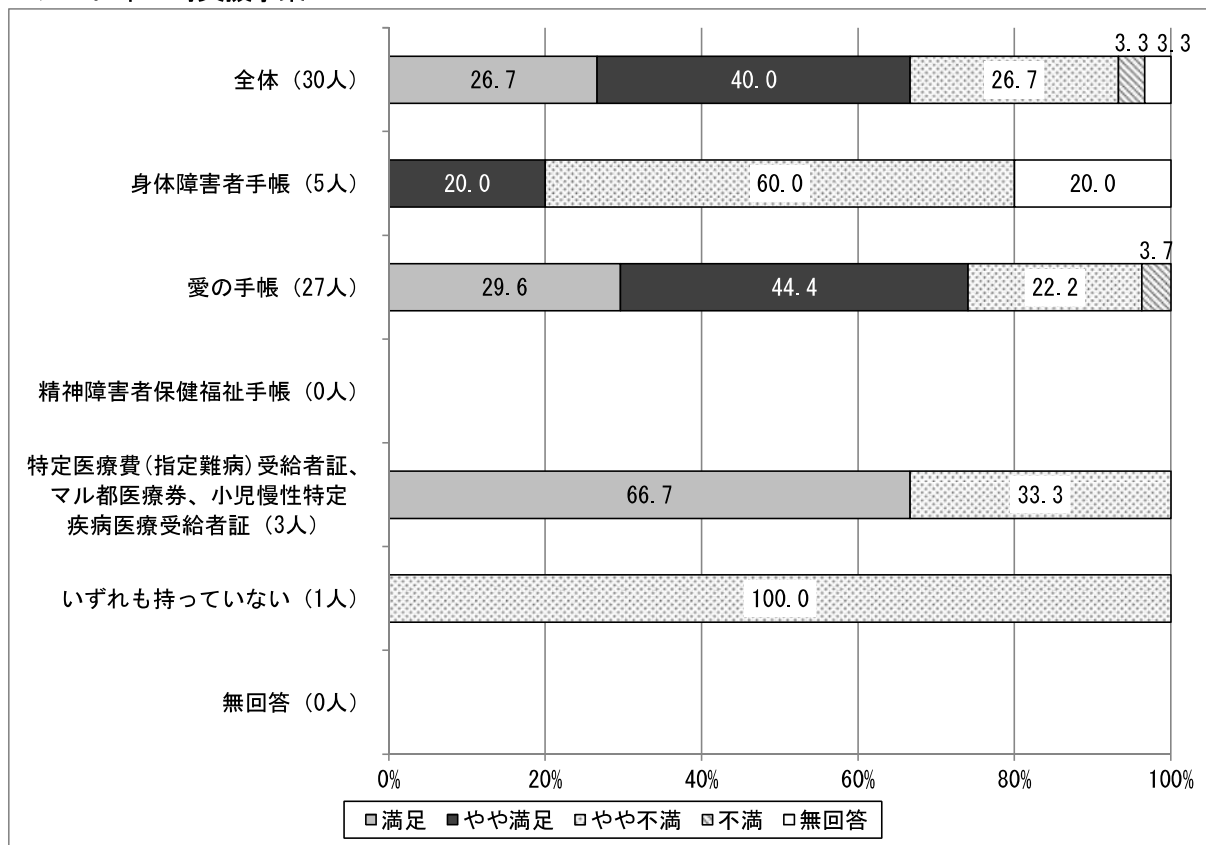


オ 移動支援事業

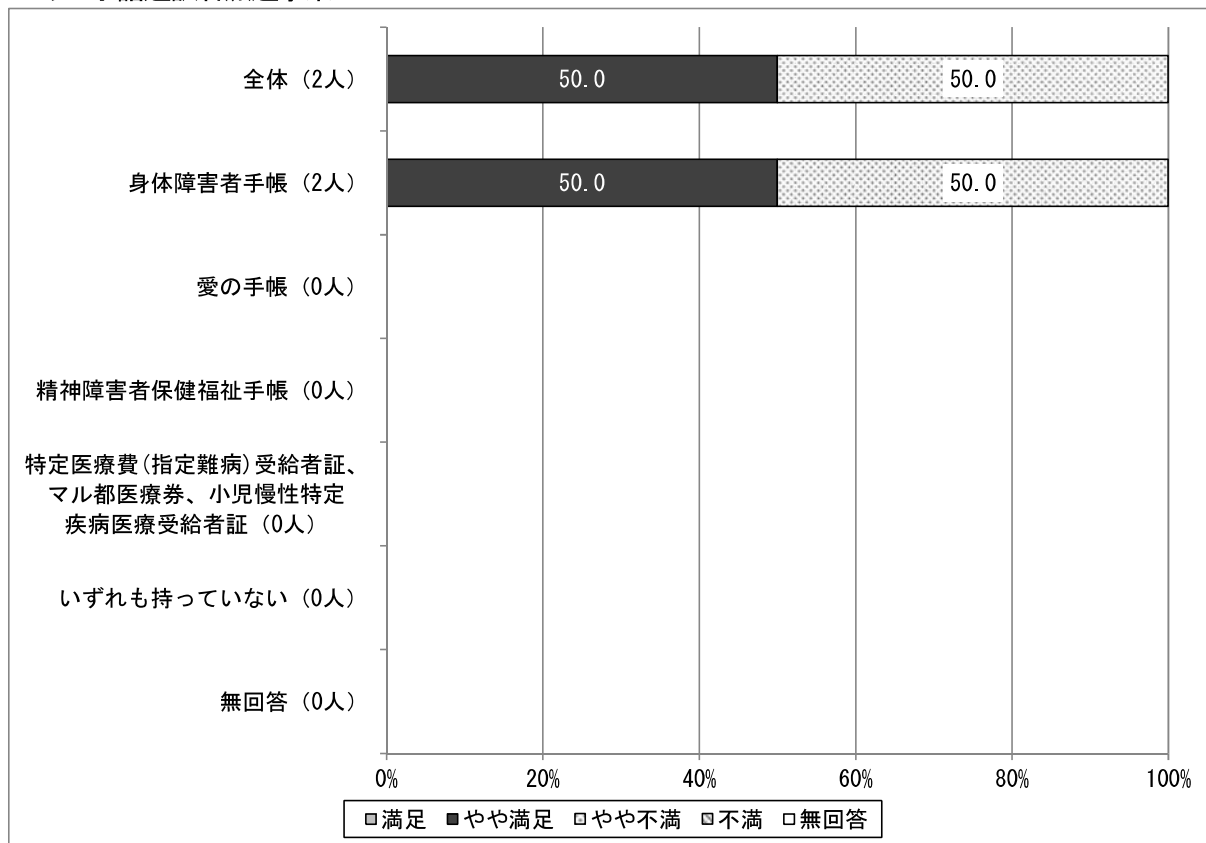


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

カ 日中一時支援事業



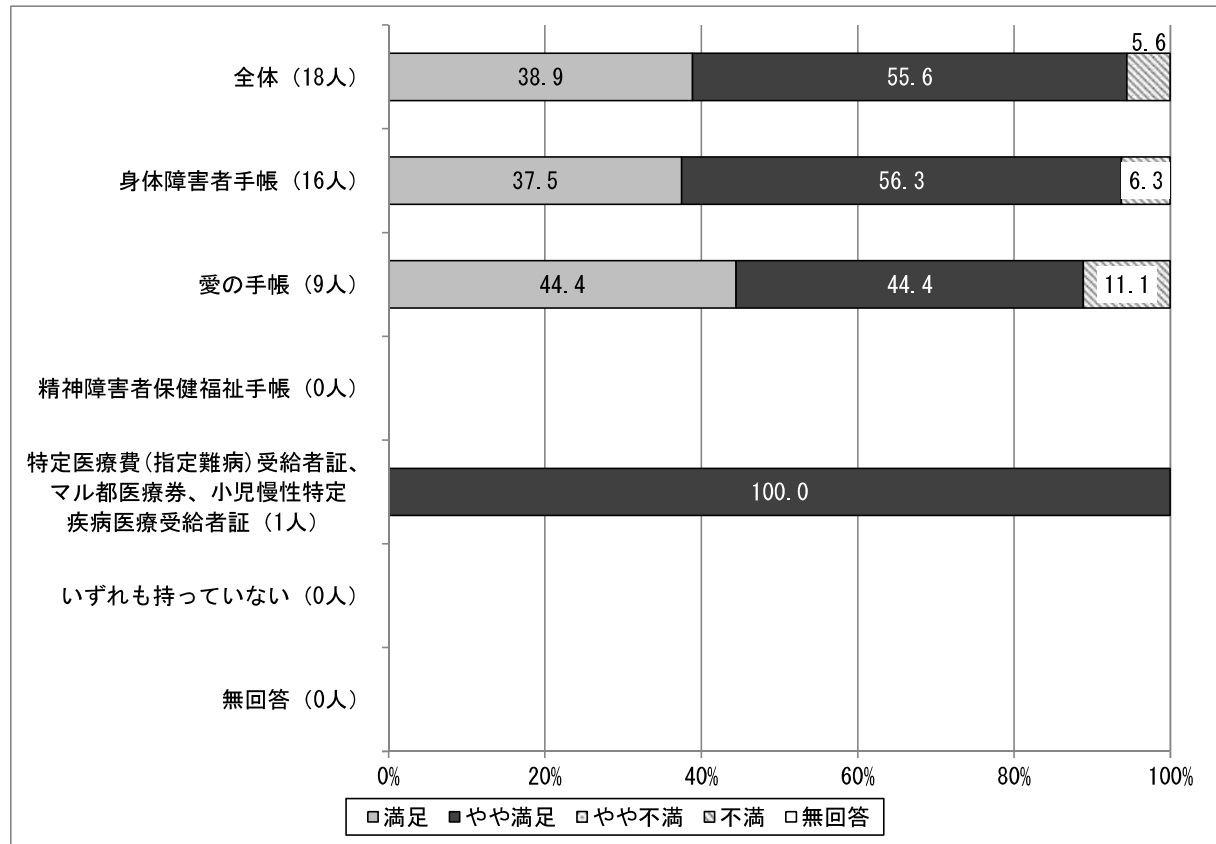
キ 手話通訳者派遣事業



ク 要約筆記者派遣事業

※ 回答者なし

ケ 日常生活用具給付等事業



Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

② 現在利用しているサービスについて、困っていることがありますか。

(現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○)

<全体の傾向>

障害福祉サービスでの困っていることについては、居宅介護（ホームヘルプ）「利用できる時間や日数、回数が少ない」が 60.0%と最も割合が高く、次いで「利用者負担が大きい」が 40.0%となっています。

短期入所（ショートステイ）について、「利用できる時間や日数、回数が少ない」が 33.3%と最も割合が高く、次いで「事業者との利用日等の調整が大変」が 25.0%、「その他」と「特にない」が 16.7%となっています。

移動支援事業について、「利用できる時間や日数、回数が少ない」が 41.2%と最も割合が高く、次いで「特にない」が 29.4%、「事業者との利用日等の調整が大変」が 23.5%となっています。

日中一時支援事業について、「利用できる時間や日数、回数が少ない」が 33.3%と最も割合が高く、次いで「その他」が 30.0%、「事業者との利用日等の調整が大変」が 20.0%となっています。

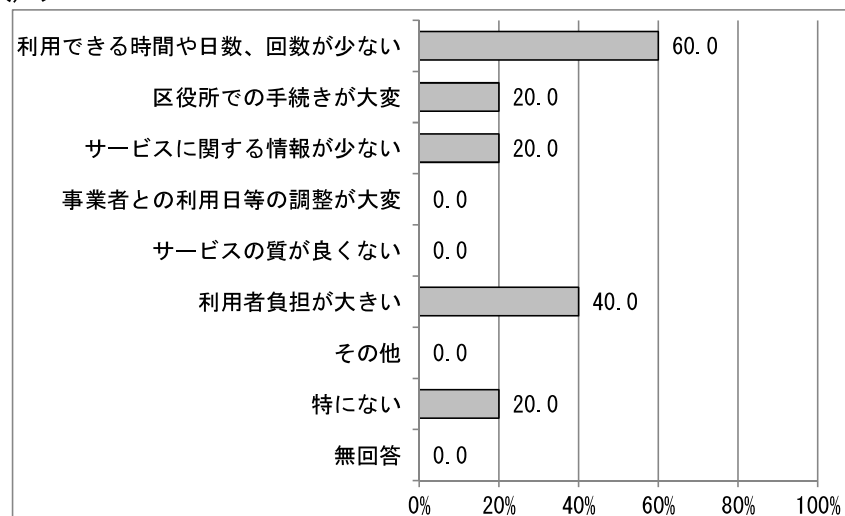
日常生活用具給付等事業について、「特にない」が 27.8%と最も割合が高く、次いで「利用者負担が大きい」が 22.2%、「区役所での手続きが大変」と「その他」が 11.1%となっています。

<手帳種別の傾向>

手帳種別の特徴はみられません。

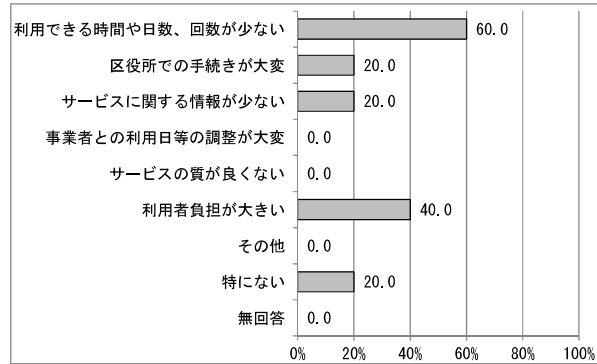
ア 居宅介護（ホームヘルプ）

<全体（5人）>

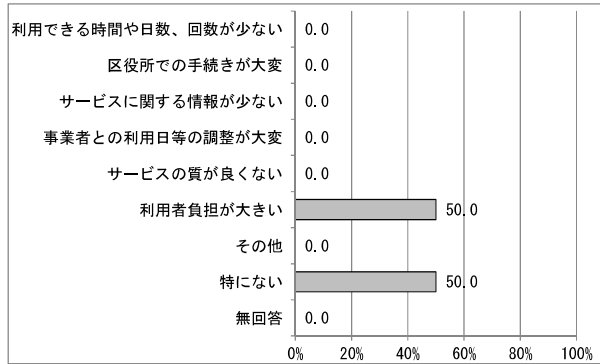


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

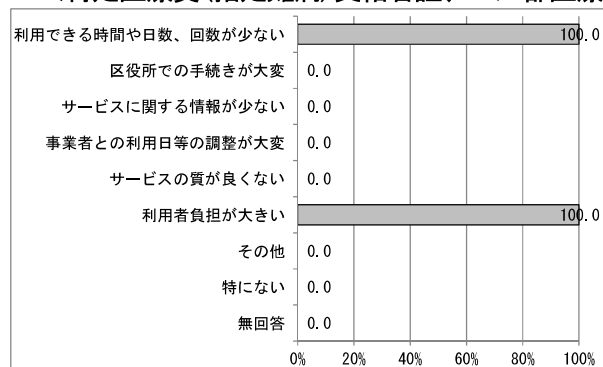
＜身体障害者手帳（５人）＞



＜愛の手帳（２人）＞



＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（１人）＞



※ 回答のあった分類のみ記載

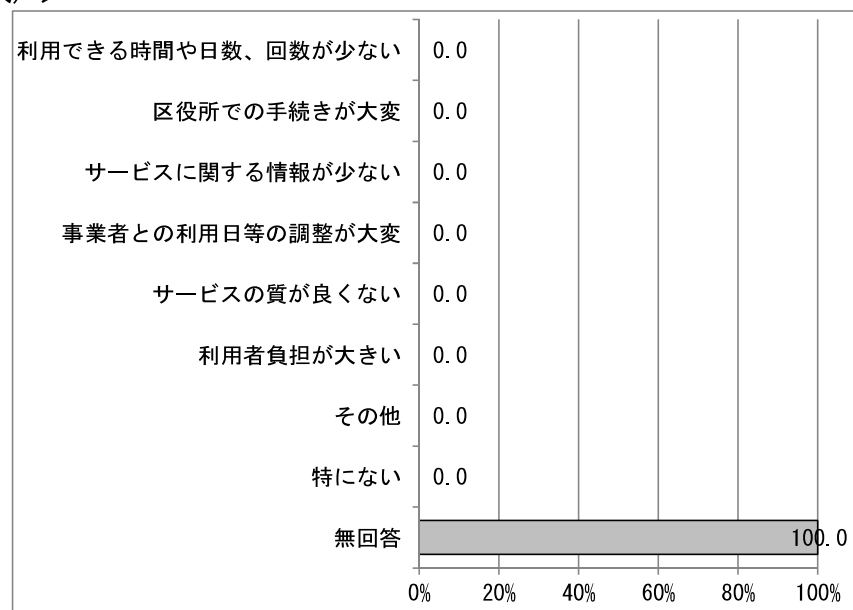
イ 同行援護

※ 回答者なし

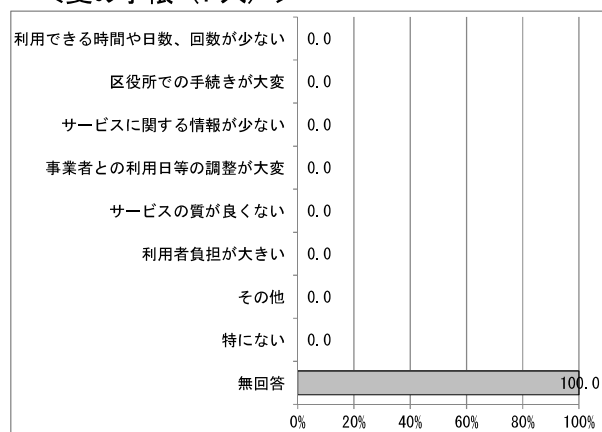
Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

ウ 行動援護

<全体（1 人）>



<愛の手帳（1 人）>

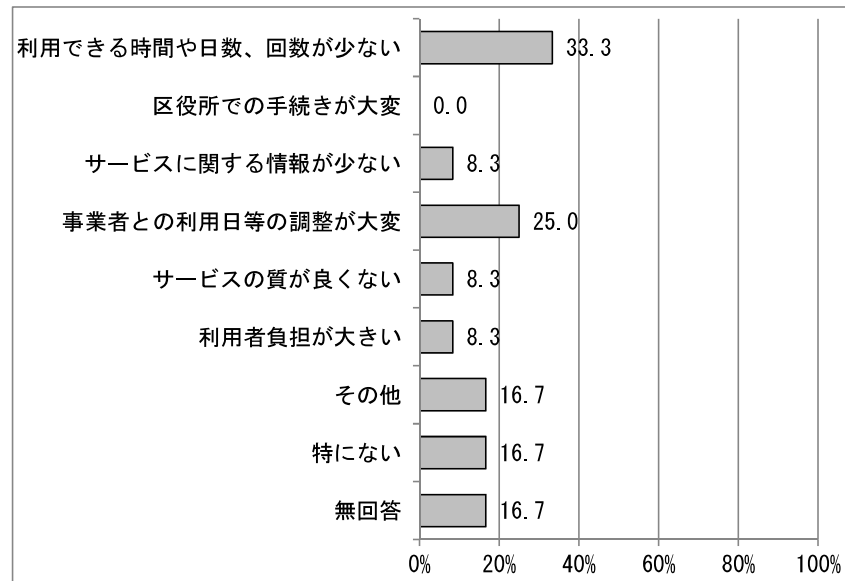


※ 回答のあった分類のみ記載

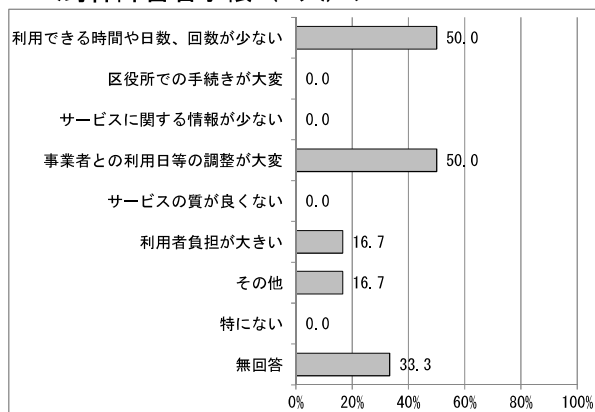
Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

エ 短期入所（ショートステイ）

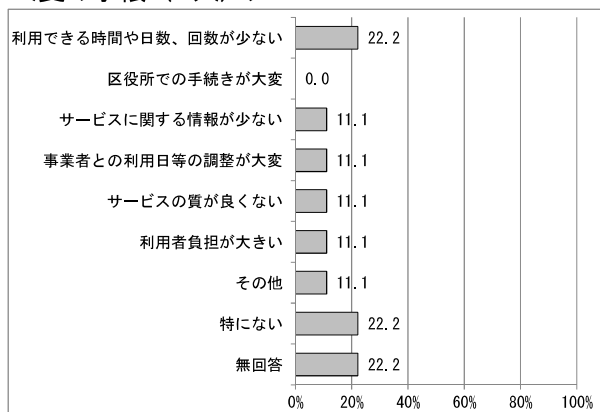
<全体（12 人）>



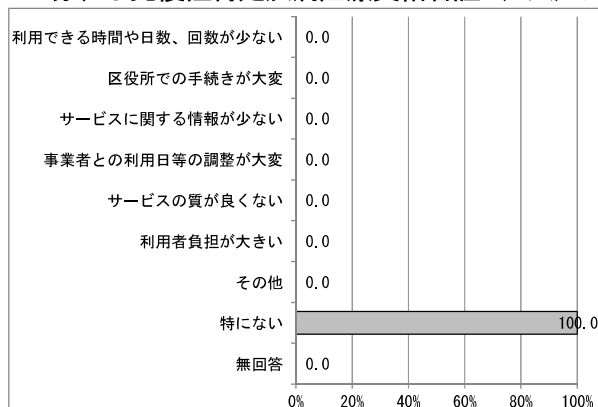
<身体障害者手帳（6 人）>



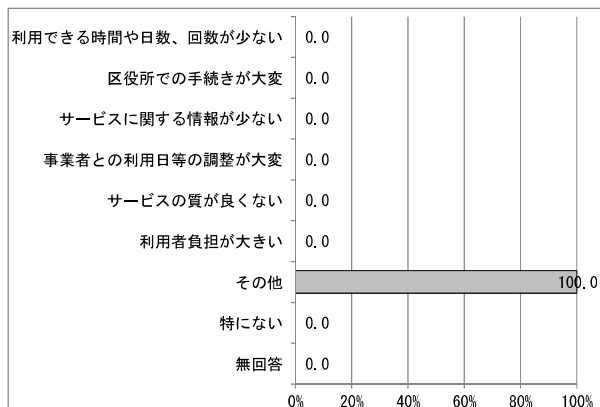
<愛の手帳（9 人）>



<特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（1 人）>



<いずれも持っていない（1 人）>

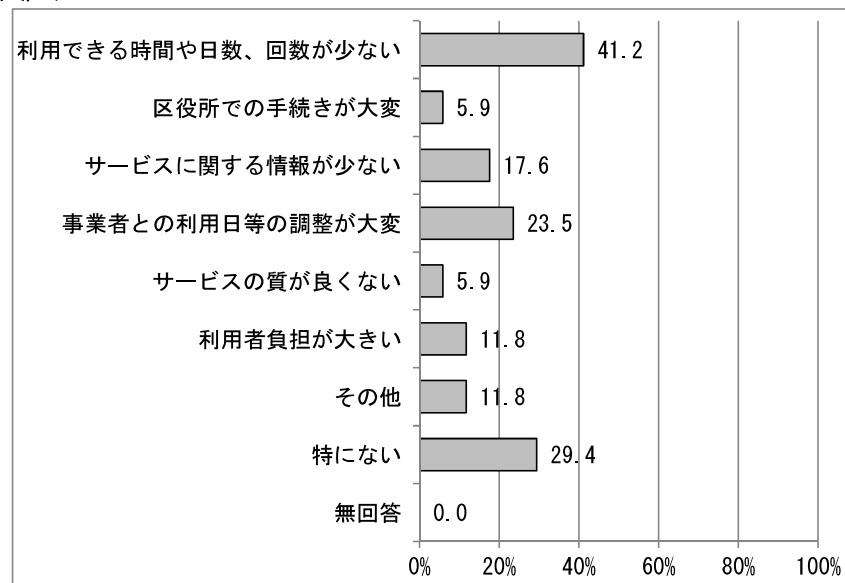


※ 回答のあった分類のみ記載

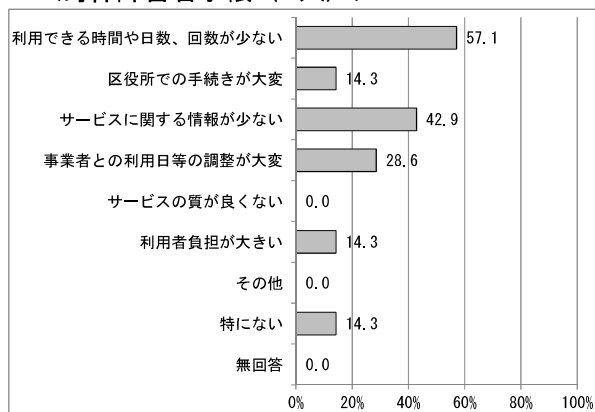
Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

オ 移動支援事業

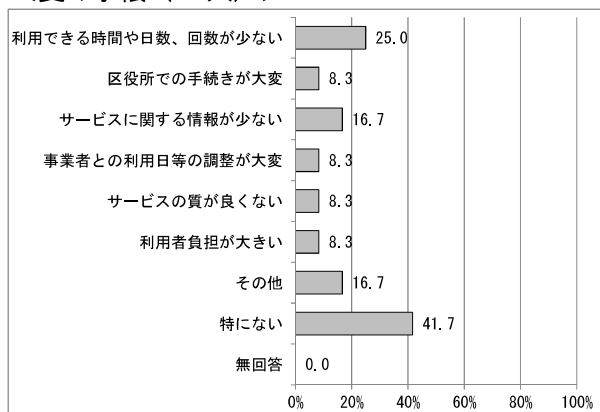
<全体（17 人）>



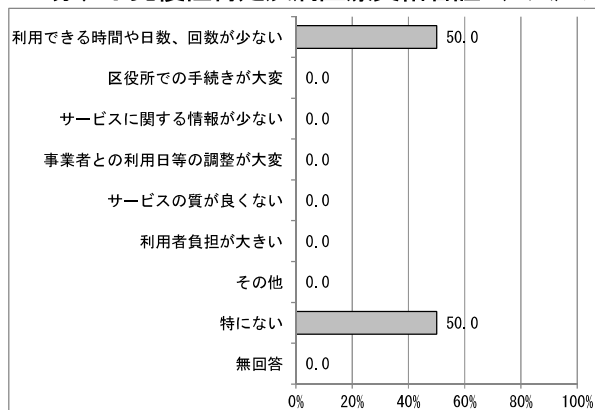
<身体障害者手帳（7 人）>



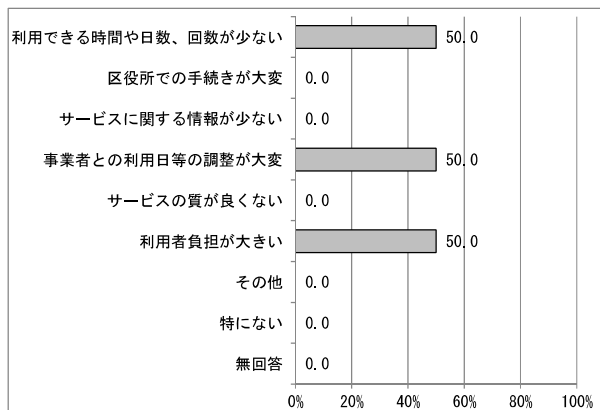
<愛の手帳（12 人）>



<特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（2 人）>



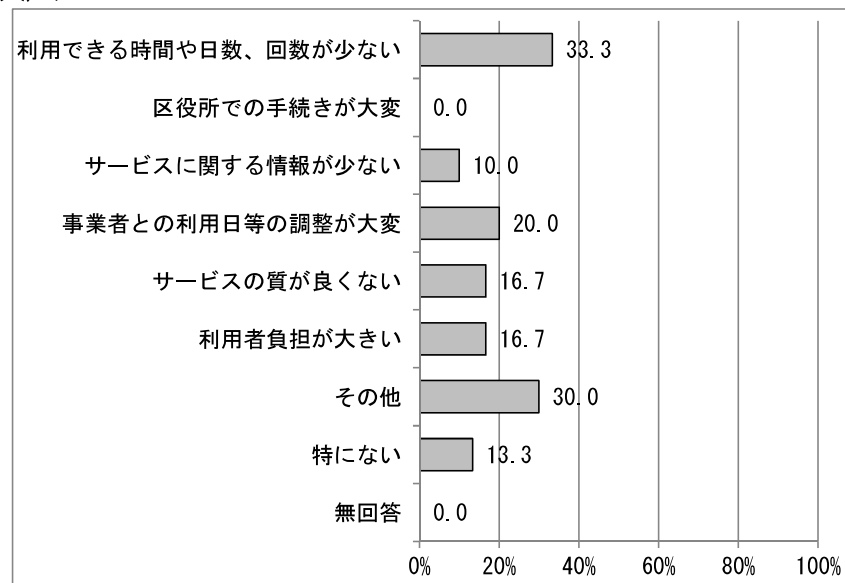
<いずれも持っていない（2 人）>



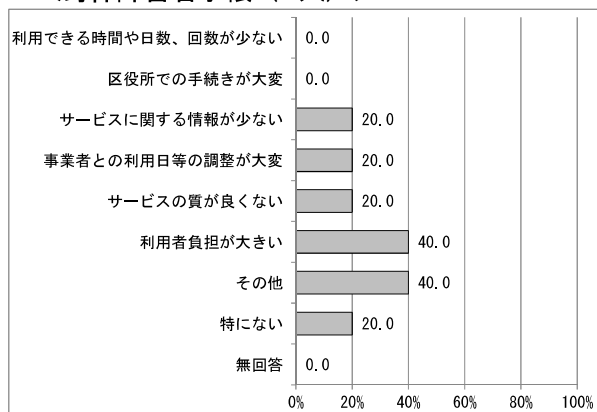
※ 回答のあった分類のみ記載

Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

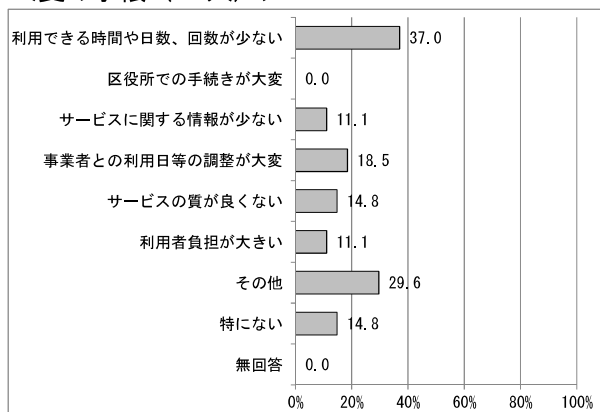
カ 日中一時支援事業 ＜全体（30 人）＞



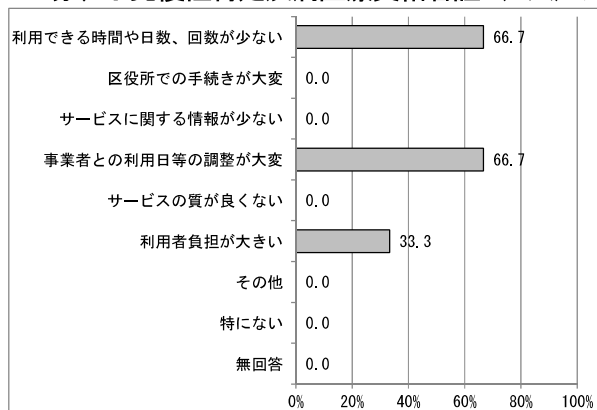
＜身体障害者手帳（5 人）＞



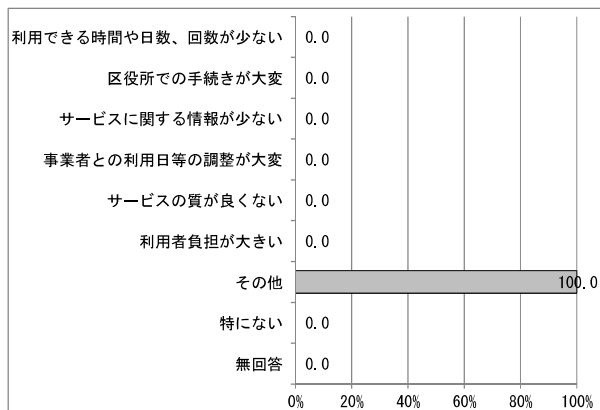
＜愛の手帳（27 人）＞



＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（3 人）＞



＜いずれも持っていない（1 人）＞

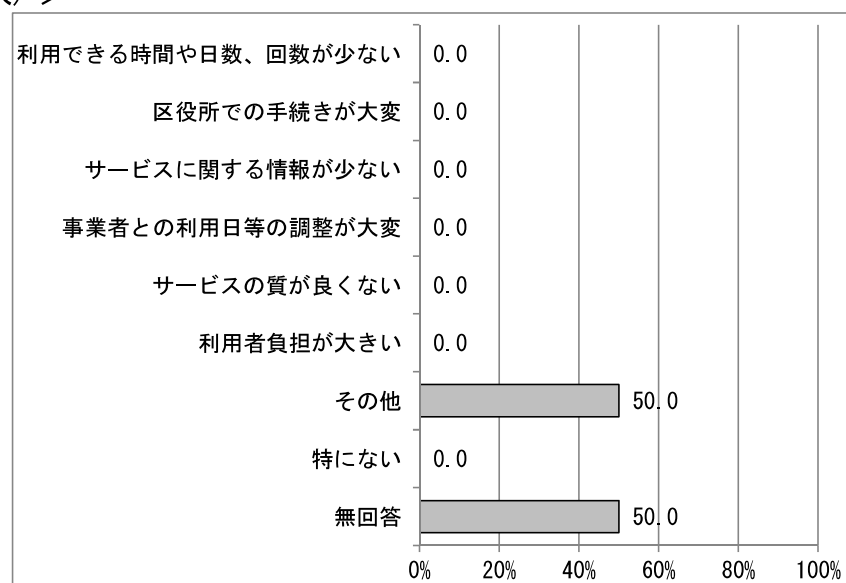


※ 回答のあった分類のみ記載

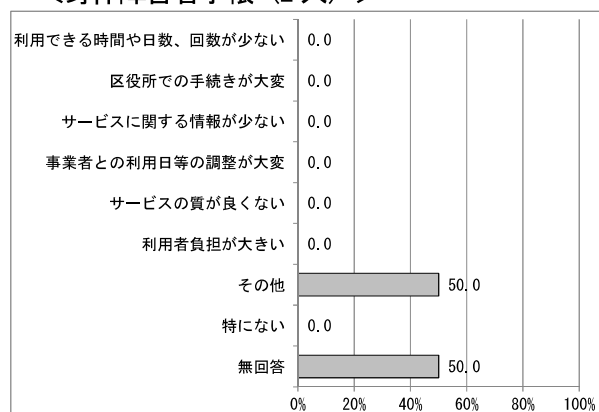
Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

キ 手話通訳者派遣事業

＜全体（2 人）＞



＜身体障害者手帳（2 人）＞



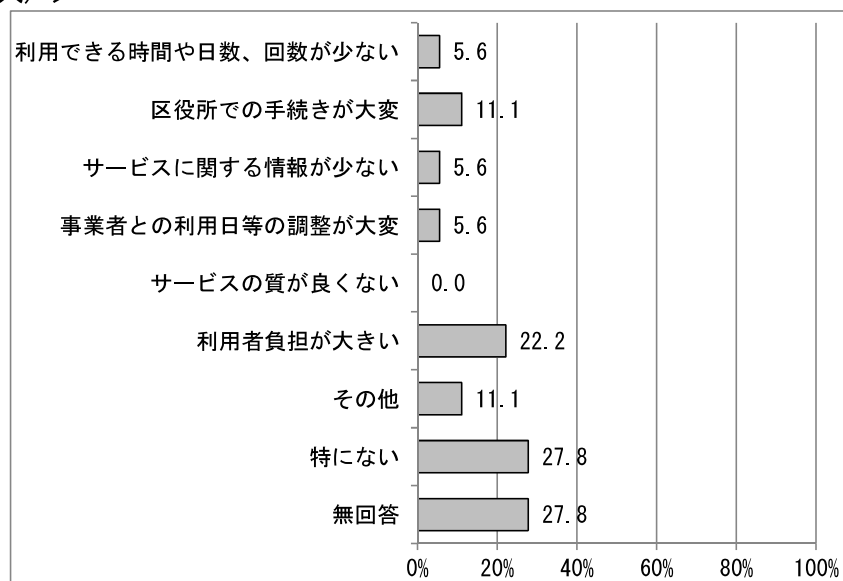
※ 回答のあった分類のみ記載

ク 要約筆記者派遣事業

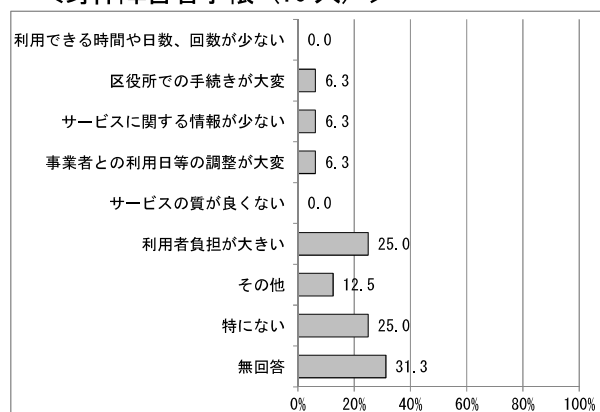
※ 回答者なし

ケ 日常生活用具給付等事業

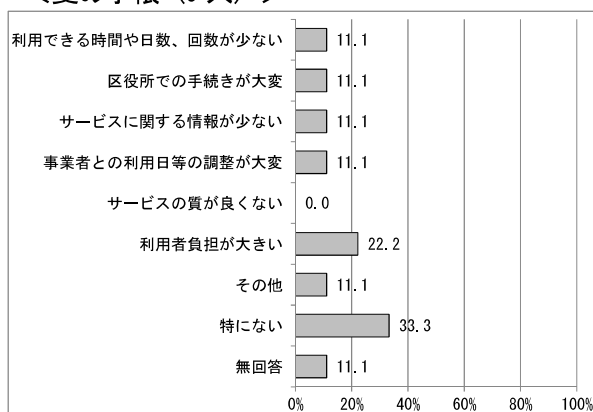
＜全体（18 人）＞



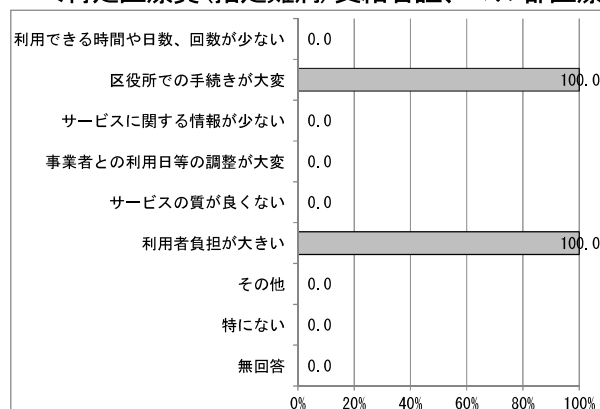
＜身体障害者手帳（16 人）＞



＜愛の手帳（9 人）＞



＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（1 人）＞



※ 回答のあった分類のみ記載

Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

- ③ ① でア～ケのいずれかで「3」または「4」（不満）と回答した方におたずねします。不満な理由は何ですか。（現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○）

＜全体の傾向＞

不満の理由について、短期入所（ショートステイ）では「その他」が 40.0%、「職員の専門性が低い」と「緊急時の対応が遅い」がともに 20.0%となっています。

移動支援事業では「その他」が 75.5%、「個々の状況に合わせた柔軟な対応ができない」と「緊急時の対応が遅い」がともに 25.0%となっています。

日中一時支援事業では「その他」が 66.7%、「個々の状況に合わせた柔軟な対応ができない」が 33.3%となっています。

手話通訳者派遣事業、日常生活用具給付等事業（ともに該当者 1 人）では「個々の状況に合わせた柔軟な対応ができない」と「その他」の回答が得られています。

＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。

ア 居宅介護（ホームヘルプ）

※ 該当者なし

イ 同行援護

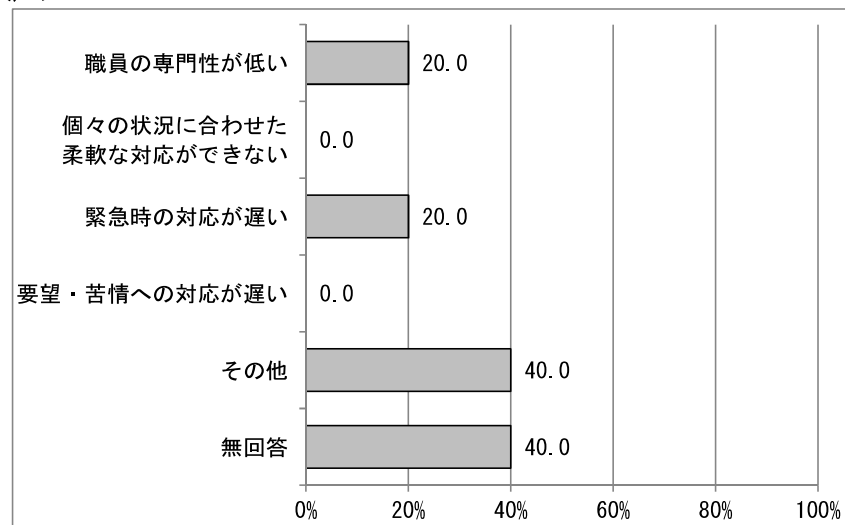
※ 該当者なし

ウ 行動援護

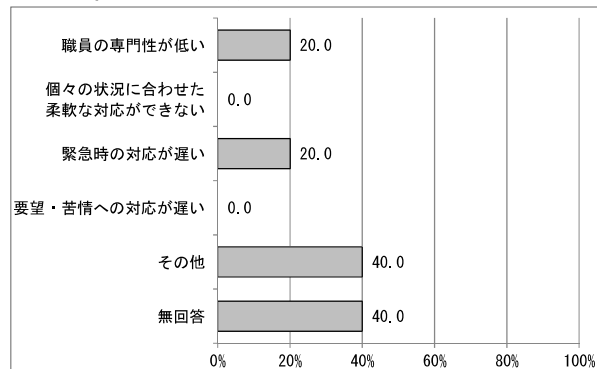
※ 該当者なし

エ 短期入所（ショートステイ）

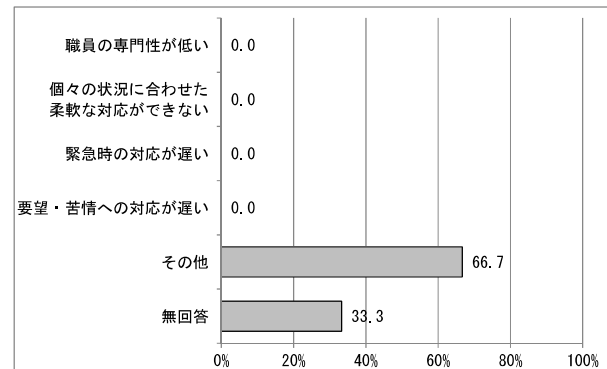
<全体（5 人）>



<身体障害者手帳（5 人）>



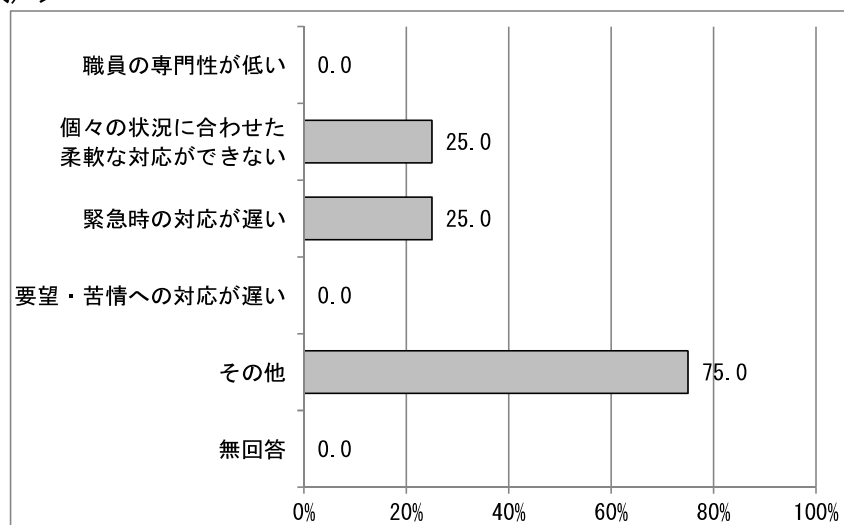
<愛の手帳（3 人）>



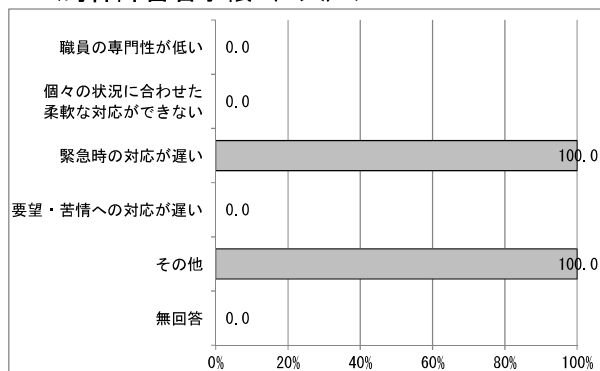
※ 回答のあった分類のみ記載

Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

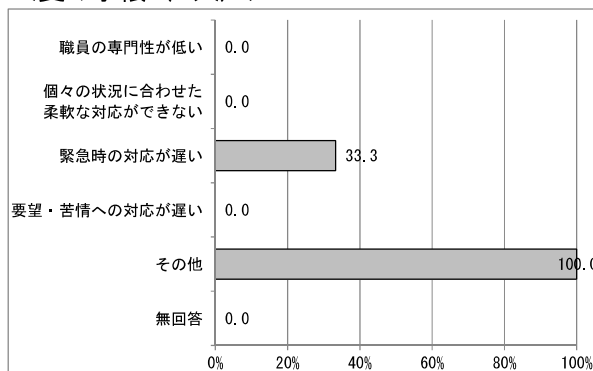
オ 移動支援事業 ＜全体（４人）＞



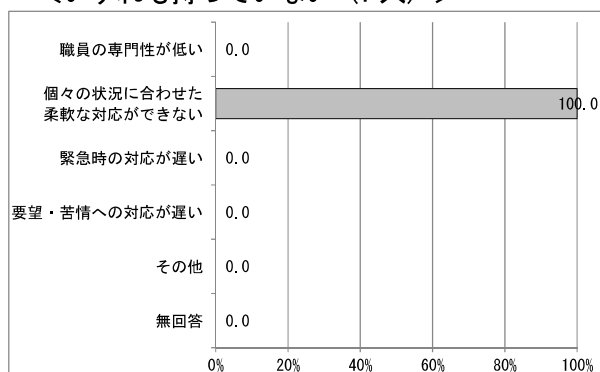
＜身体障害者手帳（１人）＞



＜愛の手帳（３人）＞

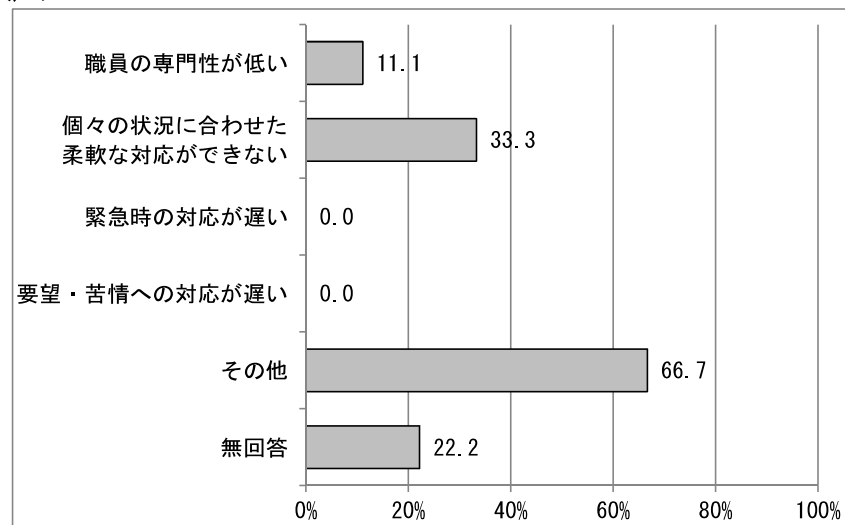


＜いずれも持っていない（１人）＞

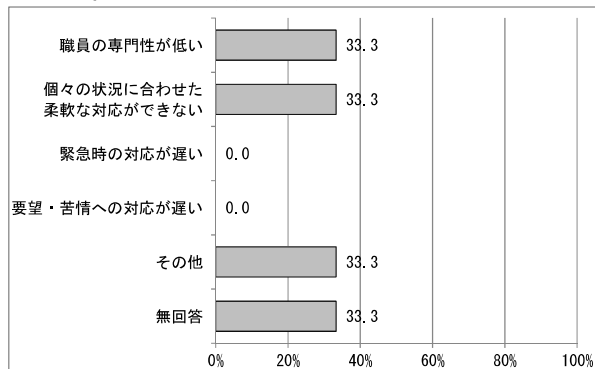


※ 回答のあった分類のみ記載

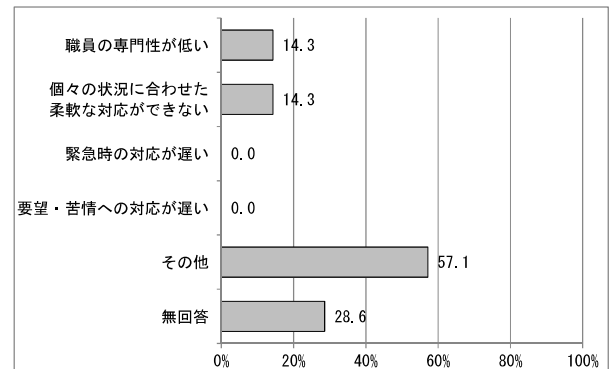
カ 日中一時支援事業
＜全体（9 人）＞



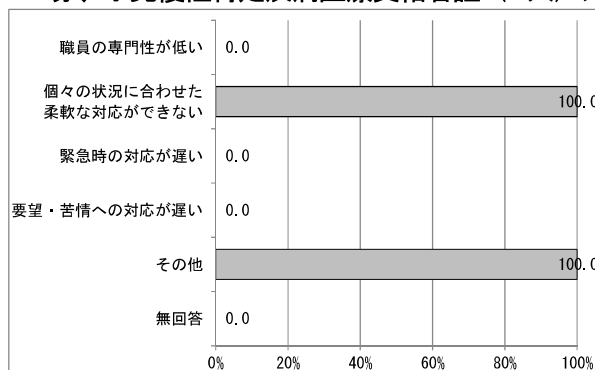
＜身体障害者手帳（3 人）＞



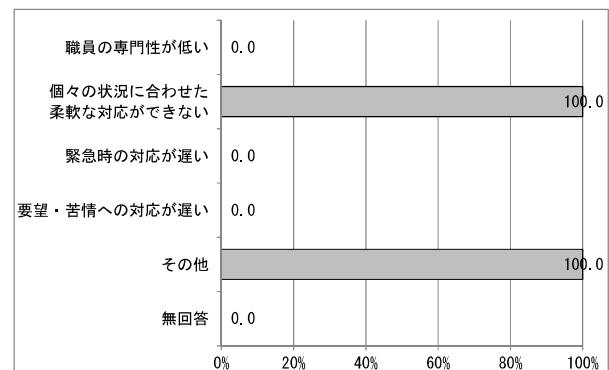
＜愛の手帳（7 人）＞



＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（1 人）＞



＜いずれも持っていない（1 人）＞

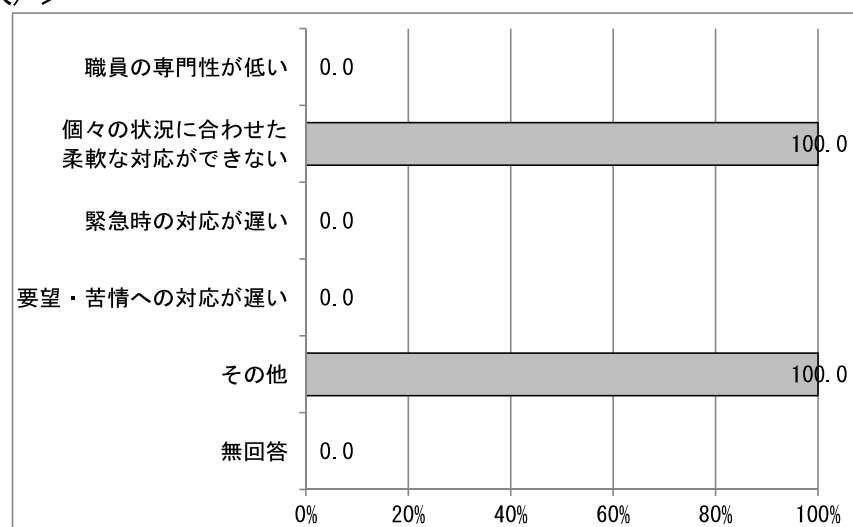


※ 回答のあった分類のみ記載

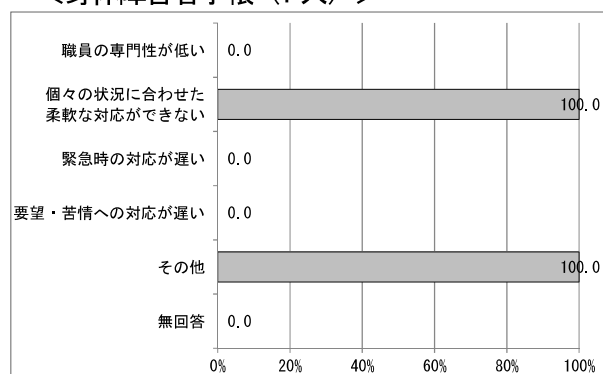
Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

キ 手話通訳者派遣事業

＜全体（1 人）＞



＜身体障害者手帳（1 人）＞



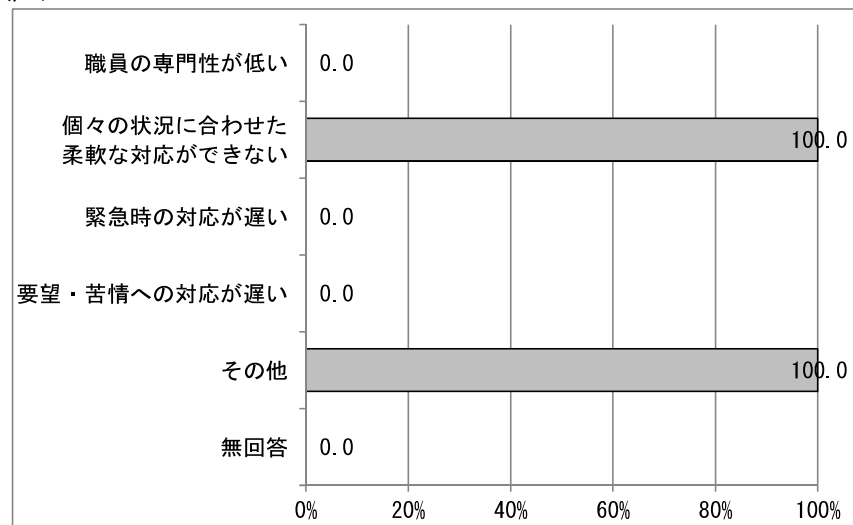
※ 回答のあった分類のみ記載

ク 要約筆記者派遣事業

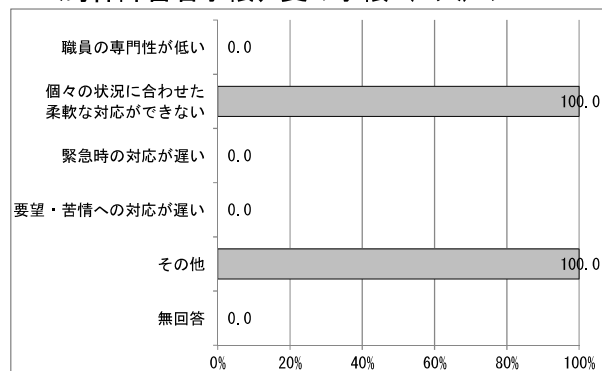
※ 回答者なし

ケ 日常生活用具給付等事業

＜全体（1 人）＞



＜身体障害者手帳、愛の手帳（1 人）＞



※ 回答のあった分類のみ記載

Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

問 28 問 26 でア～ケの「現在の利用状況」のいずれかで「２」（利用していない）と回答した方におたずねします。現在利用していないサービスについて、その理由は何ですか。

（現在利用していないサービスごとに、主なもの２つまでに○）

＜全体の傾向＞

障害福祉サービスを利用していない理由は、居宅介護（ホームヘルプ）について、「必要がない」が 73.2%と最も割合が高く、次いで「サービスを知らなかった」が 9.1%、「利用方法がわからない」が 8.2%となっています。

同行援護について、「必要がない」が 73.8%と最も割合が高く、次いで「サービスを知らなかった」が 10.2%、「利用方法がわからない」が 8.9%となっています。

行動援護について、「必要がない」が 66.1%と最も割合が高く、次いで「サービスを知らなかった」が 13.8%、「利用方法がわからない」が 11.2%となっています。

短期入所（ショートステイ）について、「必要がない」が 58.1%と最も割合が高く、次いで「利用方法がわからない」が 16.1%、「サービスを知らなかった」が 11.1%となっています。

移動支援事業について、「必要がない」が 50.9%と最も割合が高く、次いで「利用方法がわからない」が 18.2%、「サービスを知らなかった」が 13.6%となっています。

日中一時支援事業について、「必要がない」が 54.2%と最も割合が高く、次いで「サービスを知らなかった」が 15.4%、「利用方法がわからない」が 13.9%となっています。

手話通訳者派遣事業について、「必要がない」が 79.4%と最も割合が高く、次いで「利用方法がわからない」が 5.8%、「サービスを知らなかった」が 4.9%となっています。

要約筆記者派遣事業について、「必要がない」が 78.7%と最も割合が高く、次いで「サービスを知らなかった」が 5.8%、「利用方法がわからない」が 5.3%となっています。

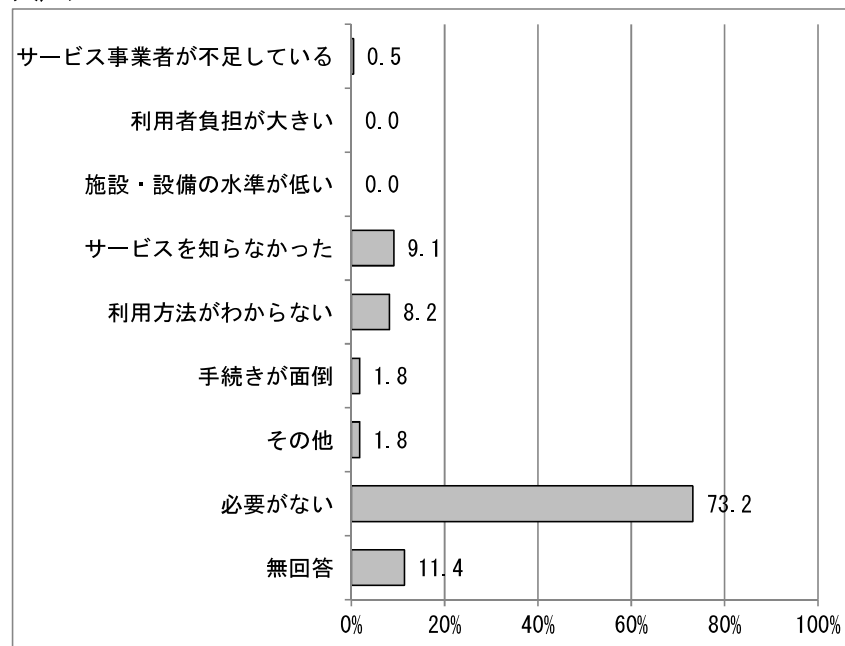
日常生活用具給付等事業について、「必要がない」が 71.6%と最も割合が高く、次いで「サービスを知らなかった」が 9.6%、「利用方法がわからない」が 8.7%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

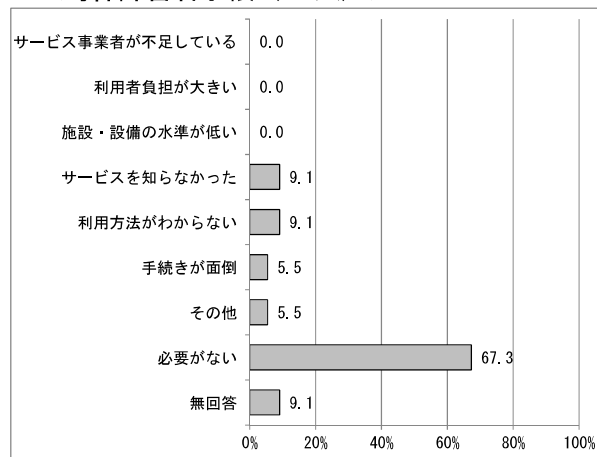
手帳種別の特徴はみられません。

ア 居宅介護（ホームヘルプ）

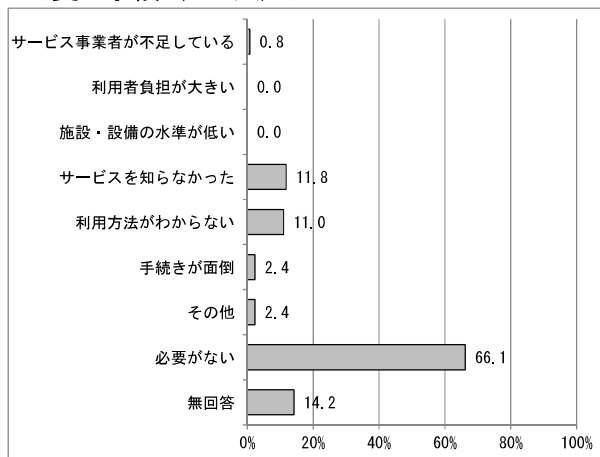
＜全体（220 人）＞



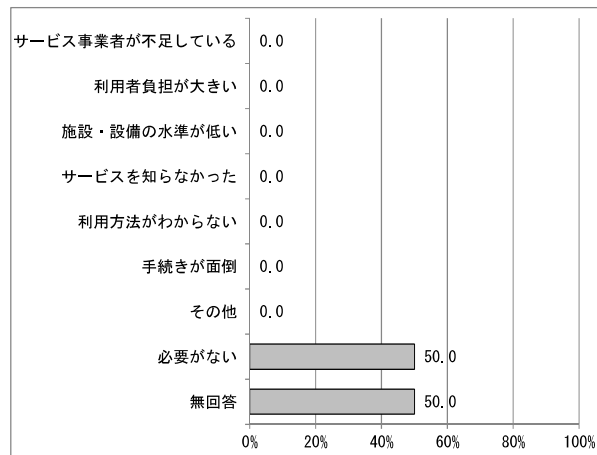
＜身体障害者手帳（55 人）＞



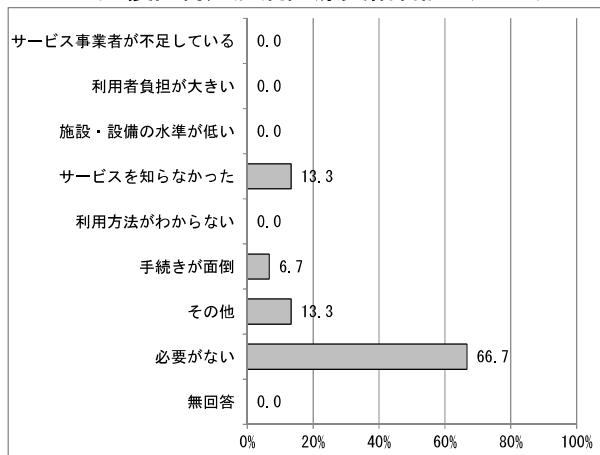
＜愛の手帳（127 人）＞



＜精神障害者保健福祉手帳（2 人）＞

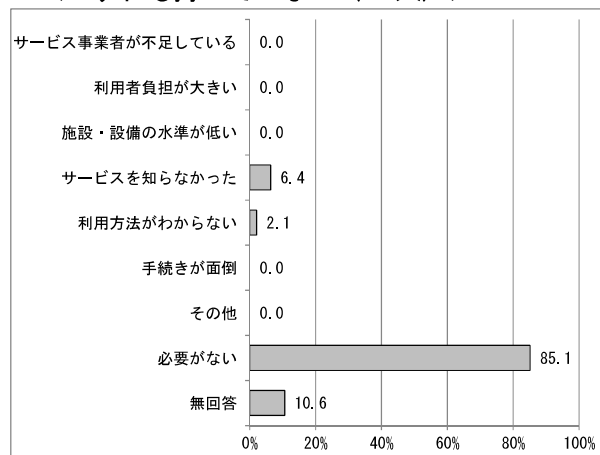


＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、
小児慢性特定疾病医療受給者証（15 人）＞

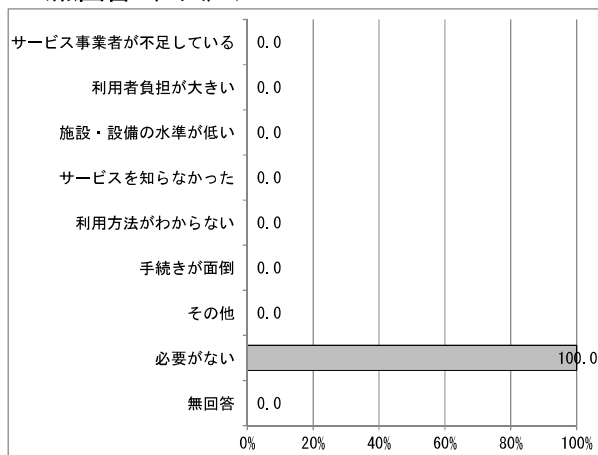


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

＜いずれも持っていない（47 人）＞

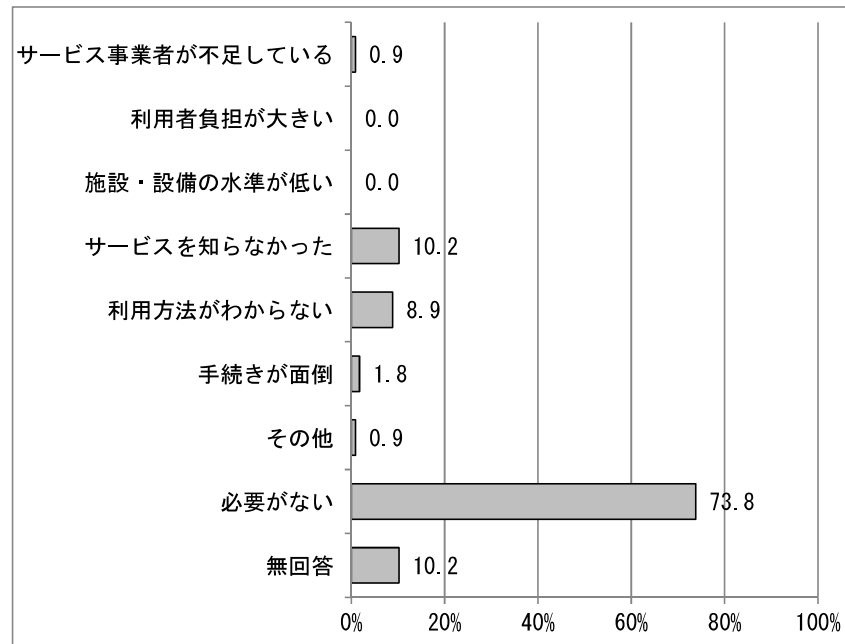


＜無回答（3 人）＞

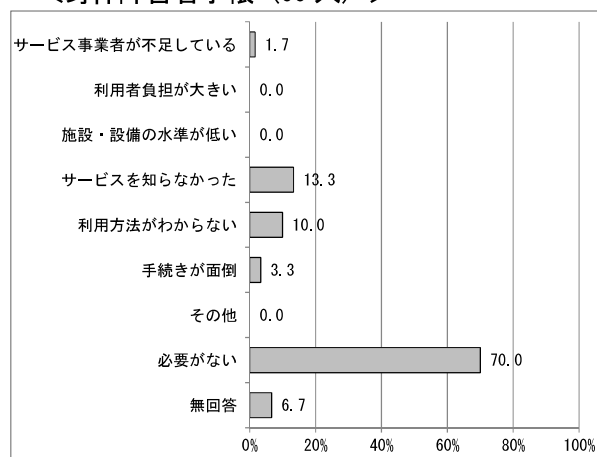


イ 同行援護

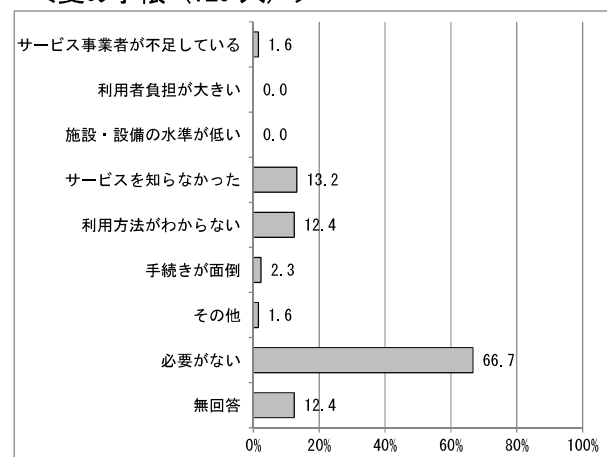
<全体 (225 人) >



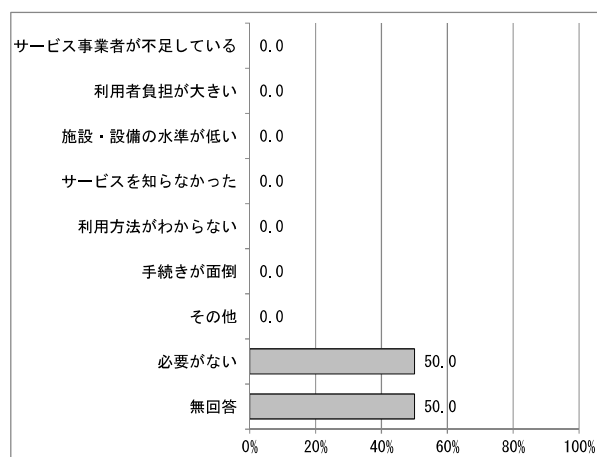
<身体障害者手帳 (60 人) >



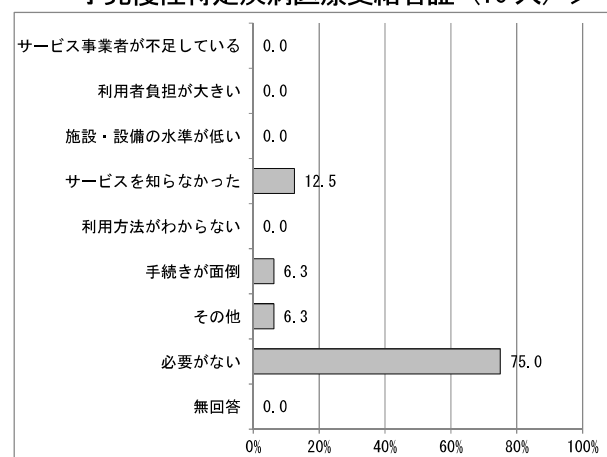
<愛の手帳 (129 人) >



<精神障害者保健福祉手帳 (2 人) >

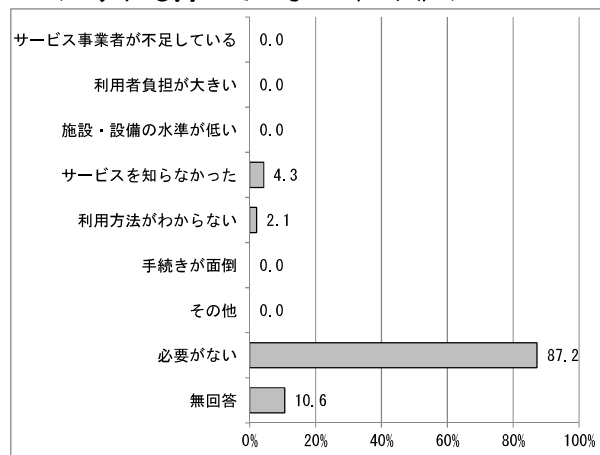


<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、
小児慢性特定疾病医療受給者証 (16 人) >

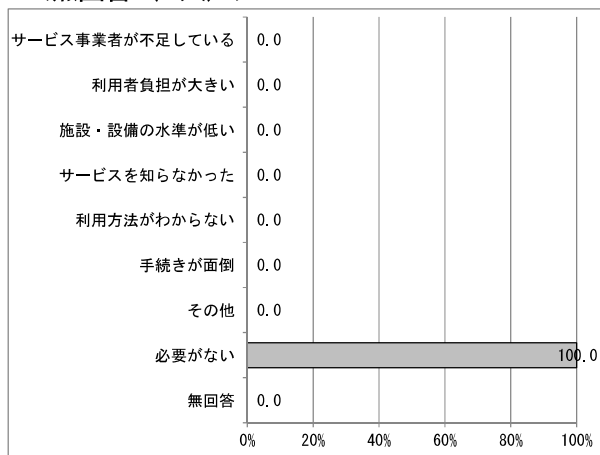


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

＜いずれも持っていない（47 人）＞

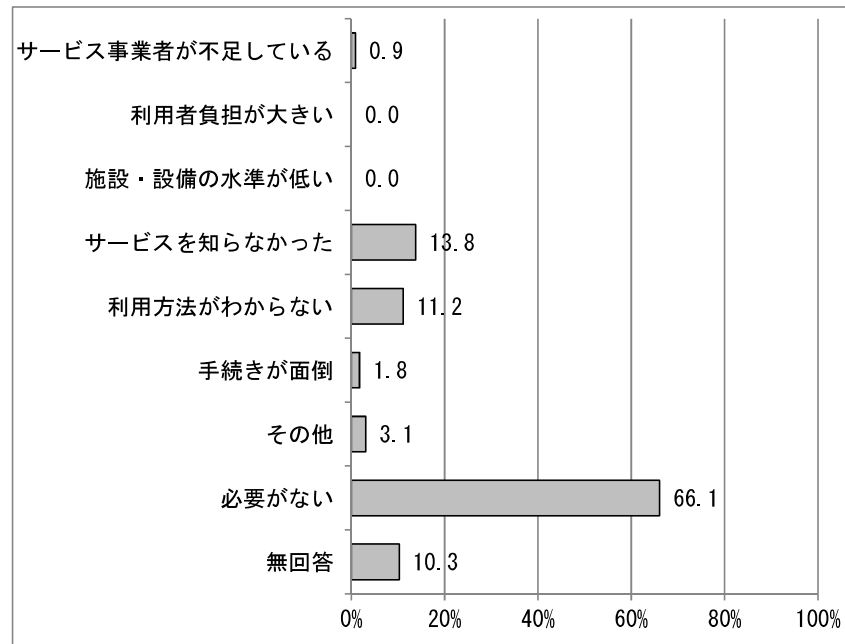


＜無回答（3 人）＞

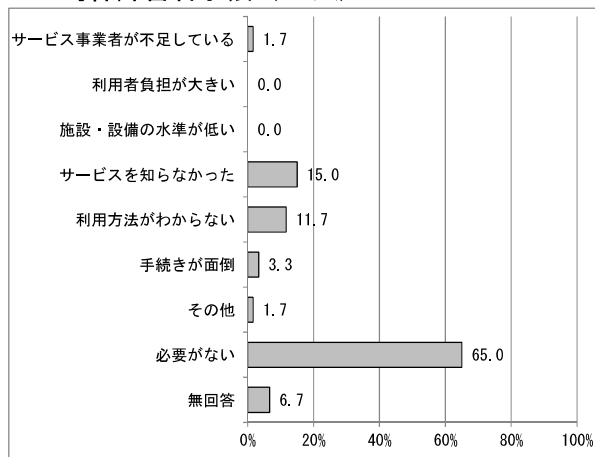


ウ 行動援護

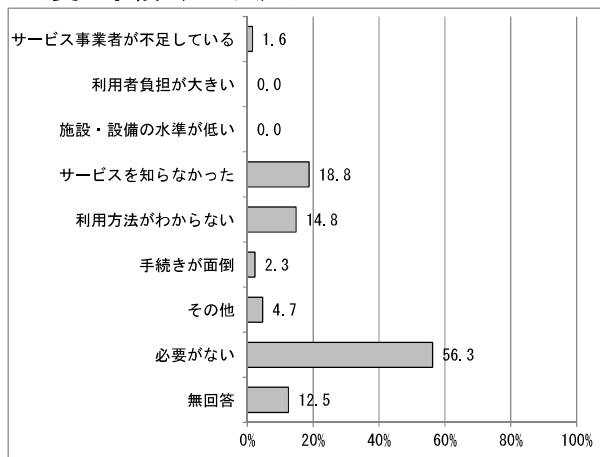
＜全体（224 人）＞



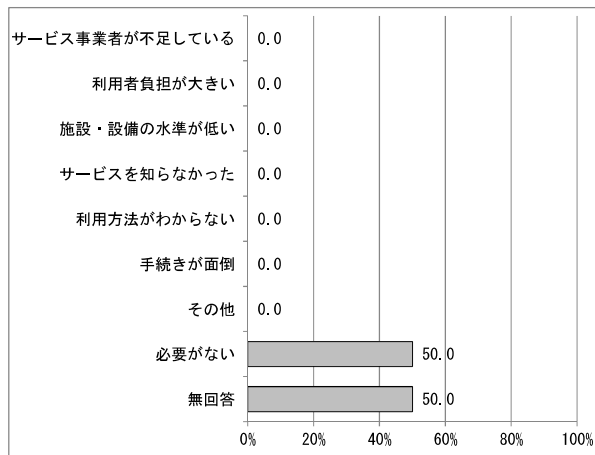
＜身体障害者手帳（60 人）＞



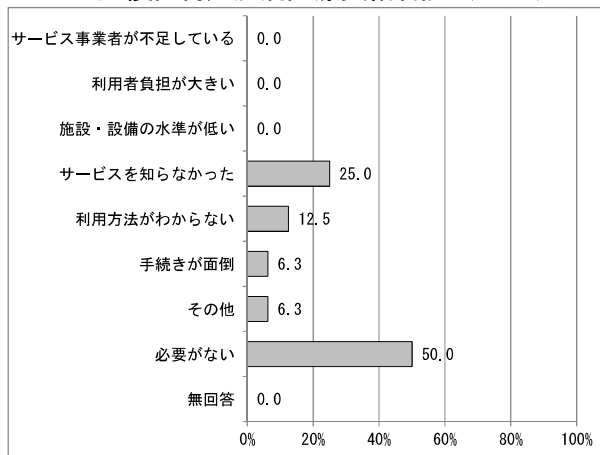
＜愛の手帳（128 人）＞



＜精神障害者保健福祉手帳（2 人）＞

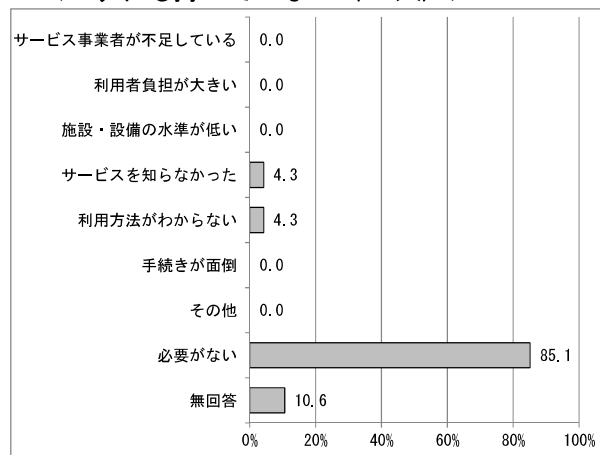


＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、
小児慢性特定疾病医療受給者証（16 人）＞

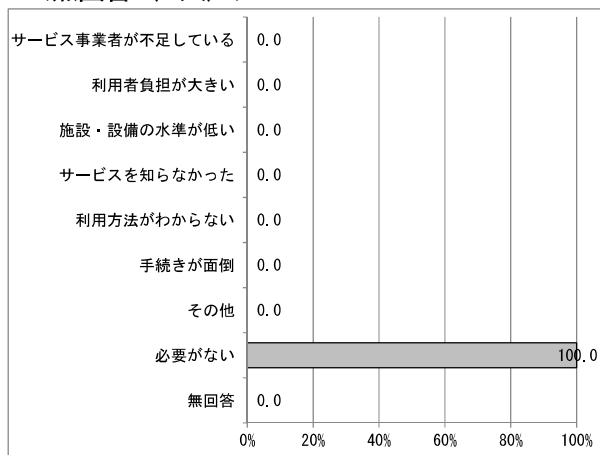


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

＜いずれも持っていない（47 人）＞

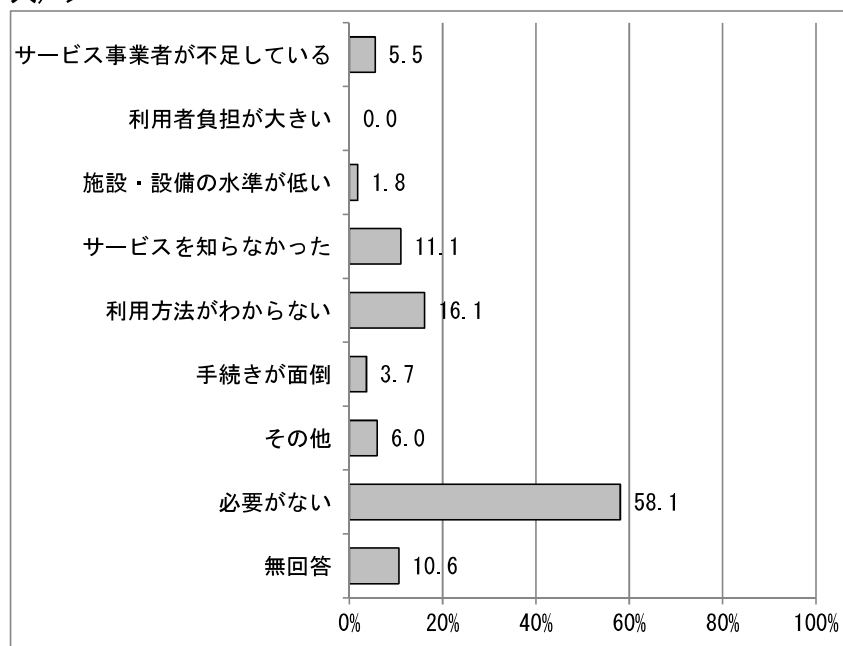


＜無回答（3 人）＞

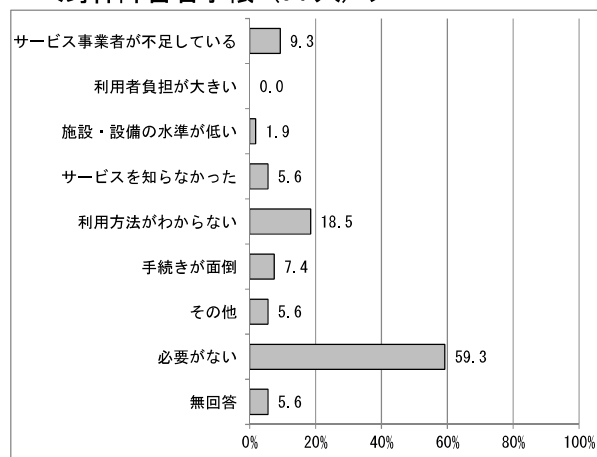


エ 短期入所（ショートステイ）

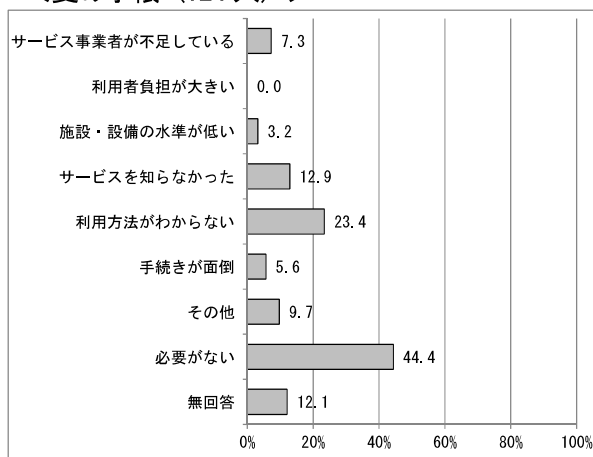
<全体（217 人）>



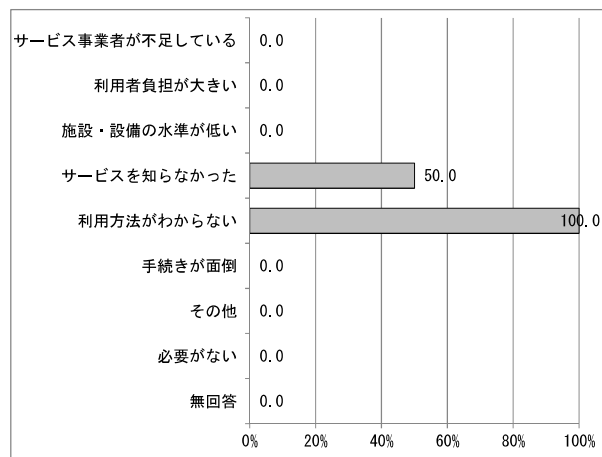
<身体障害者手帳（54 人）>



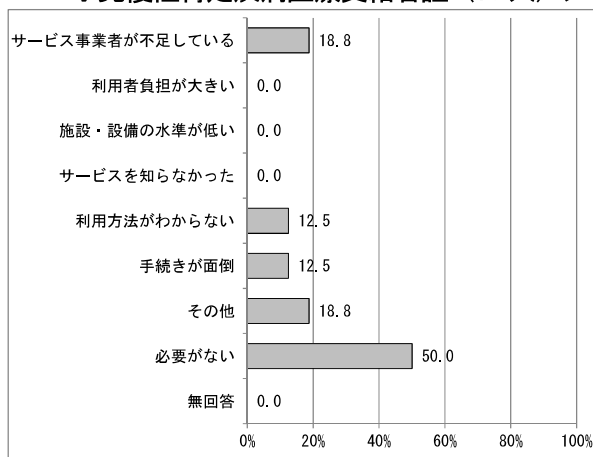
<愛の手帳（124 人）>



<精神障害者保健福祉手帳（2 人）>

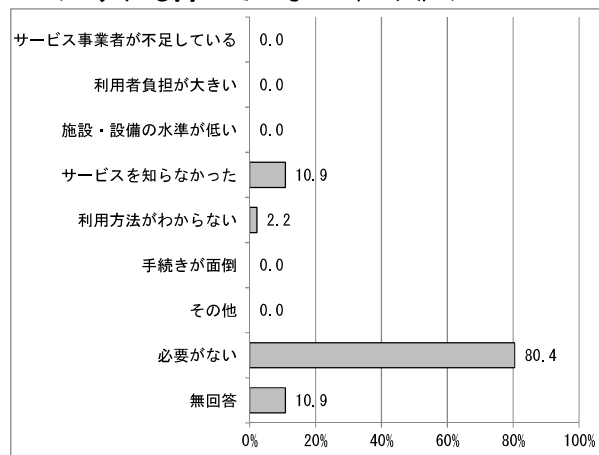


<特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、
小児慢性特定疾病医療受給者証（16 人）>

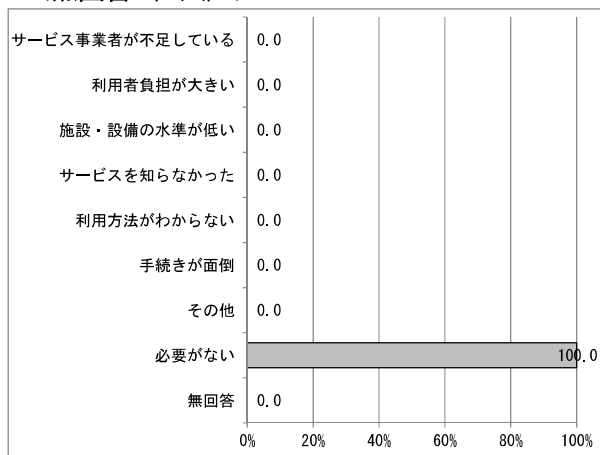


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

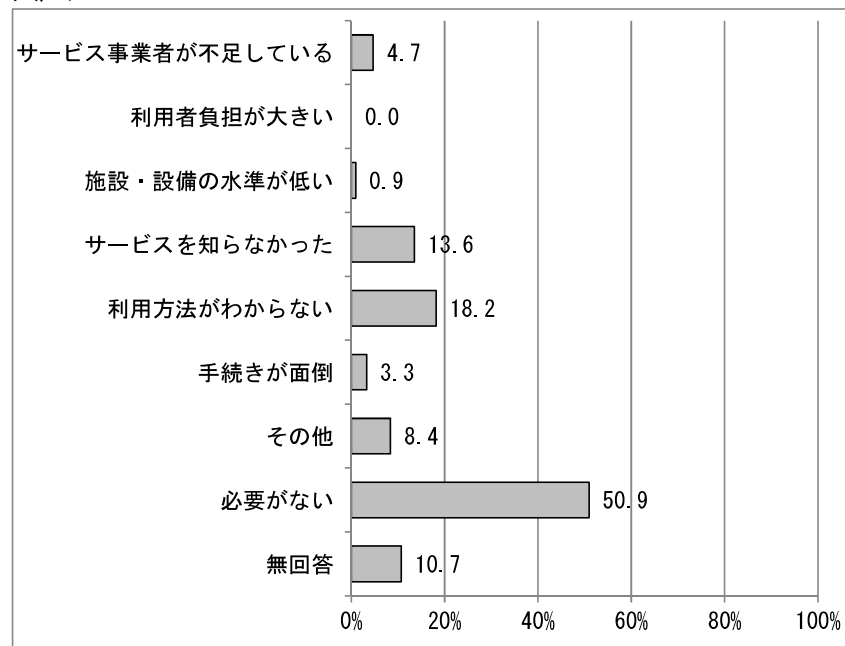
＜いずれも持っていない（46 人）＞



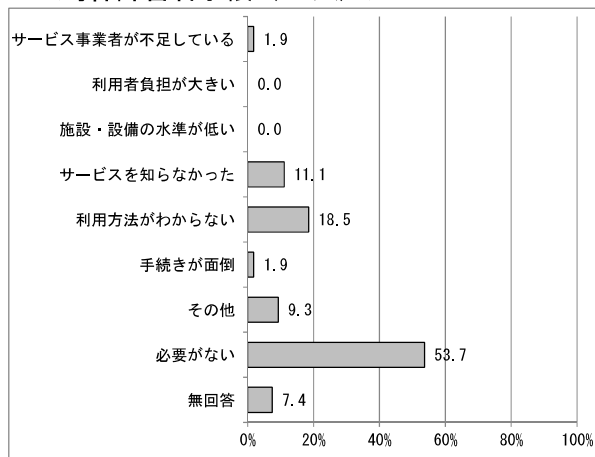
＜無回答（3 人）＞



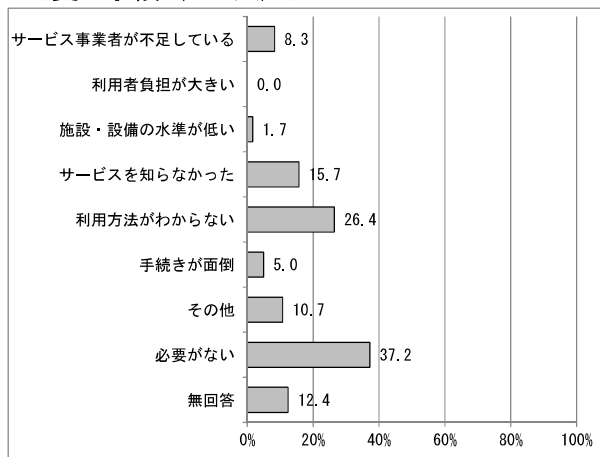
オ 移動支援事業
＜全体（214 人）＞



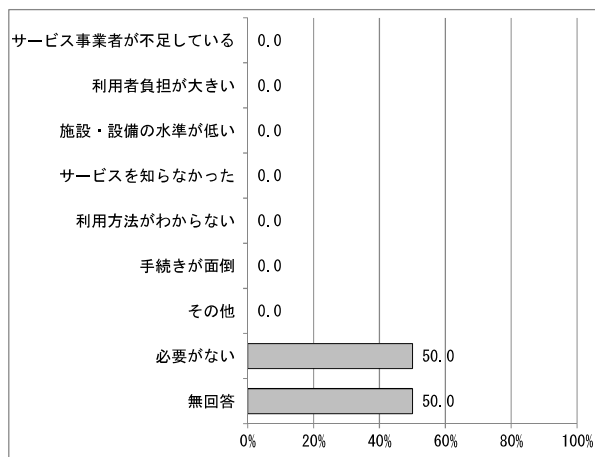
＜身体障害者手帳（54 人）＞



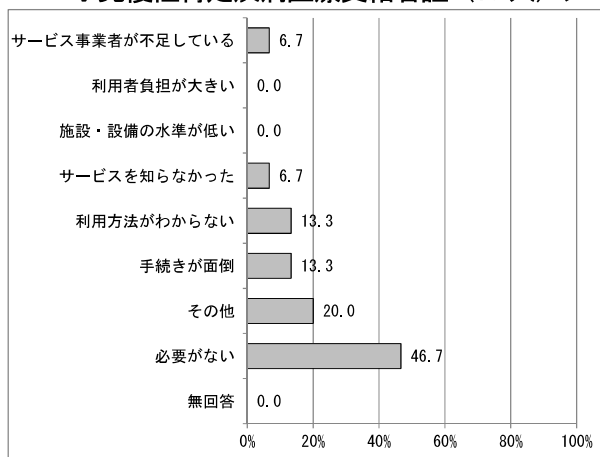
＜愛の手帳（121 人）＞



＜精神障害者保健福祉手帳（2 人）＞

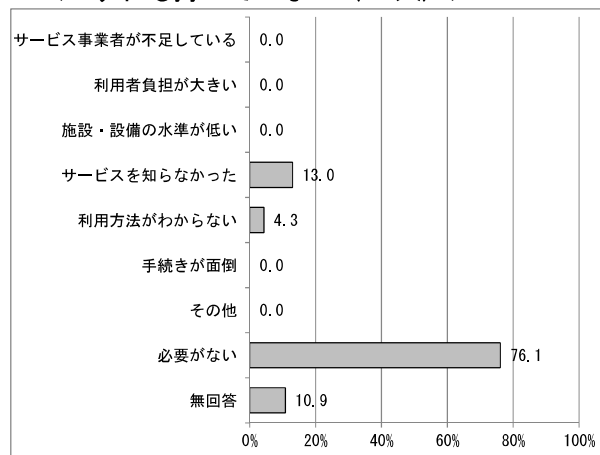


＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、
小児慢性特定疾病医療受給者証（15 人）＞

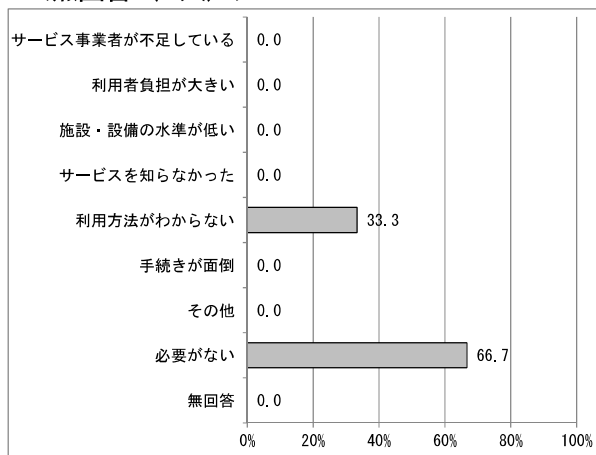


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

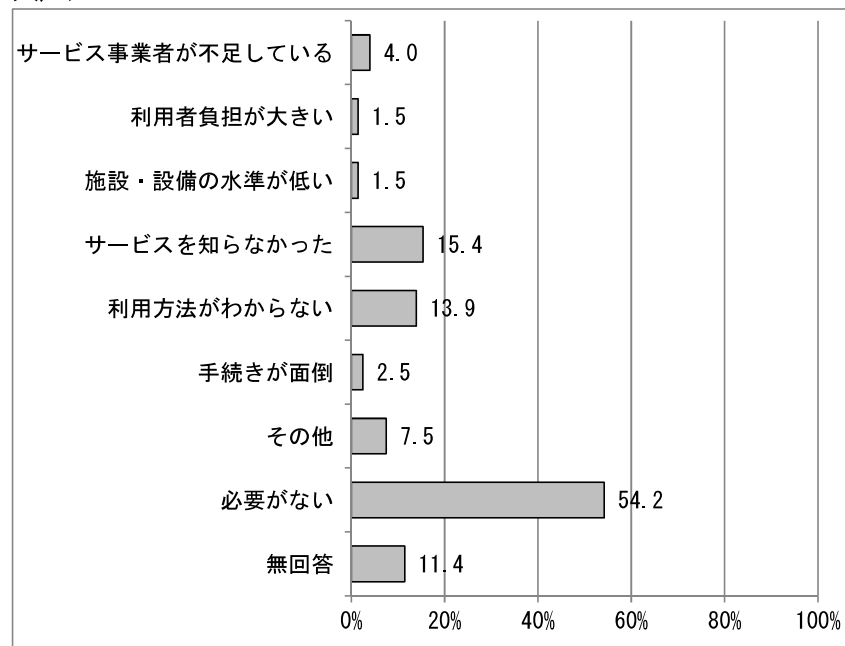
＜いずれも持っていない（46 人）＞



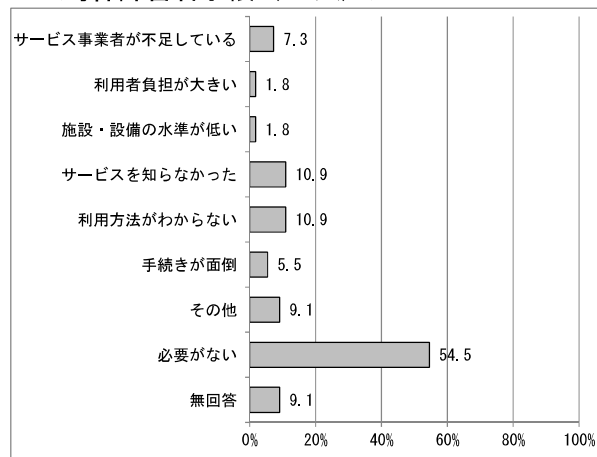
＜無回答（3 人）＞



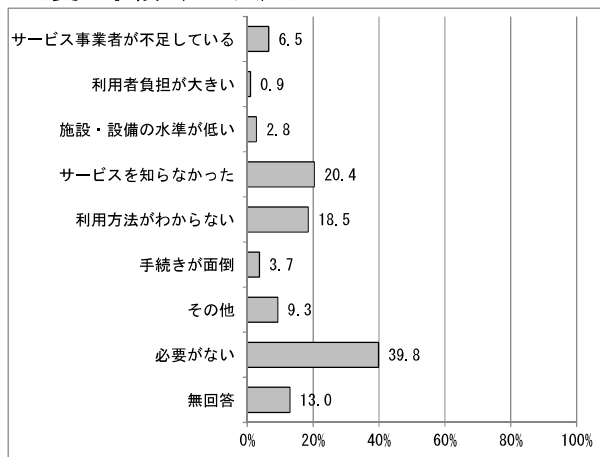
カ 日中一時支援事業
＜全体（201 人）＞



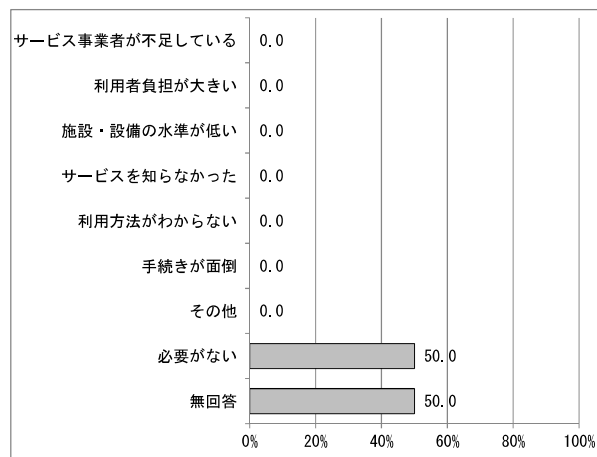
＜身体障害者手帳（55 人）＞



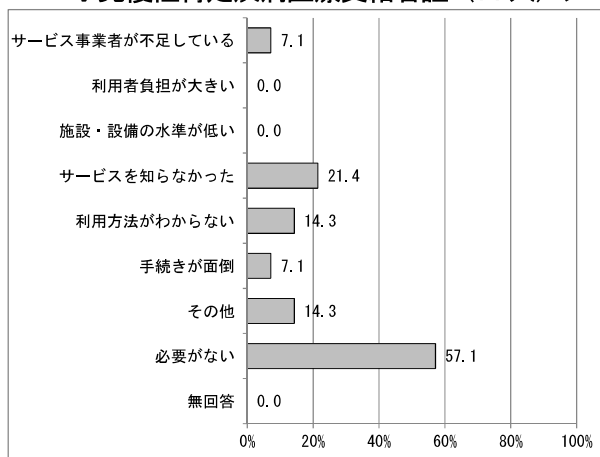
＜愛の手帳（108 人）＞



＜精神障害者保健福祉手帳（2 人）＞

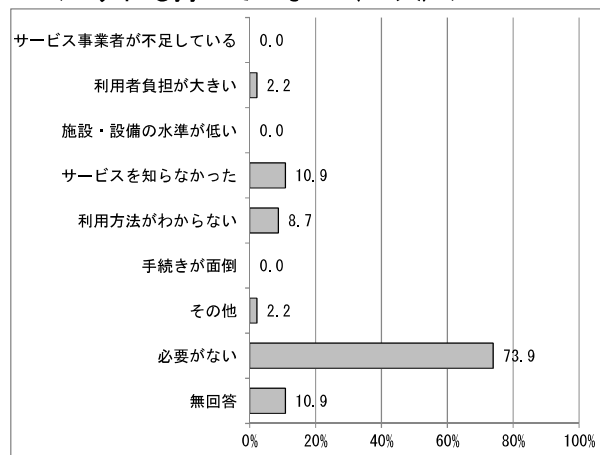


＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、
小児慢性特定疾病医療受給者証（14 人）＞

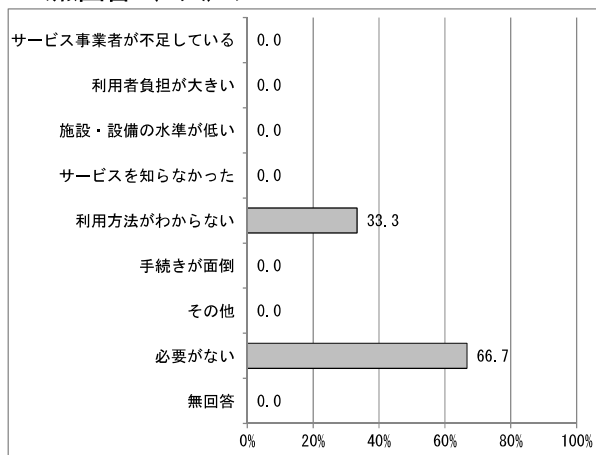


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

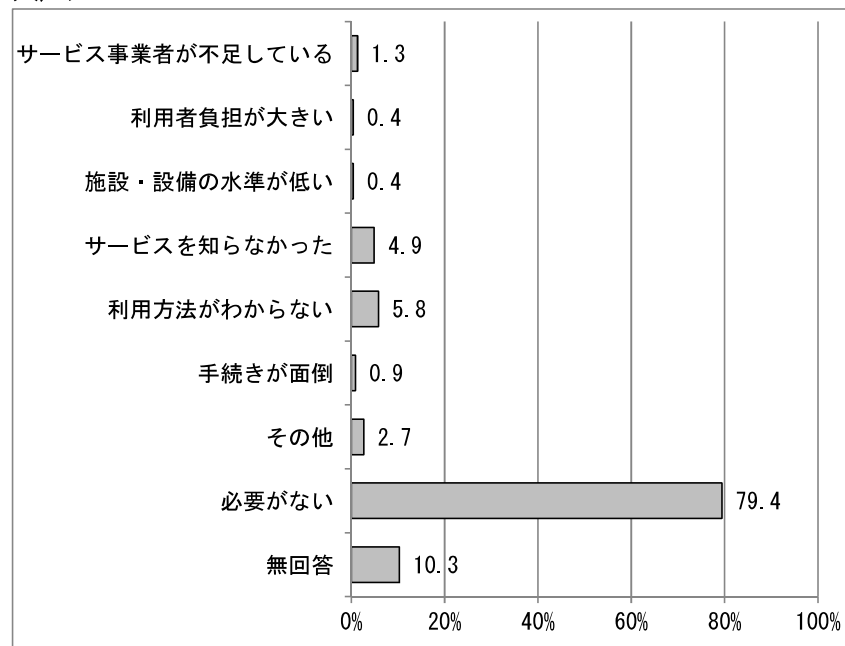
＜いずれも持っていない（46 人）＞



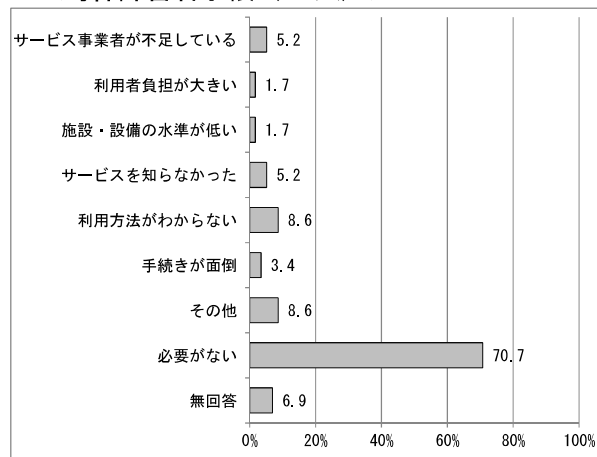
＜無回答（3 人）＞



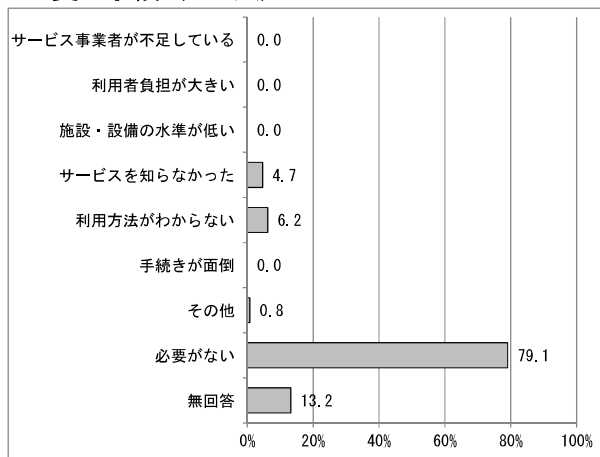
キ 手話通訳者派遣事業
＜全体（223 人）＞



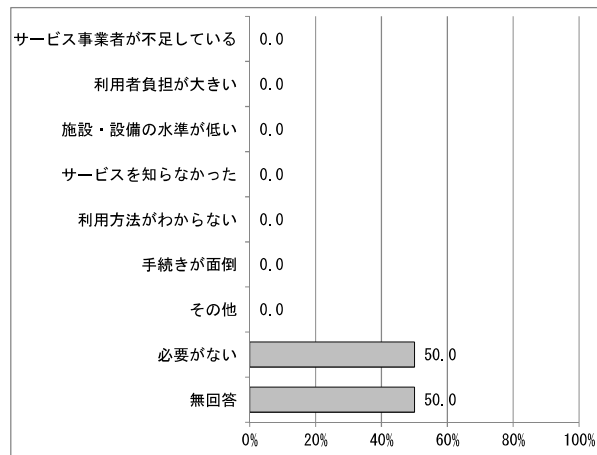
＜身体障害者手帳（58 人）＞



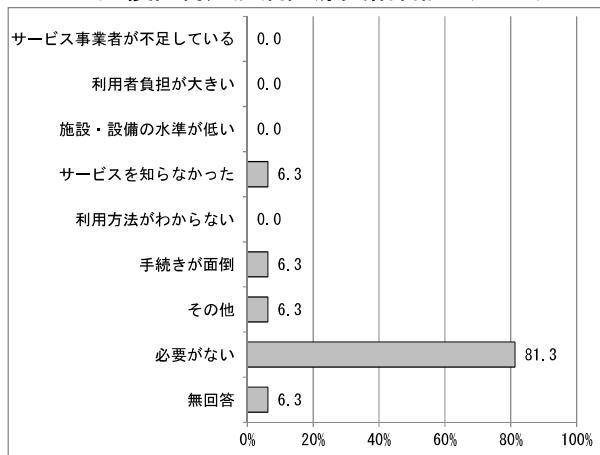
＜愛の手帳（129 人）＞



＜精神障害者保健福祉手帳（2 人）＞

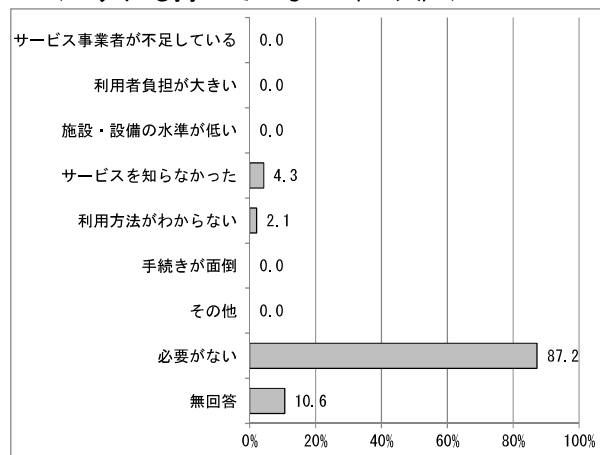


＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、
小児慢性特定疾病医療受給者証（16 人）＞

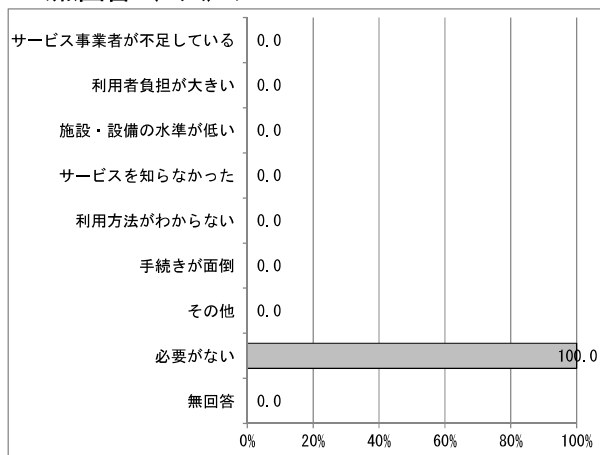


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

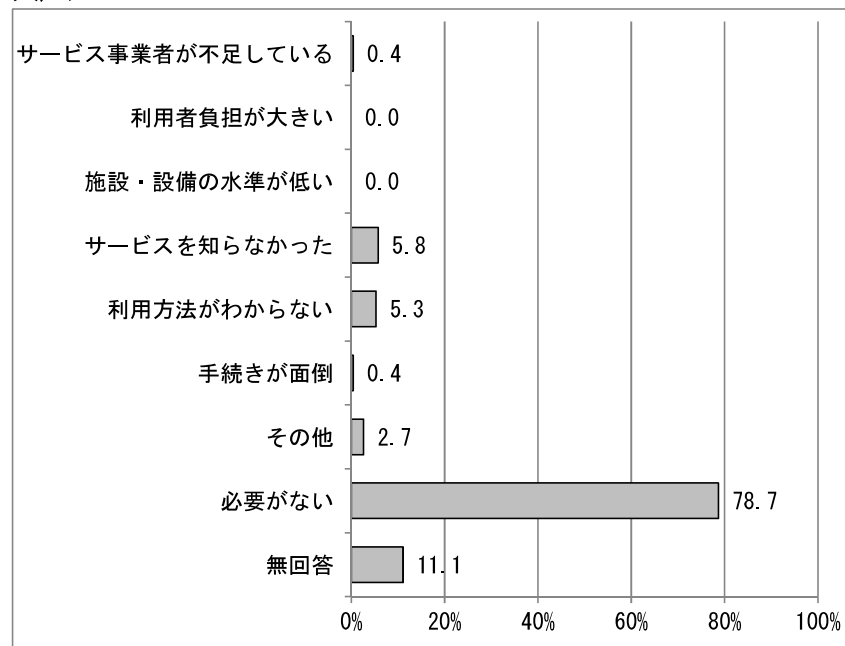
＜いずれも持っていない（47 人）＞



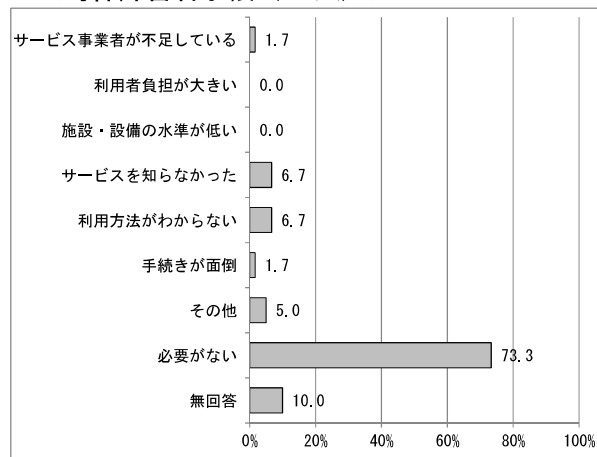
＜無回答（3 人）＞



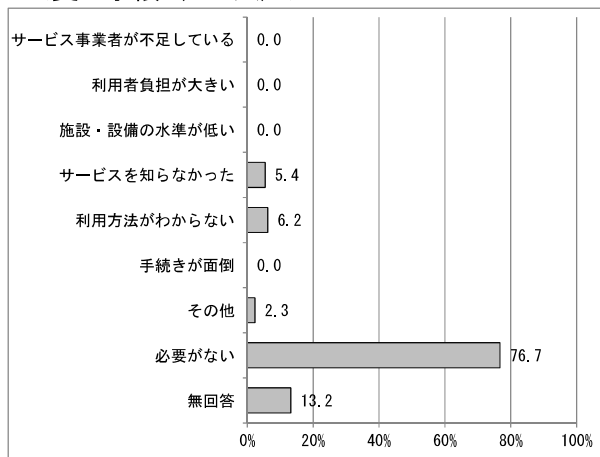
ク 要約筆記者派遣事業
＜全体（225 人）＞



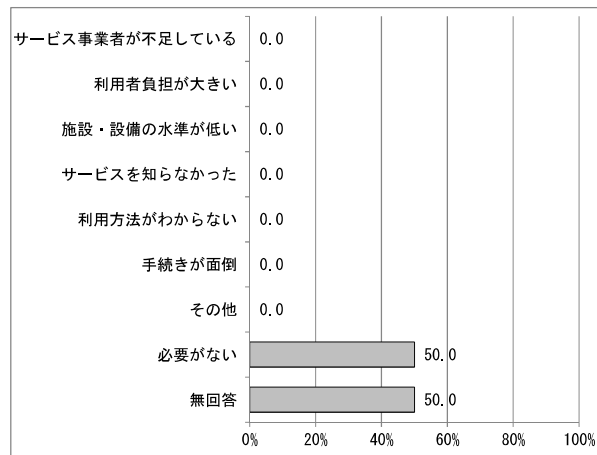
＜身体障害者手帳（60 人）＞



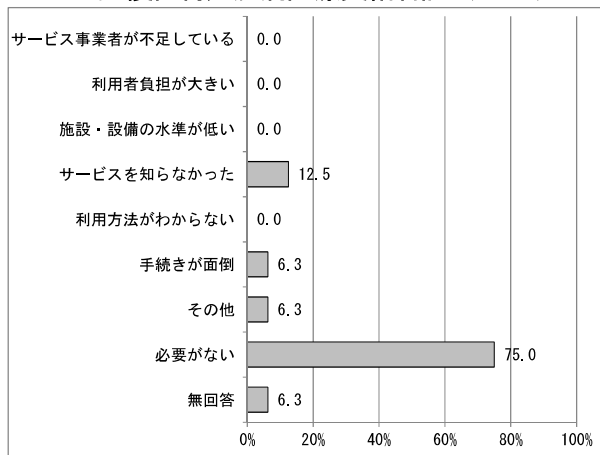
＜愛の手帳（129 人）＞



＜精神障害者保健福祉手帳（2 人）＞

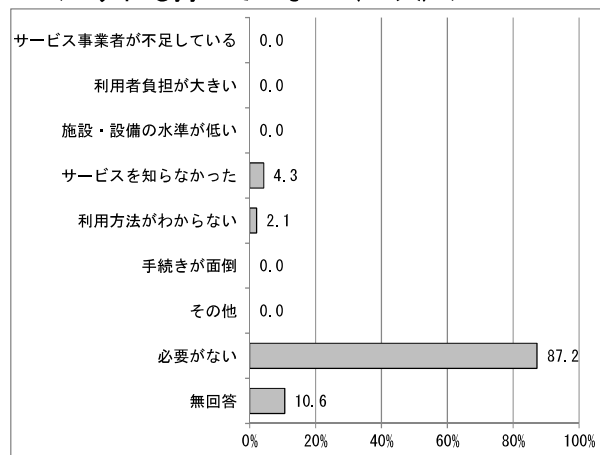


＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、
小児慢性特定疾病医療受給者証（16 人）＞

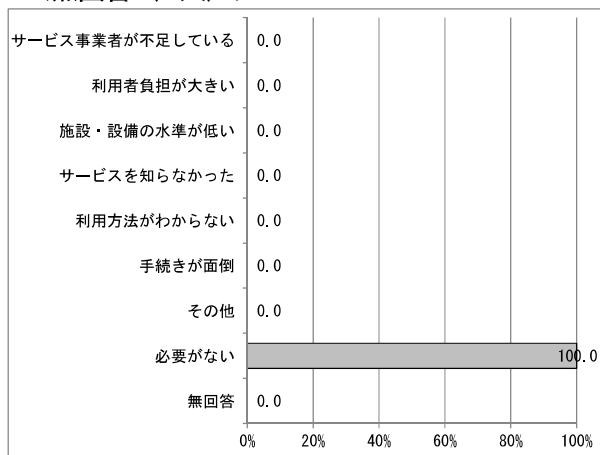


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

＜いずれも持っていない（47 人）＞

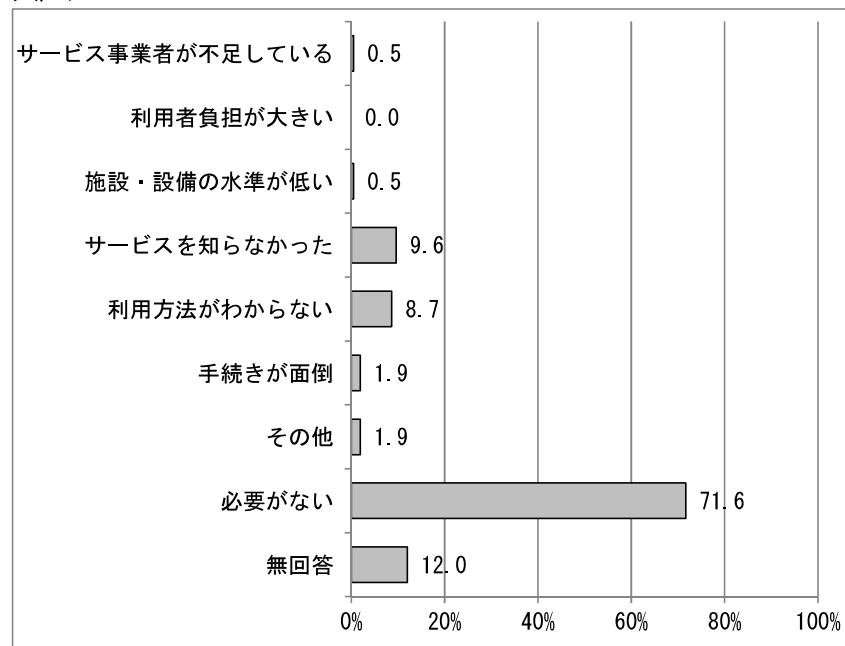


＜無回答（3 人）＞

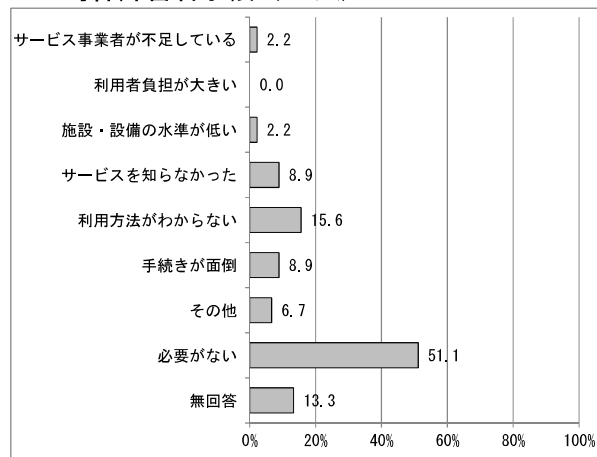


ケ 日常生活用具給付等事業

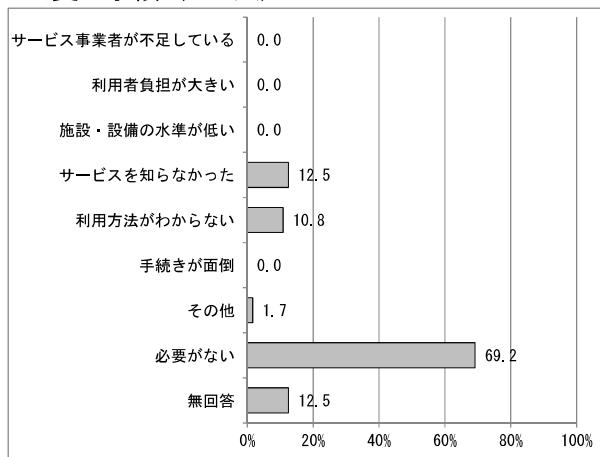
＜全体（208 人）＞



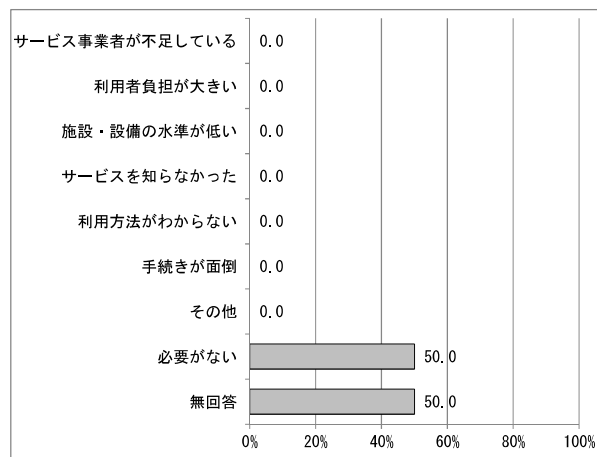
＜身体障害者手帳（45 人）＞



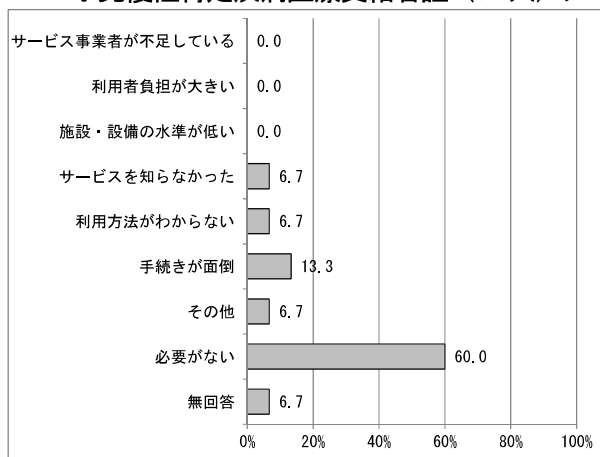
＜愛の手帳（120 人）＞



＜精神障害者保健福祉手帳（2 人）＞

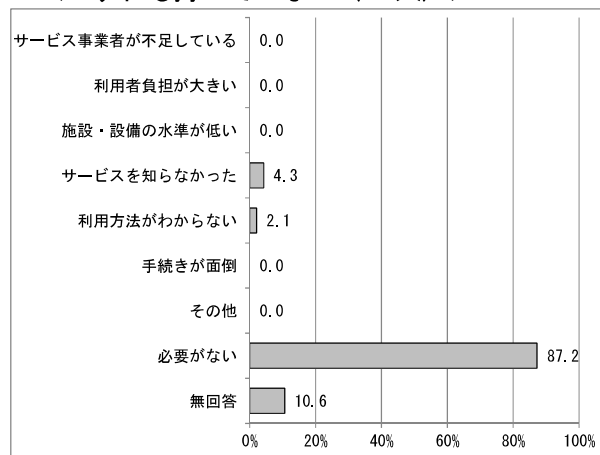


＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、
小児慢性特定疾病医療受給者証（15 人）＞

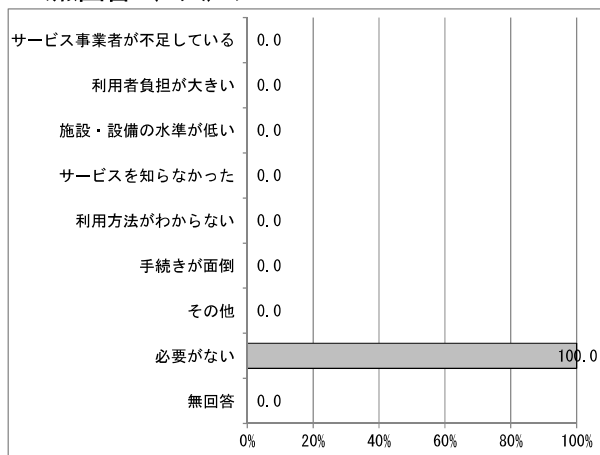


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

＜いずれも持っていない（47 人）＞



＜無回答（3 人）＞



障害に対する理解について

問 29 普段の暮らしの中で、障害や病気への差別・偏見を感じるときがありますか。

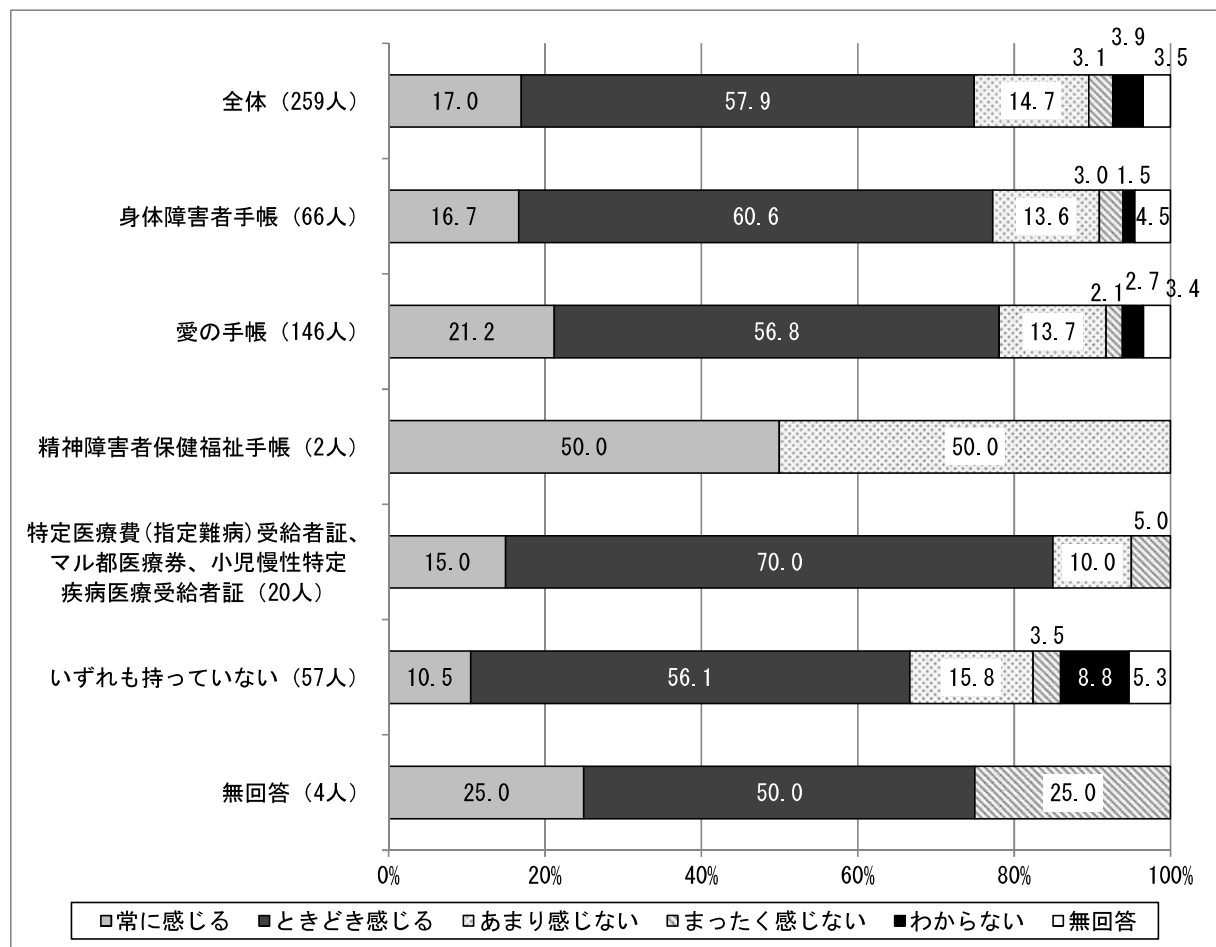
(1つに○)

<全体の傾向>

障害や病気への差別・偏見について、「ときどき感じる」が 57.9%と最も割合が高く、次いで「常
に感じる」が 17.0%、「あまり感じない」が 14.7%となっています。

<手帳種別の傾向>

手帳種別の特徴はみられません。



Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

問 30 周囲の人たちに対して、障害への理解を進めていくためにどのようなことを重視すべきだと思いますか。（主なもの2つまでに○）

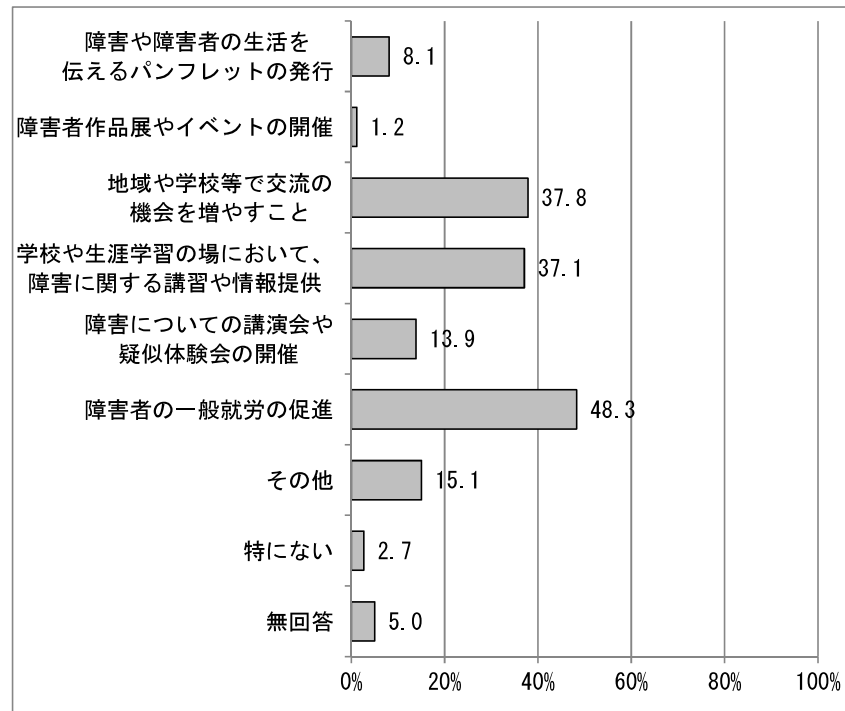
＜全体の傾向＞

障害への理解を進めていくために重視すべきことについて、「障害の一般就労の促進」が 48.3%と最も割合が高く、次いで「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」が 37.8%、「学校や生涯学習の場において、障害に関する講習や情報提供」が 37.1%なっています。

＜手帳種別の傾向＞

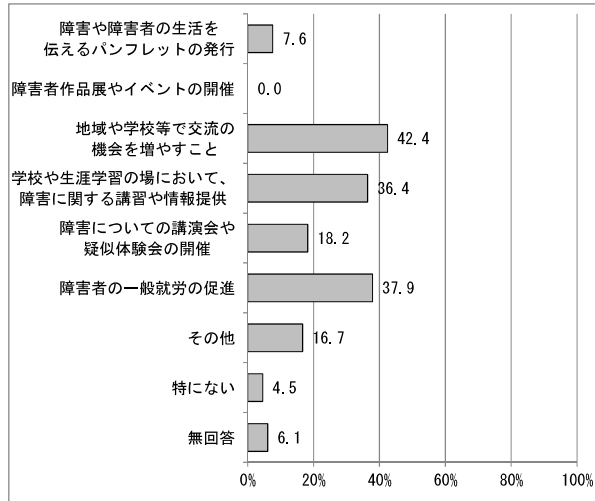
「身体障害者手帳」と「特定医療費（特定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」が最も割合が高く、「いずれも持っていない」では、「学校や生涯学習の場において、障害に関する講習や情報提供」が最も割合が高くなっています。

＜全体（259 人）＞

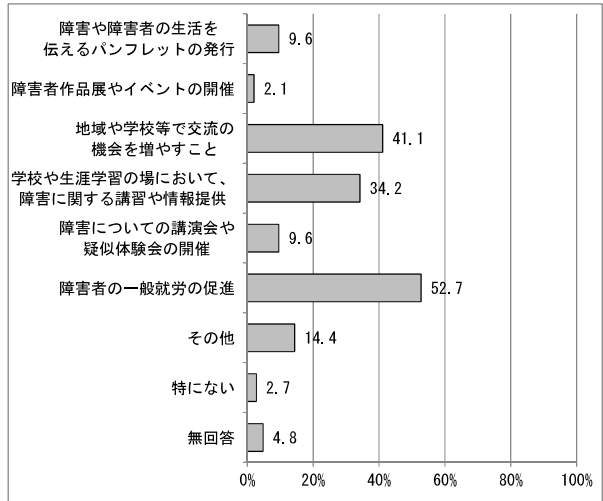


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

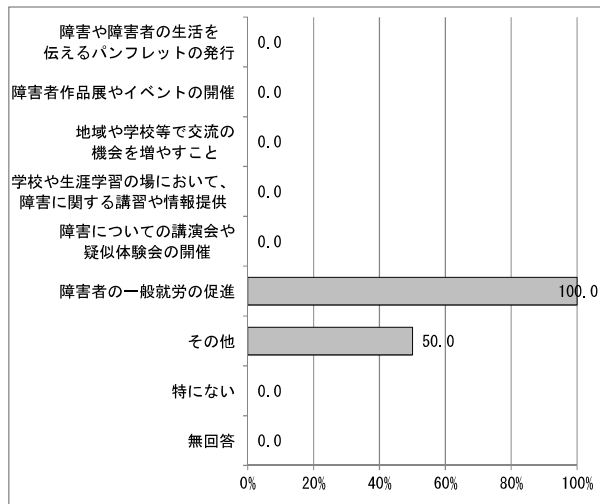
＜身体障害者手帳（66 人）＞



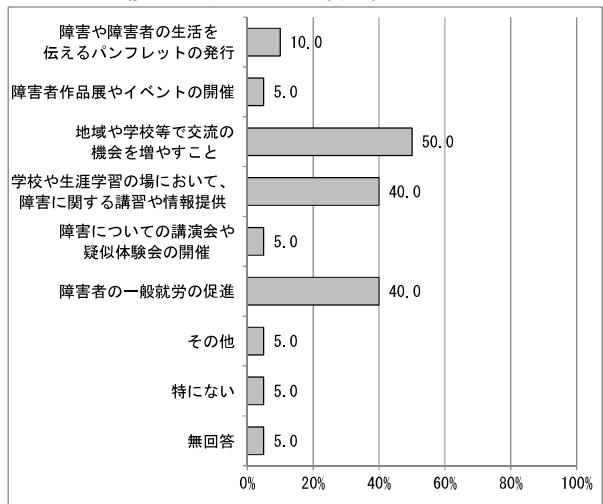
＜愛の手帳（146 人）＞



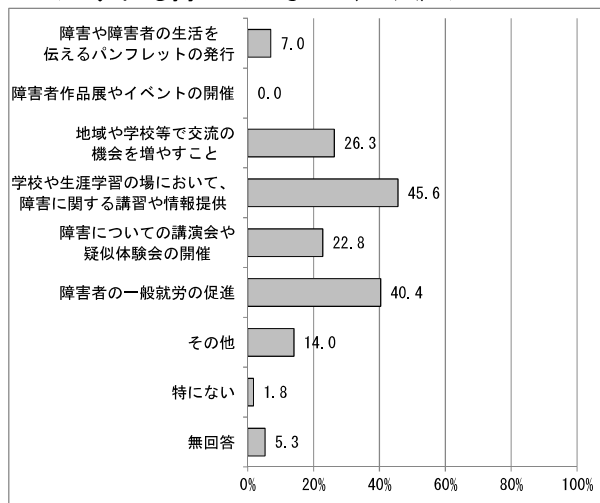
＜精神障害者保健福祉手帳（2 人）＞



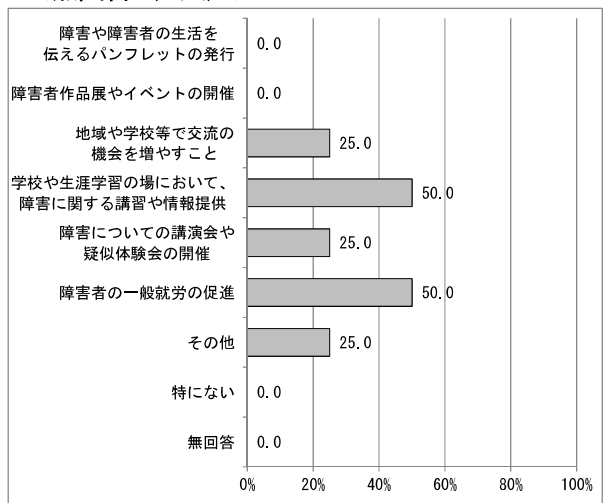
＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（20 人）＞



＜いずれも持っていない（57 人）＞



＜無回答（4 人）＞



Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

問 31 品川区は、お子さんやご家族の方にとって暮らしやすいまちですか。（１つに○）

＜全体の傾向＞

品川区の暮らしやすさについて、「どちらかという暮らしやすい」が 47.5%、次いで「わからない」が 15.4%、「とても暮らしやすい」が 14.7%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

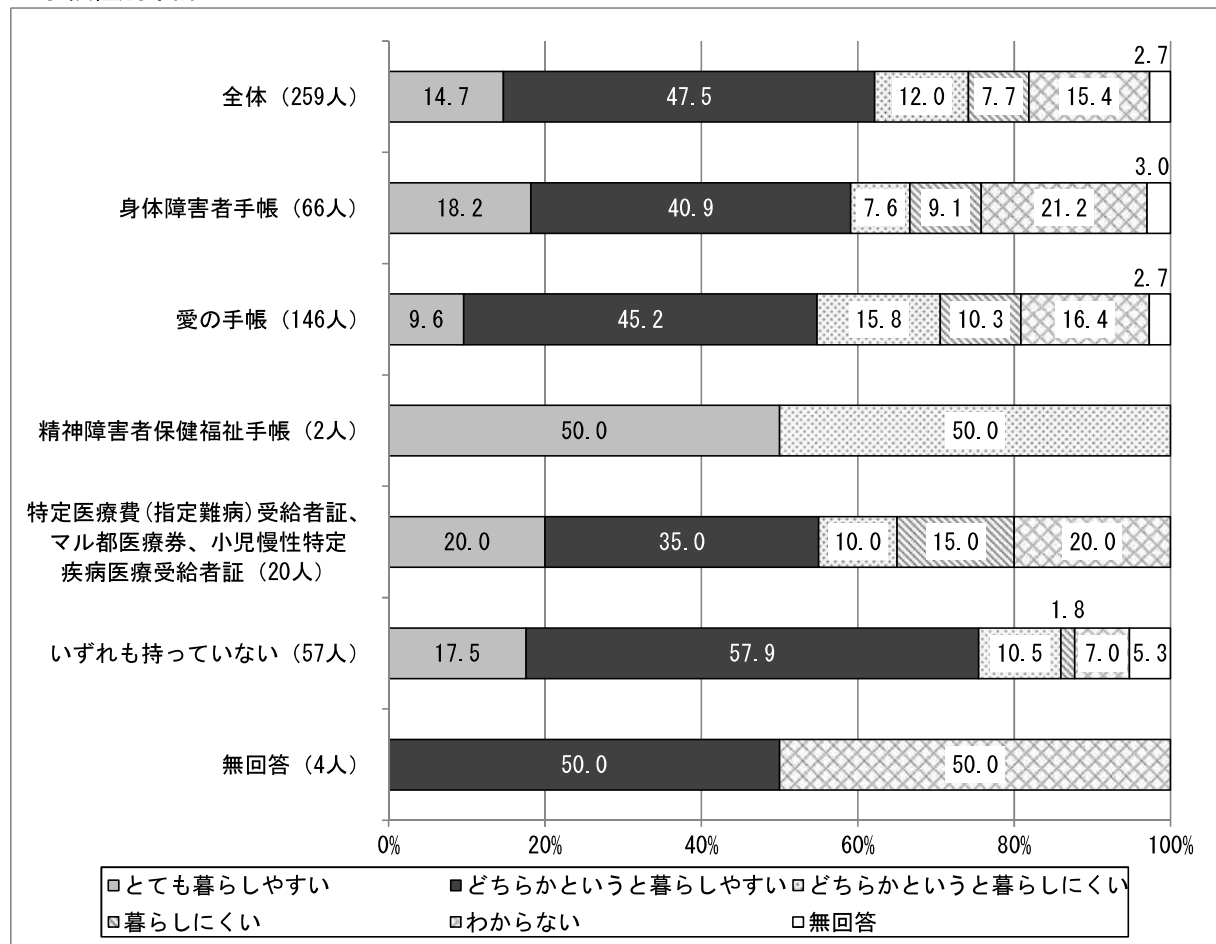
「いずれも持っていない」では、「どちらかという暮らしやすい」が 57.9%と最も割合が高く、「どちらかという暮らしにくい」と「暮らしにくい」は合わせて 8.8%と最も割合が低くなっています。

＜地域別の傾向＞

品川地区では「とても暮らしやすい」が 21.6%となっており、比較的高い割合となっています。

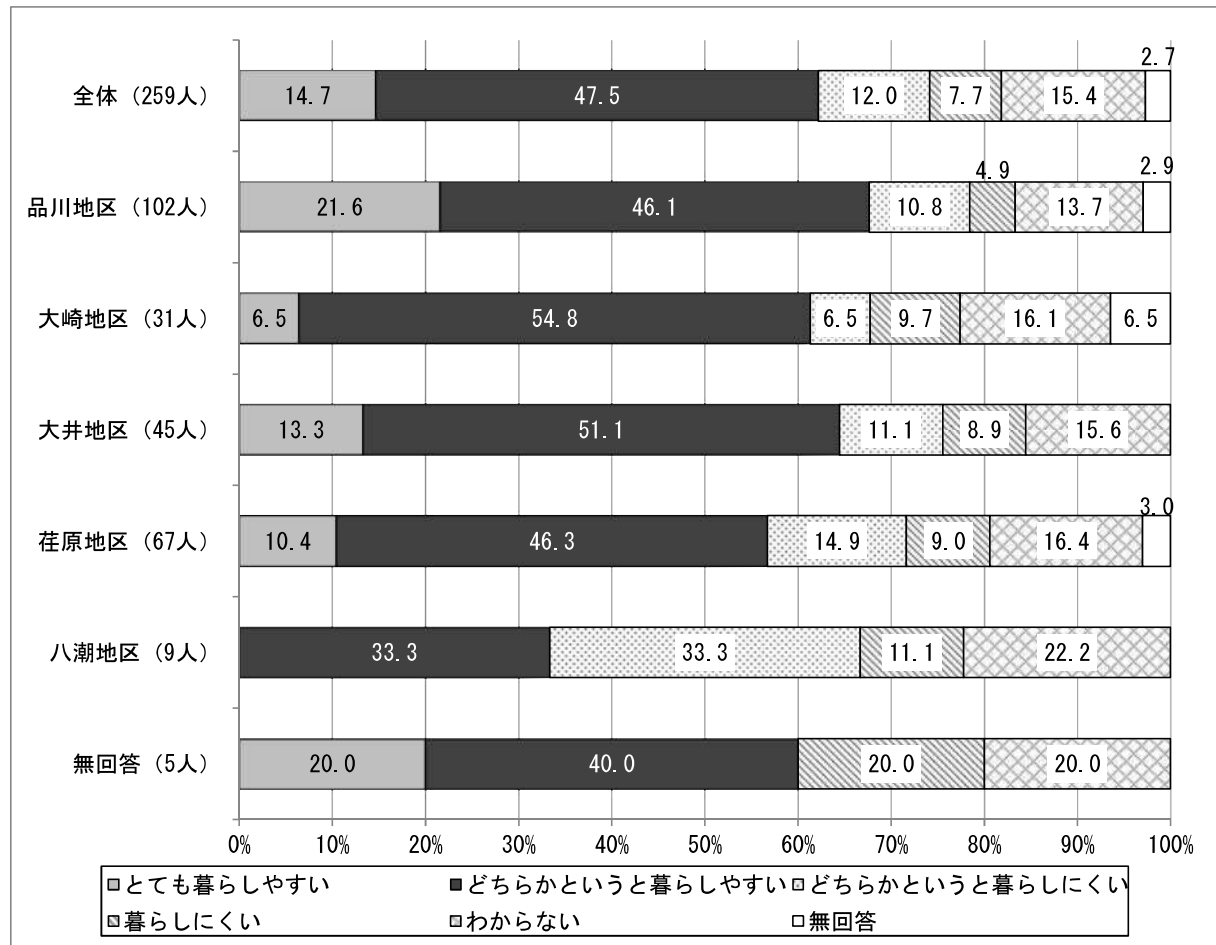
荏原地区では「どちらかという暮らしにくい」が 14.9%、「暮らしにくい」9.0%となっており、暮らしにくさを感じている回答者が比較的多くみられます。

＜手帳種別集計＞



Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

<地区別集計>



生活の状況・区の施策について

問 32 障害のある方が地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。

(主なものを2つまでに○)

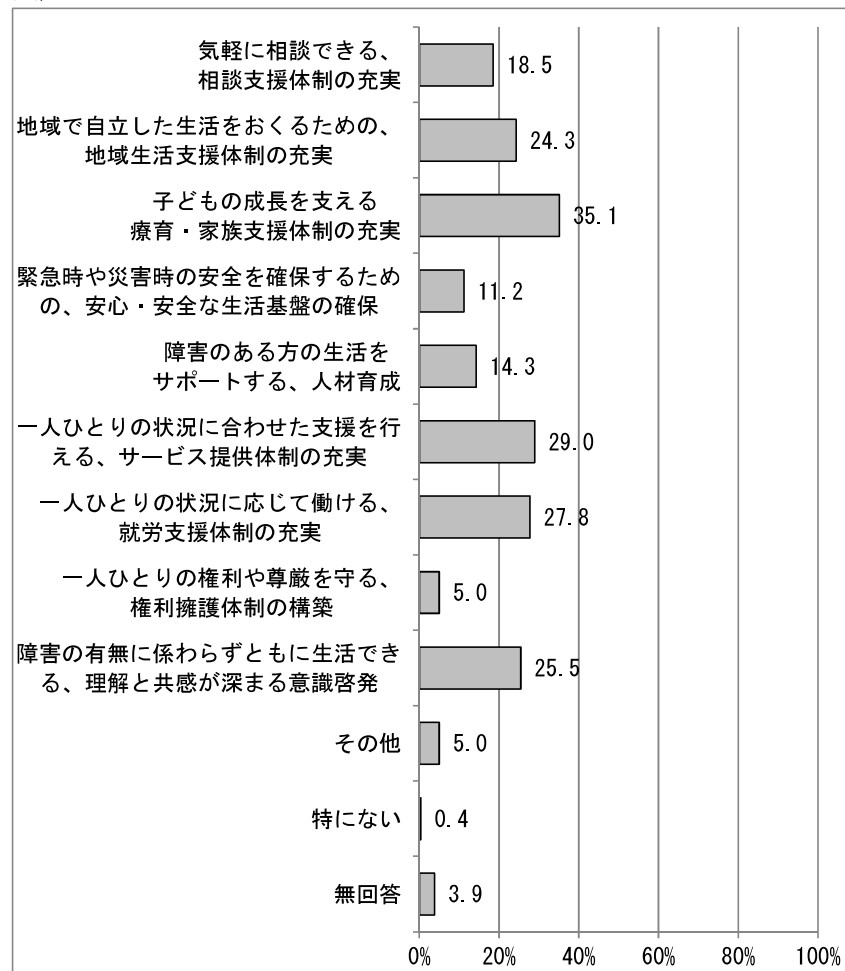
＜全体の傾向＞

障害のある方のために重要な施策について、「子どもの成長を支える療育・家族支援体制の充実」が 35.1%と最も割合が高く、次いで「一人ひとりの状況に合わせた支援を行える、サービス提供体制の充実」が 29.0%、「一人ひとりの状況に応じて働ける、就労支援体制の充実」が 27.8%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

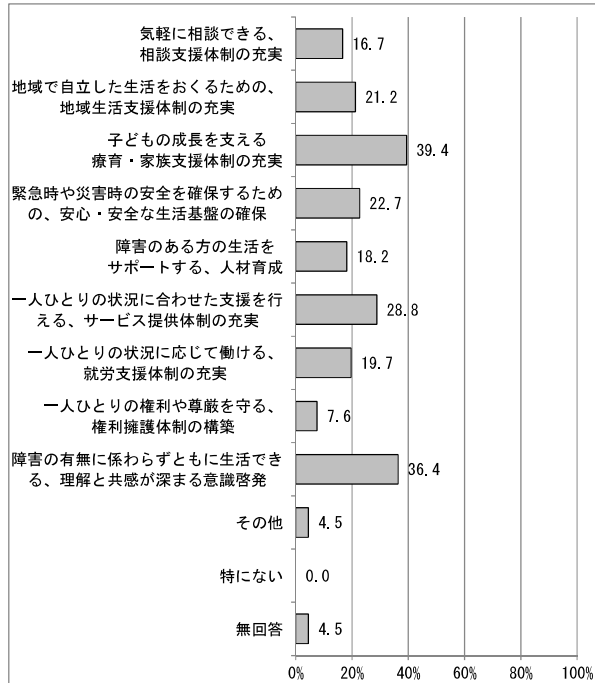
「愛の手帳」では、「地域で自立した生活をおくるための、地域生活支援体制の充実」が 30.1%、「いずれも持っていない」では、「気軽に相談できる相談支援体制の充実」が 29.8%と比較的高い割合となっています。

＜全体（259 人）＞

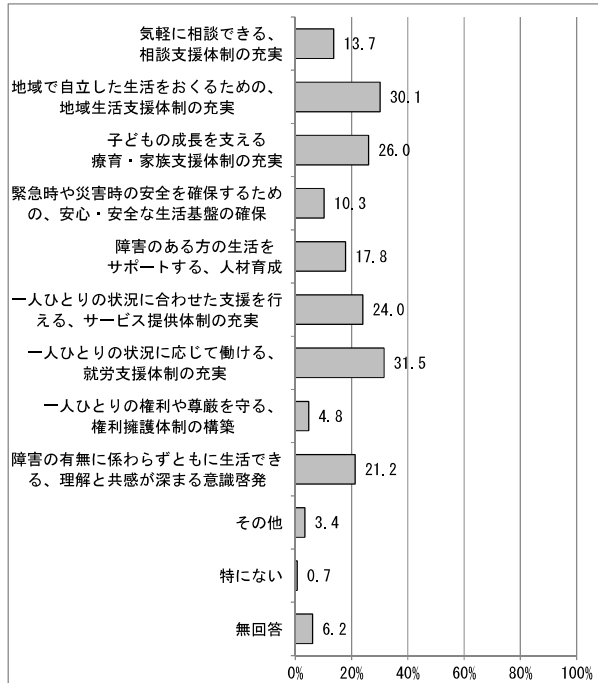


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

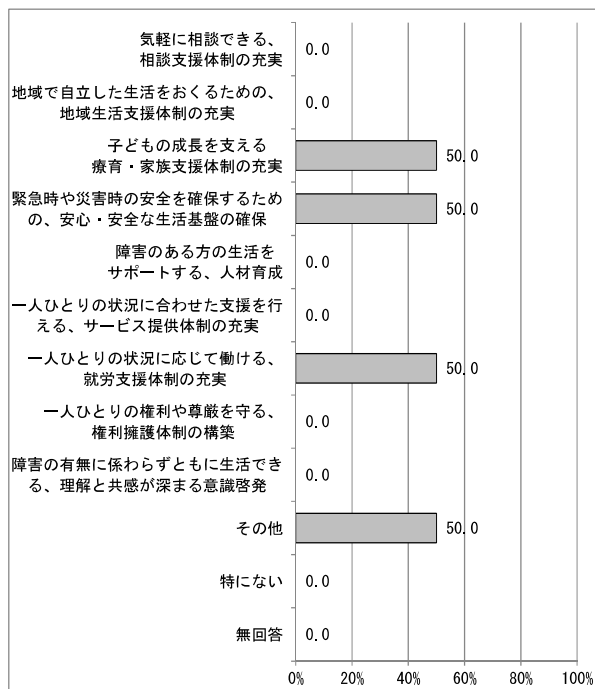
＜身体障害者手帳（66 人）＞



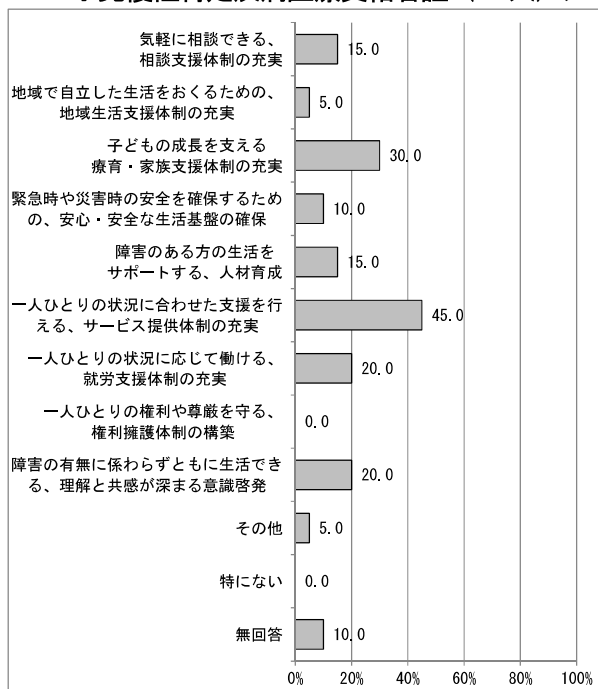
＜愛の手帳（146 人）＞



＜精神障害者保健福祉手帳（2 人）＞

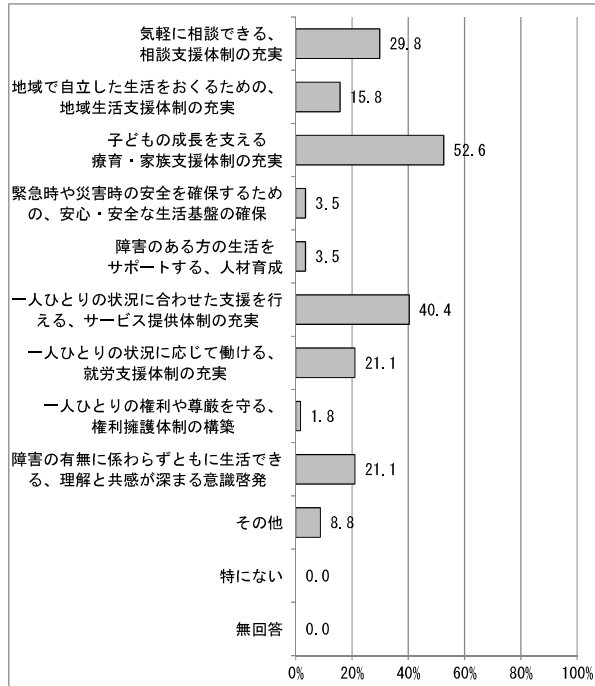


＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（20 人）＞

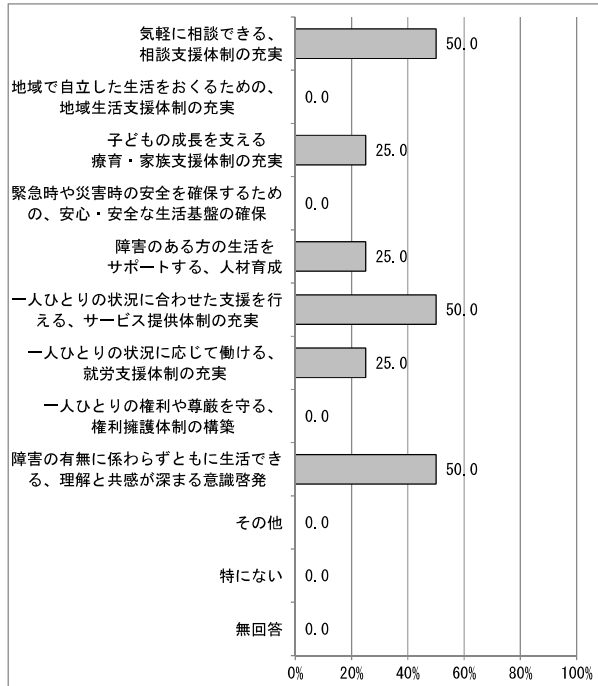


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

<いずれも持っていない (57 人)>



<無回答 (4 人)>



問 33 障害のある方への支援施策について、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

障害児等への支援施策について、「サービス・質の向上について」の回答が 97 件と多く、次いで「行政施策について」が 65 件、「子どもの学習・将来について」が 59 件みられます。

分 類	回答数
サービス・質の向上について	97
行政施策・体制について	65
子どもの学習・将来について	59
施設利用しやすさについて	33
生活環境の改善について	29
施設の整備・充実について	24
情報収集、情報発信について	22
経済的支援について	12
他地域との比較で感じることにについて	8
その他	38

※ 自由記述の内容を分類。複数回答あり。

IV アンケート調査票

1 未就学児への調査

支援の必要なお子さんへのアンケート調査 (未就学児)

～アンケート調査へのご協力のお願い～

日頃から、品川区の福祉行政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

区では、児童福祉法の改正に伴い、今年度に「品川区障害児福祉計画」を策定します。そのため、区内で生活をしている世帯のうち、行政からの支援を受けている、もしくは障害者手帳を所持している就学前のお子さん（未就学児）のいる世帯を対象に、生活の様子やサービスの利用状況、支援への意向を把握するためのアンケート調査を実施します。

調査は無記名で行いますので、個人が特定されたり、個人の回答内容が明らかになることはありません。また、お答えいただいた内容は統計的に処理したうえで、計画策定の基礎資料としてのみ活用し、その他の目的に使用することは一切ありません。

調査の趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますよう、お願いいたします。

平成 29 年 8 月

品川区 福祉部 障害者福祉課

ご記入にあたっての注意事項

- ① 回答は、ご家族や介助者の方が、封筒のあて名のお子さんのことについてお答えください。
- ② 回答は、○印を記入していただく設問、数字を記入していただく設問、内容を記入していただく設問があります。それぞれの指示に従って記入してください。
- ③ ○印を記入していただく設問について、あてはまる選択肢の番号に直接○印を記入してください。なお、「1つに○」「あてはまるものすべてに○」等、指示にしたがって記入してください。
- ④ 「その他」に○印を記入したときは、その内容を（ ）内にご記入ください。

記入した調査票は、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずに

平成 29 年 8 月 28 日（月）までに、ポストに投函してください。

問合せ先

品川区 福祉部 障害者福祉課 福祉改革担当

電話：03-5742-6762

FAX：03-3775-2000

Ⅳ－１ 未就学児への調査

お子さん・世帯の状況について

問１ お子さんの性別をお答えください。（１つに○）

1 男性	2 女性
------	------

問２ 平成 29 年 4 月 2 日現在のお子さんの年齢をお答えください。（数字を記入）

	歳
--	---

問３ お子さんがお持ちの障害者手帳の種類と等級をお答えください。

（あてはまるものすべてに○）

手帳の種類	等級					
1 身体障害者手帳	1 1級	3 3級		5 5級		
	2 2級	4 4級		6 6級		
2 愛の手帳	1 1度	2 2度	3 3度	4 4度		
3 精神障害者保健福祉手帳	1 1級	2 2級		3 3級		
4 特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証						
5 いずれも持っていない						

問４ 現在お住まいの地区をお答えください。（１つに○）

1 品川地区	3 大井地区	5 八潮地区
2 大崎地区	4 荏原地区	

問５ 現在同居している家族をすべてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

1 父親	3 兄弟姉妹	5 その他親族
2 母親	4 祖父母	6 その他（ ）

問６ お子さんは、日頃どこに通っていますか。（１つに○）

1 保育園	4 保育園や幼稚園と療育施設の併用
2 幼稚園	5 どこにも通っていない（自宅にいる）
3 障害児の療育施設	6 その他（ ）

お子さんの障害・疾病の状況について

問7 お子さんの障害（もしくは、発達・発育で気になる点）に最初に気付いたのはいつ頃ですか。（1つに○）

1 出生時	3 1歳	5 3歳	7 5歳
2 0歳	4 2歳	6 4歳	8 6歳

問8 お子さんの障害（もしくは、発達・発育で気になる点）について、最初に気付いたのはどのようなときでしたか。（1つに○）

1 出生時	4 3歳児健診	7 保育園、幼稚園の教職員
2 家族や周りの人	5 育児相談等	8 その他
3 1歳6か月児健診	6 医療機関で診察したとき	9 覚えていない

問9 お子さんには、どのような障害がありますか。（あてはまるものすべてに○）

1 身体障害（視覚障害）	} 問11へ
2 身体障害（聴覚障害・平衡機能障害）	
3 身体障害（音声・言語・そしゃく障害）	
4 身体障害（肢体不自由）	
5 身体障害（内部障害）	
6 知的障害	
7 重症心身障害	
8 高次脳機能障害	
9 発達障害	→ 問10へ
10 その他（	） → 問11へ

問10 問9で「9」と回答した方におたずねします。お子さんは次のような診断を受けていますか。（あてはまるものすべてに○）

1 広汎性発達障害	6 学習障害（LD）
2 自閉症・自閉症スペクトラム	7 非定型自閉症
3 高機能自閉症・高機能広汎性発達障害	8 その他（
4 アスペルガー症候群	9 診断は受けていない
5 注意欠陥多動性障害（ADHD）	

困りごとの相談、介助者への支援について

問 11 お子さんを主に介助している方（主な介助者）はどなたですか。（1つに○）

1 父親	} 問 12 へ	6 その他 ()	} 問 13 へ
2 母親		7 介助は受けていない・不要	
3 兄弟姉妹			
4 同居している祖父母			
5 その他親族			

問 12 問 11 で「1」から「5」のいずれかに回答した方におたずねします。主な介助者をサポートしてくれる親族・知人の方はいますか。（主なもの2つまでに○）

1 父親	4 同居している祖父母	7 その他 ()
2 母親	5 その他親族	8 サポートしてくれる人はいない
3 兄弟姉妹	6 近所の人	

問 13 子育てについて、困っていることはありますか。（主なもの2つまでに○）

1 お子さんから目が離せない	6 買い物等の外出ができない
2 兄弟姉妹の面倒がみられない	7 近所や親族の協力・理解が得られない
3 気持ちが休まらない	8 自由な時間が取れない
4 身体の疲労がぬけない	9 その他 ()
5 出費が多い	10 特に困っていることはない

問 14 家族や知人以外で、日常生活の中で困ったときの相談先はどこですか。
（主なもの2つまでに○）

1 医療機関	} 問 15 へ	8 相談支援事業所	} 問 15 へ
2 区の障害者福祉課		9 利用しているサービス事業者	
3 保健センター		10 障害者の会や家族の会	
4 障害者福祉課以外の区の窓口		11 民生委員・児童委員	
5 品川児童学園 「子ども発達相談室」		12 その他 ()	
6 幼稚園・保育園		13 相談する相手はいない → 問 16 へ	
7 利用している療育施設			

医療的ケアの必要なお子さんについて

問 18 お子さんは日常生活において、以下の医療的ケアを必要としていますか。

(あてはまるものすべてに○)

1 たん吸引	} 問 19 へ	6 気管切開	} 問 19 へ
2 経管栄養		7 人工呼吸器	
3 胃瘻・腸瘻		8 その他	
4 酸素吸入		()	
5 導尿		9 必要な医療的ケアはない → 問 20 へ	

問 19 問 18 で「1」から「8」のいずれかに回答した方におたずねします。

① 主に医療的ケアを行っているのはどなたですか。(1つに○)

1 父親	5 その他親族
2 母親	6 医師・看護師
3 兄弟姉妹	7 その他 ()
4 同居している祖父母	

② 主な介助者の方は、現在働いていますか。(1つに○)

1 フルタイムで働いている	} ② へ	4 産休または育休中	} ③ へ
2 パートタイムで働いている		5 働いていない	
3 自営業で働いている			

③ ② で「4」または「5」と回答した方におたずねします。主な介助者の方は、今後、働きたいと思いますか。(1つに○)

1 働きたい	} ④ へ	3 働きたいとは思わない	} ⑤ へ
2 条件が合えば、働きたい		4 わからない	

④ ③ で「1」または「2」と回答した方におたずねします。働くにあたり、どのようなサービスを利用したいと思いますか。(1つに○)

1 保育園	} ⑥ へ	4 その他の療育施設	} ⑥ へ
2 幼稚園		5 利用希望はない	
3 認定こども園			

- ⑤ ④で「1」から「3」のいずれかに回答した方におたずねします。いつ頃からの利用を希望しますか。(1つに○)

1 来年度から	2 2年後から	3 3年後から	4 時期は未定
---------	---------	---------	---------

- ⑥ 医療的ケアの必要なお子さんの日常生活について、困っていること、今後の希望等がありましたら、ご自由にお書きください。

お子さんの生活について

問 20 幼稚園や保育園、療育施設等を利用している方におたずねします。

- ① 幼稚園や保育園、療育施設等の生活で、困っていることや心配していることはありますか。(主なもの2つまでに○)

1 療育施設への送迎	7 周囲の子どもとの関係
2 療育施設での本人の成長	8 周囲の保護者との関係
3 通わせる施設の選択肢が少ない	9 困ったときの相談窓口がわからない
4 費用等の経済的な負担	10 その他
5 保育や教育・療育に関する情報が少ない	()
6 療育・リハビリテーションの機会が少ない	11 特に困っていることや心配はない

- ② 幼稚園や保育園、療育施設等にいる以外の時間は、どのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)

1 家族と過ごしている	4 習い事や塾へ行っている
2 友人、知人と過ごしている	5 その他()
3 一人で過ごしている	6 特に何もしていない

Ⅳ－１ 未就学児への調査

- ③ 幼稚園や保育園、療育施設等にいる以外の時間について、現在の過ごし方以外にどのような過ごし方を希望しますか。ご自由にお書きください。

問 21 小学校入学時は、どの教育機関を希望しますか。（１つに○）

- | | |
|---------------------------|--------------|
| 1 小学校の通常学級 | 4 特別支援学校の小学部 |
| 2 小学校の通常学級（特別支援教室・通級指導学級） | 5 わからない |
| 3 小学校の特別支援学級 | |

問 22 お子さんの今後の生活や進学等について、心配していることがありましたら、ご自由にお書きください。



児童福祉法による障害児通所支援について

※ 問 23～問 25 は、下表の児童福祉法に基づく障害児通所支援サービスについて、利用状況・利用希望をおたずねします。

サービス名	サービスの内容
ア 児童発達支援	日常生活における基本動作の指導、知識技能への指導、集団生活への適応訓練等を行います。
イ 医療型児童発達支援	「児童発達支援」の中で、理学療法士等の機能訓練または医療的管理下での支援を行います。
ウ 保育所等訪問支援	専門職が障害児のいる保育所等の施設を訪問し、集団生活に適應できるよう、専門的な支援等を行います。

問 23 ア～ウのサービスの「現在の利用状況」と「今後の利用希望」をお答えください。

利用している方は、利用日数も記入してください。

(それぞれの項目について、現在、今後に1つずつ○)

サービスの種類	現在の利用状況		今後の利用希望			
	利用している	利用していない	利用したい (今後も)	利用したいが、 利用できない	利用希望はない	わからない
ア 児童発達支援	1 (_____ 日/月)	2	1	2	3	4
イ 医療型児童 発達支援	1 (_____ 日/月)	2	1	2	3	4
ウ 保育所等訪問支援	1 (_____ 日/月)	2	1	2	3	4

↓
問 24 へ

↓
問 26 へ

↓
問 25 へ

Ⅳ－１ 未就学児への調査

問 24 問 23 でア～ウの「現在の利用状況」のいずれかで「１」（利用している）と回答した方におたずねします。

① 現在利用しているサービスについて、どのように感じますか。

（現在利用しているサービスごとに、１つに○）

サービスの種類	満足	やや満足	やや不満	不満
ア 児童発達支援	１	２	３	４
イ 医療型児童発達支援	１	２	３	４
ウ 保育所等訪問支援	１	２	３	４

② 現在利用しているサービスについて、困っていることがありますか。

（現在利用しているサービスごとに、主なもの２つまでに○）

サービスの種類	利用 回数が少ない	区役所での手続きが大変	少ない サービスに関する情報が	事業者との利用日等の調整が大変	サービスの質が良くない	利用者負担が大きい	その他（具体的に）	特 に ない
ア 児童発達支援	１	２	３	４	５	６	７ ()	８
イ 医療型児童発達支援	１	２	３	４	５	６	７ ()	８
ウ 保育所等訪問支援	１	２	３	４	５	６	７ ()	８

↓
③ へ

- ③ ② でア～ウのいずれかで「1」（利用できる時間や日数、回数が少ない）と回答した方におたずねします。現在利用しているサービスについて、そう感じる理由は何ですか。具体的にお書きください。

- ④ ① でア～ウのいずれかで「3」または「4」（不満）と回答した方におたずねします。不満な理由は何ですか。（現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○）

サービスの種類	職員の専門性が低い	個々の状況に合わせた柔軟な対応ができない	緊急時の対応が遅い	要望・苦情への対応が遅い	その他（具体的に）
ア 児童発達支援	1	2	3	4	5 ()
イ 医療型児童発達支援	1	2	3	4	5 ()
ウ 保育所等訪問支援	1	2	3	4	5 ()

- 問 25 問 23 でア～ウの「今後の利用希望」のいずれかで「2」（利用したいが、利用できない）と回答した方におたずねします。その理由は何ですか。（主なもの2つまでに○）

1 近くに施設がない	4 利用方法がわからない
2 定員に空きがない	5 その他 ()
3 利用者負担が大きい	

Ⅳ－１ 未就学児への調査

障害福祉サービスの利用状況・利用希望について

※ 問26～問28は、下表の障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスや関連する事業について、利用状況・利用希望をおたずねします。

サービス名	サービスの内容
ア 居宅介護（ホームヘルプ）	自宅で身体介護や家事援助等を行います。
イ 行動援護	行動障害のある方に、移動介護や危険回避の援護等を行います。
ウ 短期入所（ショートステイ）	介助者が介助できないとき、短期間、施設で生活できます。

問26 ア～ウのサービスの「現在の利用状況」と「今後の利用希望」をお答えください。
（それぞれの項目について、現在、今後に1つずつ○）

サービスの種類	現在の利用状況		今後の利用希望		
	利用している	利用していない	利用したい （今後も）	利用希望はない	わからない
ア 居宅介護（ホームヘルプ）	1	2	1	2	3
イ 行動援護	1	2	1	2	3
ウ 短期入所（ショートステイ）	1	2	1	2	3

↓ ↓
問27へ 問28へ

問27 問26でア～ウの「現在の利用状況」のいずれかで「1」（利用している）と回答した方におたずねします

- ① 現在利用しているサービスについて、どのように感じますか。
（現在利用しているサービスごとに、1つに○）

サービスの種類	満足	やや満足	やや不満	不満
ア 居宅介護（ホームヘルプ）	1	2	3	4
イ 行動援護	1	2	3	4
ウ 短期入所（ショートステイ）	1	2	3	4

② 現在利用しているサービスについて、困っていることがありますか。

(現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○)

サービスの種類	回数が少ない	利用できる時間や日数、	区役所での手続きが大変	サービスに関する情報が少ない	事業者との利用日等の調整が大変	サービスの質が良くない	利用者負担が大きい	その他（具体的に）	特 に ない
ア 居宅介護 （ホームヘルプ）	1	2	3	4	5	6	7 （		

③ ①でア～ウのいずれかで「3」または「4」(不満)と回答した方におたずねします。

不満な理由は何ですか。(現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○)

サービスの種類	職員の専門性が低い	個々の状況に合わせた柔軟な対応ができない	緊急時の対応が遅い	要望・苦情への対応が遅い	その他(具体的に)
ア 居宅介護(ホームヘルプ)	1	2	3	4	5 ()
イ 行動援護	1	2	3	4	5 ()
ウ 短期入所(ショートステイ)	1	2	3	4	5 ()

Ⅳ－１ 未就学児への調査

問 28 問 26 でア～ウの「現在の利用状況」のいずれかで「2」（利用していない）と回答した方におたずねします。現在利用していないサービスについて、その理由は何ですか。

（現在利用していないサービスごとに、主なもの2つまでに○）

サービスの種類	サービス事業者が不足している	利用者負担が大きい	施設・設備の水準が低い	サービスを知らなかった	利用方法がわからない	手続きが面倒	その他（具体的に）	必要がない
ア 居宅介護 （ホームヘルプ）	1	2	3	4	5	6	7 ()	8
イ 行動援護	1	2	3	4	5	6	7 ()	8
ウ 短期入所 （ショートステイ）	1	2	3	4	5	6	7 ()	8



障害に対する理解について

問 29 普段の暮らしの中で、障害や病気への差別・偏見を感じるときがありますか。

(1つに○)

- | | |
|-----------|------------|
| 1 常を感じる | 4 まったく感じない |
| 2 ときどき感じる | 5 わからない |
| 3 あまり感じない | |

問 30 周囲の人たちに対して、障害への理解を進めていくためにどのようなことを重視すべきだと思いますか。(主なもの2つまでに○)

- | | |
|-------------------------------|--|
| 1 障害や障害者の生活を伝えるパンフレットの発行 | |
| 2 障害者作品展やイベントの開催 | |
| 3 地域や学校等で交流の機会を増やすこと | |
| 4 学校や生涯学習の場において、障害に関する講習や情報提供 | |
| 5 障害についての講演会や疑似体験会の開催 | |
| 6 障害者の一般就労の促進 | |
| 7 その他 () | |
| 8 特にない | |

問 31 品川区は、お子さんやご家族の方にとって暮らしやすいまちですか。(1つに○)

- | | |
|------------------|----------|
| 1 とても暮らしやすい | 4 暮らしにくい |
| 2 どちらかというと暮らしやすい | 5 わからない |
| 3 どちらかというと暮らしにくい | |

生活の状況・区の施策について

問 32 障害のある方が地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。（主なもの2つまでに○）

- 1 気軽に相談できる、相談支援体制の充実
- 2 地域で自立した生活をおくるための、地域生活支援体制の充実
- 3 子どもの成長を支える療育・家族支援体制の充実
- 4 緊急時や災害時の安全を確保するための、安心・安全な生活基盤の確保
- 5 障害のある方の生活をサポートする、人材育成
- 6 一人ひとりの状況に合わせた支援を行える、サービス提供体制の充実
- 7 一人ひとりの状況に応じて働ける、就労支援体制の充実
- 8 一人ひとりの権利や尊厳を守る、権利擁護体制の構築
- 9 障害の有無に係わらずともに生活できる、理解と共感が深まる意識啓発
- 10 その他（ ）
- 11 特にない

問 33 障害のある方への支援施策について、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

お答えいただき、ありがとうございました。

記入した調査票は、三つ折りにして同封の返信用封筒に封入して、切手を貼らずに、

平成 29 年 8 月 28 日（月）までにポストに投函してください。

2 就学児以上 18 歳以下の方への調査

支援の必要なお子さんへのアンケート調査 (就学児以上 18 歳以下の方)

～アンケート調査へのご協力をお願い～

日頃から、品川区の福祉行政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

区では、児童福祉法の改正に伴い、今年度に「品川区障害児福祉計画」を策定します。そのため、区内で生活をしている世帯のうち、行政からの支援を受けている、もしくは障害者手帳を所持している就学児以上 18 歳以下のお子さんのいる世帯を対象に、生活の様子やサービスの利用状況、支援への意向を把握するためのアンケート調査を実施します。

調査は無記名で行いますので、個人が特定されたり、個人の回答内容が明らかになることはありません。また、お答えいただいた内容は統計的に処理したうえで、計画策定の基礎資料としてのみ活用し、その他の目的に使用することは一切ありません。

調査の趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますよう、お願いいたします。

平成 29 年 8 月

品川区 福祉部 障害者福祉課

ご記入にあたっての注意事項

- ① 回答は、ご家族や介助者の方が、封筒のあて名のお子さんのことについてお答えください。
- ② 回答は、○印を記入していただく設問、数字を記入していただく設問、内容を記入していただく設問があります。それぞれの指示に従って記入してください。
- ③ ○印を記入していただく設問について、あてはまる選択肢の番号に直接○印を記入してください。なお、「1つに○」「あてはまるものすべてに○」等、指示にしたがって記入してください。
- ④ 「その他」に○印を記入したときは、その内容を（ ）内にご記入ください。

記入した調査票は、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずに

平成 29 年 8 月 28 日（月）までに、ポストに投函してください。

問合せ先

品川区 福祉部 障害者福祉課 福祉改革担当

電話：03-5742-6762 FAX：03-3775-2000

Ⅳ－2 就学児以上 18 歳以下の方への調査

お子さん・世帯の状況について

問1 お子さんの性別をお答えください。(1つに○)

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

問2 平成29年4月2日現在のお子さんの年齢をお答えください。(数字を記入)

	歳
--	---

問3 お子さんがお持ちの障害者手帳の種類と等級をお答えください。

(あてはまるものすべてに○)

手帳の種類	等級			
1 身体障害者手帳	1 1級	3 3級	5 5級	
	2 2級	4 4級	6 6級	
2 愛の手帳	1 1度	2 2度	3 3度	4 4度
3 精神障害者保健福祉手帳	1 1級	2 2級	3 3級	
4 特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証				
5 いずれも持っていない				

問4 現在お住まいの地区をお答えください。(1つに○)

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 1 品川地区 | 3 大井地区 | 5 八潮地区 |
| 2 大崎地区 | 4 荏原地区 | |

問5 現在同居している家族をすべてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|------|--------|-------------------------------|
| 1 父親 | 3 兄弟姉妹 | 5 その他親族 |
| 2 母親 | 4 祖父母 | 6 その他（ ） |

お子さんの障害・疾病の状況について

問6 お子さんの障害（もしくは、発達・発育で気になる点）に最初に気付いたのはいつ頃ですか。(1つに○)

- | | | | |
|-------|------|--------|----------|
| 1 出生時 | 4 2歳 | 7 5歳 | 9 9～11歳 |
| 2 0歳 | 5 3歳 | 8 6～8歳 | 10 12歳以上 |
| 3 1歳 | 6 4歳 | | |

問7 お子さんの障害（もしくは、発達・発育で気になる点）について、最初に気付いたのはどのようなときでしたか。（1つに○）

- | | |
|------------|---------------|
| 1 出生時 | 6 医療機関で診察したとき |
| 2 家族や周りの人 | 7 保育園、幼稚園の教職員 |
| 3 1歳6か月児健診 | 8 その他（ ） |
| 4 3歳児健診 | 9 覚えていない |
| 5 育児相談等 | |

問8 お子さんには、どのような障害がありますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|----------------------|--------|
| 1 身体障害（視覚障害） | } 問10へ |
| 2 身体障害（聴覚障害・平衡機能障害） | |
| 3 身体障害（音声・言語・そしゃく障害） | |
| 4 身体障害（肢体不自由） | |
| 5 身体障害（内部障害） | |
| 6 知的障害 | |
| 7 重症心身障害 | |
| 8 高次脳機能障害 | |
| 9 発達障害 | → 問9へ |
| 10 その他（ ） | → 問10へ |

問9 問8で「9」と回答した方におたずねします。お子さんは次のような診断を受けていますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------|-------------|
| 1 広汎性発達障害 | 6 学習障害（LD） |
| 2 自閉症・自閉症スペクトラム | 7 非定型自閉症 |
| 3 高機能自閉症・高機能広汎性発達障害 | 8 その他（ ） |
| 4 アスペルガー症候群 | 9 診断は受けていない |
| 5 注意欠陥多動性障害（ADHD） | |

困りごとの相談、介助者への支援について

問 10 お子さんを主に介助している方（主な介助者）はどなたですか。（1 つに○）

1 父親	6 その他	} 問 12 へ
2 母親	()	
3 兄弟姉妹	7 介助は受けていない・不要	
4 同居している祖父母		
5 その他親族		

問 11 へ

問 11 問 10 で「1」から「5」のいずれかに回答した方におたずねします。主な介助者をサポートしてくれる親族・知人の方はいいますか。（主なもの 2 つまでに○）

1 父親	5 その他親族
2 母親	6 近所の人
3 兄弟姉妹	7 その他 ()
4 同居している祖父母	8 サポートしてくれる人はいない

問 12 子育てについて、困っていることはありますか。（主なもの 2 つまでに○）

1 お子さんから目が離せない	6 買い物等の外出ができない
2 兄弟姉妹の面倒がみられない	7 近所や親族の協力・理解が得られない
3 気持ちが休まらない	8 自由な時間が取れない
4 身体の疲労がぬけない	9 その他 ()
5 出費が多い	10 特に困っていることはない

問 13 家族や知人以外で、日常生活の中で困ったときの相談先はどこですか。（主なもの 2 つまでに○）

1 医療機関	8 相談支援事業所	} 問 14 へ
2 区の障害者福祉課	9 利用しているサービス事業者	
3 保健センター	10 障害者の会や家族の会	
4 障害者福祉課以外の区の窓口	11 民生委員・児童委員	
5 品川児童学園 「子ども発達相談室」	12 その他 ()	
6 幼稚園・保育園	13 相談する相手はいない	→ 問 15 へ
7 利用している療育施設		

問 14 へ

問14 問13で「1」から「12」と回答した方におたずねします。

① 主な相談内容は何ですか。具体的にお書きください。

② その相談先は、相談しやすいですか。(1つに○)

- | | |
|-------------------------|--------|
| 1 気軽に相談できる | } 問15へ |
| 2 時間や手間はかかるが、相談に応じてもらえる | |
| 3 相談しにくい | |
- ③へ

③ ②で「3」と回答した方におたずねします。「相談しにくい」と感じる理由は何ですか。具体的にお書きください。

問15 区や事業者などの相談窓口に期待することはありますか。(主なもの2つまでに○)

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 日常生活・介助についてのアドバイス | 4 お子さんに適したサービス情報の提供 |
| 2 新しい施策やサービスなどの情報提供 | 5 その他() |
| 3 障害・病気に適した専門的なアドバイス | 6 特にない |

問16 主な介助者のために、必要な支援は何ですか。(主なもの2つまでに○)

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1 早期の療育 | 6 家事の支援 |
| 2 働き続けられる保育環境 | 7 経済的な支援 |
| 3 お子さんの一時的預かり | 8 兄弟姉妹の相手・面倒 |
| 4 同じ状況の保護者同士の交流 | 9 その他() |
| 5 専門的な相談支援体制 | 10 特に必要ない |

医療的ケアの必要なお子さんについて

問 17 お子さんは日常生活において、以下の医療的ケアを必要としていますか。
(あてはまるものすべてに○)

1 たん吸引	} 問 18 へ	6 気管切開	} 問 18 へ
2 経管栄養		7 人工呼吸器	
3 胃瘻・腸瘻		8 その他	
4 酸素吸入		()	
5 導尿		9 必要な医療的ケアはない → 問 19 へ	

問 18 問 17 で「1」から「8」のいずれかに回答した方におたずねします。

① 主に医療的ケアを行っているのはどなたですか。(1つに○)

1 父親	4 同居している祖父母	6 医師・看護師
2 母親	5 その他親族	7 その他
3 兄弟姉妹		()

② 医療的ケアの必要なお子さんの日常生活について、困っていること、今後の希望等がありましたら、ご自由にお書きください。

お子さんの進路・将来について

問 19 お子さんの通学状況をお答えください。(1つに○)

1 小学校の通常学級	} 問 20 へ	9 高等学校	} 問 21 へ
2 小学校の通常学級（特別支援教室・通級指導学級）		10 特別支援学校の高等部	
3 小学校の特別支援学級		11 その他の学校	→ 問 22 へ
4 特別支援学校の小学部		12 自宅で過ごしている	} 問 23 へ
5 中学校の通常学級		13 その他	
6 中学校の通常級（通級指導学級）		()	
7 中学校の特別支援学級			
8 特別支援学校の中学部			

問20 問19で「1」から「8」のいずれかに回答した方におたずねします。中学校（中学部）卒業後はどのような進路を希望しますか。（1つに○）

- | | |
|------------------|-------------------------------|
| 1 高等学校（夜間を含む） | 5 どこにも通わない |
| 2 特別支援学校の高等部 | 6 その他（ ） |
| 3 通信制高校等 | 7 わからない |
| 4 生活訓練や就労支援の訓練施設 | |

問21 問19で「9」または「10」と回答した方におたずねします。高等学校（高等部）卒業後はどのような進路を希望しますか。（1つに○）

- | | |
|------------------|-------------------------------|
| 1 大学や短期大学へ通う | 6 就労継続支援事業所や就労移行支援事業所へ通う |
| 2 専門学校や専修学校へ通う | 7 生活介護の施設へ通う |
| 3 職業訓練学校へ通う | 8 地域活動支援センターへ通う |
| 4 企業等へ就職する（一般就労） | 9 その他（ ） |
| 5 自分で仕事する（自営業等） | 10 わからない |

問22 問19で「1」から「11」のいずれかに回答した方におたずねします。

- ① お子さんの現在の生活で、困っていることや心配していることはありますか。（主なもの2つまでに○）

- | | |
|-----------------------|--------------------------------|
| 1 療育施設への送迎 | 7 周囲の子どもとの関係 |
| 2 療育施設での本人の成長 | 8 周囲の保護者との関係 |
| 3 通わせる施設の選択肢が少ない | 9 困ったときの相談窓口がわからない |
| 4 費用等の経済的な負担 | 10 その他（ ） |
| 5 教育・療育に関する情報が少ない | 11 特に困っていることや心配はない |
| 6 療育・リハビリテーションの機会が少ない | |

- ② 学校等にいる以外の時間（放課後や長期休業中など）は、どのように過ごしていますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------|-------------------------------|
| 1 家族と過ごしている | 6 にじのひろばを利用している |
| 2 友人、知人と過ごしている | 7 習い事や塾へ行っている |
| 3 一人で過ごしている | 8 その他（ ） |
| 4 すまいるスクールを利用している | 9 特に何もしていない |
| 5 放課後等デイサービスを利用している | |

Ⅳ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

- ③ 学校等にいる以外の時間（放課後や長期休業中など）について、現在の過ごし方以外にどのような過ごし方を希望しますか。ご自由にお書きください。

児童福祉法による障害児通所支援について

- ※ 問 23～問 25 は、下表の児童福祉法に基づく障害児通所支援サービスについて、利用状況・利用希望をおたずねします。

サービス名	サービスの内容
ア 放課後等デイサービス	放課後や夏休み等の長期休暇中に生活能力向上の訓練等を行うとともに、社会参加の機会を提供します。
イ 保育所等訪問支援	専門職が障害児のいる保育所等の施設を訪問し、集団生活に適應できるよう、専門的な支援等を行います。

- 問 23 ア、イのサービスの「現在の利用状況」と「今後の利用希望」をお答えください。
利用している方は、利用日数も記入してください。
(それぞれの項目について、現在、今後に1つずつ○)

サービスの種類	現在の利用状況		今後の利用希望			
	利用している	利用していない	利用したい (今後も)	利用できないが、	利用希望はない	わからない
ア 放課後等 デイサービス	1 (_____ 日／月)	2	1	2	3	4
イ 保育所等訪問支援	1 (_____ 日／月)	2	1	2	3	4

↓ ↓ ↓
問 24 へ 問 26 へ 問 25 へ

- 問 24 問 23 でア、イの「現在の利用状況」のいずれかで「1」（利用している）と回答した方におたずねします。

- ① 現在利用しているサービスについて、どのように感じますか。
(現在利用しているサービスごとに、1つに○)

サービスの種類	満足	やや満足	やや不満	不満
ア 放課後等デイサービス	1	2	3	4
イ 保育所等訪問支援	1	2	3	4

- ② 現在利用しているサービスについて、困っていることがありますか。
 (現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○)

サービスの種類	利用 できる 時間や 日数、 回数が 少ない	区役 所での 手続き が大変	サー ビスに 関する 情報 が少な い	事 業 者 と の 利 用 日 等 の 調 整 が 大 変	サ ー ビ ス の 質 が 良 く な い	利 用 者 負 担 が 大 き い	その他 (具体的に)	特 に な い
ア 放課後等 デイサービス	1	2	3	4	5	6	7 ()	8
イ 保育所等 訪問支援	1	2	3	4	5	6	7 ()	8

↓
③ へ

- ③ ② でア、イのいずれかで「1」(利用できる時間や日数、回数が少ない)と回答した方
 におたずねします。現在利用しているサービスについて、そう感じる理由は何ですか。
 具体的にお書きください。

--

- ④ ① でア、イのいずれかで「3」または「4」(不満)と回答した方におたずねします。
 不満な理由は何ですか。(現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○)

サービスの種類	職 員 の 専 門 性 が 低 い	個 々 の 状 況 に 合 わ せ た 柔 軟 な 対 応 が で き な い	緊 急 時 の 対 応 が 遅 い	要 望 ・ 苦 情 へ の 対 応 が 遅 い	その他 (具体的に)
ア 放課後等 デイサービス	1	2	3	4	5 ()
イ 保育所等訪問支援	1	2	3	4	5 ()

Ⅳ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

問 25 問 23 でア、イの「今後の利用希望」のいずれかで「２」（利用したいが、利用できない）と回答した方におたずねします。その理由は何ですか。（主なもの２つまでに○）

１ 近くに施設がない	３ 利用者負担が大きい	５ その他
２ 定員に空きがない	４ 利用方法がわからない	（ ）

障害福祉サービスの利用状況・利用希望について

※ 問 26～問 28 は、下表の障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスや関連する事業について、利用状況・利用希望をおたずねします。

分類	サービス名	サービスの内容
訪問系サービス	ア 居宅介護 （ホームヘルプ）	自宅で身体介護や家事援助等を行います。
	イ 同行援護	視覚障害のある方に、外出先で代筆、代読、移動等の支援を行います。
	ウ 行動援護	行動障害のある方に、移動介護や危険回避の援護等を行います。
	エ 短期入所 （ショートステイ）	介助者が介助できないとき、短期間、施設で生活できます。
地域生活支援事業	オ 移動支援事業	自立生活や社会参加のための外出時に、ヘルパーの支援を受けます。
	カ 日中一時支援事業	特別支援学校に通学する知的障害児の放課後や夏休み等の長期休暇中の活動の場を確保します。
	キ 手話通訳者派遣事業	手話通訳者の派遣により、コミュニケーションを支援します。
	ク 要約筆記者派遣事業	要約筆記者の派遣により、コミュニケーションを支援します。
	ケ 日常生活用具給付等 事業	日常生活に必要な福祉用具の給付または貸与を行います。

問26 ア～ケのサービスの「現在の利用状況」と「今後の利用希望」をお答えください。
 （それぞれの項目について、現在、今後に1つずつ○）

サービスの種類	現在の利用状況		今後の利用希望		
	利用 してい る	利用 してい ない	利用 したい (今後 も)	利用 希望は ない	わから ない
ア 居宅介護（ホームヘルプ）	1	2	1	2	3
イ 同行援護	1	2	1	2	3
ウ 行動援護	1	2	1	2	3
エ 短期入所（ショートステイ）	1	2	1	2	3
オ 移動支援事業	1	2	1	2	3
カ 日中一時支援事業	1	2	1	2	3
キ 手話通訳者派遣事業	1	2	1	2	3
ク 要約筆記者派遣事業	1	2	1	2	3
ケ 日常生活用具給付等事業	1	2	1	2	3

↓ ↓
 問27へ 問28へ

問27 問26でア～ケの「現在の利用状況」のいずれかで「1」（利用している）と回答した方におたずねします。

- ① 現在利用しているサービスについて、どのように感じますか。
 （現在利用しているサービスごとに、1つに○）

サービスの種類	満足	やや満足	やや不満	不満
ア 居宅介護（ホームヘルプ）	1	2	3	4
イ 同行援護	1	2	3	4
ウ 行動援護	1	2	3	4
エ 短期入所（ショートステイ）	1	2	3	4
オ 移動支援事業	1	2	3	4
カ 日中一時支援事業	1	2	3	4
キ 手話通訳者派遣事業	1	2	3	4
ク 要約筆記者派遣事業	1	2	3	4
ケ 日常生活用具給付等事業	1	2	3	4

Ⅳ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

- ② 現在利用しているサービスについて、困っていることがありますか。
 (現在利用しているサービスごとに、主なもの 2 つまでに○)

サービスの種類	回数 利用できる時間や日数、 回数が少ない	区役所での手続きが大変	サービスに関する情報が 少ない	事業者との利用日等の 調整が大変	サービスの質が良くない	利用者負担が大きい	その他（具体的に）	特 に ない
ア 居宅介護 （ホームヘルプ）	1	2	3	4	5	6	7 ()	8
イ 同行援護	1	2	3	4	5	6	7 ()	8
ウ 行動援護	1	2	3	4	5	6	7 ()	8
エ 短期入所 （ショートステイ）	1	2	3	4	5	6	7 ()	8
オ 移動支援事業	1	2	3	4	5	6	7 ()	8
カ 日中一時支援事業	1	2	3	4	5	6	7 ()	8
キ 手話通訳者 派遣事業	1	2	3	4	5	6	7 ()	8
ク 要約筆記者 派遣事業	1	2	3	4	5	6	7 ()	8
ケ 日常生活用具 給付等事業	1	2	3	4	5	6	7 ()	8

IV-2 就学児以上 18 歳以下の方への調査

- ③ ① でア～ケのいずれかで「3」または「4」（不満）と回答した方におたずねします。
不満な理由は何ですか。（現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○）

サービスの種類	職員の専門性が低い	個々の状況に合わせた柔軟な対応ができない	緊急時の対応が遅い	要望・苦情への対応が遅い	その他（具体的に）
ア 居宅介護（ホームヘルプ）	1	2	3	4	5 ()
イ 同行援護	1	2	3	4	5 ()
ウ 行動援護	1	2	3	4	5 ()
エ 短期入所（ショートステイ）	1	2	3	4	5 ()
オ 移動支援事業	1	2	3	4	5 ()
カ 日中一時支援事業	1	2	3	4	5 ()
キ 手話通訳者派遣事業	1	2	3	4	5 ()
ク 要約筆記者派遣事業	1	2	3	4	5 ()
ケ 日常生活用具給付等事業	1	2	3	4	5 ()

Ⅳ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

問 28 問 26 でア～ケの「現在の利用状況」のいずれかで「2」（利用していない）と回答した方におたずねします。現在利用していないサービスについて、その理由は何ですか。
（現在利用していないサービスごとに、主なもの2つまでに○）

サービスの種類	サービス事業者が不足している	利用者負担が大きい	施設・設備の水準が低い	サービスを知らなかった	利用方法がわからない	手続きが面倒	その他（具体的に）	必要がない
ア 居宅介護 （ホームヘルプ）	1	2	3	4	5	6	7 ()	8
イ 同行援護	1	2	3	4	5	6	7 ()	8
ウ 行動援護	1	2	3	4	5	6	7 ()	8
エ 短期入所 （ショートステイ）	1	2	3	4	5	6	7 ()	8
オ 移動支援事業	1	2	3	4	5	6	7 ()	8
カ 日中一時支援事業	1	2	3	4	5	6	7 ()	8
キ 手話通訳者 派遣事業	1	2	3	4	5	6	7 ()	8
ク 要約筆記者 派遣事業	1	2	3	4	5	6	7 ()	8
ケ 日常生活用具 給付等事業	1	2	3	4	5	6	7 ()	8

障害に対する理解について

問29 普段の暮らしの中で、障害や病気への差別・偏見を感じる時がありますか。
(1つに○)

- | | |
|-----------|------------|
| 1 常を感じる | 4 まったく感じない |
| 2 ときどき感じる | 5 わからない |
| 3 あまり感じない | |

問30 周囲の人たちに対して、障害への理解を進めていくためにどのようなことを重視すべきだと思いますか。(主なもの2つまでに○)

- | |
|-------------------------------|
| 1 障害や障害者の生活を伝えるパンフレットの発行 |
| 2 障害者作品展やイベントの開催 |
| 3 地域や学校等で交流の機会を増やすこと |
| 4 学校や生涯学習の場において、障害に関する講習や情報提供 |
| 5 障害についての講演会や疑似体験会の開催 |
| 6 障害者の一般就労の促進 |
| 7 その他 () |
| 8 特にない |

問31 品川区は、お子さんやご家族の方にとって暮らしやすいまちですか。(1つに○)

- | | |
|-----------------|----------|
| 1 とても暮らしやすい | 4 暮らしにくい |
| 2 どちらかという暮らしやすい | 5 わからない |
| 3 どちらかという暮らしにくい | |

生活の状況・区の施策について

問 32 障害のある方が地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。（主なもの 2 つまでに○）

- 1 気軽に相談できる、相談支援体制の充実
- 2 地域で自立した生活をおくるための、地域生活支援体制の充実
- 3 子どもの成長を支える療育・家族支援体制の充実
- 4 緊急時や災害時の安全を確保するための、安心・安全な生活基盤の確保
- 5 障害のある方の生活をサポートする、人材育成
- 6 一人ひとりの状況に合わせた支援を行える、サービス提供体制の充実
- 7 一人ひとりの状況に応じて働ける、就労支援体制の充実
- 8 一人ひとりの権利や尊厳を守る、権利擁護体制の構築
- 9 障害の有無に係わらずともに生活できる、理解と共感が深まる意識啓発
- 10 その他（）
- 11 特にない

問 33 障害のある方への支援施策について、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

お答えいただき、ありがとうございました。

記入した調査票は、三つ折りにして同封の返信用封筒に封入して、切手を貼らずに、

平成 29 年 8 月 28 日（月）までにポストに投函してください。